



2019 年度

# 教師海外研修報告書

～ 「持続可能な社会の創り手」 を育てる授業実践集 ～

研修国

パラグアイ共和国



ザンビア共和国



(新潟県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・長野県)

独立行政法人 国際協力機構 東京センター



---

# はじめに

---

独立行政法人国際協力機構（JICA）では、国際協力に関する知識の普及と国民の理解の推進を果たすべき使命の一つとしており、教育を通じたアプローチとして、国民への開発途上国に関する「知見の還元」、自分に何ができるかを「考える機会の提供」、および JICA が地域での開発教育推進のための「橋渡し役」となることの 3 点に重点を置きながら国際理解教育・開発教育の支援に取り組んでいます。

なかでも学校教育の現場で次代を担う児童・生徒の教育に携わり、国際理解教育・開発教育に関心を持つ教員を対象としては、教師海外研修を毎年実施しています。教員の方々が実際に開発途上国を訪問し、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場での授業実践等を通じて、教育活動に役立ててもらうことを目的としています。

2019 年度は、JICA 東京所管地域である、東京都、埼玉県、千葉県、群馬県、新潟県、長野県から 22 名の教員を募り、国内研修を経て、ザンビア、パラグアイの 2 か国に派遣しました。本報告書は、今年度の研修の概要及び参加者の帰国後の勤務校における授業実践の実例をまとめたものです。

教育現場の第一線で日々生徒たちと向き合っている教員の方々が、実際に開発途上国の空気にふれるとともに国際協力の現場を直接見聞きすることで、実体験をふまえた授業につながると期待しており、今回参加者がそれぞれの教育現場で実践を行っていただいたことは大きな励みとするところです。これらを通じて生徒たちの理解が深まり、他の教員の方々にも波及していくような好循環が生まれることを期待しています。

結びに、本研修の実施にあたりご支援をいただいた外務省、文部科学省、各教育委員会並びに関係諸団体に感謝を申し上げますとともに、今後とも JICA が取り組む市民参加協力事業にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 2 年 3 月

独立行政法人国際協力機構（JICA）東京センター

所 長 木野本 浩之

# 目 次

はじめに	1
1. 参加者一覧	4
2. 2019年度教師海外研修概要	5
3. 派遣前研修	10
4. 研修参加者写真	12
5. 海外研修（ザンビア）	13
6. 海外研修（パラグアイ）	20
7. 派遣後研修	27
8. 授業実践	28

## 小学校 総合・道徳科

吉田 祥子 大田区立糞谷小学校	「世界友だちプロジェクト～ SDGs で世界とつながろう」（総合的な学習の時間） 「世界の未来と日本の役割」（社会科）	小学6年生 総合的な学習の時間 社会科	29
竹内 淑香 杉並区立杉並和泉学園	「世界ともだちプロジェクト」 Unit4 What time is it? Unit9 This is my day! 『Let's Try! 2』	小学4年生 外国語活動 総合的な学習の時間	36
上園 雄太 野田市立七光台小学校	国際協力のために自分達は何ができるのだろうか。 世界の未来と日本の役割 世界の人々のために What do you want to be ?	小学6年生 総合的な学習の時間 社会科・道徳・外国語	42
横田 美紗子 野田市立柳沢小学校	心と心で、つながる未来へ	小学5年生 総合的な学習の時間 道徳・社会科・家庭科	48

## 小学校 教科

鈴木 航太 村上市立保内小学校	「明日をつくるわたしたち」	小学5年生 国語	54
大原 淳 千葉市立有吉小学校	せかいとなかよし	特別支援学級 生活単元学習	60

## 中学校 総合・道徳・生徒会

須賀 与恵 川口市立小谷場中学校	持続可能な社会をつくる私たち	中学1年生 総合的な学習の時間	66
金丸 恵美 八丈町立三根学園富士中学校	（「話し合って他の意見や考えを受け入れ考えを広げよう」） （キャリア教育）	中学2年生 道徳・国語 総合的な学習の時間	72
小林 仁美 高崎市立群馬南中学校	「幸せってなんだろう」 「私たちにできることはなんだろう」	中学1年生 特別の教科 道徳	78
長田 里恵 文化学園長野中学・高等学校	『国際キャンペーン』地球規模（パラグアイ）で考え、 足元（文中生徒会）から行動する	中学3・2年生 特別活動 生徒会	84

中学校 教科		
鎌田 理子 千葉市立稲毛中学校	世界の諸地域 第3節アフリカ州	中学1年生 社会科 ..... 90
黒川 八重 東京女子学園中学校	南アメリカ州—南アメリカ諸国と日本が双方向的に 共生する社会を目指して—	中学1年生 ..... 96 中学地理
蓮池 理之 新座市立第四中学校	JICA に学ぶ国際協力 「途上国の課題と世界で働く人たち」	中学2年生 社会科 .....102 総合的な学習の時間
玉腰 朱里 東京都立大泉高等学校附属中学校	君待つと——万葉・古今・新古今	中学3年生 .....108 国語科
高等学校 地理・現代社会		
大塚 由貴 埼玉県立杉戸高等学校	発展途上国の都市・居住問題	高校2年生 .....114 地理B
竹村 ゆかり 長野県長野高等学校	現代世界と日本	高校2年生 .....120 地理B
仲田 莉果 埼玉県立大宮中央高等学校	「わたしたちの生きる社会」	1～3年生 .....126 現代社会
高等学校 国語・英語		
中田 恵理子 東京都立向丘高等学校	評論文を通して、現代社会の課題と自分の生活の関 係を考えよう。	高校1年生 .....132 国語総合
中村 俊佑 東京都立五日市高等学校	以下の項目の一部をカバーしている。 Lesson 4 Goal Setting 目標達成 Lesson 10 Ban Shigeru, Architect of Paper 世界で活躍する日本人 Lesson 11 Win for One Nation スポーツが世界 を平和に Lesson 12 From Small Factories to the World 海外に進出する日本の技術	高校2年生 外国語（英語） .....138 国際理解教育
駒谷 健介 埼玉県立大宮工業高等学校	Lesson 4 “Living with Robots” (All Aboard! II)	高校2年生 コミュニケーション英語Ⅱ .....144
高等学校 専門科目		
池亀 元喜 新潟県立佐渡総合高等学校	発展途上国のために私たちができることや自己の在 り方、生き方について考える	高校2年生 .....150 農業「農業と環境」
藤井 宏之 東京都立千早高等学校	課題研究（ソーシャルビジネス）	高校3年生 .....156 商業
9. 授業実践報告会 .....162		
10. 全体報告会 .....163		
11. 教師海外研修を終えて .....164		
12. 学校・教員のための開発教育・国際理解教育支援プログラム .....165		
おわりに .....167		

# 1. 参加者一覧

## ザンビアコース参加者

氏名	都県名	学校名	担当教科
金丸 恵美	東京	八丈町立三根学園富士中学校	国語
中村 俊佑	東京	東京都立五日市高等学校	英語
吉田 祥子	東京	大田区立糎谷小学校	全教科
大塚 由貴	埼玉	埼玉県立杉戸高等学校	地理 B / 政治経済
須賀 与恵	埼玉	川口市立小谷場中学校	数学
仲田 莉果	埼玉	埼玉県立大宮中央高等学校	地歴公民
上園 雄太	千葉	野田市立七光台小学校	教務主任 / 算数・外国語
鎌田 理子	千葉	千葉市立稲毛中学校	社会 / 美術
横田 美紗子	千葉	野田市立柳沢小学校	全教科
池亀 元喜	新潟	新潟県立佐渡総合高等学校	農業
竹村 ゆかり	長野	長野県長野高等学校	地理

## 同行者

氏名	所属	役割
高田 宏仁	JICA 東京 市民参加協力第一課 課長	総括
岡田 直人	JICA 東京 市民参加協力第一課	研修計画
佐藤 祥平	JICA 東京 国際協力推進員 群馬デスク	業務調整

## パラグアイコース参加者

氏名	都県名	学校名	担当教科
黒川 八重	東京	東京女子学園中学校高等学校	地理歴史
竹内 淑香	東京	杉並区立杉並和泉学園	全教科 / 外国語
玉腰 朱里	東京	東京都立大泉高等学校附属中学校	国語
中田 恵理子	東京	東京都立向丘高等学校	国語
藤井 宏之	東京	東京都立千早高等学校	商業
駒谷 健介	埼玉	埼玉県立大宮工業高等学校	外国語
蓮池 理之	埼玉	新座市立第四中学校	社会
大原 淳	千葉	千葉市立有吉小学校	特別支援学級
鈴木 航太	新潟	村上市立保内小学校	国 / 算 / 社 / 図 / 総 / 体
長田 里恵	長野	文化学園長野中学・高等学校	英語
小林 仁美	群馬	高崎市立群馬南中学校	英語

## 同行者

氏名	所属	役割
佐藤 真久	東京都市大学 教授	総括
古賀 聡子	JICA 東京 市民参加協力第一課	研修計画
竹内 岳	JICA 東京 国際協力推進員 長野デスク	業務調整

---

## 2. 2019年度教師海外研修概要

---

### ■研修の目的

- (1) 国内研修と海外研修を通じ、世界が直面する開発課題及び日本との関係、国際協力の必要性に対する研修参加者の理解を促進する。
- (2) 研修参加者による学校現場等での授業実践を通じ、開発課題を自らの問題として捉え、主体的に考える力、またその根本解決に向けた取り組みに参加する力をもつ児童・生徒を育成する。

また研修参加後は、JICAと協力し、教育現場で国際理解教育/開発教育の推進に活躍していただくこともねらいとしています。

### [研修で修得を目指すスキル]

- ① 国際理解・開発教育の必要性を理解し、説明できる。
- ② 開発途上国が置かれている現状、国際協力の現場で起きている現状を理解し、児童・生徒に説明できる。
- ③ 開発途上国と日本との関係、特に相互依存関係について理解し、児童・生徒に説明できる。
- ④ 国際協力の必要性及びJICAの概要を理解し、児童・生徒に説明できる。
- ⑤ 上項を踏まえた開発教育（国際理解教育）の授業計画・教材を作成し、授業を実施できる。

### ■主催：

独立行政法人 国際協力機構 東京センター（JICA東京）

### ■後援：

外務省、文部科学省、各都県及び政令指定都市の教育委員会、各都県の私立中学高等学校協会

### ■研修国と派遣人数

ザンビア : 11名

パラグアイ : 11名

### ■研修内容

- ・日本においての座学・ワークショップの実施
- ・開発途上国（JICAの事業現場等）への訪問
- ・学校現場での国際理解教育/開発教育の授業実践

### ■研修日程

7ページに記載のとおり

## ■応募資格

次の資格をすべて満たす方とする。

- ① 東京都、埼玉県、千葉県、群馬県、新潟県、長野県の国公立、私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校（1～3年生を担当）、特別支援学校において教職員として教育活動に従事していること。
- ② 応募締切（2019年5月11日）の時点で、初任者研修を修了していること。私立学校に勤務する者の場合は、応募締切時点で一年以上の教員経験を有すること。
- ③ 所属する学校の校長の推薦および実践授業の実施およびその公開に理解があること。
- ④ 研修国の事情を勘案した上で、参加に耐えうる健康状態であること（持病を持っていない事、継続的な投薬・治療を行っていない事）
- ⑤ 過去に、本研修、JICAボランティア、JICA専門家、国際協力レポーター、JICAパートナーシップセミナー、ODA民間モニター等当機構の事業にて海外に派遣された経験がないこと。また、それらの事業への応募中でないこと。

## ■参加要件

次の要件をすべて満たす方とする。

- ① 国内研修及び海外研修の全行程に参加可能であること。
  - ② パソコンメールアドレスでの連絡（ファイルの送受信を含む）が可能なこと。
  - ③ 帰国後、所定期日内に海外研修報告書を提出すること。
  - ④ 帰国後、本研修の定めた期間内に所属校において授業の実践を行うこと。
  - ⑤ 当該授業の実践報告書を提出すること。
  - ⑥ JICAのウェブサイトにて一般公開されることに同意すること。
  - ⑦ JICAが実施する国際理解・開発教育支援事業に協力（エッセイコンテストへの応募など）可能であること。
  - ⑧ 本研修の過年度参加者ネットワークづくり（各都県を含む）に参加・協力可能であること。
- ※ また、研修成果を児童・生徒だけでなく他の教員にも広く還元していただくことを目的とし、校内研修や研究授業の実施を推奨いたします。

## ■参加費用

### (1) JICA負担

- ・ 事前研修時等の交通費、宿泊費（日当は除く）
- ・ 講師謝金（国内研修、海外研修）
- ・ 航空券代（含トランジットの際の宿泊費）
- ・ 旅行雑費（査証料、空港使用税のみ）
- ・ 現地視察に必要な交通費及び入場料
- ・ 海外旅行保険加入費

### (2) 参加者負担

- ・ 食費（日本国内、海外研修）
- ・ 現地宿泊費
- ・ パスポート取得費用
- ・ 予防接種代
- ・ 追加保険の加入費用等（必要に応じて）

2019年度の募集要項は、JICA東京のホームページでご覧いただけます。

## ■研修の流れ

### ◇派遣前研修

6月29日(土)・6月30日(日)

- ・研修の趣旨および、JICA や日本の国際協力、訪問国に関する理解を深める。
- ・国際理解教育／開発教育への理解と参加型学習の手法の体験。
- ・研修における各自の役割の理解と、海外研修に向けて準備。



### ◇海外研修

■ザンビアコース：7月24日(水)～8月4日(日)

■パラグアイコース：8月4日(日)～8月17日(土)

訪問国の現状や国際協力の必要性、日本との関係について、実際の現場を訪問することで体験、理解する。また、授業実践に必要な教材の材料等を収集する。

※帰国後、海外研修報告書の提出



### ◇派遣後研修

8月31日(土)

海外研修の経験を生かした授業の実施・教材作成について考える。



### ◇授業実践

9月～12月(各勤務校において1回以上)

研修の経験を生かした授業を実施し、成果を各自で検証する。

※実施後、授業実践報告書の提出



### ◇授業実践報告会

12月～3月(各都県別に1回)

研修の成果(主に授業実践)について、教育関係者をはじめとする地域の方に報告する。



### ◇全体報告会

3月15日(日)

持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力を見直し、授業改善のサイクルにつなげる。



### ◇教師海外研修参加後(翌年以降)

研修の成果を生かして、各所属校および地域で国際理解教育／開発教育を推進する。

- ・授業／活動のブラッシュアップ
- ・JICA 国際理解教育／開発教育支援プログラムの活用
- ・実践者のネットワークへの参加 等

■JICA教師海外研修（2019年度）事前課題

2015年9月、国際社会は、国連サミットにおいて「持続可能な開発目標」Sustainable Development Goals (SDGs) に合意し、17の国際目標と169の指標が提示されました。SDGsは、複雑に絡み合う経済・社会・環境問題に対し、すべての国が包括的に取り組むことを求めています。開発途上国だけではなく、日本を含む先進国も国内目標を設定し、開発の恩恵から誰一人取り残されない、持続可能な世界の実現を目指しています。JICAは、開発途上国や国際社会とのパートナーシップのもと、SDGsの達成に積極的に取り組んでいます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

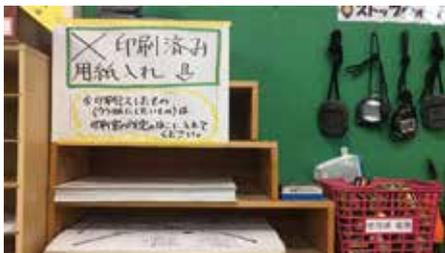


派遣前研修の事前課題として、参加教諭には勤務校周辺でSDGsに関係すると思われる写真を3枚撮影し、①撮影者、②撮影場所、③撮影日、④撮影した理由、⑤SDGsとの関係性について記載をし、派遣前研修に持参していただくことをお願いしました。

写真の例

<p>撮影者：山田太郎                  撮影場所：●●市立●●小学校近隣                  撮影日：2017年5月30日                  撮影した理由：駐輪してある自転車が点字ブロックにはみ出して危ない                  SDGsとの関係：3. すべての人に健康と福祉を</p>	<p>撮影者：山田花子                  撮影場所：●●県立●●高校学区域                  撮影日：2017年5月30日                  撮影した理由：まだ使えるかもしれない家電製品が捨てられている                  SDGsとの関係：7. エネルギーをみんなに。そしてクリーンに 12. つくる責任つかう責任</p>	<p>撮影者：国際一郎                  撮影場所：●●市立●●小学校通学路                  撮影日：                  撮影した理由：通学路にもいる外来種。ヒトへのサルモネラ菌の感染例あり。在来淡水カメ類の卵を捕食するほか、食物となる水動植物が影響を受ける                  SDGsとの関係：14 海の命を守る</p>

■提出された課題（一部）



- ①撮影者：横田美紗子
- ②撮影場所：野田市立柳沢小学校職員室
- ③撮影日：2019年6月26日
- ④撮影した理由：捨てればゴミ。活用すれば資源。1日の中で学校では何枚も使用される紙。無駄な印刷をしないことが一番だが、ミスしたのも裏紙として活用している。
- ⑤SDGsとの関係：12つくる責任つかう責任、13気候変動に具体的な対策を、15緑の豊かさを守ろう



- ①撮影者：吉田祥子
- ②撮影場所：蒲田駅
- ③撮影日：2019年6月24日
- ④撮影した理由：大きな人型のトイレ記号が目立っており、小さな子どもやお年寄り、日本語の分からない外国人でも一目見てわかるようになっている。しかし女性トイレを赤、男性トイレを青で協調することは、赤は女性的、青は男性的といった性別による色のイメージ認識にとらわれてしまうのではないだろうか。
- ⑤SDGsとの関係：5ジェンダー平等を実現しよう、11住み続けられるまちづくりを

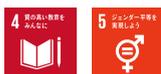


- ①撮影者：鈴木航太
- ②撮影場所：村上市立保内小学校
- ③撮影日：2019年6月23日
- ④撮影した理由：子どもたちが使う水道が良く閉め切られておらず、水が出しっぱなしになっている。
- ⑤SDGsとの関係：4質の高い教育をみんなに、12つくる責任つかう責任



任	男子	女子	計	休・留学
原	20	20	40	
藤	20	20	40	
井	20	20	40	
	60	60	120	

- ①撮影者：玉腰朱里
- ②撮影場所：東京都立大泉高等学校附属中学校
- ③撮影日：2019年6月17日
- ④撮影した理由：本校のある学年の男女別在籍数。都立校は男女別枠入試を実施しており、男女の合格最低点にどんな差があっても、性差によって足切りされてしまう現実がある。
- ⑤SDGsとの関係：4質の高い教育をみんなに、5ジェンダー平等を実現しよう



- ①撮影者：蓮池理之
- ②撮影場所：新座市立第四中学校 教室
- ③撮影日：2019年6月24日
- ④撮影した理由：勤務校では全クラスにペットボトル回収ボックスを設置している。回収したペットボトルキャップはNPO法人に送り、リサイクルの促進、CO2の削減、売却益で途上国の医療支援などに役立てている。途上国で起きている問題を「自分事」として捉えるきっかけとなっている。
- ⑤SDGsとの関係：1貧困をなくそう、3すべての人に健康と福祉を、11住み続けられるまちづくりを、13気候変動に具体的な対策を



- ①撮影者：中村俊佑
- ②撮影場所：東京都立五日市高校周辺の山林
- ③撮影日：2019年4月26日
- ④撮影した理由：森林保全のため、高校2年生が地球環境学習の一環として下草刈りを行っている場面。秋には間伐を行う。
- ⑤SDGsとの関係：7エネルギーをみんなにそしてクリーンに、9産業と技術革新の基盤をつくろう、13気候変動に具体的な対策を、15陸の豊かさを守ろう



## 3. 派遣前研修

日時：2019年6月29日（土）・6月30日（日）

場所：JICA 地球ひろば・JICA 東京

- 目的：① 地球的規模の課題、途上国の現状、国際協力・ODA、JICA 事業、訪問国の概要等を理解する。  
 ② 国際理解・開発教育の理念・意義を理解し、授業実践に用いる教材の作成方法を理解する。  
 ③ 研修における各自の役割を理解する。また、海外研修における各種手続き・事前準備を行う。

### 6月29日（土） 派遣前研修 1日目@ JICA 地球ひろば

所要時間	プログラム	会場	目的/説明	講師・進行
09:30	受付開始			
10:00	5 開催挨拶	201AB	研修の意義・期待される成果について理解する	JICA 東京 市民参加協力第一課長
10:05	20 参加者自己紹介	201AB	研修にかかわるメンバーを知る	
10:25	40 【事業説明】日本の国際協力と JICA 事業 教師海外研修の概要	201AB	ODA と JICA 事業について理解する 研修の目的と全体スケジュール確認	JICA 東京 古賀聡子
11:05	5 休憩			
11:10	60 【講義】資質・能力の育成に向けた授業づくり	201AB	JICA の海外教師研修と資質・能力を育成する授業づくり	国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官 松原 憲治
12:10	60 昼食		地球ひろばカフェ (J's Cafe)	
13:10	30 【見学】JICA 地球ひろば体験ゾーン	1階 体験ゾーン	SDGs/ 開発教育支援プログラム体験し、世界の課題と国際協力の必要性を知る	地球案内人
13:40	5 移動			
13:45	60 【講義】参加型学習の手法	201AB	参加型学習の手法の一端に触れ、授業案の質の向上に役立てる	JICA 東京 岡田直人
14:45	30 【ビデオ視聴】安全管理	201AB		
15:15	5 休憩・移動			
15:20	50 <コース別> 【講義】派遣国概要・安全情報	202AB	派遣国（パラグアイ）の概要・安全対策について知る	JICA 監査室 岩谷 寛
		大会議室	派遣国（ザンビア）の概要・安全対策について知る	産業開発・公共政策部 更科 亮
16:10	40 <コース別> 【渡航ブリーフィング】海外研修について	202AB	海外研修先の日程説明、必要な準備、諸手続き、渡航留意点（入国・出国手続き、経由国対応）予防接種、任意保険・航空券手配など確認	JICA 東京
		大会議室	グループ内係分担	JICA 東京
16:50	10 事務連絡	201AB		JICA 東京
17:00	幡ヶ谷へ移動		移動・チェックイン	
18:30	30 長期研修員とのディスカッション	409.410	Ms.Lynda Mususu(Zambia), Mr. Blas Hahn (Paraguay)	
19:00	60 懇親会	講堂	コースごとに研修時のかかり分担も行う	

## 6月30日(日) 派遣前研修2日目@ JICA 東京

所要時間	プログラム	会場	目的/説明	講師・進行	
09:00	15 事務連絡	SR411	本日の流れ、授業実践計画案提出確認	JICA 東京	
09:15	90 <b>【講義】国際理解教育とアクティブラーニング</b>	SR411	(冒頭：事前課題を利用したフォトランゲージワークショップ) 国際理解教育の理念を理解し、生徒の資質・能力を育成する授業案を考える	東京都市大学 佐藤真久	
11:00	60 <b>【授業実践事例紹介】</b> 小学校 算数	SR408	国際理解教育実践の考え方を整理、授業計画策定経過説明、事例紹介 ※教員は任意の校種に参加	増子 美香	
		SR409		中学校 英語	中島 真紀子
		SR410		高等学校 地理	西 克幸
12:00	60 昼食	食堂			
13:00	30 <b>【講義】授業実践計画の留意点</b>	SR411	本研修の成果を実践授業に反映させるポイントを理解する	JICA 東京 岡田直人	
13:30	30 <コース別> <b>【個別ワーク】</b> 授業計画の修正・発表準備	SR408	本時までの研修内容を踏まえ、各自の授業案の見直し、発表準備を行う。	東京都市大学 佐藤真久	
		SR409		JICA 東京 岡田直人 可能であれば過年度参加者	
14:00	10 休憩・発表準備				
14:10	140 <コース別> <b>【グループワーク】</b> 授業計画の共有と検討	SR408	実践授業計画の共有・グループ内での検討・コンサルテーション、海外研修での要望・取得する教材等の確認	東京都市大学 佐藤真久	
		SR409		JICA 東京 岡田直人 可能であれば過年度参加者	
16:30	20 事務連絡・アンケートの記入	SR411	今後の研修の流れと提出物について	JICA 東京 古賀聡子	
16:50	解散				



【講義】資質・能力の育成に向けた授業づくり



【講義】国際理解教育とアクティブラーニング



【講義】授業実践計画の留意点



【授業実践事例紹介】

---

## 4. 研修参加者写真

---

### ザンビアコース



### パラグアイコース



## 5. 海外研修（ザンビア）

### （1）研修国の概要

正式名称：（和文）ザンビア

（英文）Republic of Zambia

・国名は、アフリカで4番目に長い「ザンベジ川」に由来

・国旗 緑：森林と農産物の実り

鷲：自由と栄光

3色の帯：「赤」が独立のために犠牲となった国民の血、

「黒」がザンビア人、「オレンジ」が銅に代表

される豊かな鉱物資源を表す

政 体：共和制

首 都：ルサカ（Lusaka）

面 積：752.61千平方キロメートル（日本の約2倍）

人 口：1,735万人（2018年：世銀）

民 族：73部族（トンガ系、ニャンジャ系、ベンバ系、ルンダ系）

言 語：英語（公用語）、ベンバ語、ニャンジャ語、トンガ語

宗 教：8割近くはキリスト教、その他イスラム教、ヒンドゥー教、伝統宗教

通 貨：ザンビア・クワチャ（ZMW）

為替レート：1米ドル＝10.46ZMW（2018年平均）

日本との時差：－7時間

主要産業：鉱業（銅、コバルト等）、農業（トウモロコシ、タバコ、綿花、大豆）、観光

G D P：267億米ドル（2018年：世銀）

一人当たりGNI：1,430米ドル（2018年：世銀）

経済成長率：3.8%（2018年：世銀）

日本との政治関係：1964年の独立と同時に同国を承認し、1970年にルサカに大使館を設置。ザンビアは1975年に東京に大使館を設置。1964年10月に開催された東京五輪には、開会式（10日）には「北ローデシア」として参加していたが、24日の閉会式当日に独立し、閉会式には「ザンビア」として参加。

日本との経済関係：ザンビアの対日輸出は185億円（2018年、銅・コバルト・タバコ等）、対日輸入は64億円（2018年、自動車及び関連部品、タイヤ等）となっている。

在留邦人数：252人（2018年6月現在：外務省）

在日ザンビア人数：134人（2018年6月末現在：法務省）

青年海外協力隊派遣数：71人（2019年12月31日現在派遣中）

#### 【参考サイト】

・外務省「国・地域（ザンビア）」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/zambia/index.html>（2020年3月現在）



## (2) 海外研修日程

日付	時間	活動・訪問先	ねらい
7/24 (水)	夜	羽田空港集合	
7/25 (木)	午前 午後	羽田発→ドバイ着 ドバイ発→ルサカ着	
7/26 (金)	午前	JICA ザンビア事務所訪問 ナショナルサイエンスセンター（教員養成校）視察 <無償資金協力・技術協力プロジェクト>	JICA の対ザンビア事業概要、教育分野の協力概要について理解する
	午後	ンサンサ孤児院訪問（NPO）	ストリートチルドレンを収容、支援する施設を見学し、経営者夫妻や子供たちと意見交換を行う
7/27 (土)	午前 午後	移動（ルサカ→リビングストーン） シニア海外協力隊員との交流	陸路移動の車窓からザンビアの自然や物流、地方の実際を理解する。また、シニア海外協力隊員との意見交換を通じてザンビアの観光開発について理解を深める
7/28 (日)	午前	国立公園視察	ザンビアの自然について理解を深める
	午後	世界三大瀑布ビクトリアフォールズ視察 民族文化視察 (Wayi Wayi Art Gallery)	ザンビアの自然やベンバ族の文化について理解を深める。
7/29 (月)	午前	移動（リビングストーン→シマクトゥ） シマクトゥ地域ヘルスセンター視察 <青年海外協力隊配属先>	協力隊員の活動現場を視察し、隊員や関係者へのインタビュー等を通じて村落部の保健・医療の実際について理解を深める
	午後	移動（シマクトゥ→ムバハラ） ムバハラ地域ヘルスセンター視察 <青年海外協力隊配属先> 移動（ムバハラ→モンゼ）	
7/30 (火)	午前	シムカレ初等学校視察 <青年海外協力隊配属先> チャールズワング教員養成校視察	地方の初等学校で活動する青年海外協力隊の活動現場を視察し、授業見学、児童へのインタビュー、教員との意見交換を行う。また、教員養成校を視察し学長及び教員との意見交換を行う
	午後	モンゼ・タウン・デイ中等学校視察 <青年海外協力隊配属先> 移動（モンゼ→ルサカ）	地方の中等学校で活動する青年海外協力隊の活動現場を視察し、授業見学、児童へのインタビュー、教員との意見交換を行う
7/31 (水)	午前	コンパウンド（未計画居住区）視察 <無償資金協力>	都市部の貧困地域であるコンパウンドの状況を把握するとともに、JICA の無償資金協力事業（水、保健）の成果を視察し、関係者との意見交換を行う
	午後	マテロ病院視察<無償資金協力> ストリートキッズ訪問	ルサカ郡病院アップグレード計画を視察し、ザンビアの医療の現状と無償資金協力事業の成果を学ぶ。また、ストリートキッズとの交流を通じて都市部の若年層が抱える諸問題に対する理解を深める
8/1 (木)	午前	ザンビア大学視察	ザンビア大学内にある北海道大学ルサカオフィスを視察し、日本の大学による研究・協力（医療、環境）について理解を深める。また、日本語を履修する学生との交流・意見交換を通じて相互の文化理解を促進する
	午後	日立建機ザンビア視察	ザンビアでビジネスを展開する日本企業の実状について理解を深める
8/2 (金)	午前	報告準備	
	午後	在ザンビア日本大使館訪問 JICA ザンビア事務所訪問	研修の成果と今後の日本の教育現場への還元について、日本大使館及び JICA 現地事務所にて報告を行う
8/3 (土)	午前	農村訪問（ルサカ近郊） <青年海外協力隊配属先>	青年海外協力隊が活動する農村を訪問し、活動の実際を知るとともにザンビアの主食であるシマ作り体験を通じて農家の人々との交流を深める
	夜	ルサカ発	
8/4 (日)	午前	ドバイ着 ドバイ発	
	夜	羽田空港着	

### (3) 海外研修トピックス

#### ◆ナショナルサイエンスセンター

日本と30年以上の協力の歴史を持つ国立の教育研究機関。教育政策研究とカリキュラム策定、現職教員研修、教材開発と作成、IT化などに多角的に取り組む。JICAの技術協力プロジェクトを通して教員養成校や学校現場に日本の「授業研究」の手法を導入、教育の質改善に取り組んでいる。



#### ◆ンサンサ孤児院

首都に住むストリートチルドレン（男子）を収容・支援している。そのほかにも日曜に教会に来る子どもたちに食事、入浴のサービスを提供し、里親とのマッチング、カウンセリングも実施している。日立建機ザンビアの支援をうけ、郊外に女子も収容できるドミトリー建設中。



#### ◆Wayi Wayi Art Gallery

リビングストーン市内にある、ベンバ族のオーナー家族が経営するアートギャラリー。孤児等へのアートクラス開催などコミュニティ支援活動、廃品利用のアート作品制作による環境教育活動、芸術を通じたベンバ族の伝統文化の継承などに取り組んでいる。



#### ◆シマクトゥ地域ヘルスセンター

未舗装のこぼこ道を車で片道1時間半、青年海外協力隊員が活動するヘルスセンターを訪問。日本での看護師経験を活かして、電気も水も不便な農村部で地域医療を支える隊員の姿に、胸を打たれた。住民への健康啓発活動も実施し、医療体制が十分とは言えない地域でも人々が自律的に健康な生活が送れるよう支援を行っている。



#### ◆シムカレ初等学校

シムカレ初等学校は、南部州モンゼにある無電化地域の公立学校。青年海外協力隊員が現地の先生方と共に活動する様子を視察し子供たちにインタビューを行った。厳しい教育環境の中でも生き生きと学ぶ子供たちの姿を前に、どんな国においても学校教育が社会の礎であることに思いを新たにしました。



## ◆ルサカ市内コンパウンド

地方から首都ルサカへ職を求めて流入した人々の多くは、郊外にコンパウンド（未計画居住区）を形成する。そこでは安全な水にアクセスできないことからコレラ等の感染症がたびたび発生し、健康被害が深刻化している。そうした状況を改善すべく日本の支援で建設された給水塔や水道設備等を視察、都市の水・衛生の課題解決に向けた地道な取組みを視察した。



## ◆ザンビア大学

ザンビアの最高学府、ザンビア大学では、青年海外協力隊員を指導者とする日本語の講座が開講されている。日本語と英語を織り交ぜながら、お互いの教育や文化について学生たちと活発な意見交換を行った。折り紙や書道も一緒に行い、ザンビアの地で日本文化を介した心温まる交流の機会を得た。



## ◆日立建機ザンビア

日立建機ザンビアは、ザンビアの銅鉱山をはじめ南部アフリカ各地で使用される同社製大型重機のメンテナンスを手掛けている。交換部品の再生工場内では、日本のものづくりの技術とノウハウを習得した現地雇用の従業員たちが汗を流していた。約170名の全従業員のうち、日本人はたったの3名。雇用創出や人材育成を通してザンビア社会に貢献する日本企業の姿を垣間見た。



## ◆チョングエ郡の農家

最終日に青年海外協力隊が農業技術指導を行っているチョングエ郡の農村にてある農家のお宅を訪問、ザンビアの主食であるシマ作りを体験させていただいた。ここも無電化地域で水道もない地域だが、青空の下で村の人々とともに食べるシマは格別。ゆったりとした時間の中で農村の人々の温かい心遣いに触れ、いよいよザンビアの地を離れがたくなった。



## (4) 私の1枚 in ザンビア



ザンビアでの海外研修では様々な学びや出会いがありました。

参加された先生方に、印象に残ったシーンの1枚の写真を選んでいただきました。

### 日本の教室掲示の工夫がザンビアへ



日本の教室でよく見られる掲示物が青年海外協力隊の手によって導入されていた。説明・提示型（教師中心）の授業がほとんどの中、子どもの意欲や集中力を高めるのに一役買っていた。体罰という手段しかなかった現地の先生達にも好評だという。掲示物の作成ではなく、視覚的に訴える授業方法を伝授することで、持続可能な支援になっている。(SDGs : 4)



名前 金丸 恵美 学校 八丈町立富士中学校

### “I want to go to school.” “Give me money.”



両親を失い、シンナーを吸い続ける男の子。彼は僕らが滞在するホテルの前まで、最後の希望を求めて、僕についてきた。彼の言葉は忘れられない。“Can you help me? I love you. Give me money. I want to go to school. I want to go home. I can go to Japan.”彼は学校や住む家を求めていた。「日本は遠いよ」と言ったら、「日本まで行くよ」と。彼の切実な瞳と言葉に僕はどうすることもできなかった。電気も水も食べ物も不自由なく使えるホテルにいる僕たちのすぐそばに彼の姿があった。今、彼はどうしているだろう？(SDGs : 1, 2, 3, 4, 10)



名前 中村 俊佑 学校 東京都立五日市高等学校

### 見えない壁



橋の下に身を寄せ合って、暮らすストリートチルドレン達。安全のために私服警官の付き添いで訪れたのは、宿泊先のホテルから歩いて数分の場所だった。後ろに見える大きな塔の向こう側に私たちのホテルがあり、ホテルの窓からもこの塔を眺めることができた。ホテルの他にショッピングモールがあり、現地の富裕層がカートいっばいに食品を買っていた。一方、橋の下に住む子供達は、パン一つ買うお金がない。シンナーをペットボトルに分け合い、飢えと寒さを凌いでいた。塔の周辺にまるで見えない壁が存在しているように感じた。この見えない壁は、ザンビアだけではなく日本にも存在しているかもしれない。(SDGs : 1, 2, 3, 4, 6, 10, 16)



名前 吉田 祥子 学校 東京都大田区立糎谷小学校

### 海を超えてリサイクル



渡航前に自分のクラスの子から、使わなくなった洋服を集め、孤児院でプレゼントをした。目の前で着てくれて大変うれしかった。これを一つのきっかけにして、貧困の連鎖から抜け出せることを願う。洋服の元持ち主も、国際貢献できた達成感を得られたら良いと思う。

(SDG s : 1, 10, 12)



名前 須賀 与恵 学校 川口市立小谷場中学校

### 水道の端にあるのは・・・



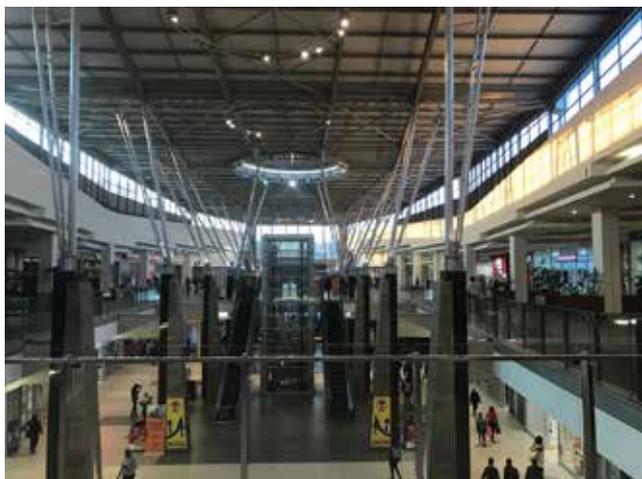
ルサカ市内のジョージ・コンパウンドで撮った一枚。蛇口に鍵がかけられている。ルサカのコンパウンドでは、消毒された安全な水は1日12時間しか利用ができず、利用する際にも水道料金を支払った証明書の提示が必要になる。鍵は各水道の管理者（タップ・リーダー）が持ち、管理されている。周辺には井戸もあるが、コレラの発生も報告されているなど飲み水として安全とは言えない水源であった。

(SDGs : 6)



名前 仲田 莉果 学校 埼玉県立大宮中央高等学校

### Levy Shopping Mall



一見先進国のような印象をもたせる施設だが、エスカレーター、エレベーターが頻繁に工事で使用不可になったり、夜になってみると看板の蛍光灯が切れていたりする様子が見られた。

途上国の発展、都市部と農村部の格差、持続可能な開発について同時に考えさせられた。

(SDG s : 1, 7, 8, 10, 11)



名前 上園 雄太 学校 千葉県野田市立七光台小学校

### 全ての人に安全な水を



ザンビアのコンパウンド（未計画居住区）には日本の支援で建設された給水塔がある。食器を洗う男子の近くには、この給水塔から送られてくる水の出る蛇口（水は有料）と浅井戸（無料）があった。この男子はどちらの水で食器を洗っているのだろうか・・・と疑問に思ったと同時に、同じ国の中で使用できる水に差があってはならないとも感じた。

(SDG s : 1, 6, 10)



名前 大塚 由貴 学校 埼玉県立杉戸高等学校

## 「学び」のその先に



モンゼタウン初等中学校にて授業を見学させていただいた。教科書がそろわない、黒板の質が良くない、理科実験の教具が不足している、など学習環境は日本と比べて良くないものの、小学生の真剣なまなざしにハッとさせられた。彼らの「学び」のその先にあるものは何だろうか？この子たちが大人になったとき今学んでいることはどのようにつながるのだろうか？  
(SDGs : 4, 5, 9)



名前 鎌田 理子 学校 千葉市立稲毛中学校

## ザンビアの未来を照らす光



ザンビアでは、急増する就学者に対する教育環境の整備や教員配置の遅れ、教材調達・配付の困難さのみならず、学校運営資金を得るための野菜栽培・販売など教育における厳しい現状を知った。そんな中でも、子どもたちは学校が大好き。学ぶ意欲、そして笑顔に溢れていた。無限の可能性をもつこの子どもたちこそが、ザンビアの未来を照らす光そのものだと感じた。  
(SDGs : 4, 8, 10, 16)



名前 横田 美紗子 学校 野田市立柳沢小学校

## 答えが分からない



孤児院に送る古着を学校で募ったところ、多くの方が寄付して下さいました。大量に作られ、もう使わない「モノ」が大量にある。一方で「モノ」がない子どもたちがいる。この不用品の寄付という行為は正しいのか。しかし、現実には圧倒的に不足、人間らしい生活すらままならない人がいる。答えは分からない。  
(SDGs : 1, 3, 4, 10, 12)



名前 竹村 ゆかり 学校 長野県長野高等学校

## ザンビアと水



世界三大瀑布の1つ「ビクトリアフォールズ（ビクトリアの滝）」の写真。一見すると綺麗な写真だが、今年のザンビアは、雨量が少なく、滝の水量も少ない。農業や電力発電において雨頼みのザンビアにとって致命的なことなのだと感じた。ザンビアの高校生が、環境保全を仕事にしたいと話していたことを思い起こさせる一枚。  
(SDGs : 2, 7, 11, 13, 15)



名前 池亀 元喜 学校 新潟県立佐渡総合高等学校

## 6. 海外研修（パラグアイ）

### （1）研修国の概要

正式名称：（日本語）パラグアイ共和国  
（英語）Republic of Paraguay  
（西語）República del Paraguay



政 体：立憲共和制  
首 都：アスンシオン  
面 積：40万6752平方キロメートル（日本の国土の1.1倍）  
人 口：約696万人（2018年：世銀）  
民 族：混血（白人と先住民）95%、先住民2%、欧州系2%、その他1%  
言 語：スペイン語、グアラニー語（ともに公用語）  
宗 教：カトリック（国民の98%が信仰）  
通 貨：グアラニー（Gs.）

為替レート：1米ドル=5,692グアラニー（2018年平均：中銀）

日本との時差：-13時間（夏時間10月から3月は-12時間）

主要産業：農牧業（大豆）、牧畜業（食肉）、林業

G D P：408億ドル（2018年：世銀）

一人当たりGNI：5,680ドル（2018年：世銀）

経済成長率：3.6%（2018年：世銀）

略 史：1521年にスペイン人によって発見されるまで先住民であるグアラニー族の支配するところ。

1811年スペインから独立。ブラジル、アルゼンチン、ウルグアイの三国同盟を相手とする三国戦争（1864～1870年）、ボリビアとのチャコ戦争（1932～1935年）を経て現在の国土を確保。1954年クーデターによりストロエスネル将軍が政権掌握、以後35年にわたり独裁政権継続。1989年クーデターによりロドリゲス将軍が大統領に就任。1993年ワスモシ大統領就任、文民政権誕生。現在の大統領はオラシオ・カルテス。

気 候：熱帯気候に属するが、西部は乾燥地帯で、東武へ向かうほど降水量が増して湿潤となる。季節は夏と冬に大別され、春と秋の期間は短い。

在留邦人数：4,554名（2018年、外務省海外在留邦人調査統計）

在日パラグアイ人数：2,090名（2018年、法務省在留外国人統計）

青年海外協力隊派遣取極：1978年

移住協定：1959年、1989年改定（効力無期限延長）



#### 【参考サイト】

- ・外務省「各国・地域（パラグアイ）」  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/paraguay/data.html#section1>（2020年3月アクセス）
- ・JICA「各国における取り組み/国概要（パラグアイ）」  
<https://www.jica.go.jp/paraguay/office/others/gaiyou.html>（2020年3月アクセス）

## (2) 海外研修日程

日付	時間	活動・訪問先	ねらい
8/4 (日)	午後	成田空港集合 日本発→パリ着 パリ発→サンパウロ着	
8/5 (月)	午前 午後	サンパウロ発→アスンシオン着 JICA 事務所訪問 プリーフィング、両替 JICA 事務所関係者との夕食会	
8/6 (火)	午前	カアグアスへ移動	
	午後	ポトレロ・グアジャキ保健ポスト視察 ＜青年海外協力隊配属先＞ 近隣の公立学校での歯磨き衛生指導を視察 NGO クレセル サグラード・コラソン・デ・ヘ スス校 ＜青年海外協力隊活動先＞ PC クラス指導参観	地域住民に保健医療サービスを提供する施設の現状と課題を学ぶ 市民社会の地域住民への貢献を学ぶ
8/7 (水)	午前	サンタ・エレナ小学校 ＜青年海外協力隊配属先＞ 参加教員の折り紙・ソーラン節交流	現地の小学校 学校生徒との交流、隊員との意見交換
	午後	カテウラ音楽団視察	市民社会の社会開発・人間的開発への貢献
8/8 (木)	午前	ラパスへ移動	日系社会の活動、地域社会への貢献を学ぶ
	午後	ラパス日本人会、移住資料館 ラパス農協訪問 スーパーマーケット視察	マイノリティである日本人の現地社会との共生から学ぶ ラパス移住地の農業の特徴と概要、農協の役割と活動について学ぶ
8/9 (金)	午前	ラパス日本人会・日系農家訪問 ラパス日本人会での昼食会	移民・移住地開発の社会成長への貢献を学ぶ
	午後	ラパス日本語学校視察 参加教員グループ別授業実施	文化の継承とアイデンティティの問題を学ぶ
8/10 (土)	午前	朝の農畜産物フェア見学 隊員配属先市役所でのプリーフィング	
	午後	パラグアイ人農家訪問 サン・フアン・ネポムセノ市役所 原爆展 ＜青年海外協力隊主催＞	加速するグローバル化等の影響に対応する事例を学ぶ
8/11 (日)	午前	サン・フアン・ネポムセノ→ビジャリカ移動	
	午後	研修振り返り、帰国報告会準備	
8/12 (月)	午前	イトゥルベに移動 イトゥルベ市役所、文化センター視察 ＜青年海外協力隊配属先＞ 農村女性グループのご自宅訪問・昼食	地方農村部で活動する隊員の活動内容や配属先関係者、地域住民との関係を学ぶ 都市と農村の違いを学ぶ
	午後	農村地域の学校見学 「コロナル・オビエド市給水システム改善計画」施設見学＜無償資金協力案件＞	生存に不可欠な分野（安全な水の供給）における現地の課題、日本の協力の意義と効果を学ぶ
8/13 (火)	午前	ニャンドゥティ製作者宅訪問 アスンシオンへ移動 アグロショッピング視察	パラグアイの伝統文化を学ぶ パラグアイ経済における多文化共生を学ぶ
	午後	「産業界のニーズに応える高度技能人材育成プロジェクト」＜技術協力＞ Palo Santo（香木）製品工房視察	産業人材育成への日本の協力とパラグアイのグローバル化への対応を学ぶ 日系企業のビジネスを学ぶ
8/14 (水)	午前	ニホンガッコウ視察 ＜元隊員勤務先＞	活動終了後、私費でパラグアイに戻りニホンガッコウに勤務
	午後	JICA 事務所での帰国報告会 協力隊員及び JICA 事務所関係者との懇親会 (2019 年度 1 次隊歓迎会)	パラグアイの学校・授業の様子を視察、パラグアイの教育について意見交換
8/15 (木)	午前 午後	アスンシオン空港着 パラグアイ発	
8/16 (金)	午前 午後	パリ着 パリ発	
8/17 (土)	午前	成田空港着	

### (3) 海外研修トピックス

#### ◆ポトレロ・グアジャキ家族保健ユニット

プライマリーヘルスケア及び栄養改善の分野で活動する村上隊員の配属先を視察。予防医療という概念があまり根付いていない場所で、新生児・HIV・歯科の専門医と協働し、コミュニティ内診察や近隣学校での歯磨き指導等の啓蒙活動を見学しました。パラグアイでの予防医療の重要性を確認しました。



#### ◆サンタ・エレナ小学校

パラグアイ派遣小学校教育隊員が現地校教員との共同作業で作成した算数指導書(通称 MaPara)は、教育文化省指定の指導書に認定されています。サンタ・エレナ小学校で活動中の山口隊員からは、教科書も無く板書のみでの授業、PISA ワースト4位、政府からの支援不足など多くの課題をかかえつつも、対話的な授業を取り入れ、指導案や教材作成に取り組んだ結果、算数の点数が飛躍的に上がったことを伺いました。交流プログラムは、ソーラン節と折り紙。子どもたちも笑顔で一生懸命に取り組んでくれ、言語の壁を越えた交流となりました。



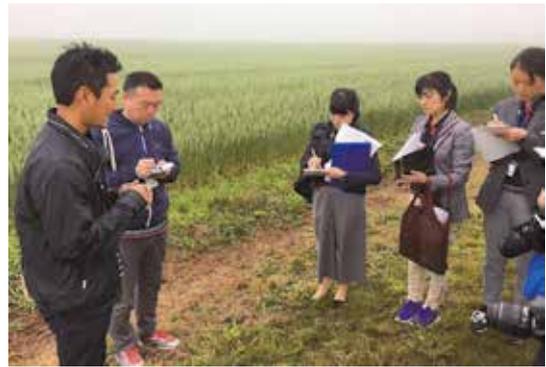
#### ◆カテウラ音楽団学校

カテウラ地区というパラグアイ最大のゴミ埋立地の街にある音楽団を視察。ゴミ山から集めたもので様々な楽器を作成し、音楽を演奏するだけでなく音楽で子どもたちの心を育てていくという楽団で、環境や教育、貧困問題など多くのSDGsのゴールとの繋がりを参加者それぞれが実感できました。聴かせていただいた演奏は美しく、思わず涙があふれました。



#### ◆ラバス日系農家訪問

伊藤さんが所有する農地は全630町歩(1町歩:約100m×100m)で、460町歩が大豆、170町歩が小麦。実際に農地を見学し、その広大さや、パラグアイの農業経済への貢献を実感することが出来ました。インタビューでは、中学生頃までは日本人としての気持ちがあったが、今はパラグアイ人としての気持ちが強いかことや、二世三世になると自分のアイデンティティに悩むことが多いとのことのお話もあり、日系社会について深く考えました。



#### ◆ラバス日本語学校

ラバス日本人会の運営で日本語教育を行う学校。現在児童数は65名、教師数は6名。年間を通して多くの季節行事も行われています。日系社会青年ボランティア等これまで12名の日本語教師が在籍していました。整列、ラジオ体操、校歌斉唱など日本式教育が行われており、地球の反対側で日本文化の継承への努力がなされていることに心を動かされました。



#### ◆畜産フェリア見学

宿泊先近くのフェリア（朝市）見学。日本では見ることが出来ない姿で売られている豚や牛、鳥などの肉類や、地面にそのまま置かれたキャッサバ芋。安井隊員はここにくる客数や購入したものを調査、コミュニティ開発隊員として売上や生活向上の為に活動しています。現状に不満をもっていないというパラグアイ人が多いため難しい面もあるとのこと。



#### ◆農村女性グループご自宅訪問

イトウルベ市役所配属の山口隊員と一緒に活動する農村女性グループのお宅訪問。バスでは入れない赤土のぬかるんだ道を歩いて到着したご自宅では、絞めたばかりの鶏などパラグアイの伝統的な料理を振舞っていただきました。自給自足の生活「お金はないけど食べ物と愛はある」という言葉に様々なことを考えさせられました。



#### ◆ニヤンドウティ制作者宅訪問

パラグアイの伝統刺繍であるニヤンドウティの制作工程を見学。

伝統文化の継承は日本もパラグアイも同じで、やはり若い職人が少なくなっているという現状。

細い糸で一本一本手作業で縫っていくという工程で、時間をかけて制作するより、太い糸で時間がかからず簡単に作れてすぐに売れる製品が多くなっている。職業が多様化し中進国として徐々に発展していく中で、伝統文化を変わず残していくことの難しさを感じました。

#### ◆技術協力「産業界のニーズに応える高度技能人材育成プロジェクト」

パラグアイは農業を主要産業としてきたため製造業の人材不足が顕著。セントラル県サン・ロレンソ市に所在する労働雇用社会保障省職業訓練局職業訓練センターでは、電気、電子、冷凍空調、情報、メカトロニクス、工場管理、労働安全の技術分野の人材育成を行っており、JICAは長年にわたり技術協力を展開してきました。現在派遣中のパラグアイ日系人の菊地専門家よりご案内いただきました。



#### ◆ニホンガッコウ視察

パラグアイ協力隊OVで現在ニホンガッコウの教育アドバイザーを務める西野さんの勤務先を訪問。日本への留学経験があるパラグアイ人（現、ニホンガッコウ大学副学長）が1993年に設立し、当初は2クラス63名でしたが、現在幼稚園から大学院まで約2,000人が学んでいます。



\*文中引用の海外協力隊員は、教師海外研修時、活動中。

## (4) 私の1枚 in パラグアイ



パラグアイでの海外研修では様々な学びや出会いがありました。  
参加された先生方に、印象に残ったシーンの1枚の写真を選んでいただきました。

### カテウラ音楽学校の手作り楽器



カテウラ音楽学校では、廃材で作られた楽器が使われている。演奏を聴くと驚くほど美しい音色である。また一人ひとり違う楽器を嬉しそうに紹介してくれる子供たち。今は世界をめぐる演奏費で学校が運営されているとのこと。貧困地域で自分たちの力で道を切り開く姿に、本当の支援、教育とは何かを改めて考えさせられた。(SDG s 1, 4, 12, 17)



名前 黒川 八重 学校 東京女子学園中学校高等学校

### 買い替えは3年



ラ・パス日系農家は車を3年で買い替えるそうです。理由は赤土のせいで車の傷みが早く、価値も早く下がるからです。一方、ビジャリカのパラグアイ人農家を訪問したときは、ボロボロで泥だらけのバイクがたくさん停まっていた。通訳さんが「昔は車を見ると、どこの家の車か分かったけど、今はすぐ買い替えるので、どこの家の車か分かりませんね」と言っていました。(SDG s : 1, 11, 12)



名前 藤井 宏之 学校 東京都立千早高等学校

### グローバル社会と多文化融合



パラグアイ名物エンパナーダと一緒にエンパナーダチナ(中国味)が売られていた。グローバル化が進むと伝統文化は駆逐されるのではないかと考えていたが、そもそもエンパナーダも元はスペインやポルトガルが発祥の地だという。文化の維持を目的にするのではなく、他文化を知って複数の文化の魅力を融合する視点が必要だと思った。(SDG s : 10, 11, 12, 17)



名前 玉腰 朱里 学校 東京都立大泉高等学校附属中学校

## みんなが笑顔～遊んで伝統を受け継ぐ～



ラパス日本語学校にて、日本側教師の授業シーン。現在は日系3世の時代となり、日本語を学ぶ意欲を持ってない児童生徒が多く、先生たちが苦労されていた。「皆さんが遊ぶことで、日本の文化が受け継がれていくのですよ。」趣意説明をして、百人一首、俳句かるたの授業を行った。子どもの笑顔は、教師の力の源だ。将来は両国の架け橋になるに違いない日系の子どもたちに対して、私達にも出来ることはある！と確信した訪問だった。(SDG s 4, 17)



名前 竹内 淑香 学校 杉並区立杉並和泉学園

## 国際協力の現場で生まれた絆



日本の無償資金協力で建設された浄水場にあった寄せ書き。建設に携わった日本企業の職員と、現地職員の名前が書かれている。国際協力の現場で生まれたパラグアイと日本との絆を感じると同時に、ものを供与するのではなく技術を伝え自助努力を支えるという日本の国際支援の温かみを感じた。(SDG s : 3, 6, 11, 17)



名前 中田 恵理子 学校 東京都立向丘高等学校

## 花を咲かせたい気持ち



ここはカアグアスにある小学校。トイレには紙がなく、水圧が弱いせいで流されていない。校庭を見ると、ネットのないゴールにボロボロのボール。そんな中、子どもたちはとびきりの笑顔で元気にサッカーをしている。そこには、ペットボトルで作った鉢があった。どんな状況でも、花は咲かせたいし、咲かせられるのだと思った。(SDG s : 1, 3, 16)



名前 駒谷 健介 学校 埼玉県立大宮工業高校

## 内陸国・Paraguay



ラパスでの昼食会でふるまわれた、お寿司のネタはサーモンと、なんとサーモンの皮！農業大国である一方、内陸国のため水産資源には恵まれないパラグアイ。寿司ネタはチリ産のサーモンが多いとのことで、JICAのサケ養殖事業が関わっているかもしれない。何気ない昼食の一コマから国際協力の一端と内陸国ならではの工夫が見られた。(SDG s : 2, 12, 14, 15)



名前 蓮池 理之 学校 新座市立第四中学校

### キャッサバの表と裏の顔



パラグアイ人の主食である「キャッサバ」。安価で、地面に放っておく程易かつ大量に収穫でき、人々の食生活を潤している。しかし、それ故過度な糖質摂取による成人病や、保守的な国民性も相まって他の農作物や産業に手を出しにくい状況を生み出している。パラグアイが中進国からさらに発展するためのカギとなるだろう。(SDG s : 1, 2, 3, 9)



名前 大原 淳 学校 千葉市立有吉小学校

### 2人の背中



サン・ファン・ネボムセノ市で青年海外協力隊のコミュニティ開発分野で派遣されている安井愛美さんと市内で夫婦で農家を営む妻のホセファさんの後ろ姿の写真です。この後ろ姿でお互いが信頼し合っているというのが伝わってきます。安井さんが、農家さんの充実した生活のために精力的に活動し、お互いがこやかに会話をされていたのが印象的です。(SDG s : 3, 8, 11, 17)



名前 小林 仁美 学校 群馬県高崎市立群馬南中学校

### パラグアイの教育



パラグアイの従来型の教育として、教師が板書したものを子どもがノートにとって終わり、もしくは、課題をだしても終わった子から自由に遊んで良いというものだったらしい。学習の質、学習意欲の向上のために、青年海外協力隊の方々実践されている取組に深く感銘を受けた。日本、パラグアイの子どもも共に、新たな知識を習得し活用できるようになることの喜びは同じである。質の高い教育の必要性を感じた。(SDG s : 4, 8, 9)



名前 鈴木 航太 学校 村上市立保内小学校

### ¿Cuándo te sientes feliz?



「あなたはどんな時に幸せを感じますか？」パラグアイ首都のスラム街カウテラ地区にあるカウテラ音楽団。ギャングに誘われ窃盗を犯すなど、非行に走り、犯罪に巻き込まれる子供も少なくない。『最も幸せな時は、好きな音楽を演奏している時。そして努力が成果に繋がった時。』ゴミ山から聞こえるその音色を決して忘れない。(SDG s : 4, 8, 10, 11, 12, 17)



名前 長田 里恵 学校 文化学園長野中学・高等学校

## 7. 派遣後研修

日時：2019年8月31日（土）

場所：JICA 東京センター

目的：海外研修の経験を生かした授業の実施・教材作成について考える。

### 8月31日（土） 派遣後研修@ JICA 東京 セミナールーム 406～410

所要時間	プログラム		目的/説明	講師・進行
09:30	受付開始	ロビー		
10:00	5 開会挨拶	406		JICA 東京 市民参加協力第一課長
10:05	20 <コース別> 【グループワーク】 海外研修の体験の整理	パラグアイ 407	海外研修の体験/素材を整理し、体験共有の準備を行う	東京都市大学 佐藤真久
		ザンビア 408		JICA 東京 岡田直人
10:25	85 海外研修の体験の共有	406	「私の一枚」等を利用して各コースの体験を共有する * 1グループ 40分	JICA 東京
11:50	10 休憩			
12:00	30 【講義】海外研修の体験を生かした授業づくり	406	授業実践案の作成に向けて、海外研修の体験を生かした授業づくりについて学ぶ	東京都市大学 佐藤真久
12:30	60 昼食	食堂		
13:30	30 【講義】授業実践の振り返りと報告書の記載	406	PDCA サイクルに基いた授業の実施と報告書への記載について理解する	JICA 東京 岡田直人
14:00	40 <コース別> 【個人ワーク】 授業実践案の見直し	パラグアイ 407	各自で授業案の見直しを行う (必要に応じて、校種や教科毎に意見交換しながら作業を進める)	東京都市大学 佐藤真久
		ザンビア 408		JICA 東京 岡田直人
14:40	5 休憩・移動			
14:45	80 授業実践案の共有	406	授業実践案を全体で共有する	JICA 東京
16:05	10 休憩・移動			
16:15	30 <都道府県別> 【グループワーク】 授業実践実施部の調整及び各県・各地域での情報共有	東京 406	都県毎に JICA 担当者と授業見学日について検討する 都県ごとの今後のネットワーク構築等について情報共有を行う	古賀・深林
		千葉・群馬 407		安達・佐藤
		埼玉 408		岡田・矢田部
		長野・新潟 409		竹内・北
16:45	15 事務連絡・アンケートの記入	406	今後の研修の流れ（授業実践、県別報告会、3月全体報告会、報告書の提出について）	JICA 東京
17:00	解散			



「海外研修の体験の共有」



「授業実践案の見直し」

# 8. 授業実践

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名		学校名	都・道・府・県 立 学校
担当教科等		対象学年 (人数)	年 組 (名)
実践年月日もしくは期間 (時数)		年 月 ~	月 ( 時間)

### 【実践概要】

- 実践する教科・領域:
- 単元(活動)名:
- 授業テーマ(タイトル)と単元目標  
授業テーマ: 「 」  
単元目標:  
関連する学習指導要領上の目標:
- 単元の評価標準
 

①知識及び技能	
②思考力、判断力、表現力等	
③学びに向かう力、人間性等	
- 単元設定の理由・単元の意義  
(児童/生徒観、教材観、指導観)  
【単元設定の理由】  
【単元の意義】  
【児童/生徒観】  
【指導観】
- 単元計画 (全 時間)
 

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1				
2				
3				
4				

1

7. 本時の展開 ( 時間目)  
本時のねらい:

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 ( 分)			
展開 ( 分)			
まとめ ( 分)			

8. 評価標準に基づく本時の評価方法

9. 学習方法及び外部との連携

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

【自己評価】

11. 苦労した点	
12. 改善点	
13. 成果が出た点	
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	
15. 授業者による自由記述	

参考資料:

※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどを JICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください!

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>

2

※過去の研修参加教員による実践事例を、JICA 東京ホームページに掲載しています。  
<http://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/>

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	吉田 祥子	学校名	東京都 大田区立糎谷小学校
担当教科等	全科	対象学年（人数）	6年 2組（37名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年11月～2020年2月（総合11時間、社会9時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間、社会科					
2. 単元(活動)名 ●「世界友だちプロジェクト～SDGsで世界とつながろう」（総合的な学習の時間） ◆「世界の未来と日本の役割」（社会科） ※以下より、●は総合的な学習の時間、◆は社会科とする。					
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「社会的事象の見方・考え方を働かせ、社会認識を深める学習」 単元目標： 【総合】・外国の文化や習慣に興味・関心をもち、理解を深めることができる。 ・世界の諸問題について、多面的・多角的に考えることができる。 【社会】・グローバル化する世界の中の日本の役割について、地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現することを通して、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解できるようにする。（知識および技能） ・世界の課題や日本の役割について、学習問題の解決に向けて意欲的に追求し、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたり、選択・判断しようとしていたりしている。（思考力、判断力、表現力等） ・我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々共に生きることの大切さについての自覚を養う。（学びに向かう力、人間性等） 関連する学習指導要領上の目標 【社会】 グローバル化する世界と日本の役割について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること （ア）我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国々の生活は、多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。 （イ）我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。 （ウ）地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア）外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現すること （イ）地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え表現すること。					
4. 単元の評価規準	<table border="1"> <tr> <td>①知識及び技能</td> <td> <b>【総合】</b> ・世界の諸問題に関する原因や解決のための活動について、インターネットや資料、インタビューなどで調べ、情報を分類・整理している。 <b>【社会】</b> ①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を理解している。 ②調べたことを文などにまとめ、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。                 </td> </tr> <tr> <td>②思考力、判断力、</td> <td> <b>【総合】</b> ・世界の諸問題について、SDGsと関連付けながら多面的・多角的に考えている。                 </td> </tr> </table>	①知識及び技能	<b>【総合】</b> ・世界の諸問題に関する原因や解決のための活動について、インターネットや資料、インタビューなどで調べ、情報を分類・整理している。 <b>【社会】</b> ①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を理解している。 ②調べたことを文などにまとめ、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。	②思考力、判断力、	<b>【総合】</b> ・世界の諸問題について、SDGsと関連付けながら多面的・多角的に考えている。
①知識及び技能	<b>【総合】</b> ・世界の諸問題に関する原因や解決のための活動について、インターネットや資料、インタビューなどで調べ、情報を分類・整理している。 <b>【社会】</b> ①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を理解している。 ②調べたことを文などにまとめ、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。				
②思考力、判断力、	<b>【総合】</b> ・世界の諸問題について、SDGsと関連付けながら多面的・多角的に考えている。				

	表現力等	<b>【社会】</b> ①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、問いを見だし、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子について考え、表現している。 ②比較・関連づけ、総合などして国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	
	③主体的に学習に取り組む態度	<b>【総合】</b> ・世界の諸問題について関心をもち、自分の生活や社会との関わりを振り返り、SDGsを達成するための方法を考えている。 <b>【社会】</b> ①グローバル化する世界と日本の役割について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習を追求し、解決しようとしている。 ②我が国が国際社会において果たす役割を考えようとしている。	
紙面の都合上、社会科の	5. 単元設定の理由・単元の意義	<b>【単元設定の理由】</b> ザンビアは、交通網や電力などの経済インフラは脆弱で、教育や医療、給水衛生施設などの社会インフラも未発達であり、その他にも、都市と地方の格差、低質な教育など様々な問題を抱えている。これらの問題は、ザンビア共和国に限らず、多くの途上国にも共通しているだろう。多くの児童は、国際協力の現場を知らぬがゆえに、途上国の問題解決のために、先進国は支援してあげる側、途上国は支援してもらおう側という上下の構図で捉えがちである。しかし、教師海外研修を通して取材した日本人は、現地の人々を尊重し、協力し合いながら活動を行うことで持続可能な支援を目指していた。ザンビア共和国で働く日本人を取り上げることで、現地のニーズに合わせた支援の大切さや持続可能という視点で支援を行うことの重要性について児童に考えさせたい。 <b>【単元の意義】</b> また、本単元は、小学校社会科の最後の単元である。平和な国際社会の実現のために力を尽くしている我が国の取り組みや人々の思いや願いを学習した上で、児童に自分の生き方について考えさせたい。意見文を書く際、「自分はいくらからどう生きていくのか」という視点を示して考えをまとめさせたい。 <b>【児童観】</b> 本学級の児童は、社会科の学習に対する興味・関心が高く、絵や写真資料の読み取りや人物中心の調べ学習などに好んで取り組む。一方で、グラフなどの資料の読み取りに対して苦手意識をもつ児童が少なくない。資料にある事実とそこから考えたことを混同してしまいがちである。また、複数の資料を比較したり、関連付けたりして、課題に対する考えを深める力も不十分であると言える。 児童は、外国とのつながりについて、第5学年の「工業生産と貿易」の単元では、我が国と外国とが互いの「豊かさの交換」によって経済的につながっていることを学習した。また、第6学年の総合的な学習の時間の学習「世界友だちプロジェクト」では、世界規模で発生している問題について調べ、SDGsを視点としてそれらの問題について考えを深めたり、解決方法を考えたりした。これらの学習を通して、世界の国々の文化や世界の諸問題に関する興味・関心が高まってきている。世界の諸問題について、自分事として考え、主体的に問題を解決しようとする態度が少しずつ醸成されていっている。	
		<b>【単元観】</b> 本単元では、日本が様々な分野で世界に貢献している事例について調べ、我が国は世界の平和や発展のために貢献していることを捉えさせる。「国際連合の働き」については、ユニセフやユネスコの身近な活動を取り上げ、我が国が国際連合の重要な一員として平和な国際社会の実現に大きな役割を果たしていることを捉えさせる。これらの学習を通して、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしているということを考えられるようにする。	
	6. 単元計画 ●総合的な学習の時間（全12時間）		
	時	・学習活動 ○指導上の留意点	資料など
	1	・ザンビアクイズやどこでしょうクイズを通して、ザンビアの文化や生活の様子を知る。 ○それぞれの国に対する既存のイメージとの違いに着目させる。	ザンビアの写真、動画／日本、インドネシア、中国の写真
	2	・自分や世界の人々の幸せについて考え、世界中の人々が幸せになるために必要なことを話し合う。 ・SDGsについて知り、身近なものから持続可能とは何かについて考える。 ○幸せについて多様な価値観があることを捉えつつ、幸せを求める気持ちは同じであることをおさえる。	ザンビア人にインタビューし、編集した幸せに関する動画
	3	・貿易ゲームを通して、自由貿易や経済のグローバル化が引き起こす様々な問題について考える。 ○児童にとって理解しづらい世界経済の基本的な仕組みについて、体験を通して理解できるようにする。	貿易ゲームのセット
	4 5 6	・自分が興味をもった世界の諸問題について調べる。 ・調べた内容とSDGsとの関連付け、整理する。 ○調べる方法がインターネットに偏らないようにするために、様々なテーマに対応した資料を用意する。	
	7	・現在、日本のファッションフードであるタピオカドリンクとSDGsと関連付け、ブームが引き起こす問題を考える。 ○一過性のブームによって行動することで生じる世界への影響に注目させ、世界の問題をより身近に感じられるようにする。	パワーポイント

8 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のテーマについて、調べた内容を見直し、問題を改善するために行われている取り組みについて調べる。</li> <li>調べた内容をまとめながら、発表の準備を行う。</li> <li>○世界の問題の解決に向けた取り組みについて紹介し、一人一人が自分の行動を変えることで、世界も変わるということに気付かせる。</li> </ul>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年全体でポスターセッションを行う。</li> <li>○発表を聞いた児童は、質問を行い、感想をワークシートに書く。自分が調べたテーマとの関連や新しくわかったことを書くように指導する。</li> </ul>	
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返り、単元のはじめと終わりの自分の変容を捉える。</li> <li>○単元のはじめに行ったアンケートの調査結果を提示し、比較しやすくする。</li> </ul>	

7. 本時の展開（7時間目）  
 本時のねらい：自分の行動が少なからず世界に影響を与えていることを理解し、SDGs とタピオカを関連づけることを通して、多面的・多角的に考える。

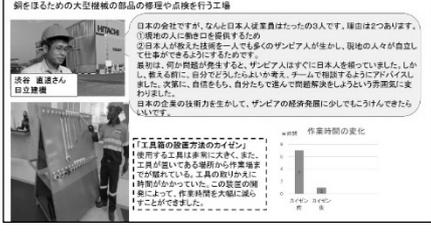
過程・時間	●学習活動 ・児童の反応 ( ) 指導形態	○指導上の留意点 ★評価	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>●タピオカについて知っていることを書く。(個人)</li> <li>・ブーム、インスタ映え。・高い。</li> <li>・もちもちしておいしい。</li> <li>・糍谷にもある。</li> <li>・ポイ捨てが問題になっている。</li> <li>●タピオカの原料であるキャッサバについて知る。(全体)</li> <li>・東南アジアで多く作られている。</li> <li>・意外といろいろな製品に使われている。</li> <li>・飢餓の救世主なんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知っていることをなるべく多く書き出すように伝える。</li> <li>○児童が混乱しないように写真や資料を精選する。</li> <li>○生活に欠かせない製品に使われていることを伝え、身近な作物であることを意識付ける。</li> <li>○資料を適宜提示し、情報過多にならないようにする。その際、比較的プラスの情報から提示する。</li> </ul>	パワーポイント
展開	<p style="text-align: center;">タピオカ×SDGs について考え、タピオカの未来を予想しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●タピオカと SDGs の各ゴールとの関連を考える。(グループ)</li> <li>①資料 A を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レジ袋やストローになるんだ。</li> <li>・14や15ともつながりそう。</li> </ul> </li> <li>②病気や気候変動による不作についての資料を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本が栽培を支援しているんだ。</li> </ul> </li> <li>③キャッサバを使ったバイオエタノールに関する資料を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギーで環境にもよさそう。</li> </ul> </li> <li>④ナタデココブームについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時的に流行している食べ物のことをファッションフードと言うんだ。</li> </ul> </li> <li>●他のグループのボードを見て、自分のグループとの共通点と相違点を探す。(個人)</li> <li>●全体で意見を共有する。(全体)</li> <li>●本時の内容を振り返る。(個人)</li> <li>・気を付けないと知らず知らずのうちに世界に悪い影響を与えてしまう。</li> <li>・自分達には何ができるのか調べたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SDGs のアイコンとホワイトボードを活用することで思考を整理させる。</li> <li>○環境に良い再生可能エネルギーを生み出すために、キャッサバを大量生産しようと、焼き畑を行えば CO2 排出量の増加につながることに気付かせる。</li> <li>★これまで学習したことを活用しながら、SDGs の各ゴールとタピオカの関連について考えている。(観察、発言)</li> <li>○一つの物事に対して多様な視点で考えられたことは解決への第一歩であることを価値付け、次時への意欲付けを行う。</li> </ul>	
まとめ			

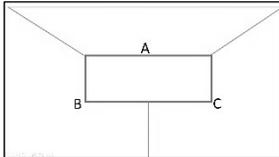
単元計画 ◆社会科【9時間】			
時	学習活動	○指導上の留意点	★資料 ○評価
つか	1	○ザンビアで起きている問題について調べる。 ・2019年に横浜で行われたアフリカ開発会議の目	○アフリカ開発会議をきっかけにし、様々な分野で、世界で活躍する日本人がいることへつなげてい

む	<p>的や内容について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ザンビアで起きている問題について、資料をもとに調べる。</li> </ul>	<p>く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★第7回アフリカ開発会議の写真</li> <li>□自分たちが知っていることなどを話し合わせながら、関心を高めていく。</li> <li>★五歳以下の死亡率のグラフ</li> <li>★初等教育と中等教育の就学率を表した資料</li> <li>◎我が国の国際協力に関心をもち、意欲的に調べようとしている。(ノート、観察)【主①】</li> </ul>
調べる	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の様々な課題と解決に向けた取り組みを調べ、学習問題を設定し、学習計画を立てる。</li> <li>・世界の様々な課題と解決に向けた取り組みを調べる。</li> <li>・世界の問題に対して、様々な分野で、世界を舞台に活躍している人々について話し合い、学習問題をつくる。</li> <li>・学習問題を解決するための手立てを話し合い、学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□前時で学習したザンビアで起きている問題は、ザンビアだけでなく多くの発展途上国で起きている問題であることを捉えさせる。</li> <li>□総合的な学習の時間で学習したことを振り返らせる。</li> <li>★親善大使、青年海外協力隊、世界遺産に関する写真</li> <li>★紛争問題、環境問題、食糧問題に関する資料</li> <li>◎世界の様々な課題について関心をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てている。(ノート)【主①】</li> </ul>
調べる	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際連合の組織や働きについて調べ、ユニセフやユネスコの活動や目的について考え、話し合う。</li> <li>・世界の平和を守るための活動をしている国際連合の組織や働きについて調べる。</li> <li>・ユニセフやユネスコの活動について調べ、国際連合の働きや目的について考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□国際連合憲章の資料を読み取り、国際連合の目的について考えさせる。</li> <li>□総合的な学習の時間に学んだSDGsを関連付けて考えさせる。</li> <li>★国際連合本部の写真</li> <li>★ユニセフの支援を受ける子供たちの写真</li> <li>◎我が国の国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働きを理解している。(ノート、発言)【知①】</li> </ul>
調べる	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平和な世界を実現するための国際連合の取り組みについて調べ、話し合う。</li> <li>・世界で起きている問題と平和な世界の実現のために、日本や国際連合が行っていることを調べる。</li> <li>・日本や世界の国々が果たすべき役割について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□世界地図に示された主な国際紛争の資料から、紛争が多く起きている地域を読み取り、なぜ、そうなるのかを考えさせる。</li> <li>□資金援助という形もあるということをつまみさせる。</li> <li>★紛争地域が示された世界地図</li> <li>★数字で見る難民情勢(ユニセフ)</li> <li>◎世界平和の大切さと、我が国が世界において重要な役割を果たしていることを理解している。(ノート、発言)【知②】</li> </ul>
調べる	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地球環境を守るための取り組みや人々の努力について理解する。</li> <li>・世界の環境問題と、それに対する世界や日本の各機関の取り組みについて調べる。</li> <li>・地球の環境を守るために、どのようなことが大切かを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□写真資料を活用して、環境問題への関心を高める。</li> <li>□ツバルの位置を地球儀で確認させる。</li> <li>★地球儀</li> <li>★温室効果ガス排出量のグラフ</li> <li>★ツバルの写真</li> <li>★植樹活動の写真</li> <li>□環境問題の原因を探ることで、改善策を考えるきっかけとする。</li> <li>◎地球環境の悪化を防ぎ、持続可能な社会を実現するために、国際連合を中心として、様々な努力をしていることを理解している。(ノート、観察)【知②】</li> </ul>
調べる	<p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の国際協力として、ODA(青年海外協力隊)やNGOの活動の様子や苦労などについて、資料を基に調べる。</li> <li>・写真やグラフ、地図や文章資料などから、ODA(青年海外協力隊)やNGOで活躍している人たちの様子について調べる。</li> <li>・国際協力の活動に携わる人々の思いや願いについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「青年海外協力隊の派遣国」の地図資料から、世界各地に青年海外協力隊が派遣され、活躍していることを捉えさせる。</li> <li>◎資料から青年海外協力隊やNGOの活動の様子や苦労について読み取っている。(ノート)【知①】</li> </ul>
7 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本人が世界の問題を解決しようとする様子について調べ、それぞれの活動の意味や共通点について考え、話し合う。</li> <li>・日本人がどのように世界の問題を解決しているのかを予想する。</li> <li>・資料から読み取り、情報を共有する。</li> <li>・読み取ったことをもとに、それぞれの活動の意味や共通点について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□資料についての話し合いが進まない班に適宜、助言する。</li> <li>★インタビュー資料</li> <li>★活動の様子を写した写真</li> <li>◎それぞれの活動の意味や共通点について多角的に考え、表現している。(ワークシート・ノート、観察)【思①】</li> </ul>
	<p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際協力の活動に携わる人々の思いや願いについて考える。</li> <li>・元青年海外協力隊の方(ゲストティーチャー)の話聞く。</li> <li>・国際協力の活動に携わる人々がどのような思いや願いをもって活動に取り組んでいるのか考えたことを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□今の自分にはどんなことができるのかを考えるきっかけをつかめるようにする。</li> <li>★派遣当時の協力隊の写真</li> <li>◎国際協力の活動に携わる人々の思いや願いについて考えている。(ノート、観察)【思②】</li> </ul>
ま と め	<p>9</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの学習をまとめ、自分にできることを考えて意見文を書く。</li> <li>・学習問題に対して調べたことをカードに整理し、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学級全体でカードを確認し、どの国や地域でどのような支援がされているのかをふり返り、理解を確かにする。</li> </ul>

る	世界地図に貼る。 ・世界各国で国際協力を行う日本人の活動内容をカードにまとめ、世界地図に貼付する。 ・まとめをもとに、意見文を書く。	□調べたことを整理しながら書き、「自分の生き方」と関連させて、意見文を書かせる。 ◎我が国が国際社会において果たす役割を考えようとしている。(カード)【主②】
---	--	--

本時の展開 (7時間目)  
 本時のねらい: 日本の国際協力の様子について、調べたことから、それぞれの活動の意味や共通点について多角的に考え、表現できる。

過程・時間	●学習活動 ・児童の反応 ( ) 指導形態	○指導上の留意点 ★評価	資料
導入	○これまでに学習したザンビアの国が抱える問題を想起する。 ・汚れた水を飲んでいる。 ・公害があって、病気になる人がいる。 ・貧しい人がいる。 ・都市と農村の格差がある。 ◎めあて	○既習事項の確認を行うことで知識の定着を図る。	
(3分)	○多くの日本人がザンビアの問題をどのように解決しようとしているか予想し、発表する。 ・井戸を掘っているのではないか。 ・協力しながら解決しようとしているのでは。	○支援活動を行う際、なぜ一方的に教えないのかを問う。現地の人々が必要だと思わなければ、意味のない押し付けの支援になってしまうことに気付かせる。 ○資料の文章をそのまま抜き出す児童には、自分の言葉で要約するように助言する。	
展開	○めあてについて、3つの立場(A~C)ごとに資料を基に調べ、話し合う。 A <b>青年海外協力隊</b> ・沸騰させると飲み水を殺菌できる。 ・かまどのつくり方を一方的に教えていない。 ・かまどを最後は村の人だけで作れるようにしている。 ・汚れた水をそのまま飲んでいるから、自力できれいになるように方法を村人に教えている。 B <b>北海道大学</b> ・ザンビア大学と協力して活動している。 ・研究成果をザンビアの人の健康に生かしている。 ・鉛による健康被害を減らす方法を現地の人に呼びかけている。 C <b>日立建機</b> ・ザンビア人が自分で考えられるようにしている。 ・多くのザンビア人に働いてもらうため、日本人を3人だけにしている。 ・仕事の効率をよくするための方法を教え、ザンビア人で問題を解決できるように支援している。  ○それぞれの活動の意味について話し合う。 A <b>青年海外協力隊</b> ・健康被害を減らすことができる。 B <b>北海道大学</b> ・共同で研究し、健康被害を減らすことができる。 C <b>日立建機</b> ・効率よく生産できるようになる。  ○問題の解決に向けて取り組む日本人が、大切に	○支援活動を行う際、なぜ一方的に教えないのかを問う。現地の人々が必要だと思わなければ、意味のない押し付けの支援になってしまうことに気付かせる。 ○資料の文章をそのまま抜き出す児童には、自分の言葉で要約するように助言する。     ○それぞれの活動が現地の人々にとってどのようなよい影響があるの	インタビュー資料活動している写真、グラフなど

<p>(37分) まとめ</p> <p>(5分)</p>	<p>していることは何かを考え、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの立場の人々も地元の人と協力することを大切にしている。</li> <li>・一方的に支援しないこと。</li> <li>・地元の人々が健康に安心して生活できるようになること。</li> </ul> <p>○各班が考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地の人々が自立して、生活したり仕事したりできるようになること。</li> </ul> <p>○めあてについて分かったことを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">青年海外協力隊や大学、会社という立場の日本人が取り組んでいた。 たとえば、青年海外協力隊は、健康被害を減らすために、かまどづくりを教えている。 取り組む日本の人たちは、地元の人々が自立することを大切にしている。</p> </div>	<p>かを考えさせる。</p> <p>○効率がいいとどのようなよさがあるのか考えさせる。</p> <p>○Yチャート(右図)を活用し、A、B、Cの3つの立場の日本人が共通して大切にしていることを考えるように促す。</p> <p>○話し合いが進んでいないグループには、資料やYチャートを見ながら考えるように個別に支援する。</p> <p>○支援のあり方を多角的に捉えられるようにする。</p> <p>○①どのような立場の日本人が取り組んでいるか、②たとえばどのようなことをしているか、③どのようなことを大切にしているか、という3つの視点でまとめること助言する。</p> <p>★それぞれの活動の意味や共通点について多角的に考え、表現している。 (ワークシート・ノート記述、観察) 【思①】</p>	
----------------------------------	--	---	---

<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ※本時の展開に記載。</p> <p>9. 学習方法及び外部との連携 (1) 出前講座 ①北海道大学大学院 研究員 中田 北斗 先生 現地研修でお世話になった中田先生に、ザンビアの文化や生活、ご自身の仕事について、本校で授業を行っていただいた。事前に直接授業内容の打ち合わせを行い、既習事項やねらいを共有させていただいた。このことにより、児童にとって新しい発見や意外性に満ちた有意義な授業となった。</p> <p>②JICA 国際協力出前講座 JICA の開発教育支援事業の一環である国際協力出前講座を利用した。事前にメールにて、申し込み、3名の元協力隊の方に各クラス一人ずつ授業をしていただいた。世界で活躍する人々の話を生で聞くことができ、児童にとって非常に大きな出会いとなった。授業で抱いた疑問を実際に質問することができ、児童の探究にさらに火がついた。</p> <p>(2) 教材研究 社会科の教材研究において、前述した中田先生、そして、現地のヘルスセンターに訪問した際にお世話になった孔さんに多大なる協力を頂いた。現地では時間がなく質問できなかったことをメールにて伺い、教材作成に生かすことができた。どんな質問にも大変丁寧に答えいただき、非常に具体的でリアリティのある資料となった。</p> <p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み (1) 校内での取り組み ①掲示 教員室前廊下にザンビアを紹介する掲示を行った。また、ザンビアやSDGsに関する書籍を展示した。教員室で「ヴィクトリアの滝が枯渇したニュースやってたね。」「このSDGsの本知っている？」と声をかけてもらえるようになった。</p> <p>②回覧 自分が行った授業の指導案や写真を回覧版で教職員に回した。また、教師海外研修の概要についても報告した。</p> <p>(2) 校外での取り組み 大田区社会科部研究授業にて、ザンビアで国際協力に従事する人々を扱った授業を行った。当日は本校の教職員や大田区社会科部などの多くの方々にご参観いただいた。ザンビアの問題やそれに対する詳しい取り組みを知ってもらうと同時に、教師海外研修の宣伝も行うことができた。開発した教材を他校でも活</p>
---

用していただくことができました。

【自己評価】

11. 苦勞した点	・他教員との連携：私自身の力不足で、情報の共有や授業の方向性の提案がうまくいかない時があった。教師海外研修に参加していない先生でも実施可能な授業を作ることが難しかった。
12. 改善点	・資料の精選：多くのことを伝えたいという気持ちが強すぎて、たくさんの資料を使ってしまう、児童が混乱することがあった。ねらいに対して最も効果的な資料、提示の仕方、タイミングなどをより吟味する必要がある。
13. 成果が出た点	①自分自身の変容：修を通して SDGs をはじめとする世界における喫緊の課題から具体的な指導方法など非常に幅広く学ぶことができた。 ②児童の変容：物事の持続可能性について考える場面が増えた。例えば、学級会での出来事。今までは、一見効果はありそうだが、継続性のない解決策が提案され、よく考えもせず、可決されていた。しかし、現在は、「その方法は持続可能ではないと思います。」という児童の指摘が必ず入るようになった。学習で身に付けたものの見方や考え方が、普段の学校生活で生かされる場面が増えた。 ③教材開発：汎用性のある授業づくりという反省点もあったが、やはりオリジナリティのある教材は子供たちを引き付ける力があると感じた。 大田区社会科研究部会で共に教材開発を行った他校の教員からは、「ザンビアについて自分の学級の子供たちにも授業をしたい。写真や教材を共有して。」と言っていた。
14. 学びの軌跡	(1) 総合の学習感想 「アフリカは暑くて乾燥していて、動物がたくさんいるイメージしかありませんでしたが、先生の授業を聞いて、イメージが変わりました。」 「文化や習慣は違っても、幸せになりたいという気持ちは同じだと思います。」 「ザンビアってとても楽しそう。私も先生みたいに、いつかザンビアに行きたいです。」 「一つのテーマと SDGs とをつなげるのが楽しい。見えてこなかったいろいろな問題が見えてきました。」 (2) 社会科の学習感想 「日本も世界で起きている問題に関係していることを知りました。また、日本が支援をしているのは、日本自身も戦後や震災時に様々な国に支援を受けている恩返しなのだと思います。」 (3) 卒業文集 「ぼくは将来、IT 関係の会社の社長になります。……(省略)……お金を稼ぐことだけを目的にするのではなく、国に貢献できるような会社を作りたいです。SDGs の目標の一つでも多く解決できるような技術を開発して、人にも環境にも優しい会社を目指します。」 「ぼくの夢は、アフリカで農学者として働くことです。飢えに苦しむ人が一人でも少なくなるように、乾燥して、雨が降らない地域でも簡単に栽培できるような作物を開発したり、栽培方法を教えたりしたいです。」
15. 授業者による自由記述	自分の足で現地に行き、集めた情報は、自分が思っていたより、児童にとってかなり説得力あった。しかし、現地で得たものを生かすか殺すかは教師次第だということを痛感した。良い資料や材料があっても、それを効果的に授業に取り入れなくては、意味がない。その点で、教師は料理人の様である。鮮度がよい素晴らしい食材を手に入れても、料理人の腕がないと食材の良さを生かしきれない。授業実践を通して、私自身、「まだまだ、食材の良さを生かしきれない見習いだな」と感じた。今回の教師海外研修で得たものを最大限に生かせるよう、教師としての力量もさらに高めていきたい。

参考資料：DEAR『新・貿易ゲーム 経済のグローバル化を考える』

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	竹内 淑香	学校名 杉並区立 杉並和泉学園	東京都 杉並区立 小中一貫教育 学校
担当教科等	3、4、5、6 学年	対象学年 (人数)	4 年生 (132 名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2019 年 7 月～ 2020 年 1 月 ( 8 時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：外国語活動・総合的な学習の時間		
2. 単元(活動)名：「世界ともだちプロジェクト」 Unit4 What time is it? ・ Uint9 This is my day! 『Let's Try! 2』		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：「This is my day!～Japan & Paraguay～」 単元目標： ・パラグアイに住む子供たちの一日の生活を知り、国や人への理解を深める。 ・日系の子供たちの学ぶ姿から、言葉を学ぶことの大切さを考えることができる。 関連する学習指導要領上の目標：(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	・自分の生活や国について知り、それを元に資料を読み取る。
	②思考力、判断力、 表現力等	・自分の生活や国と比較し、他国やそこに暮らす人々との相違点を見出し、自分の考えをまとめ、表現する。
	③学びに向かう力、 人間性等	・他国やそこに暮らす人々の姿から学び、より良い生活や社会の創造に向けて自他を尊重する。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>世界で起きている出来事を「自分事」として捉えさせるために、「世界ともだちプロジェクト」単元を設定した。児童一人一人と、パラグアイとを繋げるべく、お手紙交流を実施、児童はパラグアイの子供たちに向けて手紙を書いた。また、パラグアイからのスペイン語の返事を、内容を想像して読むことを行った。自分の生活について見つめさせるため、外国語活動の単元「What time is it?」・「This is my day!」を設定した。自分や、身近にいる友達の生活を知った上で、パラグアイの現地校や日本語学校(日系の学校)の子供たちの「一日の生活」を題材に比較をさせた。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>「世界ともだちプロジェクト」単元でのお手紙交流を通し、日・パラ児童同士が繋がることで、「ともだち」の国やそこでの出来事に関心を持つ。また、スペイン語での手紙を想像して読むことを通し、第三言語への言葉への興味や、語学への意欲につながる。外国語活動の単元において、「一日の生活」について英語で尋ね合う活動を通し、自分や友達の生活を見つめた上で、パラグアイの生活について比較させ、考えを深めた。</p> <p><b>【児童/生徒観】</b></p> <p>世界の国々について関心があり、英語学習への意欲も高い児童が多い。しかし、興味が持たず、意欲が低い児童もいる。英語や英語圏の国には関心が高い傾向が感じられる。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>貫いたのは「ともだち」になることである。「自分事」として捉えさせる基礎固めと言える。手紙を書く行動により、児童同士を繋げ、返事を読むことで相手の言語への関心を持たせ、さらに、パラグアイの子供たちの「一日の生活」アンケートを題材にした。</p>	

6. 単元計画 (全 8 時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	パラグアイについて学ぼう  パラグアイの子どもたちと交流しよう	・パラグアイについての基礎知識を持ち、興味関心を持つ ・パラグアイの子供たちへ日本の良さや、自分について発信する	○総合的な学習の時間 (○全校朝会)  ・パラグアイの国の概要、言語、文化について学び、日系の存在について知る。  ・パラグアイの子供たちへ手紙を書く。	
2	パラグアイからの手紙を読もう	・スペイン語に慣れ親しみ、興味関心を持つ	○総合的な学習の時間 ・スペイン語に慣れ親しむ。 ・スペイン語の手紙の内容を、想像して読む。	
3・4	Unit4 What time is it?	・時間の言い方に、慣れ親しむ	○外国語活動 ・一日の生活について、相手に尋ねたり、質問に答えたりする。	
5	パラグアイの子どもたちの一日を知ろう	・農業国パラグアイの学校事情について知る ・自分の生活と似ている点、異なる点を見つける	○総合的な学習の時間 ・自分の「一日の生活」と、パラグアイの子供たちのそれを比較する。 ・意見を交流する。	
6	Unit9 What time do you get up?	・一日の行動の言い方に慣れ親しむ。	○外国語活動 一日の生活について、起きてから寝るまでの行動を、相手に説明する。	
7 本時	日系について学ぼう	・日系について基礎知識を持ち、興味関心を持つ ・パラグアイ日系と日本との関係を知る ・自分の生活と似ている点、異なる点を見つける	○総合的な学習の時間 ・自分の「一日の生活」と、パラグアイ日系の子供たちのそれを比較する。 ・意見を交流する。	・JICA横浜 海外移住奨励ポスター
8	日系の子どもたちと交流しよう	・日系の子供たちに、日本の良さや自分について発信する。	○総合的な学習の時間 ・日系の子供たちからの質問に答える。 ・日系の子供たちへ手紙を書く。	

7. 本時の展開 (7時間目)			
本時のねらい：・パラグアイに住む日系の子供たちの一日の生活を知り、国や人への理解を深める。 ・日系の子供たちの学ぶ姿から、言葉を学ぶことの大切さを考えることができる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (20分)	<b>1 日系社会について知る</b> ① 日系の子どもたちからの質問を聞く。 T: ある子供たちから、皆さんへ質問が届いています。どんな子供たちか、想像しながら (質問を) 聞きましょう。 ② パラグアイの日系の人々について復習する。 ③ 日系の人々が、パラグアイ、日本にも貢献していることを知る。(感想の発表)	・既習事項 (スペイン語の表記) から、想像させる。 ・パラグアイについて基礎知識を持たせる。 ・自分たちと関係のある存在であることを押さえる。	◆日系の子供たちからのメッセージ  ◆JICA横浜 海外移住奨励ポスター ◆すりごま ※原産国：パラグアイ  ◆写真 仙道 富士郎 編『遙かなる地球の裏側に夢を馳せ

展開

(15分)

④ 移住地について知る。  
 T：パラグアイの人たちは、日系の人たちにどのようなイメージを持っているでしょう。  
 S：まじめ、すごい、しっかりしている、仕事を頑張る、感謝されている（感想の発表）  
 ⑤ 日系一世の思いを知る。  
 昔の学校と、現在の「日本語学校」の様子を比較する。

2 自分の生活と、日系の子供たちの生活を比較する

① 日系の子供たちの1日の時程表（起床、就寝、食事、遊び、勉強する時間など）を見ながら、自分の生活と比較する。  
 T：わかったこと、気づいたこと、思ったことをグループの人に話します。  
 (1) グループで、考えを出し合う。  
 (2) 自分の考えをワークシートに書く。  
 (3) 発表させ、全体で共有する。

② 日系の子供たちが、2つの学校（パラグアイの学校、日本語学校）で学んでいることを知る。  
 T：勉強が大変だから、日本語の勉強はやめてもいい？スペイン語の勉強はやめてもいい？  
 S：○日本語学校へ通うことは大事  
 …日系一世の思いを引き継ぐことであるから、日本語がなくなってしまうから  
 ○パラグアイの学校へ通うことは大事  
 …パラグアイに住んでいるから、スペイン語を使うから

まとめ

3 日系の子供たちが日本語を学ぶことについて考える

① 日系社会が、パラグアイ、日本の両国を大切にしていることを知る。  
 ② 日本語を知っていると、どんな良いことがあるか、どんなことができるようになるのか、について考える。  
 S：漫画が読める、映画が観られる、旅行がで

・パラグアイの中の、日系の存在について押さえ、日系一世の思いに繋げる。

・グループで考えを出し合うことによって、自分の考えを持ち、まとめる。  
 ・他の人の考えからも、学ばせる。  
 ・どの考えも認める。

・言葉を学ぶことについても注目させ、考えさせる。  
 ・どの考えも認める。

・日本語学校（日系の学校）に掲げられている両国の国旗、ラパス日本語学校の校歌から、日系の人々の思いを想像させる。  
 ・日本語を知っていると出来るようにな

た人々—南米パラグアイ在住日系移住者の声』

◆写真  
パラグアイで撮影

◆日系の子供たち「1日の生活」ワークシート

◆写真  
パラグアイで撮影

◆写真  
パラグアイで撮影

◆日系の子供たちが歌う校歌

パラグアイで撮影

◆「ラパス日本語学校」パンフレット

	<p>きる、仕事ができる、話ができる、友達になれる、仲良くなれる</p> <p>③ 授業の感想を書く 日系の子供たちへの質問を書く</p>	<p>る事は様々であるが、友達になれたり、仲良くなれたりする、ということに繋げる。</p> <p>・語学の大切さに繋げる。</p>
--	---	---

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・自分の「一日の生活」を元にパラグアイの子供たちについての資料を読み取る。(発表・ワークシート)
- ・自分の「一日の生活」と比較し、パラグアイの子供たちとの相違点を見出し、自分の考えをまとめ、表現する。(発表・ワークシート)
- ・パラグアイに暮らす人々の姿から学び、より良い生活や社会の創造に向けて自他を尊重する。(感想・ワークシート)

9. 学習方法及び外部との連携

- ・パラグアイの子供たちの「一日の生活アンケート」は、JICA青年海外協力隊隊員や、元隊員、日本語学校(日系の学校)に依頼し、現地の児童にアンケートを取っていただいた。
- ・お手紙交流に関して、現地の学校に勤務する、JICA青年海外協力隊元隊員に依頼し、実施させていただいた。
- ・授業では、パラグアイの子供たちの「一日の生活」アンケートから気づいたことを、児童が自由に発表し、考えの交流をさせる方法で行った。



10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・全校朝会での報告
- ・「英語通信」による実践の発信
- ・授業公開



【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で起きている出来事を「自分事」として捉えさせること。</li> <li>・パラグアイや、「日系」について基礎知識を持足せること。</li> <li>・外国語活動の授業の中に位置付けること。</li> <li>・語学への意欲向上につなげること。</li> </ul>
<p>12. 改善点</p>	<p>汎用性のある授業を目指すにも、力のある資料が必要である。写真や動画、自分の肌で感じた経験であると言える。現地に足を運ぶ事が難しい場合、JICAリソースや、人材を活用するのが、大いに有効であると考えている。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>世界で起きている出来事を「自分事」として捉えさせるために、パラグアイとを繋げるべく、お手紙交流を実施した。児童一人一人が、パラグアイの子供たちに向けて手紙を書くことは、授業展開において非常に有効であった。児童は、授業において、活発な意見交流を行っていた。</p> <div data-bbox="411 757 1374 1093" data-label="Image"> </div> <p>また、パラグアイからのスペイン語の返事を、内容を想像して読む経験を通して英語以外の言語に触れ、日系の人々の歴史や思いを知ること、児童の、語学への意欲向上にも繋がったと考えている。</p>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日系の人たちなど、たくさんの人たちが日本と協力していて、はなれていてもつながっていると考えると、とてもすごいなあと感じました。私は外国があまり好きではない時がありましたが、いろいろな発見などが生まれて、きょうみを持つようになりました。</li> <li>・日本とパラグアイは、すごい関係が深い。一世の人たちががんばってくれているから、勉強しないといけないと思った。</li> <li>・日系の人は、日本語をがんばっているから、私も英語をがんばりたい。パラグアイだけでなく、色々な世界と助け合って仲良くしていきたい。</li> <li>・パラグアイと日本は仲良しだから、ぼくは、日系の人達と友達になって、スペイン語を教えてもらいたい。一緒に百人一首で遊びたい。</li> <li>・ぼくは、もっと頑張りたいと思いました。なぜなら、世界に友達がいると楽しいと思ったからです。日本に来たら、ぜひサーモン以外のお寿司や、おさしみ、ぎょうざを食べてね。</li> </ul>

15. 授業者による  
自由記述

児童一人一人を確実に参加させることで、世界で起きている出来事を「自分事」として捉えさせようと考えた。子供同士のお手紙交流をし、「ともだち」となることが非常に有効であり、今後も交流を続けていく。また海外研修において、教師自らが、授業・交流を行う姿勢を見せた。児童が日本で行っている身近なこと、ソーラン節、百人一首、リコーダー、折り紙やことわざ等を、現地で実践することで、「自分でも何かできそうだ」という社会貢献への意欲に繋げることを意図した。



加えて、日系の存在そして日系の人々の思いを知ることは、児童の語学に対する姿勢を見つめさせることに繋がったと考えている。これは、自分が、言葉を教える立場として、児童に考えさせたかったことでもある。

今回は、「自分事」として考えさせるための基礎固めを行ったに過ぎない。今後は、パラグアイの子供たちとの交流を広げ、世界で起きている様々な出来事に目を向けさせ、SDGsについても学習を深めていく。

参考資料：

◆ J I C A 横浜 海外移住奨励ポスター

◆ 仙道 富士郎 編

『遙かなる地球の裏側に夢を馳せた人々―南米パラグアイ在住日系移住者の声』

◆ 北中 真人, 藤城 一雄, 細野 昭雄, 伊藤 圭介 著 『パラグアイの発展を支える日本人移住者』

◆ 田島 久歳 編著, 武田 和久 編著 『パラグアイを知るための 50 章』

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	上園 雄太	学校名	千葉県 野田市立七光台小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	6年（26名×3クラス）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年9月～12月（6時間）		

### 【実践概要】

1.	実践する教科・領域：総合的な学習の時間・社会科・道徳・外国語									
2.	単元(活動・主題)名： ・総合的な活動の時間：国際協力のために自分達は何ができるのだろうか。 ・社会科：世界の未来と日本の役割 ・道徳：世界の人々のために 【C-16 国際理解，国際親善】 ・外国語：What do you want to be？									
3.	授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ： 「国際協力のために自分達は何ができるのだろうか。」 単元目標： ・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか調べることができる。（知識及び技能） ・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか自分ごととして捉え、表現することができる。 <span style="float: right;">（思考力、判断力、表現力等）</span> ・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか進んで調べようとしていたり、考えようとしていたりしている。（学びに向かう力、人間性等） 関連する学習指導要領上の目標： 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。									
4.	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">単元の評価規 準</td> <td style="width: 25%;">①知識及び技能</td> <td style="width: 60%;">・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか、また、自分の将来の夢においてどのようなつながりがあるのかを調べることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②思考力、判断力、表現力等</td> <td>・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか自分ごととして捉え、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③学びに向かう力、人間性等</td> <td>・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか、また、自分の将来の夢においてどのようなつながりがあるのかを進んで調べようとしていたり、考えようとしていたりしている。</td> </tr> </table>	単元の評価規 準	①知識及び技能	・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか、また、自分の将来の夢においてどのようなつながりがあるのかを調べることができる。		②思考力、判断力、表現力等	・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか自分ごととして捉え、表現することができる。		③学びに向かう力、人間性等	・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか、また、自分の将来の夢においてどのようなつながりがあるのかを進んで調べようとしていたり、考えようとしていたりしている。
単元の評価規 準	①知識及び技能	・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか、また、自分の将来の夢においてどのようなつながりがあるのかを調べることができる。								
	②思考力、判断力、表現力等	・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか自分ごととして捉え、表現することができる。								
	③学びに向かう力、人間性等	・国際協力について、何が必要でどのような活動ができるのか、また、自分の将来の夢においてどのようなつながりがあるのかを進んで調べようとしていたり、考えようとしていたりしている。								

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>近年、日本は多国籍化が進んでおり、私の勤務する学校でも外国から移住してきた児童が年々増えてきている。これからの日本を生きる子どもたちに必要な力は、異文化への理解を深め、広い視野をもち、お互いの良さを認め合い伸ばし合い、協力する力であり、国際理解教育／開発教育は重要なそのために必要な教育であると考えている。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>新学習指導要領で国際理解についての項目を参照したところ、多くの教科・領域で取り扱われていることがわかった。(3. 関連する学習指導要領上の目標 を参照) 今回の単元では、第6学年で教科横断的に国際理解教育について扱った際の学習効果や、今後、本校で国際理解教育を根付かせていくために、どのような教材が適切であるかを検証していく。</p> <p><b>【児童／生徒観】</b></p> <p>本校の第6学年の児童は、明るく素直で、授業中に積極的に挙手をして発言する児童もいる。また、夏休み前に学年で集めて将来の夢についてアンケートを取った際には、様々な業種の職業を書いており、自分の好きなこと、やりたいことへの関心も高いといえる。しかしながら、国際理解に関しては、「大事である」と答えた児童が多い反面JICAやSDGsに関して知っている児童が少なく、知識が乏しい。また、自分の将来の夢と国際社会との関連性を意識できている児童も少なく、「国際協力」と聞くと自分達にできることは「募金」だと認識している児童が多くいる。今回は、総合的な学習の時間、社会科、道徳、外国語と教科横断的に「国際協力のために自分達ができることは何だろうか」というテーマで、「国際協力」が将来の職業と関連があり、自分ごととして考えることができることに気付かせたい。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>本単元では、「国際協力のために自分達は何ができるのだろうか。」というテーマを4つの教科・領域に関連させながら授業を行っていく。「国際協力」と聞くと自分とは関係のないことだと考えてしまいがちである。しかし、SDGsという視点から考えたり、実際に青年海外協力隊の隊員と交流したり、途上国であるザンビアの小学生の1日を動画で視聴したりすることを通して、自分ごととして考える意識をもたせたい。その際に「目標達成シート」と振り返りカードを活用することで、毎回の授業における児童の「国際協力」に関する考えの変容を追っていく。</p> <p>また、「目標達成シート」は書き進めていくほど、より具体的な行動となるような作りになっている。そしてその具体的な行動が「自分の仕事」とどのような関連があるのかを調べることで、将来的に自分の行動がどのように国際社会に結びついているのかを意識することができるようになって考えている。</p>
--	--

6. 単元計画 (全6時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	国際協力のために自分達は何ができるのだろうか。 (総合的な学習の時間) 9月	・ザンビアについて、どのような生活をしているか関心をもち、SDGsについて知る。	・授業者の体験談を聞き、将来の夢について考える単元目標について知る。 ・授業者のザンビアでの体験談やザンビアに住む人々のインタビュー動画視聴を通じて、国際協力のために必要なこと、また、自分達にできることについて考える。	・PPT資料1 ・ザンビア現地小学校でのインタビュー動画 ・振り返りシート ・目標達成シート
2	What do you want to be? (外国語) 10月	・ザンビアの孤児院でのインタビュー視聴を通して、自分の将来の夢をどのように英語で表現していくのか、興味・関心をもつ。	・ンサンサ孤児院でのインタビュー動画から、どのような内容を話しているのか想像する。 ・What do you want to be? I want to be ~. という表現を使ったチャンツを行う。 ・ンサンサ孤児院を運営するムタレ夫人へのインタビュー動画から、将来の仕事についての考えを話し合う。 ・今回の学習を通して、国際協力のために必要なこと、また、自分達にできることについて考える。	・振り返りシート ・目標達成シート ・ンサンサ孤児院でのインタビュー動画 ・ンサンサ孤児院を運営するムタレ夫人へのインタビュー動画

課外	モンゼタウン小・中学校交流 青年海外協力隊 安藤先生へのインタビュー	・ザンビアの小学校の子ども達とテレビ電話を通じて交流する。	・お互いの国の挨拶や歌を交流し、互いの文化について理解する。 ・青年海外協力隊の活動について、インタビューを通して学習する。	・振り返りシート ・目標達成シート ・タブレットPC ・大型TV
3 本 時	ザンビアのヘルスセンターで (道徳 C-16, 17 国際理解, 国際親善) 11月	・日本人としての自覚や誇りをもち、進んで他国の人々とつながり、国際親善に努めようとする態度を養う。	・ザンビアのシマクトゥヘルスセンターで働く別府さんのインタビュー動画を視聴して、感想を話し合う。 ・うまくいかないときにどんなことを感じるのか、それをどう乗り越えて、夢に向かって、また、これからの国際協力のために働いていくのか考える。	・振り返りシート ・目標達成シート ・シマクトゥヘルスセンターでのインタビュー動画
4 ～6	世界の未来と日本の役割 (社会) 12月	・日本の国際交流や国際協力について関心をもつ ・SDGsに関連して、国際協力のために自分たちができることはどんなことかを考える。	・世界の環境問題や紛争問題とその対策組織について知る。 ・『未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK』を活用して、日本の問題についての質問づくりを行う。 ・SDGsカードを使ったダイヤモンドランキングを作成し、それぞれの目標のつながりや重要性について考える。 ・目標達成シートを確認して、自分ごととして国際協力のためにどんなことができるのか話し合う。	・振り返りシート ・目標達成シート ・『未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK』(宣伝会議) ・SDGsカード

7. 本時の展開 (3時間目)			
本時のねらい：日本人としての自覚や誇りをもち、進んで他国の人々とつながり、国際親善に努めようとする態度を養う。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1 総合的な学習の時間での学習を振り返り、国際協力で日本がどんなことを行っているのか予想する。	・前時の内容を思い出せるよう、資料を黒板に貼る。	日本の支援を示す写真
	○日本が行っている国際協力活動にはどんなものがあるでしょうか。		
		・今回の学習では「国際協力のために自分達にできることは何か」を考えることを伝える。	
	2 教材を知る ・シマクトゥヘルスセンターでの別府隊員へのインタビュー動画を視聴する。 ・前半を振り返る	・別府さんの気持ちになって視聴するよう助言する。	PPT資料 (ビデオ)

展開 (32分)	3 教材「シマクトゥヘルスセンターでの別府隊員へのインタビュー」について話し合う。	・メモを取らせながら視聴させる。	インタビューメモシート
	◎なぜ別府さんは「いや、それは違う。間違っている」と言われながらも活動を続けることができたのでしょうか。		
		・全体での意見交換が活発になるよう、小グループでの話し合いを行う。	
	○日本で学んできたことを「いや、それは違う。間違っている」と言われ時、別府さんはどのように思ったのでしょうか。		
	4 今回の学習で考えたことを書く。	・できるだけ全員に発表させ、様々な道徳的価値に触れられるようにする。	
○今回の学習で考えたことは何ですか？			
	<p>学習の感想（感想カード）</p> <p>国際協力のために自分達ができること（目標達成シート）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別府さんへのメッセージになることも伝える。</li> <li>・児童の記述を見て回り、感想を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・批判に負けない努力があるという視点の意見も大切にしていこう。</li> <li>・目標達成シートを書き進めることで、国際協力のためにできることを、自分ごととして考えさせる。（赤鉛筆で記述）</li> </ul>	感想カード 目標達成シート
終末 (8分)	5 振り返りを共有し、国際協力について考えていく大切さについて深めていく。	・国際協力することの大切さについて深められるようにする。	
	6 別府さんから子どもたちへのメッセージ動画を視聴する。	・一人一人が考えたことが大事であることを伝える。	

8. 評価規準に基づく本時の評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際協力の大切さについて、どうして大切にしなければいけないのか、互いの意見を尊重しながら話し合うことができる。（発言内容・記述内容）</li> <li>・国際協力のためにできることについて、自分ごととして考えることができる。（発言内容・記述内容）</li> </ul>

参考資料：

- ・『たった一つを変えるだけ クラスも教師も自立する「質問づくり」』（新評論）ダン・ロススタイン著 吉田信一郎訳
- ・JICA 東京から頂いた青年海外協力隊に関する資料
- ・SDG s を学べる教材一覧

<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/material/sdgs.html>

## 9. 学習方法及び外部との連携

今回の海外研修では、シマクトゥヘルスセンターの別府隊員とモンゼタウン小・中学校の安藤隊員と連絡を取り合い、別府隊員に関してはインタビュー動画の教材化、安藤隊員に関してはザンビアの小学生の1日の動画提供と、ビデオ通話による児童同士の通話の機会の提供をお願いした。

別府隊員のインタビュー動画に関しては、インタビューの内容を派遣前に決めておきインタビューしたものをPPT形式に編集した。スライドごとに質問内容と動画を張り付けることで、次の授業者が活用する際に編集しやすくなるようにした。現地の隊員に直接ザンビアの現状や派遣における苦労などを動画で視聴できたことで、教科書で読むだけではなかなか関心をもつことができない児童にも議論に参加させることができた。

安藤隊員とモンゼタウン小・中学校との交流に関しては、海外研修でお会いした際に学校で行う授業や欲しい資料について相談して協力して頂いた。ザンビアについて知る際に、動画に拘ることで実際の音や映像など様々な感覚から情報を与えたいと考えた。直接ネット通話でつながる際には、学校のタブレット端末にSkypeをダウンロードして行った。時差が7時間あるため、こちらの小学校の6校時がザンビアの朝7時～8時であったが何とか実施することができた。この体験は児童の印象にも強く残ったようで、感想にこの活動について書いた児童が多かった。

## 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

まず、海外研修の報告を職員打ち合わせで行った。研修の内容から今後の授業展開までを説明し理解を得ることができた。実践に関しては学校の業務改善の視点を大切にしながら「持続可能な」国際理解・開発教育を推進していくという想いで進めていった。

既存の教育課程に関して追加していくのではなく、今回の経験をスライドして入れられるように単元構成を考えていった。道徳の授業展開では、今回の指導案を事前に配布し、協議会を行った。さらに、当日に招いたJICA職員に海外研修や国際理解教育に関する情報提供をしていただき、国際理解・開発教育への共通理解を図った。

PTAとの連携では、図書環境ボランティアをお願いし、高学年図書室にザンビアコーナーを設置したり、SDG s コーナーを職員室前の廊下に作成したりした。

外部への国際理解・開発教育の発信に関しては、まだ踏み込むことができていないので、ここを今後どう展開していくのが重要になる。ただし、これに関しても周りの職員の理解を得ながら計画的に進めなければいけない。無理に進めると崩れるのも早く、持続していかない。ただ、歩みを進めることを辞めなければ、必ず成果はできると考えている。



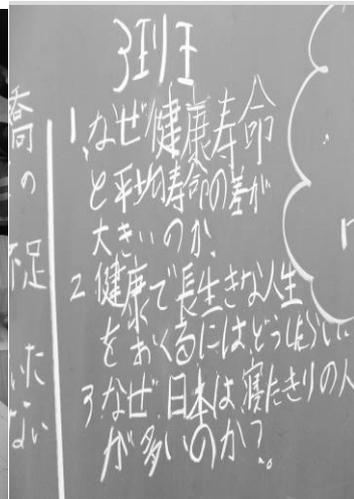
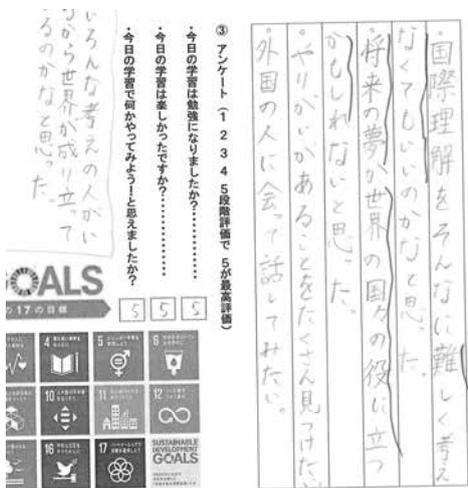
### 【自己評価】

11. 苦勞した点	今回、時数としては全6時間で教科横断的に行った。国際理解・開発教育とキャリア教育の視点で行ってきたが、やはり授業時数の確保をもう少し大胆に行ってもよいと感じた。感想の中で「自分も何かやってみたい」「～をもっと調べてみたい」というものがあつたが、それに応える時間と余裕が必要だった。
-----------	--

12. 改善点	教科横断的に、単発でも実施できる形で教材を準備することができた。まだまだ改善が必要ではあるが、ぜひたくさんの方に実践してほしいと考えている。ただし、単発でも成立する形式であるが故に、単元全体で児童の伸びしろに応える時間を確保することも考えていかなければいけないと感じた。
13. 成果が出た点	<p>まず、既存の教科書の内容に取って代わる形で教材制作できたことが大きかった。公開授業後も次年度に同じ教材で授業したいという反応が職員から得ることができた。また、今回の経験から、次年度教科横断的な国際理解・開発教育の教育課程の編成に、学校全体で取り組んでいくきっかけを作ることができた。</p> <p>道徳の協議会では、生の映像がとてもよかったという意見だけでなく、内容項目を「希望と勇氣・努力と強い意志」としたり、焦点を「『国際』は要らない」や「長く住むほど国際協力がわからなくなる」にあてたりするという方向性が出た。</p>
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>児童の客観→主観 (自分ごとへの変容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国は協力しないとダメなんだなって思いました。(1時)</li> <li>→着られなくなった服はシママラに持っていくとどこかの国に送ってくれる。(3時)</li> <li>・世界には困っている人がたくさんいることが分かった (1時)</li> <li>→自分ももし仕事に就いた時は、その国の文化に合わせたことができるといいなと思った。日本の文化も伝えたい。</li> <li>・大変で、自分達よりかわいそう。国債について考えた。(1時)</li> <li>→その国なりの文化を守っていくことが大切だと思った。17の目標で一つでも達成できるようにしたい。</li> </ul>
15. 授業者による自由記述	海外研修での一番の収穫は、クサイかもしれないが熱い思いをもった仲間との出会いである。今までうつすらと思っていた「国際協力のために何かをしたい」という思いが日々の業務の中で忙殺されてしまう中、同じ思いをもった校種の様々な教員とこういった事業にチャレンジできたことは、今後の自分にとって大きな財産となった。教務主任という立場で自分の学級がない中、教務主任だからこそいろいろな学年にアプローチでき、教育課程の編成に大胆に関わることができたと感じている。そして、この研修を終えたことはまだスタート地点であり、ここから「自分が何をどう持続していくのか」を大切にしていきたいと考えている。

↓児童の感想 (道徳)

↓SDGsダイヤモンドランキング ↓質問づくり



## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	横田 美紗子	学校名	千葉県野田市立柳沢小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	5年生2クラス（45名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年9月～2019年12月（8時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間、道徳、社会科、家庭科		
2. 単元名：心と心で、つながる未来へ		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標		
<p>授業テーマ 「世界と自分たちのつながりを知り、考え、行動しよう」</p> <p>単元目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ザンビアや他の国々の文化や習慣、価値観などを知り、世界の多様性を理解するとともに、様々な考え方や価値観の違いを認め合い、尊重しようとする態度を養う。</li> <li>・ザンビアや他の国々と日本の繋がりを知ることで、世界が抱えている様々な問題を自分ごととして捉え、SDGsを通して自分の生活を振り返り、自分にできることを考える。</li> </ul> <p>関連する学習指導要領上の目標</p> <p><b>総合的な学習の時間</b></p> <p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。</p> <p><b>道徳</b></p> <p>C-18 国際理解、国際親善</p> <p>他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。</p> <p><b>社会科</b></p> <p>社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p> <p><b>家庭科</b></p> <p>日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。</p>		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	世界の多様性や日本と世界の繋がり、世界の抱える問題への理解を深めている。
	②思考力、判断力、表現力等	世界の抱える問題において、学習して理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。
	③学びに向かう力、人間性等	進んで世界の抱える問題を自分ごととして捉え、学習の見通しをもって、自分にできることを考えようとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義（児童/生徒観、教材観、指導観）	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>急速にグローバル化が進む現代社会において、広い視野とともに多様な異文化の生活・習慣・価値観などの「違い」を「違い」として認識していく態度や相互に共通している点を見つけていく態度、互いを尊重し合う態度を育成していくことが重要とされている。また、地球では今、温暖化や自然環境の破壊や汚染、経済格差など様々な問題が複雑に絡み合っており、世界の人々が協力して問題を解決していくことが必要とされている。そのため、未来を担う子ども達が同じ地球に生きる人として、世界の抱える問題を自分ごととして捉え、行動していくことは非常に重要だと考える。そして、本単元を通して知った世界の現状や感じたり考えたりしたことを、広い視野で世界を見ていく目を養うことやこれからの自分の生き方を考える上での一助としたり、国際理解の一步として生かしたりして欲しいと考え、本単元を設定した。</p>	

**【単元の意義】**

子ども達がESDの考え方を味わうためには、1つの教科の学びだけでは難しい。様々な教科を関連づけながら学習し、教育活動全体を通して子ども達にESDの考え方を味わわせることで、継続的な学びのプロセスを構築することにつながると考える。

そこで、本単元では総合的な学習の時間「心と心で、つながる未来へ」の単元を中心に、教科横断的な実践の中で「日本と世界の繋がり」を知り、「世界の抱える問題」を自分ごととして考え、身近な生活と結びつけて学習していく。各教科の学習内容を扱いながら、そこに関連する国際理解的要素を取り入れることで、より具体的な場面において児童がどのようなことができるのかといった、実際的な取り組みにつなげることができると考える。

**【児童観】**

本学年の児童は、4月に社会科「世界の中の国土」という単元で地球儀や地図帳を活用して、世界の大陸や海洋、主な国々の名称や位置について学習している。また、外国語活動では、ALTとのコミュニケーションから異文化に触れたり、「行ってみたい国や地域」の単元で様々な国の国旗や食べ物、観光地について学んだりしてきた。これらの学習を通して世界に関心を持ち、自主学習でたくさんの国旗を描いてきたり、気になる国について調べてきたりするなど、自ら学びを深めている児童もいる。

また、近年は地球温暖化や海洋プラスチックなど環境問題に関する情報をテレビやインターネットで目にする機会が多くなった。これらの問題について知っている児童は多い一方で、そのことについて深く考えたり、調べたりしたことがあるという児童はほとんどいなかった。つまり、世界で起きている様々な問題はどこか遠くの国の出来事であり、自分たちとは関係のないものだと考えている児童も多いのではないだろうか。

これらのことから、本単元では世界の抱える問題についてSDGsを通して学ぶことで、自分たちの身近な問題へと落とし込んでいき、それらを解決する行動が世界を変える一歩につながるということを感じさせたい。

**【指導観】**

本単元の前半では、ザンビアや世界の現状について知ることで興味関心を高めるとともに、世界の子ども達にも自分と共有できる多くの感性や思いがあることに気付かせることで、世界をより身近なものとして感じられるようにしたい。そして、単元の後半では各教科と関連させながら、より具体的に日本と世界の繋がりや問題について知り、持続可能な社会の実現のために自分たちができることを考えさせていく。

一人一人が「知る」「考える」ことを大切に授業展開を意識していくとともに、グループやクラスで話し合う機会を多くもつことで考えを共有し合い、多面的・多角的に世界について考えることができるようにしていきたい。

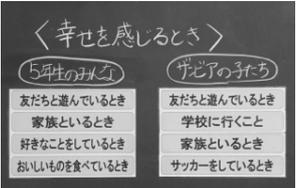
**6. 単元計画（全8時間）**

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
朝の会	「今日のザンビア」	ザンビアの文化や日本との繋がり、日本の国際協力などに興味・関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一日1回、ザンビアの写真や映像、基本情報などを紹介する。</li> <li>ザンビアの概要を知り、現地の様子や人々の暮らし、日本との繋がり、日本の国際協力について知る。</li> <li>日本との共通点や相違点を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの写真や映像、民芸品など</li> <li>青年海外協力隊の隊員やシニアボランティアの方々のインタビュー</li> <li>PPT資料1</li> </ul>
1	総合的な学習の時間「SDGsってなんだろう？」	世界が抱える問題とSDGsの理念やゴール（目標）との繋がりに気付き、単元のゴールを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの住む世界が幸せで豊かに続いていくために、解決しなければいけない問題を考える。</li> <li>SDGsとは何かを知り、自分たちが考えた問題とどれが関係しているか考える。</li> <li>「よりよい未来」へのイメージを広げ、今後の学習への見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PPT資料2</li> <li>ワークシート1</li> <li>SDGsのロゴ</li> </ul>

2	総合的な学習の時間 「今、世界は？」 ～世界がもし24人の 5年1組だったら～	世界の「多様性」と「貧 富の格差」を体感しなが ら、世界の現状への理解 を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割りカードを使って、世界の現実をシ ミュレーションする（人口や性別、識字 率、貧富の格差など）。</li> <li>・世界には、多様な言語や文化をもつ人々 が住んでおり、そこには大きな貧富の差 があることを知り、SDGs との関連を考 える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PPT 資料 3</li> <li>・役割りカード</li> <li>・ペットボトル</li> <li>・水、コップ</li> <li>・SDGs のロゴ</li> </ul>
3 本時	道徳科 「同じ空の下で」	他国の人々や異文化 の中に、自分と共有でき る多くの感性や思いが あることに気付き、それ を大切にしながら国際 理解に努めようとする 心情を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちとザンビアの子どもたちの「幸 せな気持ちになるとき」を比べる。</li> <li>・ザンビアの学校やストリートチルドレ ンの写真や動画から、自分たちとの「違 い」を知る。</li> <li>・多様性や同一性について考えたことを もとに、これからの世界との関わり方 について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PPT 資料 4</li> <li>・ワークシート 2</li> <li>・シムカレ初等学校、 モンゼタウンデイ 中等学校でのアン ケート、写真</li> <li>・ストリートチルドレ ンの写真、動画</li> <li>・ンサンサ孤児院の歌</li> </ul>
4	社会科 「これからの 食料生産と わたしたち」	日本の食料生産の問 題について理解し、こ れからの食料生産につ いて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ザンビアと日本の食事を比較する。</li> <li>・日本の食料生産が抱える問題点や変化 をグラフから読み取り、SDGs と関連さ せて考える。</li> <li>・コラム「日本の食料事情と世界の繋が り」を読み、食料の輸入が多いとどのよ うな良い点や悪い点があるかグループ で考え、全体で共有する。</li> <li>・これからの食料生産について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ザンビアの農家での 食事の写真</li> <li>・食料自給率のグラフ</li> <li>・SDGs のロゴ</li> </ul>
5	家庭科 「ものを生かす 工夫をしよう」	日本では他の国と比 べ食材の包装が過剰で あること、また3Rで きるごみも多いことに 気付き、自分たちにで きることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ザンビアや他の国々のごみの現状につ いて知り、SDGs との関連を考える。</li> <li>・日本と他国の食卓写真から、ごみリス トを作り、気付いたことを話し合う。</li> <li>・3Rについて知り、リストのごみを3R に分類して、気付いたことや考えたこ とを話し合い、全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マテロ病院のごみ捨 て場の写真</li> <li>・ザンビアのごみ処理 場の動画、写真</li> <li>・SDGs のロゴ</li> <li>・ワークシート 3</li> </ul>
6 7	社会科 「これからの 工業生産と わたしたち」	日本の工業の課題に ついて知り、持続可能 な社会を実現する「夢 の工業製品」を考え る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『モノはどこからきているの？』カード ゲームで、製品とその原材料を当てる。</li> <li>・原材料がどこの国からきているか世界 地図に示し、世界との繋がりを知る。</li> <li>・燃料や原料、機械類、食料品の多くは、 輸入に頼っていることを知る。</li> <li>・持続可能な社会を実現するために必要 なことをもとに、SDGs と関連させた 「夢の工業製品」を考え、お互いに紹介 し合い、それぞれの思いを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『モノはどこからき ているの？』カード ゲーム</li> <li>・世界地図</li> <li>・SDGs シール</li> <li>・ワークシート 4</li> </ul>
8	総合的な学習の時間 「自分たちが できること」	これまで学習してき たことを踏まえて、世 界が抱える問題の解決 に向けて、自分やみん なが取り組めることを 考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを比較したり、関連づけ たり総合したりして、持続可能な社会 の実現のために、自分たちができるこ とをグループで考え、全体で共有する。</li> <li>・「一人で」「みんなで」「継続して」「新 しい技術を開発する」などの観点をも って取り組む。</li> <li>・SDGs と結び付けて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs シール</li> </ul>

7. 本時の展開 (3 時間目)

本時のねらい：他国の人々や異文化の中に、自分と共有できる多くの感性や思いがあることに気づき、それを大切にしながら国際理解に努めようとする心情を育てる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<p><b>導入</b> (5分)</p>	<p>1 様々な国の言葉や文化について知っていることを出し合い、自分と世界の子どもたちは同じかを考える</p>	<p>・自分たちが経験したり、学習したりしたことを思い出させる。</p>	<p>ワークシート</p>
<p><b>展開</b> (30分)</p> <p><b>まとめ</b> (10分)</p>	<p>2 教材「同じ空の下で」についての話し合い ・2枚の写真から、どんな気持ちか考える。</p>  <p>・自分たちとザンビアの子どもたちの「幸せを感じるとき」を比べる。</p> <p>・学校やストリートチルドレンの写真、動画から、自分たちとの「違い」を知る。</p>  <p>◎自分と世界の子ども達は「同じ」でしょうか。 ・グループで自分の考えを伝え合う。 ・全体でみんなの考えを共有する。</p> <p>3 価値の主體的自覚 ・これから世界の子ども達とどのような関わり方をしていきたいかを考え、全体で共有する。</p> <p>4 ザンビアの子ども達の「幸せを感じるとき」のスライドショーを観る</p> <p>5 これまでの学習を振り返り、自分と世界の子ども達は同じかを考える</p> <p>6 JICAの方々から子ども達へのメッセージ</p>	<p>・似たような経験があるかを補助発問し、世界中の人々に共通した感性や思いがあることに気付くようにする。</p>  <p>・この子達は、どんな気持ちで毎日を過ごしていると思うか補助発問する。 ・日本とザンビアを比べて世界の現状を知ること、自分ではどうしようもない環境で暮らさざるを得ない子どもがいること、どんな状況にあっても同じ思いや感性をもっていることに気付かせる。</p> <p>・ザンビアの子ども達にどのようなことを伝えたいかなども良いことを伝える。</p> <p>・笑顔の子ども達の写真を紹介することで、同一性を感じさせる。</p> 	<p>写真</p> <p>「幸せを感じるとき」一覧</p> <p>写真 動画 ストリートチルドレンの言葉</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>スライド</p> <p>ワークシート</p>

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

他国の人々や異文化の中に、自分と共有できる多くの感性や思いがあることに気づき、これから世界の人々とどのように関わっていきたいかを考えることができる。(ワークシート・発言)

9. 学習方法及び外部との連携

- グループ活動を数多く取り入れ、それぞれの思いや考えを出し合うことで、様々な見方・考え方を知るだけでなく、多様な価値観を受け入れ、さらに学びを深めていくことができるようにする。
- 道徳の授業の最後に、JICAの方々から子ども達に向けてのメッセージをいただいた。これにより、担任だけでは伝えきれない「国際理解」への重要性がより伝わると考えられる。

## 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

### ○校内職員への研修報告及び国際コーナーの設置

校内研修で教師海外研修報告会を実施し、自分自身が見てきたザンビアのことや、SDGsの紹介をした。また、子どもや保護者や来校者の方にも目につくよう教室だけでなく昇降口前にもザンビアを中心とした国際コーナーを設置し、気軽に資料を見たり、本や民芸品などを手にとったりしてもらえるようにした。

### ○授業公開及び出前講座の取材

本校は今年度、市指定人権教育研究校として研究に取り組んでいる。授業公開では、本単元の道徳「同じ空の下で」の実践を発表し、他校の先生にも参観していただいた。

また、2月にはJICA出前講座で5年生の子どもたちが国際理解・協力について学ぶ機会を設定している。読売新聞社の方にも取材いただき、地域のコミュニティ紙に掲載される予定となっており、広く地域の方々にも知っていただける機会となることを願っている。



## 【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>毎日、朝の会で行っていた『今日のザンビア』で子ども達にザンビアの写真を見せると、どうしても「違い」に注目しがちだった。子ども達には「違い」だけを感じるのではなく、「似ている」「同じ」という部分にも目を向けてもらえるよう、どのような写真や映像を紹介していくのかに悩んだ。ザンビアと日本の繋がりやザンビアの様々な面を感じ取ってもらえるようなものを選ぶよう心がけた。</p> <p>学年で共通の単元展開をしていく上で、他の先生にSDGsに関することや各教科の授業プランを理解してもらうための時間を多く確保する必要があった。実際に現地を見聞きした自分と、それを聞いて授業を実践していただく先生との差を埋めることが最も重要視した点だった。</p>	
<p>12. 改善点</p>	<p>世界の課題を自分ごととして捉え、自分たちができることについての提案を学級内で行ったが、より広く知ってもらうためには、授業参観で実践したり、学校全体に向けて提案したりするような機会を設けられると良かった。</p> <p>また、今回は教科横断的に行ったため、各教科の単元の都合上1つ1つの授業間隔が空いてしまうことがあった。どの授業においてもSDGsを通して学ぶことで関連していることを意識させたかったが、繋がりを感じられない児童も見られた。今後も継続して国際教育を実践していくために、年間を見通したでのカリキュラム・マネジメントが重要である。</p>	
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>多くの先生にも実践してもらえるよう、通常の授業に+αの授業をするのではなく、教科書の内容を少し膨らませた授業案を計画した。社会科や家庭科の授業で世界の問題と関連させることで、子ども達も関心をもち、より深い理解につながったと考えられる。</p> <p>道徳の授業実践では、子ども達には自分たちと「同じ」→「違う」→「同じ」と感じられるような教材提示を行なった。その中で、一人一人が同一性と多様性を感じながら「自分と世界の子どもは同じなのか」という問いを繰り返されるたびに、心が揺さぶられる様子がワークシートから見て取れた。また、ありのままを偽りなく捉えて伝えることができる写真や映像は、言葉以上の説得力を帯びることを実感した授業でもあった。</p> <p>また、子ども達は授業後に世界や国際協力、SDGsなど様々なことに関心をもち始め、自主学習で調べてきたり、TVや新聞でSDGsやザンビアのことが出ると報告したりしてくれる機会が増えた。休み時間には、SDGsの本を読んだり、SDGsすごろくで遊んだりしている姿も多々見られた。また、同僚の先生にも関心の輪が広がり、SDGsの書籍を紹介してくれる方やザンビアの新聞記事をもってきてくれる方が出てきたことも一つの成果だと感じている。</p>	<p>道徳の授業でのある児童の心の動き</p>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>【道徳の授業での振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本には日本にしかないもの、ザンビアにはザンビアにしかないものがそれぞれある。お互いにそういったものを共有していきたい。</li> <li>・自分たちの生活とは全く違うと思ったけど、幸せになる時や学校に行きたいという思いは日本もザンビアも同じだと思った。どの国でも、みんなが笑顔でいる時が一番幸せだと思った。</li> <li>・違うところもあれば、同じところもあるということがわかった。違うところもたくさんあるけれど、ザンビアのことをもっと知りたいし、日本のこともザンビアの人に知ってほしい。</li> <li>・最初は自分と世界の子は全然違うと思っていた。でも授業を通して、私たちは同じ地球に住んでいるんだから、積極的に関わって協力したり、支え合ったりしていきたいと思った。</li> </ul>	

【各教科のノートやワークシート】

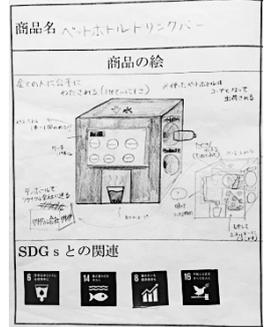
調べてみて、いろいろな国の人々が協力している。日本に必要な物や、外国に必要な物をおきながらやっていることがわかる。

「3R」はSDGsとも関わりがあり、自分たちが気づいて目標へ近づけるかじれれば、ことわかった。こちらは、分別したり、リサイクルショップへ出してリサイクルして、目標に近づきたい。

たてものは冷凍し服などはあけるか、リメイクする。3Rを頭に残しておいて、SDGsを目標に、1人1人がきをつけて分別や、資源を大切にね。

【単元を終えての振り返り】

- ・自分たちが協力することで、世界はもっとよくなることがわかった。ザンビアや世界の人たちがどんな時も「幸せ」と思うような環境を作りたい。
- ・世界には色々な人たちがいる、みんながみんな平等に暮らしているわけではないということがわかった。みんなが幸せに暮らしていけるよう、身近なことから行動していけるといいと思う。
- ・SDGsや世界の問題を知ること、学校や家で色々なことが気になるようになった。給食の牛乳のストローを無くしてコップを持って来ればプラスチックは減るんじゃないかとか、スーパーでもビニールがこんなに必要なの？とか、当たり前だと思っていたことに疑問をもつようになった。これからももっと色々なことを知って、家族に教えてあげたいと思った。



15. 授業者による自由記述

私たちが生きるこの地球上で、今この瞬間も「不条理」にさらされている人たちがいる。しかし、そのことを気に留めていなくても日本では幸せに生きていける。では、日本は国際協力をしなくてよいのか。漠然とした疑問が私の中にはあった。

今回の研修で実際にザンビアに足を運び、現地の人と共に同じ時を過ごし、同じ空気を吸い、同じ風景を見て、同じ音を聴いた。そうしていると、ザンビアの人々と心の距離はどんどん近づいていくような気がした。机も椅子もなく硬い床で座って受ける授業は辛いと話す女の子。親もなく、住む場所もないストリートチルドレンの男の子。普段は日本で教師として生活し、恵まれた環境で暮らしているからこそ、彼らと直接出会う中で「どうして世界はこんなにも不条理なのか」と思わざるをえなかった。そして、心が近づけば近づくほど、彼らに何もできない自分の無力さを痛感した。「隣人を愛せよ」という言葉があるが、世界を身近に感じることで、それこそが国際協力の原点なのだとすることを学んだ。

また、今回の研修を通して、「知る」ことの大切さと「無関心」であることの恐ろしさを改めて感じた。知らなければ、考えることもなく、伝えることも行動することもできなかった。逆に、知ることで世界は広がり、繋がるのだということを実感した。だからこそ、今回の授業実践がゴールではなく、持続可能な社会をつかっていくために考え、行動し続けることが教師としての私の使命だと思っている。

ザンビアの教員養成校の校長先生との対談で、“Possibilities open up through education.”という言葉がとても印象的だった。国は違えど思いは同じ。これからも教育に携わる者として、この校長先生の言葉を胸に、未来の担い手である子ども達の可能性を広げていきたい。

参考資料：開発教育協会『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第5版』（2016）  
 佐藤真久『未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK』宣伝会議（2019）  
 手島利夫『学校発・ESDの学び』教育出版（2017）



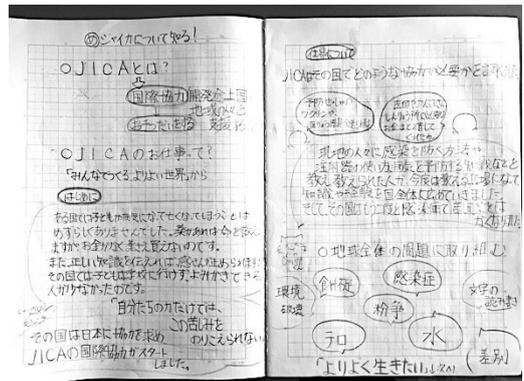
総合的な学習の時間  
「SDGsってなんだろう？」



社会科「モノはどこからきているの？」  
カードゲームの様子



SDGsのアイコン（黒板掲示用）



児童の自主学習ノート  
今回のめあては「JICAについて知る！」

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	鈴木 航太	学校名	新潟県 村上市立保内小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	5年 1組（24名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年10月～11月（12時間）		

### 【実践概要】

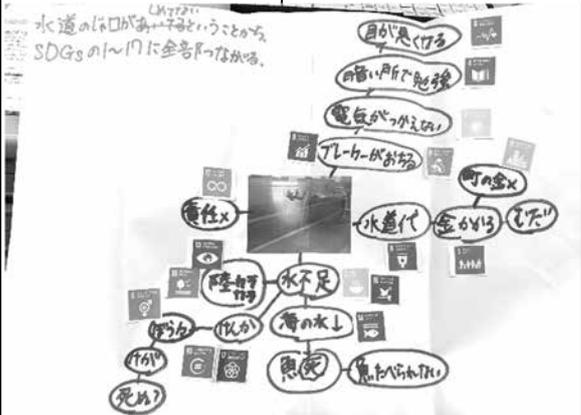
1. 実践する教科・領域： 国語		
2. 単元（活動）名： 「明日をつくるわたしたち」		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ： 「身近な学校問題をSDGsと関連させ、考えを明確にして話し合い、提案する文章を書く」 単元目標： ◎話題を決めて、収集した知識や情報を関連付け、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。 ◎自分たちの身の回りにある問題について調べ、解決のための提案書を書くことができる。 関連する学習指導要領上の目標： 本単元は、学習指導要領の「A話すこと・聞くこと」の「ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係づけること。」「オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。」及び「B書くこと」の「ア 考えたことなどから書くこと」を決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。「イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。」「ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。」「カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項・言葉の働きや特徴に関する事項の（カ）語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。」に関連している。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	事実と感想、意見を区別して、目的や意図に応じて提案書を書くことができる。
	②思考力、判断力、表現力等	収集した知識や情報を関連付けて、話し合うことができる。
	③学びに向かう力、人間性等	問題に関する情報を集めたり、自分の考えをまとめたりしようとしている

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b> 本単元は、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の複合単元である。これまで、国語科で世界の現状とSDGsに関して、資料を基に自分の考えをまとめる活動を行ってきた。そこから、さらに本単元では「自分たちから発信」を意識して授業に臨ませたい。</p> <p><b>【児童観】</b> 本学級の児童は、知的好奇心が高い児童が多い。しかし、児童は海外に関する知識や関心はほとんど無かった。そのため、教師海外研修に行く前から、海外の話や朝の時間にしたり、授業内にもSDGsに関わる内容を取り入れたりしていった。すると、次第に興味を持ち始め、自主的に海外のことや環境問題を調べる様子が見られるようになった。</p> <p><b>【指導観】</b> 本単元に入る前に、SDGsについて理解する活動、国語科で「2030年の日本は良くなっているか」をテーマに、SDGsから目標の一つを選び意見文を書く授業等を行っている。一人一人がSDGsについて、知識をある程度習得した状態から、本単元では、パラグアイの国としての問題点を他人事とせず、自分たちの身の回りにも同じような問題が起きていないかと考えさせたい。また、学校の問題点を解決するために、友達と知識を持ち寄って、話し合いながら課題解決する子どもの姿を期待する。その際に、SDGsを用いることで、子どもたちの視野を広げ、根拠を基により説得力のある提案書を書けるようになるだろう。最終的には、提案書に書いたことを全校に伝えるために、学級から代表を決め、全校集会で学校の問題点について発表させる。</p>
--	--

6. 単元計画 (全 12 時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	学習の見通しをもとう	提案書を書く計画を立て、学習の見通しをもつことができる。	提案書を書くことを知る 全 12 時間の流れを確認する。	・単元計画表
2	中学生のSDGs授業を体験しよう	効果的なスピーチの仕方を体感し、これからの学習に対する意欲を高める。	地元中学生からSDGsに関する授業を受ける。	
3	提案書の書き方を学ぼう	提案する文章の書き方を理解することができる。	提案書の書き方を教科書から学ぶ。	
4 <b>本時</b>	身近な問題がSDGsとつながっていないか話し合おう	既存の知識や経験と結びつけながら、SDGsの視点を基に見方を広げて話し合うことができる。	説得力を増すための理由付けの仕方を、SDGsの視点で考える。	・SDGs ロゴ ・学校問題点写真 ・現地写真 (学校・道路) ・自作ワークシート
5	学校にSDGsにつながる問題点はないかな	SDGsと関連させながら、学校の問題点を探ることができる。	一人一人がカメラをもち、SDGsとのつながりを考えながら、身近な問題点を探す。	
6	グループに提案する文章を書こう	SDGsと関連させた理由付けを意識して、提案する文章を書くことができる。	自分の取り上げたい学校の問題点について、情報を集め、自分の考えをまとめる。	

7	グループで話し合い、提案する問題を決めよう	それぞれの問題についての考えを発表し合い、協議してグループで提案することを決めることができる	グループで話し合い、グループとして提案する学校の問題点を決める	
8	提案書を作成しよう	決まった問題について、内容と理由、現状と問題点、解決する方法を考えるために、役割分担して資料を集め、提案書としてまとめることができる。	グループごとに決まった学校の問題点について、分担を決め、調べながら提案する文章を作成する。	
9	提案書を作成しよう		みんなの記述をもちより、提案書を作成する。	
10	効果的なプレゼンの仕方を学ぼう	書きまとめた提案書を読み返し、推敲することができる。	相手に伝わるためにより効果的なプレゼンの仕方を学び、推敲&発表練習をする	
11	学級提案会を開き、全校に提案する問題点を決めよう	提案する文章を発表し合い、感想を交流することができる。	学級で提案会を行い、クラス代表を決定する。	
12	学習の振り返りをしよう	協議をしたり、提案したりする活動を振り返り、学びをまとめることができる。	学習を振り返る	

7. 本時の展開 (4/12 時間目)			
本時のねらい：身の回りにある問題点は、つながり合っていることに気づき、既存の知識や経験と結びつけながら、SDG sの視点を基に見方を広げて話し合うことができる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・予想される児童の反応・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<b>導入</b> 学習意欲の高まり 課題設定	T：水が出しっぱなしだと、どうして良くないのかな？ C：水のお金がかかる。 T：他にも、良くないことってないのかな？ T：これはパラグアイの学校の写真です。パラグアイの多くの学校は、雨が降ると学校が休みになるそうです。 T：では、次にパラグアイの道路の写真を見せます。気づくことはありますか。 C：道路が水びたしだ！しかも、ぼこぼこしてる！	<ul style="list-style-type: none"> <li>出しっぱなしの水道の蛇口、給食の残りもの、ペランダに飛んでいったストローの袋(プラゴミ)を見せる。</li> <li>全体の話し合いで「雨がふると学校に行けない」から、児童の発言をつながりながら広げてい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道の蛇口写真</li> <li>給食の残り物写真</li> </ul>  

<p>(10分)</p>	<p>T：実はパラグアイの道路は国の約87%の道路がこのように整備されていないのです。 T：では、「どうして道路が整備されていないと良くない」のでしょうか？ C：学校にいけないと、勉強がわからなくなる。 C：勉強がわからなくなるとなりたい仕事につけない。 C：仕事につけないと、国として生産の能力も下がる。 T：身の回りの気になることにも、もっと問題が隠れているかもしれませんね。説得力のある文章を書くためにも、もう一度学校の気になることに戻って、どんな問題があるのか見方を広げて考えていきましょう。</p>	<p>く。 ・子どもたちの考えを、SDGsの視点で分類分けしながら、ウェビングマップの形で黒板にまとめていく。 (※板書写真参照)</p>	<p>・プラゴミ写真  ・パラグアイ道路 </p>
<p><b>展開</b></p>	<p><b>課題：説得力のある文章を書くために、かくれた問題をみつけよう</b></p>		
<p>課題解決 個で (5分)</p>	<p>T：写真から考えられる問題についてウェビングマップを使って考えていきましょう。 C：食べ物が残るとそれを焼却しなきゃいけないから、お金がかかる。燃やすにはお金だけじゃなくて、石油もつかう。資源も無駄になる。</p>		
<p>班で (15分)</p>	<p>T：グループで写真について話し合しましょう <b>水道の蛇口グループ</b> C：どうして水が出しっぱなしだといけないのかな。つながれる？ C：水は限りある資源だと学んだよね。それで、いずれ無くなってしまう。 C：のみ水が無くなると、農業も工業も止まって前に調べたよね。</p>	<p>・SDGsの視点カードを用意しておき、つながると思ったら適宜、取りにくることを伝える。</p>	<p>・SDGs ロゴ (それぞれを切り分けておく) ・グループ用ワークシート</p>
<p>全体で (10分)</p>	<p><b>プラゴミグループ</b> C：どうしてプラゴミが外に捨ててあったら良くないのだろう？ C：それが海に飛んでいくと、魚が食べて死んじゃうから。 C：魚がいなくなると、最終的には人間も食べ物が減ってことだ。 T：それでは、話し合ったことの中で、最も説得力のある問題についてまとめて、発表しましょう。</p>	<p>実際のグループワークシート</p>	

まとめ	<p>C：水が出しっぱなしだと、水が無くなり農業や工業の生産が止まってしまうことが最も説得力がある問題だと思います。なぜならば、農業や工業の生産が止まると、身の回りの食べ物もなくなっていくことを伝えれば説得力がうまれるからです。</p>		
-----	--	--	--

まとめ：身近な問題を、世界の目標と関連付けて考えれば、説得力のある文章を書く手がかりになる。

(5分)	<p>T：「説得力のある文章を書くためには～」に続けて振り返りを書きましょう。</p> <p>C：説得力のある文章を書くためには、いろいろな問題を見つけて、その中から一番大事な問題を見つけると良いことが分かった。</p>		
------	--	--	--

実際の板書写真



8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・ 既存の知識や経験を基に、問題点を見つけ出そうと意欲的に話し合っている。(観察・ボード)
- ・ 既存の知識や経験から、自分の考えたことをワークシートに書くことができる。(ワークシート)
- ・ 話し合ったことを基に、説得力のある文章を書くためには広い見方で考えることが大切であることに気づいている。(ノート)

9. 学習方法及び外部との連携

地元中学生のSDGs授業

地元中学生のSDGsに関する授業を、本単元の導入部に受けさせた。子どもたちは、これから国語の授業で行うことについて見通しをもち、さらには、「こんなプレゼンができるようになりたい」と学習意欲を高めることにつながった。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・ 全職員に教師海外研修での学びを紹介
- ・ 新潟県教師海外研修報告会にて実践発表

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>どのようにしたら、子どもが意欲を持って「提案書を書きたい」と思わせることができるかが特に悩んだ点である。本単元までに社会科で「世界と日本の食料自給率」について、SDGs と関連させて授業をしたり、総合的な学習の時間では「フードロスを減らす取組」について日本の現状を基に子どもたちから発信させたりして世界や SDGs に関する知識・関心が高まるような活動を設定してきた。また、本単元の導入部で、地元中学生のプレゼンを見せたことも「こんな風に自分たちも発信したい!」という意欲を持たせることにつながった。</p> <p>また、実践を通して感じた難しさとして、世界の現状や環境問題をインターネット等を用いて調べさせたが、なかなか必要な情報が見つけれなかった。また、情報に対して自身の実感を伴わず、学校の問題と結びつけても机上の空論のように説得力の欠ける提案書になってしまうことがあった。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>事前に SDGs に関する知識を子どもたちにもっと習得させておくと、提案書を書く際にも、話し合う際にもより根拠を明確に自分の意見を伝えることができたのではないか。</p> <p>また、調べ学習の際の情報源をより豊かにしておく必要があった。参考となるインターネットのページを事前にリストアップしたり、参考となる書籍や映像教材等を準備しておいたりすると良かった。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>身近な学校問題を取り上げ、SDGs の 17 の目標と関連させたことで、「一つの問題にも多くの SDGs が隠れている」と根拠を書く際の考えの広がりが見られた。</p> <p>また、そこから自分たちの身の回りの問題点につなげていったことで、世界の問題を他人事ではなく、自分事として捉える姿が見られたことも非常に良かった。</p>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p><u>児童の感想より</u></p> <p>○今まではあまり気にしていなかった学校の問題点にも、たくさんの SDGs とつながっていることに気がつきました。</p> <p>○自分たちの班は、一つの問題から SDGs の 17 の目標全てにつなげることができました。これから、自分で学校の問題を探しに行くときも、同じようにつなげて考えたいです。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>自分の思いとして、「国際・環境問題を自分事として捉え、動き出す子どもを育てたい」という目標があった。実践をしていく中で、最初は「貧しい国がかわいそう」と考える子どもが多かったが、次第に「日本にも問題点が多くある」「自分たちにできることはないか」と考えに変容していった子どもの姿が見られた。今後も自分自身が、国際理解について学び、子どもたちに伝えられる教員でありたいと思う。今回このようなきっかけを持てたのも、教師海外研修に参加して外国の現状と問題点について直接肌で感じたり、同じ志を持つ他校種の仲間と過ごせたりしたからである。今後もこの経験・つながりを大切に、教師として子どものために何を教えたら良いか、考え続けていきたい。</p>

参考資料：

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	大原 淳	学校名	千葉県 千葉市立有吉小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	特別支援学級（5名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年9月～10月（8時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 生活単元学習		
2. 単元(活動)名： せかいとなかよし		
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ： 「特別な支援を有する児童に、国際理解の素地を育ませる指導方法」  単元目標： ○世界の国々に興味・関心を持ち、パラグアイの文化の体験的活動に意欲的に取り組む。 <span style="float: right;">(進んで参加する態度)</span> ○パラグアイを元に、日本の生活や文化との相違点や共通点に気付く。(つながりを尊重する態度) ○パラグアイを元にした学習を通して、発展途上国のために自分ができることは何なのかを考え、 行動する態度を養う。 <span style="float: right;">(多面的・総合的に考える力)</span>  関連する学習指導要領上の目標： ○「生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するものである。」(特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)より)		
4. 単元の評価規準(※児童毎に記載)		
児童	単元に関する実態	単元の評価規準
A児	○外国にほとんど興味・関心がない。 ○自分が日本に住んでいることを理解することは難しい。	○外国に興味・関心を持ち、教師とともに進んで体験的活動に取り組むことができる。 ○世界には、日本とそれ以外の国があることを理解することができる。
B児	○外国にとっても興味・関心がある。(遊び、食べ物、踊り、家、服、学校、スポーツ、挨拶、祭り、音楽等) ○自分が日本に住んでいることを理解していて、世界には様々な国があることも理解している。	○自分から進んで体験的活動に取り組むことができる。 ○パラグアイと日本の生活や文化の相違点や共通点に気付くことができる。
C児	○外国に興味・関心がある。(遊び、食べ物、家、挨拶、音楽等) ○自分が日本に住んでいることを理解することは難しい。	○自分から進んで体験的活動に取り組むことができる。 ○世界には、日本とそれ以外の国があることを理解することができる。
D児	○外国にとっても興味・関心がある。(遊び、言葉、挨拶、音楽等) ○自分が日本に住んでいることを理解していて、世界には様々な国があり全部で196か国あることも理解している。	○自分から進んで体験的活動に取り組むことができる。 ○パラグアイと日本の生活や文化の相違点や共通点に気付くことができる。
E児	○外国に興味・関心がある。(食べ物、踊り、家、学校、言葉、挨拶、音楽等) ○自分が日本に住んでいることを理解していて、世界には様々な国があり全部で196か国あることも理解している。	○自分から進んで、苦手な体験的活動にも取り組むことができる。 ○パラグアイと日本の生活や文化の相違点や共通点に気付くことができる。

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b>          近年、島国である日本にもグローバル化の波が押し寄せ、日常で外国人を見かけることも多くなった。2020年には、我が国でもオリンピック・パラリンピックが開催され、世界中の人々がここ日本に集まってくる。将来を担う子どもたちにとって、国際的な視野と国際社会で生きる能力を身に付けることがこれまで以上に必要になってきている。</p> <p><b>【単元の意義】</b>          本単元では、まず子どもたちの生活が外国の物によって支えられていることを気付かせる。代表的な日本の食べ物であるお好み焼きや、自分たちが学校生活で使う文房具など身近なものを教材に、カードゲームを通して外国との繋がりを学習させていく。それと並行して、週1回朝学習の10分間を利用した、「ワールドタイム」を行う。「ワールドタイム」とは、外国で撮った1枚の写真を子どもたちに見せ、それが何なのか子どもたちが当てる活動である。その活動を通して、異文化の存在に気付かせ、それを受容する態度を身に付けさせていく。上記の2つの学習活動により、子どもたちに外国のことを知り、外国と繋がっていく必要感を持たせたい。</p> <p>次に、JICA 教師海外研修で訪れるパラグアイに焦点を当て、学習させていく。現地から持ち帰ってきた遊びの道具や食材、学習に使う文房具などの本物の教材を用いて、学んでいく。子どもたちにとって身近な事柄(遊びや食事、学校生活等)を教材にすることで、日本との相違点や共通点に気付きやすく、外国に対する興味関心がより高まると考える。</p> <p>最後には、子どもたちがパラグアイの小学生宛てに書いた手紙の返信を、実際に現地の小学生が手紙の返信を書いている様子を映した動画を見せながら、子どもたちに渡す。子どもたちは、地球の反対側に友達ができたことを喜び、外国をより身近な存在として感じるだろう。その気持ちを元に、これから自分たちが外国のためにできることは何なのか考えさせていきたい。</p> <p><b>【児童観】</b>          本学級の子どもは、知的学級2名と自閉症・情緒学級3名の計5名で構成されている。道徳や外国語活動、生活単元学習等は異学年集団を利用して共に学び合っている。「ワールドタイム」では、意欲的に手を挙げて自分の意見を言う子どもが多い。外国の名前を覚えたり、保護者に対してもワールドタイムで学んだ内容を話したりするなど、異文化に対して少しずつ興味関心が高まってきている。また、週1回行っている「チェリータイム」(外国語活動)においても、英語を使いながら楽しそうに歌やゲームに取り組んでおり、語学を通して異文化に親しんでいる。</p> <p>一方で、今自分がいる国が日本であるということを理解することが難しい子どもや、「チェリータイム」(外国語活動)に意欲を持って取り組めない子どももいる。また有吉小学校付近は、それほど外国人が住んでいる地域ではなく、外国との繋がりを意識して生活している子どもは少ない。子どもたちの発達段階からみても、まだまだ国際的な視野に立って物事を考えることは難しいと言える。</p> <p><b>【指導観】</b>          障害の特性や学力など異なる能力の子どもたちが一緒に外国の文化を学ぶにあたり、見たり聞いたりして学習するよりも、実際に体験して学習したほうが関心を高められ多くのことを習得することができると思う。そこで、パラグアイで得た本物の教材を用いて、遊んだり作ったり動いたりしながら体験的学習を中心に進めていきたい。現地で撮ってきた写真や動画も多用し、視覚でも捉えられる活動にしていく。そうすることで、子どもにとって意識しづらい外国の文化を、楽しんで学ぶことができると考える。</p> <p>相手の気持ちを汲み取って人とコミュニケーションを取ることを苦手とする本学級の子どもたちにとって、他者を理解し関わり方を学ぶことはとても大切である。そしてそれは国際理解教育でも同じである。将来、さくらんぼ学級の子どもたちが大人になり自立する頃には、日本でも外国人労働者がますます増え、彼らと接する機会も多くなる。そうした時に今回の学習で学んだことを生かし、異文化を認め互いに助け合って生活していけるような大人になってほしい。</p>
--	--

6. 単元計画 (全8時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
0	ワールドタイム	○世界には日本以外の国があり、それぞれの国に日本にはない良さがあることを知る。	①フォトランゲージ(外国のある様子を写した写真を1枚見せて話し合う活動)を行い、外国の良さを知る。 <毎週水曜日の朝学習10分間>	○ESDフォト・クリップ教材集 ○自分で撮ってきた外国の写真
1	パラグアイの友達に手紙を書こう	○パラグアイにいる子ども達宛に手紙を書くことで、外国に対する興味・関心を高める。	①日本の反対側にあるパラグアイの紹介VTRを見て、そこでも自分と同じような年代の子ども達が生活していることを知る。 ②担任が夏休みにパラグアイに行くことを知り、現地の小学生に、手紙(質問やメッセージ)を書く。	○PPT「パラグアイの紹介」
2	お好み焼きはどこから来たの?	○「げんきキャンプ」で作るお好み焼きの材料が、実はほとんど外国からの輸入に頼っていることを知り、世界と仲良くしていく必要性を感じる。	①資料(映像や写真)を見て、お好み焼きが有名な和食であることを知る。 ②資料(映像や掲示物)を見たり、ゲームをしたりして、お好み焼きの材料のほとんどが外国からの輸入に頼っていることを知る。 ③自分たちはこれから、外国とどう付き合っていけばよいのか話し合う。	○動画「お好み焼きの作り方」 ○ゲーム ○「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集(JICA地球ひろば)
3	パラグアイのことを知ろう	○パラグアイの基本情報を、映像を通じて知ったり、実物に触れて体験したりすることで、外国に対する関心を高める。	①パラグアイの基本情報(国旗、言語、人や街の様子等)を、映像を通じて知る。 ②実物(お金、伝統刺繍等)に触れる。 ③日系人を紹介し、パラグアイと日本の繋がりを意識する。	○PPT [パラグアイの基本情報] ○パラグアイのお金 ○ニャンドゥティ
4	パラグアイの遊びをやってみよう	○パラグアイの遊びを体験することで、外国に対する興味・関心を高める。	①パラグアイの遊びを体験する。 ②日本の遊びとの共通点や相違点について話し合う。	○PPT「パラグアイの遊び」 ○コマ ○トランプ
5	パラグアイ料理を作ってみよう	○パラグアイ料理を体験することで、外国に対する興味・関心を高める。	①パラグアイ料理(タジャリン、チーパ、マテ茶、コシード)を作る。 ②パラグアイ料理を食べる。 ③日本の料理との共通点や相違点について話し合う。	○PPT「パラグアイの料理」
6	パラグアイの学校を体験してみよう	○パラグアイの学校生活を体験することで、外国に対する興味・関心を高める。	①パラグアイの時間割を体験する。 ②パラグアイの文房具や教科書、ノート等に触れて使ってみる。 ③日本の学校との共通点や相違点について話し合う。	○PPT「パラグアイの学校生活」 ○文房具、教科書
7	パラグアイの困っていることは何?	○カテウラの貧困事情や音楽団の活躍を知ること、発展途上国のために働きかけようとする気持ちを高める。	①「スラムにひびくバイオリン」を読む。 ②カテウラの貧困事情を知り、廃材を売って生活している人の仕事をロールプレイで体験する。 ③カテウラ音楽団について知り、廃材から作られたバイオリンに触れる。 ④自分たちでできることはないか、話し合う。	○PPT「カテウラ音楽団」 ○廃材から作られたバイオリン

8 本時	パラグアイの友達からの手紙に返事を書こう	○手紙の返信を受け取り、それに対する返事を書くことで、パラグアイや外国に対する興味・関心をさらに高める。	①パラグアイクイズに答える。 ②子ども達が自分で書いた手紙が、実際にパラグアイの子どもたちに教師を介して手渡され、返事を書いてもらった動画を見る。 ③パラグアイの友達からの手紙に、返事を書く。	○PPT「パラグアイクイズ」 ○動画「手紙の返信」
---------	----------------------	--	--	------------------------------

7. 本時の展開（8時間目） 本時のねらい： ○パラグアイクイズに取り組むことにより、現地の文化を再度理解し、外国に対する意識を高める。 ○手紙の返信を受け取り、返事を書くことで、パラグアイや外国に対する興味・関心をさらに高める。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (10分)	○前時までの学習内容を振り返る。(一斉) ・掲示物を見たり、パラグアイクイズに取り組んだりすることにより、前時までの学習の振り返りをする。  ○学習課題を伝える(一斉)	○学習計画表やそれまでの学習活動を写した写真や掲示物、実物を見せ、学習内容を想起させやすくする。	○学習計画表 ○三択パラグアイクイズ ○ニャンドゥティ ○マテ茶
展開 (28分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     パラグアイのともだちからのてがみに へんじをかこう                 </div> ○手紙の返信を渡し、パラグアイに対する気持ちを高める。(一斉) ・動画を見て、手紙の返信を受け取る。  ○手紙の返事を書かせることで、パラグアイに対する気持ちをさらに高める。(個別) ・パラグアイの友達からの手紙に、返事を書く。  ○手紙の内容を全体で共有させる。(一斉) ・全員の前で、手紙の内容を発表する。	○手紙のやり取りをしている動画を見せることで、パラグアイの小学生に対する興味・関心を高める。  ○黒板にパラグアイクイズの答えを貼ることで、返事の内容の参考にさせる。  ○パラグアイに対する興味関心が高まったことがわかる内容を、全員の前で称賛する。	○動画 ○手紙の返信  ○クイズの答え
まとめ (7分)	○本時の振り返りをさせる。(個別) ・本時の振り返りを、振り返りカードに記入する。  ○次時の予告を伝える。(一斉)	○全員で考えた活動を、これから実践していくことを伝え、見通しを持たせる。	○振り返りカード
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ○パラグアイクイズに意欲的に取り組むことができる。 →【行動観察】クイズに意欲的に取り組む行動が見て取れれば、外国に興味を持ち進んで関わろうとする態度が身に付いたことがわかる。 ○これまで学習してきたことを元に、パラグアイの友達からの手紙に返事を書くことができる。 →【手紙】パラグアイの友達に向けた手紙の内容に、相手の置かれた状況を理解したり、気持ちに共感したり、学習したこと等が書かれていれば、外国への興味関心が高まったことがわかる。			

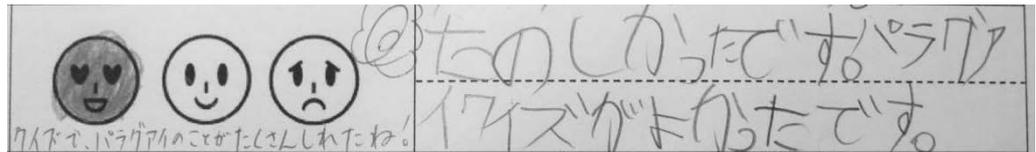
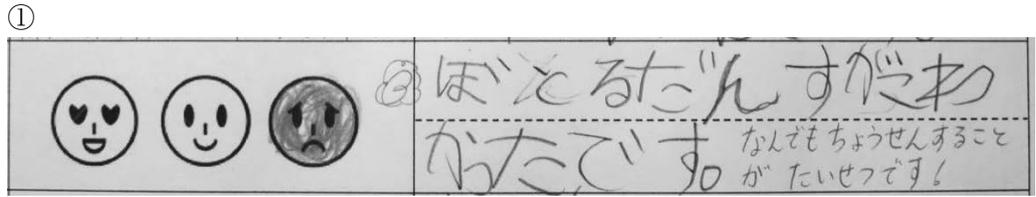
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>○クイズ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちは、基本的にクイズが大好きである。そのため学習の導入で用いることにより、学習内容に対する興味関心を高めたり、それまでの既成概念を壊したりすることにも繋がる。</li> </ul> <p>○パラグアイ大使館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カテウラ音楽団の廃材から作った楽器を子どもたちに見せたかったため、パラグアイ大使館まで出向き、閣下の私物であるバイオリンを借りた。授業では、カテウラ音楽団が演奏している映像とともに借りてきたバイオリンを子どもたちに見せて体験させることで、学習内容の理解が深まった。</li> </ul> <p>○サンタエレナ小学校で活動する山口隊員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現地の子どもたちと手紙の文通を行うため、実際に海外研修で訪れた小学校で活動する山口隊員に協力をお願いした。その結果、子どもたちは相手意識を持って手紙を書くことができた。また、相手から手紙をもらう動画を見せることで、外国に初めて友達ができたと喜びを感じさせることができ、外国に対する興味関心をさらに高めることができた。</li> </ul>
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>○職員に対する研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パラグアイで学んできたことを、校内で職員に1時間程度で紹介した。現地の教育の現状とSDGsについて伝えることで、国際理解教育の大切さを職員全体で再度認識することに繋がった。</li> </ul> <p>○エコキャップ運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7時間目に「パラグアイの人たちのためにできること」をテーマにした話し合いの中から、「薬を送りたい」という意見があった。そこで、近くの区役所で行っている「エコキャップ運動」に着目させ、クラス内で行っている。これからは、この活動を校内放送や文書を通して全校に広めていく。</li> </ul> <p>○世界のエコに関する授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4年生が「世界のエコ」をテーマに総合的な学習の時間に取り組んでいたため、パラグアイのエコを教材にした授業を4年生の学年全体に行った。それまで学習したことをまとめるだけの子どもたちであったが、学習後まだ使える紙を裏紙として回収したり、手を洗うときに節水を心がけたりする姿が見られるようになった。</li> </ul>

【自己評価】

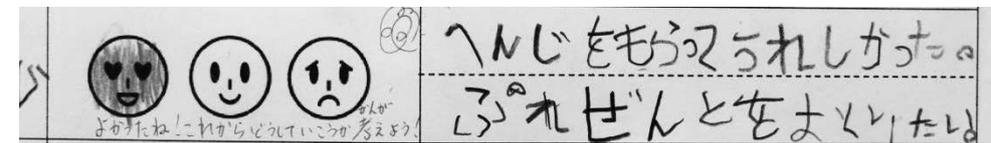
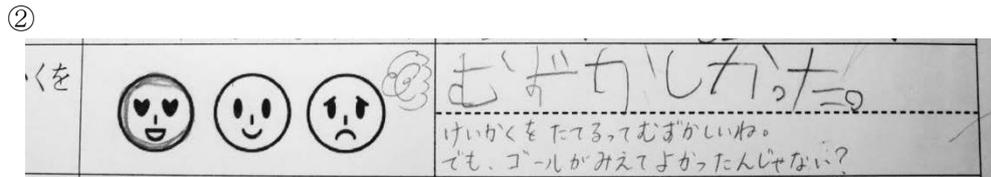
<p>11. 苦労した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの実態に差があるため、学習内容が難しい授業では、どんなに教材を視覚化したとしても理解させることに苦労した。</li> <li>教材の視覚化と体験化を常に意識して行ってきたため、授業の準備に時間がかかり大変だった。</li> <li>初めてのことに對して、極度に不安感を募る子どもがいたため、いくつか学習内容を体験させることができなかった。場合によっては、外国は怖いという先入観を植え付けてしまう可能性があるため、常に気を付ける必要があった。</li> </ul>
<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの「パラグアイの何を学習したいか」というアンケートの結果から、今回の単元を設定した。そのため、クラスの実態によっては単元の内容が大幅に変わることが考えられる。</li> <li>7時間目は内容が多いため、2時間に分ける必要がある。後半の子どもたちの話し合いの時間を多めに取り、これからどう外国の人たちに働きかけたいのか、自分たちで意見が出せると、より意識を高めることができる。</li> <li>行事に関わりのある「お好み焼き」を導入で用いたが、クラスの実態や行事によっては、別の日本の食べ物にした方が子どもの興味を惹くことができる。</li> </ul>
<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が日本に住んでいることや外国という概念すら無かった子どもたちだったが、世界にはたくさんの国があるということやパラグアイと日本の違い等を理解することができた。</li> <li>パラグアイの子どもたちに手紙の返信を書く学習では、パラグアイを好きになったことや相手の子どもたちの気持ちを考えた文を書くことができ、国際理解の素地を育むことができた。</li> <li>学習を始めたばかりの頃は、様々な体験活動に不安感を持っていた子どもたちだった。しかし、学習を進めていくうちに積極的に外国の文化を体験してみようと試みる子どもが増えていった。寛容の気持ちを育むことができた。</li> </ul>

14. 学びの軌跡  
(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

下記の文は、子どもたちの振り返りカードより抜粋したものである。  
①は、学習が始まった当初、体験活動を怖がっていた子どもの感想である。教師の手本や、友達が体験している様子を見たりしながら、少しずつ慣れさせることができた。最終的に、パラグアイクイズにも意欲的に取り組む姿が見られた。



②は、当初この単元の学習内容に興味あまり無く、かつ難しいと感じていた子どもの感想である。学習中、座っている時間が長かったり、教師の説明ばかりを聞いていたりすると、特に難しく感じてしまうようであった。そのため、教材を動画などで視覚化したり、実物を用いて体験活動を多く取り入れたりすることで、集中して学習に取り組むことができた。その結果、本時を終えた後の感想で、パラグアイの友達に関心を寄せるコメントを書くことができた。



15. 授業者による自由記述

今回の教師海外研修は、自分の教師人生を考え直すほどの貴重な体験となった。14日間の研修期間だったが、自分の人生の14年間に匹敵するほどであった。その研修で学んできたことを、いざ授業で生かそうとするとあれもこれもアイデアが思い浮かび、知識の詰め込み型の学習になってしまったり、たくさん扱った挙句に結局何を子どもたちに身に付けさせたいのか分からなくなったりする授業になりがちである。そのため、子どもの実態を考慮した上で、思い切って内容を厳選することが大切だと感じた。厳選された内容を教えることにより、子どもは自発的に学習に取り組むようになり、結果的に興味関心を広げることに繋がった。

教師という職に就いていて本当によかった。自分の夢は、「世界が平和になること」だ。その唯一のカギは、「教育」だと信じている。これからも国際理解教育を推進していき、これからの「答えのない時代」に逞しく生き、平和な世の中を創る人材育成のため、これからも精進していく所存である。

10万円のバッグを買うより、こちらの研修に参加したほうが、何倍も自分への投資になる。迷っている先生方は、ぜひ応募を！！

参考資料：

- ・「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集（JICA地球ひろば）
- ・ESDフォト・クリップ教材集（製作：社会福祉法人東京コロニー）

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	須賀 与恵	学校名	埼玉県 川口市立 小谷場中学校
担当教科等	数学	対象学年(人数)	1学年( 84 名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2019年 7月 ～ 12月( 4時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 総合的な学習の時間		
2. 単元(活動)名： 持続可能な社会をつくる私たち		
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ： 持続可能な社会をつくる私たち  単元目標： 持続可能性とは何かを理解し、世界で起きている問題を自分ゴトとして考え、自分たちにできることを選択して実行しようとする態度を養う。  関連する学習指導要領上の目標： 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で起きている問題について知る。</li> <li>・持続可能性とは何かを理解する。</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で起きている問題や、身近な問題に目を向け、課題を見つける。</li> <li>・情報を整理分析し、必要とされる事柄を自分の言葉で表現する。</li> </ul>
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協調学習を通して、自分の考えを述べたり、相手の意見を聞いたりしてさらに学びを深めている。</li> <li>・世界で起きている問題を自分ゴトとしてとらえる。</li> <li>・自分にできることを見つけ、実行する。</li> </ul>
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>2030年までに達成すべき目標、SDGs(持続可能な開発目標)は、複雑に絡み合う経済・社会・環境問題に対し、すべての国と人々が取り組むことを求めている。開発途上国だけでなく、日本を含む先進国も国内目標を設定し、開発の恩恵から誰一人取り残されない、持続可能な世界の実現を目指している。2030年という年は、中学生の子どもたちが成人するところである。子どもたちが社会に出て、様々な場面で活躍する際に、SDGsの概念を取り入れながら行動を起こしてほしいと考え、本単元を設定した。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>本単元では、アフリカ・ザンビアの一面を基にして、世界の課題と日本の課題に向き合っていくものである。アフリカの現状を知り、遠く離れたアフリカと日本とのつながりを感じることで、世界で起きている問題を自分ゴトとして捉えられるようになっていった。また、世界の課題と、日本の課題をつなげて考えることで、身近なところで少し工夫すれば、持続可能な社会の構築につながると気づくことができるのではないかと思う。本単元では、この「つながり」を重視して学習を進めていく。</p>	

【生徒観】

子どもたちは、世界で起きている問題に関して興味を持っており、学んだことから、次に調べたいことをみつける姿勢が見られる。グループ活動も意欲的に参加し、自分の考えに自信をもって発表する生徒が多い。友達の意見を聞いて共感したり、さらに学びを深めたりする生徒が多いため、一方的に知識を与えるのではなく、積極的にグループワークを取り入れて学習を進めていく。また、職業体験を通して、SDGsに関わる取り組みをしている事業所もあったため、その経験も踏まえてさらに学びを深めていきたい。

【指導観】

日本と世界のつながりを持たせることで、世界で起きている問題を自分ゴトとして捉えられるようにする。また、身近な課題を見つけ、自分にできること実行していく力を養っていく。授業の終末では、毎回「今後調べてみたいこと」を記述させ、その内容を可能な限り次の授業に生かしていく。また、子どもたちの今までの経験を話し合わせながら、身の回りの課題に目を向けて、解決策を考えていく。

6. 単元計画（全4時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	負の連鎖を断ち切ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>負の連鎖のメカニズムを知る。</li> <li>SDGsについて知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育が受けられないことで起きる「負の連鎖」について考える。</li> <li>「負の連鎖」を断ち切るにはどうすればよいか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際理解教育実践資料（JICA 地球ひろば）</li> </ul>
2	ザンビアってどんな国？	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの現状について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師海外研修で、どんなことをしてきたか紹介する。</li> <li>ザンビアに関するクイズをグループで考えて答える。</li> <li>国歌、民族楽器、民族衣装、お金、食べ物を実際に聞いたり、触ったり、食べたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアで撮影した写真や映像</li> </ul>
3 本時	もし、あなたが青年海外協力隊になったとしたら何をやる？	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの現状をとらえ、必要な仕事は何か考える。</li> <li>自分だったらどんな仕事に就くか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの現状や課題を提示し、それについて必要十分な仕事についてグループで考えださう。</li> <li>必要な仕事の中から、自分だったら何をやるかを理由とともに考え、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアで撮影した写真や現地でのインタビューした内容</li> </ul>
4	食を通して世界に目を向けよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のフードロス問題を解決するために、自分たちにできることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本で起きているフードロスの現状を知る。</li> <li>フードロスをなくすため、普段の生活の中で、少し工夫すればできることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハンガーマップ（W P F 国連世界食糧計画より）</li> <li>フードロスの特集したニュース映像</li> </ul>

7. 本時の展開（3時間目）

本時のねらい：ザンビアの課題を捉えて必要な仕事を考え、自分が青年海外協力隊になるとしたら何をするかを考える。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<p><b>導入</b> (5分)</p>	<p>◎前時のふりかえり ザンビアの国についてどんな印象を持ったか。 ・ 貧しい ・ ストリートチルドレンがシンナーを吸っていた ・ 虫を食べている ・ 寿命が短い ◎ザンビアで活動している協力隊は 80 人いる。 本時のテーマを伝える</p>		<p>ザンビアで撮影した写真や、提供された資料。</p>
<p><b>展開</b> (40分)</p>	<p>もし、あなたが青年海外協力隊になったとしたら、何をする？</p> <p>◎ジグソー法を用いて資料を読み解く ジグソー法の説明 (3分) エキスパート (10分) ・ A：教育、B：経済産業、C：貧困・健康医療のグループに分かれて、それぞれでザンビアに必要な仕事は何か、意見を出し合う。</p> <p>ジグソー ・ 上記A、B、Cの資料を持ち寄って、さらに必要な仕事は何か、意見を出し合う。(10分) ・ 話し合っ出てきた仕事の中から、自分がもし青年海外協力隊になったら何をするか選ぶ。(5分)</p> <p>クロストーク (10分) ・ 自分が選んだ仕事を理由とともに発表する。</p>	<p>資料の内容が読み取れない生徒には、適宜アドバイスをしたり生徒同士で教えあうように声掛けをする。</p> <p>ザンビアの現状から、最も優先すべき仕事は何か考える</p> <p>ワークシートの原稿をもとにして発表する。</p>	
<p><b>まとめ</b> (5分)</p>	<p>・ 孤児院で会ったムタレ夫人のインタビューを聞く。 ・ 今日の授業で感じたこと、今後調べてみたいことをワークシートに記入する。(5分)</p>		<p>インタビュー動画</p>

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

(ワークシート)

- ・ ザンビアの現状をとらえ、それに必要な仕事について考えている。
- ・ 最も優先すべき仕事を選び、自分だったら何をするか考えている。

## 9. 学習方法及び外部との連携

(学習方法)

- ・協調学習の一手法であるジグソー法を用いる。課題を解決するための資料を3つのジャンルに分け、3人1グループの1人ずつが3ジャンルのうち1つを受け持って読み取りを行う。資料をみて気づいたことやわかったことを、3人が持ち寄って教えあいながら課題を解決し、学びを深めていく。膨大な量の情報を素早く処理し、見つけた課題から必要とされる事柄を考えていく必要があったため、ジグソー法が効果的であると考えた。

## 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

学校外で行われているセミナーやワークショップに積極的に参加し、情報を多く入手した。また、そこに参加している社会人や学生に、学校現場で行われている国際理解教育の現状や、教師海外研修で得た情報などを共有した。

以下、実際に参加したセミナーやワークショップの主催団体名（一部）を載せておく。

**【JICA 地球ひろば、開発教育協会 DEAR、JUNEC こども国連環境会議推進協会、SDGs100人カイギ、渋谷区 SDGs 協会、ユネスコスクール東京都江東区立八名川小学校、埼玉 NGO ネット地球市民学習】**

### 【自己評価】

11. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者がアフリカ、ザンビアを学習する必然性を見いだすこと。</li> <li>・子どもたちが、より身近に感じられる課題を選び、資料を選定したこと。</li> <li>・単元計画や時数を1から設定したこと。</li> <li>・教科横断的に学習を進めていくため、各教科で、いつ何を学んでいるか、教科担当の教員と話し合っって単元を構成したこと。</li> <li>・学年全体に授業を行ったため、時間割の調整や学習場所の調整を行ったこと。</li> <li>・他の教員にも授業実践を行ってもらえるように、資料の内容や提示の仕方を工夫したこと。</li> </ul>
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年職員と連携をし、計画を立てて授業実践を行うことが大切だと感じた。</li> <li>・教科横断的に実践を進めていくために、各教科でいつどんなことを学んでいるのか、学校全体で共有していくカリキュラム・マネジメントが非常に重要であると感じた。</li> <li>・学校で設定されている総合のカリキュラムと、SDGsの概念を組み合わせる単元計画を立てられるとよいと思った。</li> </ul>
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動や映像資料を多く活用することで、子どもたちはより世界の現状に興味をもって考えるようになったと思う。</li> <li>・身近な存在である「食」を通して世界の課題を考えたことにより、フードロス問題に対して日頃から気を付けていく姿勢が身についたように思える。</li> <li>・子どもたちが学んだことを家庭でも話題にしてくれたり、保護者会で授業実践報告をする機会をいただいたりしたことで、保護者の方々も世界の現状やSDGsに興味を持ってくれた。</li> </ul>

14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

⑥ 本日の授業をふりかえって、気づいたこと、感じたこと。

なぜ貧富の差が生れるのか？なぜこのような問題がな  
らならないのか？授業の話を聞いているうちに疑問が  
次々に浮かび上がってきました。世界の現状を知ることが  
できたのでとてもいい授業になったなと思いました。

日本は困っていることはそんなにないが、日本のあたり前が世界では全然  
あたり前じゃないんだと思った。2030年までにSDGsを達成するには、本当に  
世界全体で協力しなければいけないんだと思った。

世界には貧困に苦しむ人がたくさんいることを知りました。私たち日本  
人は他の国に貿易などで輸入をおこなってすごく助けられていま  
す。だから、何かの恩返しをしたい!!!と思いました。そうやってお互いが  
協力して、助け合い、いつか世界が一つになるといいなと思います。

世界にはザンビアのようなひどい人差別がある国が  
あると再認識した。ザンビアは、自然が美しくいい国だが、  
でも人々のひどい差別と貧乏の差をどうせよくなって  
いかを考えると、ザンビアの生活問題に気づいて  
点検して考えることができた。

15. 授業者による自由記述

教師海外研修に参加したことで、自分の知見や人脈の幅が大きく広がった。他校、他  
県の教員とのつながり、それぞれの学校で行っている国際理解教育の取り組みについ  
て情報交換をすることができた。また、外部のセミナーやワークショップに参加し、一  
般企業の人たちや学生たちと一緒にSDGsに関する課題を解決するために意見交換す  
る機会を多く持つことができた。特に、中学生や高校生と同じワークショップに参加し  
て共に学んだことは、とても貴重な経験である。自分の現場の子どもたちと同じ目線  
で、それぞれの成長段階における考え方や、興味を示すものなど聞くことができたた  
め、大変勉強になった。

この一年間を通して、教師の役割は、知識や技術をただ教えるのではなく、人と人と  
をつなげたり、より良い学びの場をつくったりすることなのだ改めて感じた。教師が  
積極的に外の世界へ飛び込んでいき、学校現場と外の世界とをつなげる役割を果たす  
ことが大切である。自分は今後もその役割を果たすことに尽力していこうと思う。

## 【参考文献】

- ・「身近な課題の解決に挑む 未来の授業 私たちのSDGs探求BOOK」監修：佐藤真久  
編集協力：認定NPO法人ETIC
- ・「知っていますか？SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール」制作協力：公益財団法人 日本ユニセフ協会
- ・「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」編著：一般社団法人 Think the Earth 監修：蟹江憲史
- ・「実践 地方創生×SDGs 持続可能な地域のつくり方 未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン」著：笥裕介

## 【Web資料】

- ・JICA 地球ひろば <https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/material/index.html>
- ・国連世界食糧計画 World Food Programme 「ハンガーマップ」 [https://ja.wfp.org/hunger\\_map](https://ja.wfp.org/hunger_map)
- ・金沢工業大学 SDGs カードゲーム「クロス」 <https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/application.html>

## 【映像資料】

### <SDGs 関連映像>

「持続可能な開発とは？」

<https://www.youtube.com/watch?v=1c48vhokWLQ&list=PLS1pzqasRZ4FrzMxeBPtMI5ZkCVzNiY9h&index=14>

### <フードロス関連映像>

「フードロスをどう活かす？(2012-06-09) その2.mov」

<https://www.youtube.com/watch?v=ZAAVv7c3nDU&list=PLS1pzqasRZ4FrzMxeBPtMI5ZkCVzNiY9h&index=32>

「REDUCE THE FOOD LOSS (リデュース ザ フードロス) 小さな食卓の大きな話」

<https://www.youtube.com/watch?v=6OrbO7dGHNQ&list=PLS1pzqasRZ4FrzMxeBPtMI5ZkCVzNiY9h&index=31>

「【ザ・解説】食品ロス対策、コンビニ各社も動き始めた」

<https://www.youtube.com/watch?v=kWgvVX7ep1c&list=PLS1pzqasRZ4FrzMxeBPtMI5ZkCVzNiY9h&index=35>

「SDGs GOAL2 飢餓をゼロに」

<https://www.youtube.com/watch?v=ogKaa2TbpBY&list=PLS1pzqasRZ4FrzMxeBPtMI5ZkCVzNiY9h&index=6>

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	金丸 恵美	学校名	東京都 八丈町立三根学園富士中学校
担当教科等	道徳・国語 総合的な学習の時間	対象学年（人数）	2年 A組（28名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年9月～12月（5時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：道徳・国語・総合的な学習の時間		
2. 単元(活動)名：道徳（C-16 郷土愛，C-18 国際理解教育） 国語（「話し合っって他の意見や考えを受け入れ考えを広げよう」）・総合的な学習の時間（キャリア教育）		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ： 「八丈島をよりよくするために—今すべきこと—」というテーマで話し合おう 単元目標： 話し合っって考えを広げよう 関連する学習指導要領上の目標： 相手の意見や考えを尊重し、互いの発言を比較・検討しながら自分の考えを広げる。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	・意見と根拠，具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。（情報）
	②思考力、判断力、表現力等	・目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、検討すること。（話すこと・聞くこと） ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。（話すこと・聞くこと）
	③学びに向かう力、人間性等	・友達の意見と比較することで、自分のものの見方、考え方を深め、広げようとしていること。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b> 昨年度は「地域と共に生きる～八丈島の魅力を観光客に紹介しよう～」というテーマで、島民ならではの視点で故郷の魅力をアピールするスピーチを行った。それを受けて、本単元では、故郷の課題を解決するというテーマを設定した。</p> <p><b>【単元の意義】</b> 生徒たちに、恵まれない環境でも一生懸命生きている開発途上国の子供たちの姿を伝え、生徒一人一人に自信をもたせる。さらに、開発途上国が先進国日本より優れている点を紹介することにより、人間関係が希薄である「東京」に比べ、人間味あふれる島民の温かさに気づかせ、故郷に誇りを抱かせる。</p> <p><b>【生徒観】</b> 現任校の生徒たちは、島外に目を向け、新しいことにチャレンジし、自分の可能性を広げようとせず、島内の限られた選択肢の中で進路先を決める傾向がある。また、内地の都心を「東京」と呼び、故郷の島にコンプレックスを抱き、自己肯定感が低い生徒が少なくないのが現状である。</p> <p><b>【指導観】</b> 「島民ならではの視点」と「持続可能な視点」の二つの観点で、ワールドカフェ方式で話し合い、多様な意見を導き出す。SDGs や開発途上国の現状、国際協力について学習してきたことが活かされた、故郷の課題解決案が考えられるようにする。</p>	

6. 単元計画（全5時間）				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	道徳科 B-（9） いろいろな物の見方や考え方があ ることを理解する。	SDGsの目標を全世界が達成したら、地球はどのように変わるの だろうか。  （身近なものから、地球が一つであることを実感しよう）	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの目標を確認する。一つの国だけががんばったり、100%を目指さなかったりしたらどうしてダメなのか、考える。</li> <li>JICAカードゲーム『モノはどこからきているの？』を使って、身近なものが実は海外からの輸入に頼っている事を理解する。</li> <li>地球が一つであることを実感した体験から、SDGsの目標を全世界が達成したら、地球はどのように変わるのか、自分なりの考えをノートに書く。</li> </ul>	JICAカードゲーム『モノはどこからきているの？』
2	道徳科 C-18. 国際理解教育 C-17. 郷土を愛する態度	開発途上国の新しい視点を知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「開発途上国」に対するイメージを発表する。</li> <li>アフリカのザンビアという国の説明を聞き、日本より優れている点を理解する。</li> <li>八丈島が「東京」より優れている点を発表する。</li> </ul>	リビングストーン の観光パンフレット （シニアボランティア横山敬子さん作成）
3	道徳科 A-4 希望と勇気、克己と強い意志	ザンビアの子供たちに共通するものは何か考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤児院の子供たちのインタビュー映像を見る。</li> <li>孤児院の子供たちの逆境に負けない前向きな姿はどんな気持ちからくるものなのか、考える。</li> <li>今後の生活にどのように活かしていくか、発表する。</li> <li>日本の子供たちに向けたメッセージ映像を見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちの写真（研修で入手した素材）</li> <li>インタビュー動画（孤児院の子供たち）</li> </ul>
4	総合的な学習の時間 キャリア教育 道徳科 C-12 社会参画 公共の精神	協力隊の活動を知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿舎の様子や食べ物などの写真を見て、たった一人で地域の活動に従事する協力隊の姿を知る。</li> <li>先進国の価値観を押し付けるのではなく、開発途上国の良さを生かした援助の方法を学ぶ。</li> <li>先進国の力で復興させるのではなく、現地の人を育てることで復興につなげる、持続可能な援助の方法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力隊の日々の様子の写真</li> <li>協力隊のインタビュー動画</li> </ul>
5 本時	国語科 「話し合っ て他の意見や考えを受け入れ考えを 広げよう」	「八丈島をよりよくするために—今すべきこと—」というテーマで話し合おう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの視点で現在課題となっている八丈島の問題を挙げる。</li> <li>ワールドカフェ方式で話し合い、多様な意見を出し合い、自分の意見を広げる。</li> <li>課題解決策を前時の協力隊の活動から学んだ持続可能な援助の方法を参考にし、中学生でもできる解決策を話し合いまとめる。</li> </ul>	『共につくる私たちの未来』（JICA地球ひろば）

### 7. 本時の展開（5時間目）

本時のねらい：「八丈島をよりよくするために—今すべきこと—」というテーマで話し合おう。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 （支援）	資料（教材）

**導入**

○ 「八丈島をよりよくするために一今すべきこと一」に対して、他の班員との意見を比較し、自分の考えを広げる。本時の学習の目標を確認し、授業の見通しをもつ。

○ 前時に決めた班の課題を確認する。

1 班…SDG 8 八丈島の認知度を上げるには？

2 班…SDG 12 ごみ処理の問題

3 班…SDG 4 体育館にエアコンを設置

4 班…SDG 15 外来種から島民のくらしと自然を守る

(5分)

5 班…SDGs14 海洋プラスチックごみ

**展開**

○ 生活班（5，6人）で決めた課題に対する解決策をまとめる。

・個人の意見を付箋に書き出し、どこでもシートに貼っていく。（1人3枚以上）



○ ワールドカフェ方式で、発表者（班長）以外の班員はそれぞれ他の班に移動し、各班で話し合った情報を共有する。

・「島民ならではの視点」「持続可能な支援」



○ 生活班に戻り、他の班で得た情報を共有する。

・聞き手は、「島民ならではの視点」「持続可能な支援」という二つの観点で評価することを確認する。

・班の話し合いの方法を、町役場で行われたSDGsグラフィックレコーディングワークショップを例に、説明する。

・ワールドカフェの話し合いの中で、班長以外の班員は、どの班の発表を聞くか、分担を決めさせる。

・どこでもシートに、なるべく多く班員の考えを書き込み、つなげさせる。

・南海タイムス（地元新聞）や『共につくる私たちの未来』（JICA地球ひろば）、道徳ノート、八丈町基本構想・基本計画を参考にさせる。

・「島民ならではの視点」「持続可能な支援」という二つの観点で、班の解決策をまとめる。

・グループごとに情報を共有し、ワークシートに記入させる。

・どこでもシートを壁に貼り、班長が他の班の人に発表させる。

・自分の意見と比較することで、多様な表現方法があることを理解し、自分の班の発表で活かしたいことを書かせる。

・二つの観点で指摘された改善点から、自分たちの考

・「どこでもシート」

・ペン

・南海タイムス（地元新聞）

・『共につくる私たちの未来』（JICA地球ひろば）

・八丈町基本構想・基本計画

<p>(35分)</p> <p>まとめ</p> <p>(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の班の発表の良かった点、他の班員から出たアドバイスなどを、ワークシートに書く。</li> </ul> <p>○本時の授業を振り返り、目標が達成できたかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の班の解決策を200字にまとめる。</li> </ul> 	<p>えた解決策と改めて向き合あわせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の班の発表やアドバイスをもとに改善し、よりよい解決策を導き出させる。</li> <li>・作文の構成を確認する。</li> </ul> <p>第1段落…私たちの班のテーマは～です。</p> <p>第2段落…初めは～という解決策でした。</p> <p>第3段落…他の班のアドバイスを受けて、～のように改善されました。</p>	
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。〈知識及び技能〉(情報)【観察】</li> <li>・目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、検討している。〈思考力、判断力、表現力等〉(話すこと・聞くこと)【観察・どこでもシート】</li> <li>・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。〈思考力、判断力、表現力等〉(話すこと・聞くこと)【観察・200字帳】</li> <li>・友達の意見と比較することで、自分のものの見方、考え方を深め、広げようとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉【観察】</li> </ul>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>八丈島内の小中学校6校における国際理解教育に、JICAの国際理解教育のためのプログラム教育「国際協力出前授業」を各校の来年度の教育課程に組み込む予定。</p>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修における教職員対象の報告会の実施。</li> <li>・八丈町役場企画財政課主催の「SDGs グラフィックレコーディングワークショップ」に参加。「10年先の島を想う」というテーマで、SDGsの観点から来年度策定予定の次期基本構想を島民同士で話し合った。ワークショップの目的は、以下の5つである。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①SDGsの価値を理解する</li> <li>②課題解決に向けた未来ビジョンの想像</li> <li>③八丈町の価値化認識</li> <li>④多様なパートナーシップによる協働意識の醸成</li> <li>⑤創造的な基本構想案のモチベーション</li> </ol> </li> <li>・ユネスコスクールへの加盟申請(2019年11月～チャレンジ期間)             <ul style="list-style-type: none"> <li>ASPUnivNet 支援大学 成蹊大学サステナビリティ教育研究センター</li> </ul> </li> <li>・八丈島出身の青年海外協力隊とのネットワークの構築</li> </ul>			

【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ザンビア」という聞いたこともない国のことについて、興味を抱かせ、自分事として考えさせること。</li> <li>・SDGsという地球規模の考えを身近な問題として捉えさせること。</li> <li>・中学生でも故郷の問題に向き合い、解決できる力があることを実感させること。</li> </ul>
<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを「八丈島」と限定してしまったので、他の地域の学校の実践が限られてしまう。</li> <li>・今回の授業が生徒一人一人の主体的な活動にまでつなげられなかったので、次年度の課題としていきたい。</li> <li>・班内の話し合い活動の方法を事前に伝授しておくべきだった。個で考えた意見をKJ法などでまとめたり、班を移動した後に班長を司会に話し合いがスムーズに流れたりできるよう指導しておくべきだった。</li> </ul>
<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発途上国の問題を自分事として考えられるようになり、感想文の内容に変化が見られたこと。</li> <li>・故郷の問題解決案として、海洋プラスチックごみを減らすため、ゴミ箱も天然素材のものにするなど、中学生らしいアイデアが自然と出てきたこと。</li> <li>・英語科の授業とタイアップして、ザンビアの子供たちに英語で手紙を書く活動を行うことができ、同僚からも理解と協力が得られたこと。</li> <li>・実践授業に町議員の方、都立高校の教員の方などが来られ、中学生によるSDGsの活動を島内に広めることができたこと。</li> <li>・今回の授業が生徒たちにとって、開発途上国だけではなく、故郷である八丈島を知ろうというきっかけになったこと。</li> <li>・身近なテーマから多様な考えを導き出し、生徒全員の意見を話し合いに活かすことによって、自分の意見に対する自信をもたせることができたこと。</li> </ul>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>「開発途上国から私たちが学ぶべきこと」</p> <p>私たちが学ぶべきことは、人と人とのつながりが、いかに大切かということだと思います。外国人の人たちは、「日本人は優しい」と言うけど、私たち日本人からすれば、そんなことはありません。</p> <p>外国には、薬物に手を出してしまう子供、十分な食事がとれない人などが沢山います。だからこそ、みんなで協力したりと、人と人とのつながりが必要なのだと思いました。他にも、考え事をするために一人になったりすることがあるけど、それはあまり心に良くないということを初めて知りました。しかし、一人が良くないということは、いじめを受けて自殺をしてしまう人は、いじめのつらさと、一人ということのつらさで、自殺をしてしまうのではないかと考えられます。そうすると、一人でいることが心にとっても良くないのがわかります。だから、人と人とのつながりで、薬物に手を出してしまう子供や、いじめなどを止められることができ、少しでも多くの人を助けることができるから、人と人とのつながりがいかに大切なのかがわかりました。</p>

<p>15. 授業者による 自由記述</p>	<p>今回の研修では、個人旅行では味わえない体験をさせていただいたことに感謝しています。</p> <p>まず、JICAのご協力により、現地の人々と同じ目線で活躍されている青年海外協力隊の方々のお話を聞く機会をいただき、現地の実情を目の当たりにすることができました。</p> <p>次に、異校種、他県からの教員のメンバーと共に研修を受けることによって、多様な面からザンビアについて考えることができました。</p> <p>今後も以上のようなネットワークを活かして、国際理解教育に携わっていきたいと思っております。</p>
----------------------------	--

参考資料：南海タイムス（発行所 南海タイムス社）2019年度版  
 八丈町基本構想・基本計画（平成28年～32年）  
 東京都八丈町勢要覧（2017年）

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	小林 仁美	学校名	群馬県高崎市立群馬南中学校
担当教科等	英語	対象学年 (人数)	① 1年5組 (32名) ② 1年1～7組 (229名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	① 2019年11月 (2時間) ② 2020年1月～3月 (各クラス1時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：特別の教科 道徳		
2. 単元(活動)名：①「幸せってなんだろう」②「私たちにできることはなんだろう」		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：①「幸せってなんだろう」②「私たちにできることはなんだろう」 単元目標： ① パラグアイの人やクラスメイトの「幸せ」に対する考えを聞きながら、「自分にとっての幸せ」を考えることができる。 ② 日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状を知った上で、パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを知り、今の自分にできることを考える。 関連する学習指導要領上の目標： ① 向上心、個性の伸長 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。 ② 国際理解・国際貢献 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	社会科など他教科で学んだことを関連させながら考えられる。
	②思考力、判断力、表現力等	考えをまとめる際に、必要な情報を読み取り、SDGsと関連させながら考えられる。
	③ 学びに向かう力、人間性等	他者の意見を聞き、自分なりの意見を持つことができる。
5. 単元設定の理由 (生徒観、教材観、指導観)	<b>【単元設定の理由】</b> ① 自らのクラスに様々な事情で不登校になってしまった生徒がいた。クラスの中には、その生徒以外にも人間関係で悩んでいた、家族のことで悩んでいた。現状を悲観したり、自分の現状を周りのせいにしてしまうのではなく、現状は「自分の気持ち」次第で変化していくこと、自分が変化することで周りも変化することに気づいて欲しかった。そして、「幸せ」というプラスなことに目を向けさせたり、今まで目を向けなかった周りの「幸せの種」をクラスメイトから知ったりして、彼らの生活がより豊かに、そして色鮮やかにするための一助としたかった。 ② 学校の授業の中で国際理解や国際的な視点で物事を考える機会が少ないと非常に感じていた。そして、SDGsという言葉は群馬ではなかなか取り上げられていない、認知度が低いという現状があった。そのため、自身の経験を交えながら、国際的な視点、SDGsの視点で考えさせ、自分事として捉えさせたかった。 <b>【生徒観】</b> 自分自身に自信のない生徒が多い。正解のない答えでも、周りとは異なることを極端に恐れる。したがって、自分自身で考えることはできるが周りに対して発表するということが苦手な生徒が多い。 <b>【指導観】</b> ① 1時間目の最後にあらかじめ考えをまとめさせ、2時間目は自分の考えが書いてあるメモを見ながら発表させることで、考えを伝えやすくした。2時間目は、班の人、パラグアイの人など	

	<p>様々な人の「幸せ観」にふれ、「自分にとっての幸せ」を考えさせた。自分にとっての「幸せ」を発表することは、発達段階を踏まえると少し抵抗のある年齢であると思ったため、全体でなく、グループ活動にして、意見の交流を図らせた。</p> <p>② 第一に日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状、開発途上国と日本の関係を説明することによって、日本の置かれている状況、世界の置かれている状況に危機感を持たせ、自分事として考えさせた。その上で、パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを読み、自分には何ができるのか考えやすいようにした。また、バズ学習を取り入れて、相手に資料の内容や考えを伝える、あるいは相手の資料の内容や考えを聞く必然性を作り、意図的に交流の場を作った。</p>
--	---

6. 単元計画（全2時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	写真から見るパラグアイの現状	パラグアイの現状を理解させる。	視覚資料から、パラグアイの様子を見て、理解する。	・研修中に撮影した写真や動画。
2 本時	自分にとっての「幸せって何だろう」	様々な人の「幸せ観」にふれ、「自分にとっての幸せ」を考えさせる。	パラグアイの人、班の人など、多くの人の「幸せ」についての考えを聞き、自分にとっての「幸せ」を考え直す。	・研修中に撮影した写真。 ・書籍

7-1. 本時の展開①

本時のねらい：パラグアイの人やクラスメイトの「幸せ」に対する考えを聞きながら、「自分にとっての幸せ」を考えさせる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	<p>&lt;班活動&gt;</p> <p>○今の自分の幸せを共有する。</p>	<p>・前時にあらかじめ発表することを伝えておき、発表がスムーズにできるようにした。</p>	
展開 (32分)	<p>&lt;個別学習&gt;</p> <p>○ある人の考える幸せについて空欄に当てはまる語句は何かを考える。</p> <p>&lt;グループ学習&gt;</p> <p>○グループで考えを共有する。</p> <p>&lt;一斉学習&gt;</p> <p>○全体で確認し、「幸せは自分の心が決める。」というキーワードを確認する。</p>	<p>・文脈から考えられる文章を用意し、空欄の言葉を考えやすくした。</p> <p>・自分の考えと周りの考えを聞くことにより、考えをより深められるようにした。</p> <p>・パラグアイ農家の例を出し、幸せというものは「心」が決めるということを理解できるようにした。</p>	<p>・「ありがとうとお金の法則」著：小林正観</p> <p>・現地の農家でのインタビュー</p>

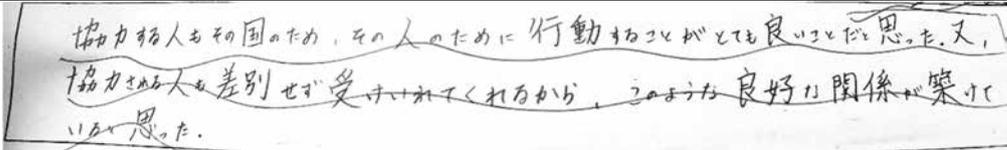
	○これからの生活を「幸せな心」を持つ時のヒントを伝える。	・現状を悲観したり、自分の現状を周りのせいにしたりするのではなく、現状は「自分の気持ち」次第で変化していくこと、自分が変化することで周りも変化することを気づかせるような声かけをした。	
<b>まとめ</b> (13分)	<個別学習> ○授業の振り返り 「幸せ」について再考  <グループ学習> ○考えを発表し、「幸せ」についての考えが変化したかを話す。  <一斉学習> ○クラスみんなに発表する・	・振り返る視点を与え、参考になるようにした。  ・考えを共有することで、考えの整理をさせた。  ・クラスみんなの意見を聞き、さらに自分にとっての「幸せ」との相違点を発見させた。	
8-1. 評価規準に基づく本時の評価方法 1. 「幸せ」とは何か自分なりの考えを持つことができた。 2. 友だちの「幸せ観」を聞くことができた。			
7-2. 本時の展開② 本時のねらい：日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状を伝えた上で、パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを読ませ、今の自分にできることを考えさせる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<b>導入</b> (2分)	<講義> ○本時の学習の流れを説明する。	・学習の見通しを持たせる。	
<b>展開</b> ①(23分)	○日本の現状、パラグアイなどの開発途上国の現状、世界の現状、開発途上国と日本の関係を説明する。	・日本の置かれている状況、世界の置かれている状況に危機感を持たせ、自分事として考えさせる。 ・クイズ等取り入れ、興味を持たせるようにした	・事前研修 ・現地で参加した青年海外協力隊の方々との交流会で行われたクイズ ・現地で撮影した写真
②(20分)	<バズ学習 班活動> ○パラグアイで活躍している日本人やパラグアイの人々の考えや思いを	・相手に資料の内容や考えを伝える、あるいは相手の資料の内容や考えを聞く必然性を作り、意図的に交流の場を作った。	・現地でのインタビュー ・現地の写真

	<p>読む。</p> <p>○SDGs との関連を考える。</p> <p>○自分には何ができるのか、読んだ感想を書く。</p> <p>○1人1分ずつくらいで、班員に発表する。</p> <p>○大切だと思うことのメモをとる。</p>	<p>・ワークシートにメモをする欄を設けたが、第一の目的はメモを取るのではなく、相手の考えを聞くことであると伝え、忘れたくない重要なキーワードのみメモを取るよう指示をし、目的の確認をした。</p> <p>・SDGs 資料を用意し、関連させることが難しい生徒の参考になるようにした。</p>	<p>・地球ひろばのSDGs に関する資料</p>
<p><b>まとめ</b> (5分)</p>	<p>○振り返りをする。</p>	<p>・自分の取り組みを自分の言葉でだけでなく、項目を用意して振り返りやすくした。</p> <p>・項目と自由記述の部分を作り、振り返りしやすいようにした。</p>	
<p>8-2. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>SDGs について理解することができた。</li> <li>自分の考えを伝えることができた。</li> <li>友だちの考えを聞くことができた。</li> <li>以前よりも国際理解について興味を持つことができた。</li> </ol>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>①では、グループワークを取り入れた。②でもグループワークだが、バズ学習も取り入れた。これにより、他者の意見を取り入れながら、自分の意見を考えさせられた。</p>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回の研修に参加するにあたり、学年集会を開き、学年の先生や生徒に向けて、研修の内容を伝えた。そして、「地球の裏側パラグアイの人と繋がりませんか？」と生徒に投げかけ、生徒にしおりを作成してもらい、実際に訪問した先々の学校の生徒に配布した。</li> <li>社会科、技術科、家庭科の教員に今回の研修で得た資料や知見を提供している。</li> <li>JRC 委員担当として、書き損じはがきの回収（アジアの学校づくりの一環）、履き古した靴の回収（靴を履けず、病気になるアフリカの子どもたちに向けて）活動を実施した。</li> <li>来年度は、授業実践を引き続きするとともに、授業公開をし、多くの先生に参観していただく機会を作りたい。</li> </ul>			

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマが難しく、発表しやすい学級経営ができていなかったため、発表することに抵抗を感じている生徒がいた。</li> <li>・SDGs や研修での内容を有効に活用できなかった。</li> <li>・パラグアイは「かわいそうな国」として捉えさせてしまった。</li> <li>・自分事として捉えさせることが難しかった。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解、国際貢献の必要性の伝え方が難しかった。</li> </ul>
------------------	--



	<p>② </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の道徳で、SDGsについて行った。今、川の水を飲んでいる人や家がない人、食べ物がな い国がたくさんあると聞きました。日本は当たり前のように「幸せ」があるけど、それがな い国もあるので、その人たちにできることがあるなら進んでほしいです。</li> <li>・世界には色々な人がいる。色々な問題がある。そして、それに対する様々な活動があるとい うことを感じた。同じ地球にいても、自分と違う立場で生活をしている人がいて、「こんなこと になっているんだ」と発見があった。将来なんらかの形で、世界にとって役に立つ人になりたいな と考えることができた。</li> <li>・SDGsについて日本は今までほとんどできていると思っていたけれど、色々な問題があるとい うことがわかった。さらに、世界を維持、進歩させるには、世界の国々との協力が必要だと思 った。自分も少しでもSDGsに協力できるようにしたい。</li> <li>・国際協力をしないと世界は成り立たないと思った。自分はあまり興味を持たなかった分野だ けど、興味が持ててよかったです。</li> <li>・僕も将来、他の人に感謝されるようになりたい。</li> <li>・世界には、様々な考え方をを持った人がいて、それを理解することが大切だと感じた。</li> </ul>
<p>15. 授業者による自由 記述</p>	<p>今回の参加で、力のある、そして尊敬できる他県の多くの教員に出会えたことが大きな収穫だ った。1回目の実践のリベンジをすべく、各クラスでのローテーションで行った道徳の内容は、 パラグアイチームの玉腰さんが、学習会で得た授業方法をアレンジしてくださったものを、自分 なりに少し手を加えて私の生徒に実践したものである。研修期間も、研修後も助けてくださる心 優しい先輩方に囲まれて、「私もいつか先輩方に自分の実践で還元したい！」と思うようになった。 今回出会ったパラグアイチームの全ての人とのつながりをこれからも大切にしたい。そして、 県を超えてコラボ授業を実施してみたり、今後の教材研究をともに行ったり、実践を共有しあ ったりする中で、自身の教員としての資質を高めていきたい。そのために、今後の教員生活では「国 際理解」「国際貢献」「SDGs」を基本軸に授業実践に取り組みたい。</p> <p>今回は、この研修を自身の教科と関連づけをしたかったが、単元と内容の関連を発見するこ とができず、「特別の教科 道徳」で実施した。来年度は、「英語」と今回の研修を関連づけて行 いたい。</p> <p>最後に、教員として2年目であり、パラグアイチームの中で最年少であった私は、研修中は「甘 え」があった。研修中に出会った青年海外協力隊の山口萌さんは、年齢を言い訳にせず、たく さんのことに挑戦し、自分の未来を切り拓く姿を見せてくださった。同い年である山口さんは、そ の「甘え」に気づかせてくれ、帰国後の自分の考えを変えるきっかけを与えてくれた。研修中は、 海外で活躍する多くの日本人に出会い、自分の意志を強く持ち、「誰かのために頑張る姿」から たくさんの勇気もらった。今後、一人の教員としても、一人の人間としても「私にできるこ とは何だろうか。」と考え続け、生活していきたい。</p>

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	長田 里恵	学校名	長野県 文化学園長野中学 ・高等学校
担当教科等	英語（中学・高校）	対象学年（人数）	中学3年・2年 計32名
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年8月～2020年2月（6時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：	特別活動・生徒会	
2. 単元名：	『国際キャンペーン』地球規模(パラグアイ)で考え、足元(文中生徒会)から行動する	
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標	<p>授業テーマ：NAGANO SDGs PROJECT「みんなのSDGs宣言」に参加して長野をそして世界を変えていこう。</p> <p>単元目標：グローバル化で経済が複雑に絡み合い、イノベーションが絶えず生まれている予測不可能なVUCA（不確実で曖昧、動的で複雑）な時代を、協働して生き抜く力をつけるため、文化学園長野中学生会として「持続可能な世界を築くにはどのようなことを行えばよいのか」について、日本とその反対に位置するパラグアイの「課題」を考える。そして異年齢で組織される委員会の仲間と協働して、長野からできることを考え行動、活動を起こし、その結果をNAGANO SDGs PROJECTを利用して全県に発信する。</p> <p>関連する学習指導要領上の目標：中学校学習指導要領「特別活動」          集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動をする上で必要となることを理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>	
4. 単元の評価規 準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や資料を見て、SDGsと結び付けながらパラグアイの現状を理解する。</li> <li>・パラグアイのインタビュー結果や新聞記事を読み取り、日本の現状と比較する中で、SDGs達成への課題を立てることができる。</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進国日本は豊かで幸せだが、中進国になったばかりのパラグアイには課題が多いと考えていた生徒が、「社会課題解決中MAP」の資料を読み取る中で、内省・熟慮し、批判的思考を持つことができる。</li> <li>・知識構成型ジグソー法を用いることで、自分の言葉で考えを伝え、仲間と協働してそれぞれの知識を組み合わせ、発表することができる。</li> </ul>
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び得たことから、課題を自分に引き寄せて、自分たちの委員会ですることができることを考え実行することができる。</li> </ul>

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b> 本校は、本年度ユネスコスクール 3 年目を迎えた。生徒は素直で受動的に知ろうとするものの、「自分で問いを立てる」ことが苦手である。そして、差別やいじめが犯罪になったり、犯罪が差別やいじめを生み出したりと、安定した社会が「持続不可能」になる因果関係を掴みにくいと感じている。また、他人が立てた問いに答えるという「他人事」に従っているだけでは「主体的」な学びになりにくいと考える。「自分事」として関わり、つながりを深めるために、そして「自分で問いを立てる」ためには、その分野に対する興味、そして十分な情報・知識が必要であると考えた。生徒の実態を掴んだ上で、地球規模（パラグアイ）で考え、足元（文中生徒会）から協働することで、例え失敗しても勇気を持って行動するために、本単元を設定した。</p> <p><b>【単元の意義】</b> 予測不可能な VUCA（不確実で曖昧、動的で複雑）な時代を、協働して生き抜く力をつけるために、アクティブ・ラーニング「知識構成型ジグソー法」を用いることで、一つの答えを多角的に捉え、一人で導き出す方法や、仲間と協働して導き出す方法のどちらも学べるので、勉強以外の場面でも困難な状況を乗り越えられる力が身につくこと。また、断片的な考え方を自分の言葉で発表することにより、考えがまとまり易くなること。</p> <p><b>【生徒観】</b> 中学生徒会も 4 年目を迎えた。1 年目は各委員会が考えるテーマにそって調べ、模造紙にまとめ掲示。2 年目はテーマを「SDG s」の各ゴールに着目し、執行部中心にリーダーズ研修後サブテーマを決めて探究、模造紙にまとめ全校で発表。3 年目の振り返りの中で、1、2 年生から「SDG s ってよく分からないな」という声が上がリ、3 年生からは「伝え方としては、ICT を使ってプレゼンをしたい」という願いが上がった。単元に入る前のアンケートで、本校生徒の「パラグアイ」認知度は 38%、知っているとはいえ、「名前だけ知っている」「夏に長田先生が行った場所」程度の認識である、という実態がわかった。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元において、生徒の「SDG s をもっとわかりやすく」という願いから、JICA 国際協力推進員の講演を皮切りに、都度 SDG s と関連させる活動をさせる。</li> <li>・日本、その反対に位置するパラグアイの相違点と類似点に着眼し、自ら課題を立てる。</li> <li>・知識構成型ジグソー法を用いて探究したり、委員会での全校討論をしたりして、自分のこととして活動を計画する。全校討論は執行部自ら計画実行させるが、事前にファシリテーション研修をする。</li> </ul>
--	--

6. 単元計画（全 6 時間）				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	SDGs を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の知識を確認させ、本単元の意義を知ることができる。</li> <li>・SDGs の講演を聞き、ゲームを通して、各目標の価値について話し合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際キャンペーン」、SDG s の既習の知識を確認する。</li> <li>・English Camp 内で、中 1・中 2 を対象に、SDGs17 のゴールのカードを最も重要だと思う目標から並びかえ、グループでその理由を考え、発表する。 [中 1・中 2]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs17 のゴールのカード</li> <li>・未来を変える目標 SDG s</li> <li>・JICA 長野デスク 講師：竹内岳さん</li> </ul>

2	パラグアイの基礎知識習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラグアイの基礎知識を身に付けることができる。</li> <li>DVDを視聴しカテウラ音楽団を知り、パラグアイの地方と都市の差を挙げるができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラグアイについてのアンケートに答える。</li> <li>パワーポイントのクイズに答えながら。パラグアイについて知る。(人口、面積、自然環境、食環境、文化など)</li> <li>カテウラ音楽団の演奏を聞き、その後カテウラの現状を知る。</li> <li>地方と都市の差を写真から見取り、委員会のメンバーで感想を伝え合う。 [全校]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワポ (海外研修素材)</li> <li>NHK特集「移住」</li> <li>JICA「どうなってるの?世界と日本」</li> <li>海外研修素材</li> <li>カテウラ音楽団DVD</li> </ul>
3	パラグアイの課題を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識構成型ジグソー法でパラグアイの3つのインタビュー結果を読み、パラグアイが抱える課題を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自で資料を読み、SDGsと結び付けてみる。(ラパス日本語学校の後藤校長、パラグアイ共和国農村地のミグドニオ サムリオさん、カテウラ音楽団アシスタントのマルセロ・カセスさん)</li> <li>エキスパート班でワークシートにSDGs目標カードを貼って、自分の考えや班員の考えを共有する。</li> <li>班で一番大事な課題だと思う事がらを決め、SDGsの番号とともに記入し発表する。 [中2・中3]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワポ</li> <li>エキスパート資料 (パラグアイでのインタビュー結果)</li> <li>SDGs目標の付箋</li> </ul>
	2019 国際キャンペーン座談会&講演会  (生徒会企画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>執行部員が中心になり、計画・運営を行うことができる。</li> <li>生きる上で何を大切にしているのかを考えることができる。</li> <li>自分の意見と他の人の意見を調整しながら物事を決めていく過程を体験する。</li> <li>価値観を共有した仲間と協働し、委員会での行動・活動に結び付けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの既習の知識を持ち寄り、座談会のテーマを決め、講師を決める。</li> <li>テーマ『誰一人取り残さない文中生徒会』</li> <li>講師：Joshua Pacheco さん (アメリカ出身) 本常 遥己さん (現在 信州大学教育学部)</li> <li>内容：“Happy and Unhappy”</li> <li>①アイスブレイク：全校で打ち解けよう</li> <li>②4つの角：私とあなた、どんな価値観をもっているかな</li> <li>③権利の舟：わたしにとって一番大切な権利は？</li> <li>④ダイヤモンドランキング：委員のメンバーで選ぶ、一番大切な権利は？ (1回の土曜講座 3時間で) [全校]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワポ</li> <li>ワークシート</li> </ul>
4	“Think Globally, Act Locally”  本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs達成のために生徒会として何ができるか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識構成型ジグソー法で、パラグアイについて2つの新聞記事と、日本について「社会課題解決中MAP」抽出資料を読み、エキスパートになる。 [中2・中3]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幸せプロジェクトの動画</li> <li>パワポ</li> </ul>
5	プレゼンの学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを使ったプレゼンを活用して伝えられるよう、リーダーとして活動できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンの意義を知る。</li> <li>効果的なプレゼンの6要素 (簡単に→意外性→具体性→信頼性→感情的に→ストーリー性)を知る。 [中3]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名プレゼンター (プレゼンテーション教材)</li> </ul>

6	総合探求 発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、地域の方々を学校にお招きし、各委員会でアクションプランの研究発表会でプレゼンテーションを行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会「SDGs 研究発表」を保護者、地域の方々の前でプレゼンテーションを行う。</li> <li>・生徒会執行部役員は、高校生徒会執行部とともに「信州 ESD コンソーシアム」成果発表会へと繋げる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[全校]</p>	・各委員会作成パワポ
---	-------------	--	---	------------

<p>7. 本時の展開（4 時間目）</p> <p>本時のねらい：日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するため、日本に暮らす文中生徒会として（自分事として）何ができるかを考える。</p>			
過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<p><b>導入</b> (5分)</p> <p><b>展開</b> (15分)</p> <p>(20分)</p> <p>(5分)</p> <p><b>まとめ</b> (5分)</p>	<p><b>【知識構成型ジグソー法】</b></p> <p>「日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するために、日本に暮らす文中生徒会として何ができるか」に対する自分の答えを、ワークシートに書く。</p> <p>① <b>【エキスパート活動】</b></p> <p>エキスパート A、B、C の課題に取り組む。</p> <p><b>エキスパート A</b>：＜途上国から中進国へ＞</p> <p>○日本の反対側に位置するパラグアイが、途上国から中進国になったのはどうして？○パラグアイの国民性</p> <p><b>エキスパート B</b>：＜廃材楽器で美しい音色＞</p> <p>○日本の反対側に位置するパラグアイ首都アスンシオンにある音楽学校はどんな学校？</p> <p><b>エキスパート C</b>：＜社会課題解決中 MAP＞</p> <p>○日本社会における課題は？</p> <p>○日本は本当に「豊か」で「幸せ」か？</p> <p>② <b>【ジグソー活動】</b></p> <p>活動 1：エキスパート活動でわかったことを伝え合う。</p> <p>活動 2：最初の質問「南米パラグアイの課題を解決するために日本に暮らす文中生徒会として何ができるか」について班員で考え、1 つ活動を決めてワークシートに記入する。</p> <p>③ <b>【クロストーク】</b></p> <p>数人の委員長が各委員で決定した活動を発表する。</p> <p>最後にメインの課題について各自で考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒各自に取り組みせる。</li> <li>・各ワークシートの答えを協働して考えさせ、括弧に答えを書かせる。</li> <li>・わかったこと、疑問に思ったことを次のグループで伝えられるよう準備しておくように伝える。</li> <li>・活動が停滞した場合、声をかけて支援を行い、活発な議論を促す。</li> <li>・前時の資料[大切な権利]表も参考に促す。</li> <li>・発表は前に出て発表させ、聞き手には傾聴姿勢を心がけさせる。</li> <li>・授業前に比べて自分がどれだけ理解が深まったかを感じるように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワポ</li> <li>・ワークシート</li> <li>・ベル</li> <li>・エキスパート A 新聞記事</li> <li>・エキスパート B 新聞記事</li> <li>・エキスパート C 社会課題解決中 MAP</li> <li>・ワークシート</li> <li>・ワークシート</li> <li>・各委員が選んだ大切な権利シート</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラグアイのインタビュー結果や新聞記事を読み取り、日本の現状と比較する中で、SDGs 達成への課題を立てることができる。<b>【知識及び技能】</b></li> <li>・先進国日本は豊かで幸せだが、中進国になったばかりのパラグアイには課題が多いと考えていた生徒が、「社会課題解決中 MAP」の資料を読み取る中で、内省・熟慮し、批判的思考を持つことができる。<b>【思考力、判断力、表現力等】</b></li> </ul>			

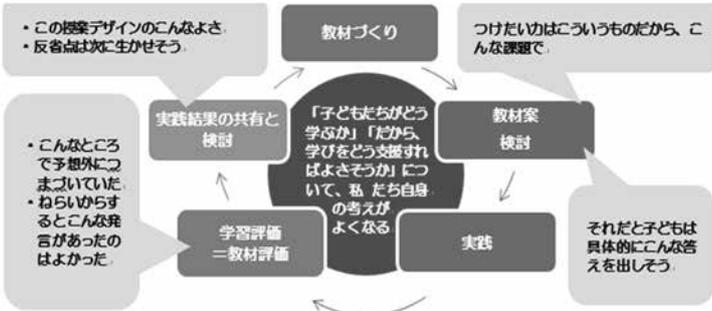
・学び得たことから、課題を自分に引き寄せて、自分たちの委員会のできることを考え実行することができる。【学びに向かう力、人間性等】

9. 学習方法及び外部との連携

【学習方法】知識構成型ジグソー法（表1：評価方法）

表1

写真1



【外部との連携】（写真1：JICA 推進員 竹内氏講演）

[JICA 推進員 竹内 岳 氏] イングリッシュキャンプ内で中学1・2年生対象に、ご自身の体験を基に開発教育、SDGsについて講話をいただいた。

[信州大学教育学部 本常 遥己さん] 長野青年会議所例会「Nagano カンファレンス」若者と政治家を結ぶ公開討論会の県代表3名の中に本校の生徒が選ばれたのがご縁。思春期を迎えアイデンティティに悩む生徒に近い世代から「価値観」について講話をいただいた。（生徒会で選出）

[Joshua Pacheco さん（アメリカ出身：母が日本人、父がアメリカ人。）] 本校の生徒の従弟である。最近来日され、様々な困難を乗り越えて現在に至る過程について、講話をいただいた。（保護者の推薦。生徒会で選出）

【生徒の変容】ワークシートより：

- ・「違いは違いで間違いではない」心が震えた。・付度しすぎて話ができない僕。「言葉の壁は壁じゃない」が心に突き刺さった。・「自分」について、まず自分が一番の理解者でありたいと思う。・人を受け入れ認め合うことが大切であり、差別・偏見は、世界が見直すべき課題であると思った。「誰一人取り残さない社会」を目指すために、認め合い、違いを受け入れることが大事だと改めて感じた。等

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 <ユネスコスクール加盟3年目の取組>

- ・「総合的な学習の時間」「生徒会活動」「部活動」を主軸に。(1)異文化理解プロジェクト (2)環境教育・ボランティア教育プロジェクト (3)地球規模の諸問題解決方策プロジェクトを柱に。
- ・その際に「21世紀型能力」を育むため、アクティブ・ラーニングを通して、知識・技能の習得、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力の育成、そして主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する姿勢を身に付けさせている。
- ・平成28年度から、東京大学 CoREF と連携し、アクティブ・ラーニングの手法の1つである「知識構成型ジグソー法」の研究実践を進めており、本年度も引き続き研究を重ねている。
- ・中学3年時カナダホームステイ研修、高校2年時イギリス修学旅行にてSDGsフィールドワークを行う。

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>生徒が自ら問いを立てることは、ただ関心事に自由に取り組みせればいい、ということではない。興味を問いへと転換する上での専門知識の学び等を組み込んだプロセスを、入念に設計することが大切であると感じる。今回の授業では、スローラーナーにも取組易いように、ワークシートの問いに答えていけば自ずとエキスパートになるようにしたことが苦勞した点である。そして更なる探究に導くよう、地域と連携するプロセスも大変苦勞したが、生徒会活動が、地域に必要とされている実感がもたらす生徒の自己肯定感は予想以上であった。生徒が主体性を</p>
------------------	---

	身に付け、探究活動において「問い」を立てることが出来るようになるには、それを意図した仕掛けが要であり、またそのプロセスが大変重要であると分かった。
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に合わせて、全員がエキスパートになれる方法を検討する。</li> <li>・本授業に於いては、事前にメイン課題を生徒会顧問団で解いてみて、検証。授業の時には本校教員全員で見取り、検証。大変意義ある研究になった。一方で、師走の時期の研究会は避けたほうが良いとのご指摘を頂いた。要検討。</li> </ul>
13. 成果が出た点	<p>集団浅慮を危惧していたが、学年が違うが故の良い効果が出たと思う。3年生は先輩としての意地、2年生は次期生徒会を継ぐものとしての気迫、1年生は先輩に頼りながらも、大らかに受け入れられていることでの自己有用感を感じており、集団の相乗効果が良い方向に出ていた。</p> <p>生徒会執行部が「みんなのSDGs宣言」を取り入れ、異学年で形成されている委員会毎、地域の持続不可能を探し出した上で行動化を図り、PDCAサイクルで持続可能な活動とし、全県に広報した。2月には学校に地域の方々や保護者をお呼びし、ユネスコ連絡協議会会長より総括頂き、其々高評価を得た。「異なる立場や考え方の良さを見つけるようになった。」「自分は地域や社会から必要とされていると感じられるようになった。」「失敗しても、仲間と共にもう一度挑戦できることが嬉しい。最後までやり遂げたいと思う気持ちが強くなった。」という気付きがあった。</p>
14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どっちの国が良くて、または悪いというわけではないので、両国の大事な部分を混ぜ合わせるのはいかがでしょうか。(中1)・地球の反対側同志なのに抱えている問題が同じことに驚いた。世界全体で考えないと!と思った。(中3)・日本を大切にしてくださる人々がいるということを知ると、その人々と対等な関係を築きたいと心から思う。でもどうやって?(中2)・パラグアイに行ってみたいと思った。現地へ行って見えるものがあると思った。(中2)・パラグアイの人は親目的なのに、私たちは正直あまり知らない国で、私たちも何かしなくちゃと思う。この長野でできること、パラグアイの人とスカイプとかで交流できないか。(中3)</li> </ul>
15. 授業者による自由記述	<p>「あなたはどんな時に幸せを感じますか?」「家族と一緒にいるときはその家族が、友達と一緒にいるときはその友達がそれぞれ幸せであって初めて、自分も幸せになる。」パラグアイで広く信仰されている宗教も影響しているのか、「幸福」を感じる時の対象範囲の、日本のそれとの違いを実感することができた。以前、本校の中学1年生から高校3年生に同じ調査をしたことがある。結果は、成長と共に多様な幸せを感じられる素養を持ちながらも、不安を前にすると安定志向となり、“あきらめ”てしまっている、というものであった。幸福の心的因子「ありがとう!」「つながりと感謝」「やってみよう!」「自己実現と成長」「わたしらしく!」「独立とマイペース」「なんとかなる!」「前向きと楽観」という思いを、自分に与えてくれた JICA 教師海外派遣研修の意義深さを改めて感じる。自分の強みは、「つなぐ」こと。本企画に関わっている全ての方々に感謝し、自分の強みを生かして私らしく、失敗を恐れず、パラグアイと日本をつなぐことに尽力するつもりである。この心に灯った火が、あまり激しくあつという間に消えてしまわないよう、皆様の心の火を継ぎ足しながら、持続可能な限り燃え続けたいと思っている。</p>

参考資料:

- ・私たちが目指す世界子どものための「持続可能な開発目標」～2030年までの17のグローバル目標～(DEAR)
- ・先生・ファシリテーターのための『持続可能な開発目標・SDGs-アクティビティ集』(DEAR)
- ・未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK(NPO法人ETIC.)
- ・未来を変える目標SDGsアイデアブック(Think the Earth)
- ・社会課題解決中マップ(<https://2020.etic.or.jp/>)
- ・JICA 独立行政法人国際協力機構(<https://www.jica.go.jp/>)
- ・東京大学 CoREF 知識構成型ジグソー法(<https://coref.u-tokyo.ac.jp/>)
- ・千葉日報(令和元年8月27日(火)(令和元年8月31日(土))

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	鎌田 理子	学校名	千葉県 千葉市立稲毛中学校
担当教科等	社会科	対象学年（人数）	1 学年（112人） 1 年 3 組 （38名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和元年10月29日～11月19日（4時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 社会科		
2. 単元(活動)名： 世界の諸地域 第3節アフリカ州		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「SDGsの視点から考えるザンビアの発展」 単元目標：アフリカ州の自然・歴史と文化・産業の特色について、資料から基礎的・基本的な知識を身につける。 関連する学習指導要領上の目標： 世界の諸地域について、以下の（ア）から（カ）の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地理的特色を理解させる。 （ア）アジア （イ）ヨーロッパ （ウ）アフリカ （エ）北アメリカ （オ）南アメリカ （カ）オセアニア		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	○アフリカの地理的な基本情報を理解する。 ○アフリカの課題について、都市化、人口増加、歴史的背景などから多角的に理解する。
	②思考力、判断力、表現力等	○読み取った統計資料からアフリカの地理的特徴について考察する。
	③学びに向かう力、人間性等	○アフリカのモノカルチャー経済からの変化を自立に向けての様々な努力を踏まえて考察し、他者にその意見を伝えることができる。 ○アフリカ州の課題を、SDGsの17のゴールから考え、意見交換することができる。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<b>【単元設定の理由】</b> 本単元のアフリカ州は、人類発祥の地であり、四大文明のひとつであるエジプト文明も歴史的分野で学習している。経済的には、ほぼすべての国において農業や鉱業が産業の中心となった植民地時代から続くモノカルチャー経済を基盤としており、日本をはじめとする先進工業国、新興国の様々な援助を受けているという脆弱な経済基盤が貧困や民族対立など多くの問題につながっている。このことから、この州の特徴を考える動態地誌の主題を「モノカルチャー経済の課題と今後の発展」に設定したいと考えた。 後述する指導観からもわかるように一般的に中学校1年生段階の生徒のアフリカ州に対するイメージは一面的なものといえるので、このモノカルチャー経済の問題点、課題点を踏まえたうえで解決の取り組みをとらえる地理的思考力の育成をねらいたい。	
	<b>【単元の意義】</b> 「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」の3分野にまたがる教科の特性にも配慮すると、アフリカ州については2年生の歴史的分野で欧米列強の植民地支配を扱い、3年生の公民的分野では地域紛争や南北問題について触れることになる。このことも踏	

まえて、1年後2年後の学習にもつなげられるよう、単純な地理的知識の習得に留まらないよう十分な思考や意見交換の場面を設定する必要がある。

【生徒観】

生徒のアフリカ州に対する予備知識とイメージを確認するため質問紙による調査を実施した。(以下は結果の一部)

1 (3) 以下の世界の各州について親しみを感じますか？

	親しみを感じる	親しみを感じない	どちらとも言えない
アジア州 (学習済)	28人	5人	3人
ヨーロッパ州 (学習済)	18人	6人	12人
<b>アフリカ州</b>	<b>5人</b>	<b>17人</b>	<b>14人</b>
北アメリカ州	10人	9人	17人
オセアニア州	8人	12人	16人
南アメリカ州	6人	12人	17人

1 (4) アフリカ州について持つイメージを自由に記述して下さい。

象 (多数) 砂漠 (多数) 乾燥帯 (多数) 猛獣 危険 サバンナ チーター ライオン ラクダ  
 レインフォレスト 自然がたくさんある 動物がたくさんいる 森 民族 植民地 サヘル  
 ナイル川 黒人差別 南アフリカの発展 1960年アフリカの年 カカオ豆 ダイヤモンド 石油  
 ギニア湾 北部はイスラム教徒、南部はキリスト教徒が多い 飢餓 熱帯雨林 湿気 暑い 黒人

3. SDGs についての認識を問う調査

① 以下のロゴまたは SDGs という単語を知っていますか？ (カラーで提示)

知っている	6人	知らない	30人
-------	----	------	-----



② (知っている生徒について) どこで知りましたか？

- ・学校にあった掲示物・TV・科学館

※4. の補足調査として、同じ質問を稲毛中学校の教職員に行ったところ以下の結果となった。

知っている	8人	知らない	21人
-------	----	------	-----

- 知ったきっかけ ・教育センター研修 ・SA ・校内掲示物 ・TVのCM ・ニュース
- ・高校の先生と話をしたとき ・家庭科部会にて ・JICAの教員向け研修

大問3では、今回のアフリカ州の学習のまとめの活動で、アフリカ州を考える上での視点として取り入れたいSDGsについてどのくらい知っているかということ質問したが、知識の程度の違いはあれSDGsを知っている生徒が36人中6人いたことは予想より多かった。それでも学級の約80%はSDGsについて全く知らないもので、この単元のみでいきなりSDGsを扱うのではなく、事前の単元でもゲームなどの活動を取り入れてSDGsについての種まきをしていく必要を感じた。

6. 単元計画 (4 時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	アフリカ州をながめて (地形・気候・歴史)	アフリカ州全外の地形や気候、歴史などの概要を理解する。	1 広大なさばくが広がるアフリカ州の地形を大観する。(サハラさばく・ナイル川・ギニア湾・赤道と本初子午線の位置) 2 降水量の分布から気候区分の特色を考える。(ラバト・カイロ・ケープタウン・リーブルビル)	

			<p>3 人口分布の特色を考える。</p> <p>4 アフリカの歴史的なあゆみを確認する。</p> <p>5 植民地化による様々な問題（公用語・伝統文化・産業開発）について知る。</p> <p>6 SDGs についての紹介</p>	
2	アフリカの産業（農業・鉱工業）と新たな開発	モノカルチャー経済について知り、その問題点を考える。	<p>1 世界に輸出されるカカオを例にプランテーション農業について知る。</p> <p>2 アフリカの主な農産物の分布図を作成する。</p> <p>3 アフリカの鉱工業の分布図を作成する。（石油・金・ダイヤモンド・銅・レアメタル）</p> <p>4 1～3の活動をもとに、農業と鉱工業の問題について考え、班と全体で意見交換を行い、全体で確認する。</p> <p>5 モノカルチャー経済のしくみと問題点を個人でまとめる。</p> <p>6 アフリカ州を動態地誌の視点から理解する学習の「主題」を考えて設定する。</p>	
3	アフリカの課題と展望	アフリカ州の発展の課題を考える。ザンビア共和国について教師海外研修の活動の報告を聞き、理解を深める。	<p>1 第1時・第2時で学んだ事象（地形気候・農業・鉱工業・貿易・就労）と第2時で設定した「主題」を確認する。</p> <p>2 アフリカの課題について、都市化、人口増加、環境問題などの視点から理解する。</p> <p>3 考えた原因を班で伝え合い、班としての意見をまとめる。</p> <p>4 4の発表と意見交換を行う。</p> <p>5 自立に向けた努力についての事例を知る。（地域統合・先進工業国からの援助）</p> <p>6 5と6を踏まえて個人で今後の課題を考え文章にまとめる。</p> <p>7 教師が見たザンビア共和国についての情報を聞く。</p> <p>8 第1時で扱った SDGs について復習する。</p>	
4	ザンビアの課題と今後の展望を SDGs の 17 のゴールから考えよう	ザンビアの課題と今後の展望を SDGs の 17 のゴールから考える。	<p>1 ウォーミングアップのため SDGs カードゲームを行う（ババ抜き）</p> <p>2 ザンビアの基本情報復習（面積・人口・言語）</p> <p>3 エキスパート資料 教師が撮った写真と解説の3種類の資料を担当者ごとに読み取り、概要をまとめる</p> <p>4 ジグソー学習 ①～③の資料読んだメンバーが混ざるようグループを作り、それぞれが持つ情報を共有する。</p> <p>5 今後のザンビアの課題として最も重要だと思うものを①～③からグループ内でひとつ選ぶ。</p> <p>6 ジグソー学習の班ごとの発表</p>	

		7 まとめ	
--	--	-------	--

<p>7. 本時の展開（4時間目）</p> <p>本時のねらい：ザンビアにおけるモノカルチャー経済の課題と今後の発展の展望について、ジグソー法を用いた学習を行って意見交流を行い、SDGsの視点と関連付けて自分の意見をまとめることができる。</p>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<b>導入</b> (10分)	<p>1 ウォーミングアップのため SDGs カードゲームを行う（ババ抜き版の簡略版）</p> <p>2 ザンビアの基本情報復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ザンビアの面積、人口、言語</li> <li>・ 1964年東京オリンピック期間中に独立</li> <li>・ 銅の国際価格上昇と発展するザンビア</li> <li>・ 広がる格差 ・医療水準 ・教育水準</li> </ul> <p>【本時の目標確認】</p>	<p>○前回までに学習した17のゴールについてカードゲームをしながらそれぞれ思い出させる。</p> <p>○前時の復習を兼ね、既習事項から生徒たちに自由に発言させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGs カードゲーム</li> <li>・ パワーポイント</li> </ul>
<b>ザンビアの課題と今後の展望を SDGs の17のゴールから考えよう</b>			
<b>展開</b> (30分)	<p>3 エキスパート資料を読み取る</p> <p>教師がザンビアで撮った写真と解説の6種類の資料を担当者ごとに読み取り、概要をまとめる</p> <p style="text-align: center;"> <b>㉠医療 ㉡教育 ㉢貧富の差</b> </p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>㉠医療</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>㉡教育</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>㉢貧富の差</p>  </div> </div> <p>4 ジグソー学習を行う</p> <p>㉠～㉢の資料読んだメンバーが混ざるようにグループを作り、それぞれが持つ情報を共有する。</p> <p>5 今後のザンビアの課題として最も重要だと思うものを㉠～㉢からグループ内でひとつ選び、その将来のために最も重視したい項目をSDGsの17のゴールから選択する。</p>	<p>○各グループに資料の読みとりのポイントを提示する。</p> <p>○班での活動で全員が意見を言えるように全員に個人の意見を持たせる。</p> <p>○日ごろから他教科でもグループ活動を行っていて意見交換がしやすい生活班をもととする。</p> <p>○㉠～㉢が混ざるようにグループを再構成する。</p> <p>○最終的なひとつの答えが存在しないということにも触れ、多角的な意見を出させる。</p> <p>○17のゴールのうち1つに絞れない場合は2つでもよいことを助言する。</p> <p>○ザンビアのSDGs達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エキスパート資料</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ パワーポイント</li> </ul>
<b>まとめ</b> (10分)	<p>6 発表を行う</p> <p>7 5と同じ質問を現在ザンビアで活動中のJICA関連の日本人数人にした際の回答を聞く。</p>		

	8 感想を書く	を紹介する。	
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>ザンビアにおけるモノカルチャー経済の課題と今後の発展の展望について、ジグソー法を用いた学習を行って意見交流を行い、SDGsの視点と関連付けて自分の意見をまとめることができたか。</p>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>授業実践に際して、ザンビアに関する【A医療】【B教育】【C貧富の差】の3種類の資料を用意し、生徒にジグソー法によるグループ学習を行わせた。この資料は、研修中に現地のヘルスセンターや学校などでインタビューした内容をもとに、中学1年生段階でも読み取れる量と内容を授業者側でまとめたものである。この資料を読み取った後、A～Cの資料を読み取った生徒が混ざるように班を再度編成し、話し合い活動を行わせた。</p> <p>展開の後半で、「今後のザンビアの発展のために最も重視したい項目をSDGsの17のゴールから選択し班ごとに発表する」という活動を取り入れた。授業のまとめでは、これと同じ質問をザンビア事務所の方や協力隊の方に伺った際の回答を紹介した。同じザンビアで活動する日本人であっても、それぞれの立場や経験から回答が違い、生徒からも「なぜ同じザンビアで活動している日本人なのにそれぞれの答えが違うの?」「結局のところひとつの答えに絞れるのかな?」「見方によって最も重視しないといけない課題が違うのでは?」などの感想が出たので、学習内容が深まった場面であったと考える。</p>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>この授業は、教師海外研修の研究授業であると同時に、千葉市教育研究会国際理解教育部会の授業研究としても公開して行い、教師海外研修で学んだことをどのように社会科の授業に反映させたかということについて意見をいただくことができた。授業研究後の協議会では、授業を参観されたJICA職員の方から、今回の研修や出前講座などの紹介もしていただき、国際理解に興味がある先生方のよい研修になったと思う。</p>			

【自己評価】

11. 苦労した点	<p>本単元で扱う「アフリカ州」は教科書の内容では3時間扱いの単元で、ザンビアも取り上げられていない。そこにザンビアで学んできたことをどのように絡めて発展させるかという点が最も難しかった。また、SDGsについて、1年生はこれまで学習することがなかったので、社会科の授業の中で扱うだけでは理解が深まらないと考え、掲示物や学級活動でもSDGsについて生徒に考えさせられるように工夫した。ジグソー法を取り入れるのも初めてだったので、エキスパート資料をどのような分野について何通り作るかの判断が難しかった</p>
12. 改善点	<p>授業を参観した方々から、生徒の話し合い活動の時間が十分に取れていなかったという意見がたくさん出たので、この時間の活動内容を精選することが必要である。前半のSDGsについての復習や、ザンビアの基本情報の確認などは前時に行い、この時間ではエキスパート資料の読み取りから開始していくと、最後の17のゴールから重視するものを選ぶ活動の話し合いをもう少し深めることができると考える。また、活動を単純化しようと考え、17のゴールからダイヤモンドランキングを作るのではなく、あえてひとつを選ぶという活動を入れたが、逆にひとつに絞るといことが難しいという意見が出たり、各班が選ぶゴールに偏りがでるとい問題</p>

	点もあった。もう少し幅を持たせた選び方を工夫できればよかったと思う。
13. 成果が出た点	教科書の内容と、今回の教師海外研修で学んだことを絡めたいという目的が当初から強くあった。教員自身の経験を語ることで、ザンビアをこの地理的分野の単元の「アフリカ州」のひとつの事例として自然に扱うことができたと思う。ザンビアの首都ルサカのショッピングモールの様子、学校の様子、ヘルスセンターの様子、ストリートチルドレンや孤児院の様子などをたくさん紹介したことで、生徒は「どこか遠い国のことが教科書に載っている」というだけではなく、「同じ時代に同じ地球で起きていること」として、ザンビアの発展の課題を考えることができた。また、現地で活動する日本人がたくさんいるということも生徒の興味関心を高めるうえで効果的だったようで、協力隊の方が写っている写真やインタビューの回答などを興味深く見て考えることができていた。
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>&lt;生徒のワークシートより 授業全体を通しての生徒の感想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力隊の人の意見の「17番が一番大事」という意見になるほど、と思った。ザンビア人が作っていくザンビアの国だから全てのことが大切だと思った。</li> <li>・SDGsの1つ1つのことは全部大切で、そのことをかなえるためには1つずつできることからやっつけていかないといけないなと思った。</li> <li>・(ザンビア以外の)他の国はどんなことに力を入れて発展したのか知りたいです。</li> <li>・どうしてこんなに格差が生まれてしまうのだろうとずっと思っていたのですが、SDGsの問題は1つ1つすべてが解決したとしても完璧になるとは限らないし、すごく難しいことだからうまくいってないのだとわかりました。</li> <li>・やっぱり何か1つが大事なのではなくて、すべてが大切なのだと感じた。</li> <li>・SDGsは1つだけが必要とかではなく、1つ1つに意味があるので、1つでも改善できたら何かにつながると思います。</li> </ul>
15. 授業者による自由記述	<p>事前研修でSDGsやその他たくさんのことを学び、JICA職員の方にもアドバイスをいただきながら参加者同士で情報共有や交換をし、研修に臨めたことで非常に有意義なザンビアの滞在になった。最初は「現地で授業の教材をたくさん集めなくては」という固い頭でザンビアに向かってしまっていたが、現地で様々な物を見て学ぶ中で「教材としてではなく、まず自分がザンビアについて何を見てどう感じるのかを大切にしよう」と考えるようになった。</p> <p>今回の研修は、県や校種、教科も違う先生方が集まったことで、現地で同じものを見ても、反応するポイントや授業に活かしたいと考えるポイントが違い、「小学校ではこうやって授業で扱うのか」「高校では中学校で扱わない部分をこんなに詳しく授業で取り上げるのか」といった風に、ただ一人でザンビアを見るよりずっと多くの収穫があった。この研修に参加していない人も実践できるようにビデオやパワーポイントを整理し、指導案を書いたので、ぜひほかの中学校でも地理の授業で取り上げていただきたいと思っている。</p>

参考資料：

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	黒川 八重	学校名	東京都 東京女子学園中学校
担当教科等	社会	対象学年（人数）	1年（19名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年10月（全7時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：中学地理		
2. 単元(活動)名：南アメリカ州－南アメリカ諸国と日本が双方向的に共生する社会を目指して－		
3. 単元目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・南アメリカ諸国の文化の特徴と産業の変遷を理解し、南アメリカ諸国と日本の未来に続く関係性を考える。【より良い未来を構築する力】</li> <li>・森林の耕地化が進んだ結果、どのような問題が生じているのか、多面的多角的に考察して、持続可能な開発に関わる一般的課題と南米諸国特有の課題を比較考察する。【多面的・総合的に考える力】</li> </ul>		
4. 単元の評価 規準	①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パラグアイからみる南米諸国の課題に関心を持つことができる。</li> <li>●課題解決に向けて積極的に考え、自分の意見を言える。</li> <li>●グループワークで意見交換ができ、考えを深めることができる。</li> </ul>
	②思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パラグアイの現状の課題を理解し、文章にすることができる。</li> <li>●現状の課題に対する政府や国際社会の対応策を知り、自分の意見を述べると同時に他者の意見を踏まえて考えをまとめることができる。</li> <li>●南米を学習した上で、自身が考えたことを発表できる。</li> </ul>
	③学びに向かう力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●南米諸国の課題と他州や日本の課題を比較し、結びつけて考えることができる。</li> <li>●課題解決の方法を多面的なもの見方から導き出しより良い未来を構築できる。</li> <li>●今自分にできることを考えられる。</li> </ul>
	③知識および技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●南米の自然環境、民族構成、伝統文化、主要産業の現状を知る</li> <li>●雨温図はじめグラフ、地図、写真から分かることを整理し、他者の意見と合わせ、総合的に分析できる。</li> </ul>
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由・単元の（教材観）】</b>          現行の学習指導要領の地理的分野の目標の1つに「地理に関わる事象の意味や、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。」がある。本時の目標である「今まで学んできたことを活かして日本とパラグアイの未来の関係を考える」は両国の地理的特色や歴史背景を踏まえて今抱える課題解決を思考し、自分の言葉で説明していく過程において、学習指導要領の目標を達成するに最適の教材である。</p> <p><b>【生徒観】</b>          本校は明治期から続く中高一貫の女子校であり、初代校長棚橋綾子の言葉「人の中なる人となれ」を教育理念に掲げている。「人の中なる人」にグローバル化が進む現代においては、「世界とつながる人」との解釈を加えており、この理念に基づいて入学した生徒は国際社会に興味を持っているといえる。しかし、生徒たちが考える国際社会とは先進国である欧米社会であり、途上国への知識理解は非常に低く、それゆえに興</p>	

	<p>興味関心も低い。途上国についても日本との関連付けながら基礎知識を学ぶことで、興味関心が高まり、生徒の考える「世界」は広がるはずである。</p> <p>また今年度の中学1年生は、積極的に自分の意見を発表できる生徒が多いので、活発でより深い意見交換ができるような授業展開をしていきたい。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>日本にとって遠い存在の南アメリカ州には日系社会が今も存在し、南アメリカ諸国にとっての日本は身近であることをパラグアイで撮った写真やインタビューしてきたことを駆使して伝えたい。これらの第1次資料を通して南アメリカ州に親近感を持って、日本と南米諸国が互いに協力し合う方法を、グループ学習やジグソー法などのアクティブラーニングを通してクラス全員に多面的に考えさせたい。</p>
--	---

6. 単元計画 (全7時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	自然環境	南アメリカ州全体を視覚的にとらえる。	南アメリカ州の地形、川、山脈、気候を知る	白地図、地図帳
2	多様な民族と人々の生活①	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の反対側にあるパラグアイに関心を持つ (興味関心)</li> <li>日パラの相違を見える化する (情報整理能力)</li> <li>民族構成のグラフからパラグアイ人の特性を探る。(推察力)</li> </ul>	パラグアイと日本の基礎知識 (気候、人口、人口密度、面積、中心産業) SDGs の再確認	地球儀、正距方位図法、民族構成グラフ、雨温図、現地写真 (服装が分かるもの) GNI ランキング GDP 成長率ランキング
3	多様な民族と人々の生活②	<ul style="list-style-type: none"> <li>日系移民の歴史から当時の日本の様子を考える。(推察力)</li> <li>日系人と日本人の現在のつながりを考える。(課題発見能力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南米へ移住した日系人の歴史を知る。どの都道府県からいつ移住した人が多いか知る。</li> <li>東日本大震災の時の支援から現在もつながりがあることを知る。</li> </ul>	JICA 横浜の資料 浜松市作成のブラジル移民の動画 (浜松国際交流協会～ともに生きる浜松の未来～アニメーション教材 <a href="http://www.hihice.jp/publish/tols.html">www.hihice.jp/publish/tols.html</a> )
4	多様な民族と人々の生活③	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本人会、日本語学校で聞いたことから日系社会の思いや今後の課題を考える。(情報収集力、課題発見能力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビュー内容や、日本語学校掲示の「私たちは何者か」という生徒作品から日系社会の世代間意識の違いや今後の課題を学ぶ。</li> </ul>	日本人会の河野さん、日本語学校の後藤校長インタビュー動画、「私たちは何者か」生徒作品、日系農家さんの言葉
5	大規模化する農業	<ul style="list-style-type: none"> <li>パラグアイ人農家、パラグアイ日系農家、日本の農家それぞれの魅力と課題を探る (情報収集力、課題発見力、多面的な視点を持つ力)</li> </ul>	主要農産物、農業技術、農地、住居について、日系農家とパラグアイ人農家、日本農家に分かれて調べ、チームごとに発表する。	現地で撮ってきた写真、日本の農家に関する写真
6	発展する工業	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本によるパラグアイ支援を知る。(情報収集力)</li> <li>将来、パラグアイによる日本支援の可能性について考える。(横断的な思考力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本による具体的なパラグアイ支援について現地写真を利用して知る。</li> <li>パラグアイの魅力は今までの授業を振り返って書き出すことで、将来性について考える。(情報活用能力、批判的思考力)</li> </ul>	現地で撮ってきた写真、JICA パラグアイの資料、今までの授業で出てきた資料 (GDP 成長率ランキング、日系農家さんのコメントなど)

7	環境問題、産業の発展と開発に伴う課題	日本とパラグアイの未来の関係性について、相互扶助のための具体案を考える。 地球規模の課題を自分事としてとらえ、地球市民として取り組むべきことを考える。	パラグアイの課題と関連するSDGsと日本の課題と関連するSDGsの関係性を考える。また南米諸国が抱える課題、地球規模で抱える課題に触れ、国を超えた地球市民として取り組むべきことを考える。	アマゾン流域火災の新聞記事
---	--------------------	--	---	---------------

7. 本時の展開（6時間目）

小単元名【 発展する工業—日本とパラグアイの未来の可能性を考える— 】

(1) 指導案

(ア) 実施日時 10月8日(火) 1限

(イ) 実施会場 中学1年1組(B31) 教室

(ウ) 本時の目標

- 写真の細かいところまでよく見て、正しく情報を読み取る。
- 今までの授業で登場したグラフやインタビュー動画および記事の内容と本時で提示する写真からの情報を組み合わせ、パラグアイの現状を理解する。
- 現時点での日本によるパラグアイ支援の内容を現地写真を通して具体的に知る。
- 10年後、30年後の日本とパラグアイの関係性について根拠をもって想像する。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (10分)	<p>前回授業の振り返り 「前は日本と比較しながらパラグアイ農業について学習しました。ではパラグアイの工業はどうなっているのでしょうか。予想してみよう。」</p>	<p>パラグアイの農業を振り返って、食料は豊かにあるが、加工業は輸入に頼っていることを指摘。</p>	<p>☆1 豊かな食糧の写真 ☆2 加工品の原産国、価格が分かる写真</p>
展開	<p>「同じ食料品でも、お菓子や調味料、飲み物など、加工品は輸入に頼っています。食料品だけでなく工業製品の分野も外国に頼っています。今、パラグアイの工業化に向けて日本は様々な協力をしています。」(写真を見ながらワークシートに日本による支援を箇条書きしていく) 「工業化以外にも、パラグアイにはいくつか課題があります。何だと思う？」 (写真を見せながら、ワークシート記入)</p> <p>「日本による支援もあって、今パラグアイは経済成長しています。このグラフ覚えているかな。」「この先10年後、30年後、日本とパラグアイの関係は支援する側とされる側のままだろうか。」「現在の関係も、今日勉強した日本がパラグアイを支援するだけの関係ではなかったよね。どんなつながりがあったかな。」(発表させて、日系社会があることを復習) 「東日本のときはパラグアイが日本を支援してくれたね。将来、日本とパラグアイの関係は</p>	<p>写真を見せて、教育の問題、肥満・成人病の問題に触れる</p> <p>日系農家伊藤さんの話で「日系人は日本とパラグアイをつなぐ架け橋となる」に注目</p>	<p>☆3 職業訓練校、浄水施設の写真、JICAパラグアイの資料</p> <p>☆4 サンタエレナ小学校のMaPara、カアグアスの保健ポストの写真</p> <p>☆5 GDP成長率ランキング(前出)</p> <p>☆6 東日本大震災のときの豆腐支援プロジェクト、ラパス日本語学校の生徒のメモ、日系農家伊藤さんの話(前出)</p>

(30分)	どうなっていくだろう。」		
まとめ	「今日学習したことを振り返って、日本とパラグアイの今と未来の関係性について、ワークシートにまとめてみましょう。」		
(10分)	(時間があれば、何人か発表してもらおう)		

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

発問に対して、どれだけ資料から読み取れたことを自分の言葉で伝えられているか。  
 クラス全員は発言しないので、ワークシートに記入されている内容を見て、情報収集力、情報活用力、横断的な思考力の観点で評価する。

【自己評価】

9. 授業の振り返り	<p>本時までの授業で、パラグアイについてと、パラグアイと日本の関係について、ジグソー法やフォトランゲージ、グラフやインタビュー記事、動画視聴など手法や教材の提供方法を変えてグループワークに取り組んできたが、いつも時間が足りず、全体で分かったことを共有できずに終わってしまっていた。しかし本時の最後の問い「パラグアイと日本の未来の関係性について考える」のワークシート記入に個人個人で取り組んでいるのを机間巡視した際に、生徒たちなりに、今までの授業を消化して、2か国の未来に思いを巡らせていたことが分かった。</p> <p>本時はこの50分間の成果ではなく今まで学習してきたことの集大成となる授業となった。さらに次の南アメリカ州最終時間に、パラグアイと日本の2か国の関係から世界規模の関係に興味関心を広げる授業展開につなげていった。その際SDGsの観点から考えることで、今まで学習した情報をつなぎ合わせることができた。</p>
10. 単元を通した児童生徒の反応/変容	<p>遠く離れた国でも、年齢の近いラパス日本語学校の生徒メモや中学生を主人公にした動画には反応が高く、教員側からの問いにも積極的に考えをめぐらせていた。東日本大震災のときの日系パラグアイ農家による豆腐支援プロジェクトを知ってどう思ったか、という問いにも積極的に取り組んでいた。どんな地域を扱う授業でも「生徒たちとの接点」を意識した教材にすることで、自分ゴト化して考えることにつながるのではないかと思う。</p> <p>また、本時の最後の問い「パラグアイと日本の未来の関係はどうなっていると思うか」では、直前に見たGDP成長率から「パラグアイが豊かになって、日本が貧しくなっている」とワークシートに記入した生徒もいたが、ほかの生徒の記述を紹介すると、それ以前に学んだ日系農家の豆腐支援や日系農家伊藤さんの話なども思い出して、「お互い助け合っている」よりよい未来を想像することができた。今回の単元を通して、前向きに考えるようになった生徒が現れたのは大きな変化だと思う。</p>
13. 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策	<p>こちらが素晴らしいと思う教材でも、表面的な部分(例えば動画の語り口や最初のワンシーン)で、生徒の意識が教材に向かないことがある。また教員側が素晴らしいと思う教材でも、中学生には理解しにくい内容もある。授業の反応を見ながら、中学生の気持ちになって教材を用意すること、授業スタイルを考えること、問いを立てることが大切である。</p> <p>具体的に、動画視聴して分かったこと、印象に残ったことをワークシートに記入する4時間目の授業は、動画ではなく、文字にして読み上げた方が、理解が深まった気がする。</p> <p>また毎回微妙に時間が足りず、グループワークで話し合ったことをまとめ切れて</p>

	<p>いないグループがあったり、グループワークの内容を全体で共有する時間がなかったりするまま、授業を進行させてしまった。今回の単元については、該当時間に資料が読み取り切れなかった部分ものちの授業で、生徒が腑に落ちて理解できた部分もあったのでそこは良かったと思うが、それでももう少し時間をかければ理解が深まった部分も多くある。</p> <p>今後は、限られた時間の中で消化不良を起こさずに、理解を深めるために更なる授業構成の再考が必要である。</p>
<p>14. 授業者による自由記述</p>	<p>教師海外研修に参加して</p> <p>自分の目で実際に見て、一次資料を手に入れたことで、普段の授業で用意できる教材よりはるかに豊富な教材を用意できた。今まで教科書の内容はきちんと伝えることができても教科書以上のことを授業に盛り込むことはなかなかできていなかったが、今回教師海外研修に参加したおかげで、内容の深い授業を情熱的に展開できたと思う。これを機会に今後旅行に行く際にもどんな部分に着目して写真を撮ったり、現地の人に話しかけたりすれば、授業に活かせるのかも見えてきた。また様々な校種の先生方に出会ってともに学んできたおかげで授業内容についてもたくさんヒントをいただくことができた。研修を活かした授業案作りを通して、自分自身もまた多面的なものの見方が今までよりできるようになったと思う。</p>

参考資料：

【本時で用いた資料】

☆1 パラグアイの豊かな食糧



☆2 日本からの輸入品

カレーのルーは 37800 ガラニー (約 800 円)、しょうゆは 53500 ガラニー (約 1000 円) ととても高価

☆3 浄水施設の写真

日本とパラグアイの国旗が並んでいるところに注目



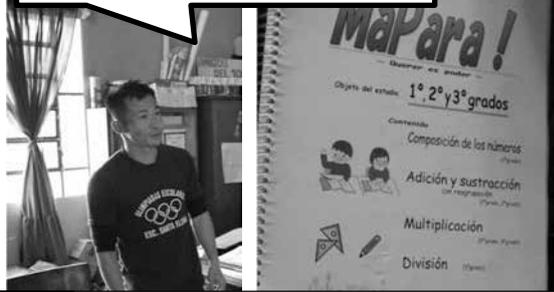
☆3 職業訓練校  
日本人の先生がいる



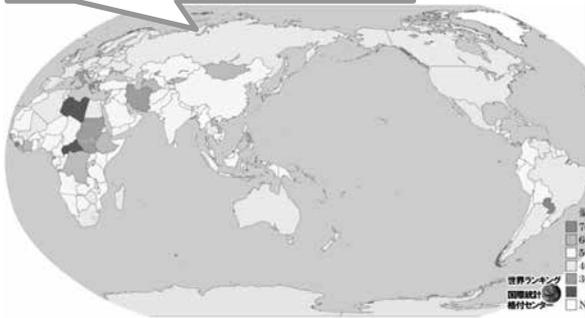
☆4 保険ポストで働く協力隊の村上さんが近くの小学校で歯磨きしている様子



☆4 サンタエレナ小学校で算数の指導書 MaPara 作成に取り組んだ協力隊の山口さん



☆5 GDP 成長率ランキング  
パラグアイの成長率が高い



本時で使ったワークシート

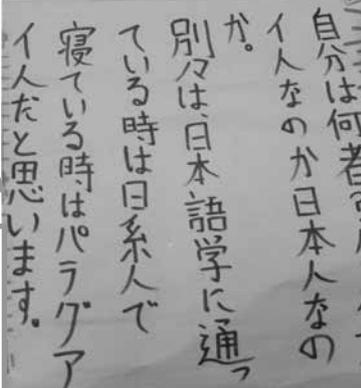
アメリカ州で展開する工業  
パラグアイには(1 食料 )が豊かにあります。しかし、飲み物や調味料、毛布などの日用品といった加工品は(2 輸入 )に頼っています。遠く離れた日本から(3 輸入 )している調味料は値段もとても(4 高い )です。

- ▶工業製品はどうでしょうか。→ 5.工業製品も輸入に頼っている
- ▶日本によるパラグアイ支援にはどのようなものがあるでしょうか。→ 6.浄水施設の設置、職業訓練校などの技術者の育成...
- ▶他にも次のような分野での支援も日本は取り組んでいます。→ 7.教育の分野、予防医療をはじめとする保険の分野...

☆6 東日本大震災のときに日系パラグアイ農家が応援してくれた豆腐プロジェクト



☆6 ラパス日本語学校の生徒作品



☆6 「日系移民は両国の架け橋」という箇所に注目

**日系農家伊藤さんの話**  
「思春期の頃はみんな(日系人は)帰属意識に悩みます。中学生のスピーチコンテストに『私は何人?』というテーマがありますが、最終的には日本人でもパラグアイ人でもない“日系人”として両国の架け橋となる新しい人種でいいじゃないか、という結論になりますね。  
でも大体はパラグアイ人の感覚です。やはり生まれたときからパラグアイに住んでし、日本に行ったこともないからです。移民1世の人はパラグアイ人の時間のルーズイライラするとよく聞きますが、2世以降になると「しょうがないじゃない?」と流人が多いです。大体の人が(日本とパラグアイの)二重国籍です。」

▶日本の支援もあって、パラグアイの経済成長率は今、(8 上昇 )しています。  
▶日本とパラグアイの今の関係性について、今まで学習してきたことを振り返って書こう。

9 (生徒の解答例)  
・日本はパラグアイを支援している。  
・パラグアイも東日本大震災のときに豆腐で支援をしてくれた。

▶日本とパラグアイの未来の関係はどうなっていくと思いますか。  
10 (生徒の解答例)  
・パラグアイが日本を支援している。  
・今よりお互いに関心を持って助け合っている。  
・日本からの輸入品をパラグアイでもっと安く買えるようになっている。

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	蓮池 理之	学校名	埼玉県 新座市立第四中学校
担当教科等	社会科	対象学年 (人数)	2 学年 ( 1 6 9 名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2019 年 11 月 ～ 12 月 ( 6 時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：社会科（地理的分野）、総合的な学習の時間（国際理解）	
2. 単元(活動)名：JICAに学ぶ国際協力 「途上国の課題と世界で働く人たち」	
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「地球の反対側と私たちの未来 - 「国際協力」と「働く」とは -」 単元目標：パラグアイと日本の共通点と相違点を理解し、開発途上国が抱える課題、「国際協力」と「働く」とは何かを考える 関連する学習指導要領上の目標： ①社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。(社会科) ②個々の進路実現に必要なことを総合的・多面的に捉えるとともに、協働的・探究的な学習を通して、進んで将来の自己実現について考えようとする態度を育てる。(総合的な学習の時間)	
4. 単元の評価規準	①知識及び技能 ①パラグアイの写真や現地働く人々のインタビュー動画から途上国の人々の生活や環境の多様性を理解している。 ②課題探求の中で、国際協力や働くことについて自分なりの概念を構築している。
	②思考力、判断力、表現力等 ①パラグアイの写真から集めた情報を整理・分析したりして、課題やその要因をまとめる力を身につけている。 ②他者の考えと比較したり、参考にしたりしながら、自分の考えを表現している。
	③学びに向かう力、人間性等 ①他の生徒との協働的な学習などを通して、粘り強く課題を解決しようとしている。 ②職場体験学習での経験や実際にパラグアイで働く人々のインタビュー動画から将来の自己実現について考えようとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義（児童/生徒観、教材観、指導観）	<b>【単元設定の理由】</b> 社会科では少子高齢化やエネルギー問題、過疎過密など世界や日本のさまざまな問題を取り上げてきた。今後、社会の変化に伴い、現代社会に生きるすべての人が諸課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。また、本校の総合的な学習の時間の進路キャリア教育では、職場体験学習と進路学習を通して、進んで将来の自己実現について考えようとする態度の育成を目指している。そこで、パラグアイの写真や実態、青年海外協力隊の方々の実体験に基づいたインタビューは課題を追究したり解決したりする態度や、将来の自己実現について考えようとする態度を育てるために最適な教材だと考え、本単元を設定した。 <b>【単元の意義】</b> 新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには一斉に教えることを中心とした授業だけでなく、生徒が主体的に考え、課題追究したり、解決したりする活動が必要だと考える。そこで、本単元ではグループ解決型学習と知識構成型ジグソー法の両方を取り入れた学習に取り組む。個人で資料を読み取る、グループで話し合う、

個人で振り返る一連の協働的活動を通して、学びが深まる。また、写真や映像をもとにした探究的な学習を通して、持続可能な社会の実現、SDGS の視点から主体的に課題を見つけ、解決しようとする姿勢を育めると考えている。

**【児童／生徒観】**

本校では共に高め合う生徒を育成するために全教科共通で学習グループ（3～4人）を作り、多様な考え方を理解し、自己表現する場面を多く設定している。少人数で話し合う場面を多く設定することで、生徒間の学び合いが定着することを学校全体で目指している。その成果もあり、本校の2学年は生徒間の話し合いの基礎的な態度は培われており、自己表現ができる生徒が増えている。一方で、他の生徒との協働的な学習などを通して、課題を発見し、解決策を見いだそうとする態度の育成までには至っていない。

**【指導観】**

単元全体を通して、「教えすぎない、伝えすぎない」ことを意識して、生徒の発想や発言を大切にしていく。グループ解決型学習と知識構成型ジグソー法を利用したアクティブラーニングを行うことで、クラス内だけでなく、学年全員で学び合える授業を展開していく。

6. 単元計画（全6時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	世界を知る	・世界やパラグアイについて知る	・パワーポイントで世界やパラグアイについてクイズ形式（計11問程度）で学ぶ ・クイズの答えをワークシートに記入 ・今後の授業の流れについて説明する	・パワーポイント ・実物資料
2	フォトランゲージフォトランゲージ	・パラグアイの写真から日本の共通点と相違点を考える ・途上国が抱える課題を考える	・世界にはどのような課題があるかを考える ・クラスを5つの班（6～7人）に分け、それぞれの班がパラグアイで撮影した写真の中から【インフラ・医療/福祉・食・教育・貧富の差】のテーマごとにまとめる	・パラグアイで撮影した写真
3	インタビュー動画視聴	・「国際協力」と「働く」とは何かを考える	・青年海外協力隊の方のインタビューを見て、質問項目について個人、班で考えをまとめる。 【質問項目】①仕事を始めたきっかけ②やりがい③仕事で大変なこと④パラグアイの国として大変なこと⑤夢⑥日本の子どもたちに一言	・インタビュー動画
4	発表準備	・学んだことを分かりやすくまとめる	・次の時間に向けた掲示物準備と発表の練習をする。班でこれまでの授業の内容を元に「国際協力」と「働く」は何かを考える。 ・次の①～⑥を班で分担する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【フォトランゲージ】①日本との共通点や相違点②問題点③関連するSDGs トップ3 【インタビュー動画】④インタビューを聞いて考えたこと⑤「国際協力」とは何か⑥「働く」と「仕事のやりがい」とは何か【全員】学習のふりかえり</p> </div>				
5	クラスで発表（クラス内で学び合い）	・学んだことを分かりやすく伝える ・他の班の発表を聞いて、学びを共有する	・各班が前時間までにまとめた内容を進行表に沿って、発表をする ・発表内容確認（5分）→発表40分（発表7分+評価1分）×5班→まとめ（5分）	・班で作成した掲示物 ・パワーポイント ・評価シート

6	クラスを超えて発表 (学年で学び合い)【本時】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを分かりやすく伝える</li> <li>・他のクラスの発表を聞いて、学びを共有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5クラスの違うテーマごとに集まり、各教室で発表する</li> <li>・説明&amp;移動(5分)→発表40分(発表7分+評価1分)×5班→ここまでの学びの総括(5分)「授業前と後で、自分が何に気づき、何を感じ、どんな考えを持つようになったか」「授業前と後で、自分が何に気づき、何を感じ、どんな考えを持つようになったか」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班で作成した掲示物</li> <li>・パワーポイント</li> <li>・評価シート</li> </ul>
---	----------------------------	---	---	--

### 7. 本時の展開(6時間目)

本時のねらい: ① 学んだことを分かりやすく伝える

② 他のクラスの発表を聞いて、学びを共有する

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表形態の説明と移動</li> <li>・調べた内容について、クラスを移動して他クラスの生徒に発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスごとに違う隊員を調べたことを再度説明し、発表への責任感を促す</li> </ul>	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班8分(発表7分+評価1分)×5班</li> <li>・次の①～⑥を6～7人で分担し、各担当が発表</li> <li>・クラスごとに違うインタビュー動画を見ているので、自分たちが見た隊員について説明を加える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の意識をつけさせる</li> <li>・発表を聞く態度を指導する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・班で作成した掲示物</li> <li>・発表原稿</li> <li>・評価用紙</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【フォトランゲージ】①日本との共通点や相違点②問題点③関連するSDGs トップ3 【インタビュー動画】④隊員の説明+インタビューを聞いて考えたこと⑤「国際協力」とは何か⑥「働く」と「仕事のやりがい」とは何か【全員】学習のふりかえり</p> </div>			
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここまでの学びの総括</li> <li>「授業前と後で、自分が何に気づき、何を感じ、どんな考えを持つようになったか」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの中で授業の前と後の変化に気付かせる</li> </ul>	振り返り用紙

### 8. 評価規準に基づく本時の評価方法

① 途上国の人々の生活や環境の多様性を理解し、国際協力や働くことについて自分なりの概念を構築している。【知識及び技能】

② 集めた情報を整理・分析したりして、分かりやすくまとめている【思考力、判断力、表現力等】

③ 課題を解決していく中で将来の自己実現について考えようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

### 9. 学習方法及び外部との連携

#### 【学習方法】

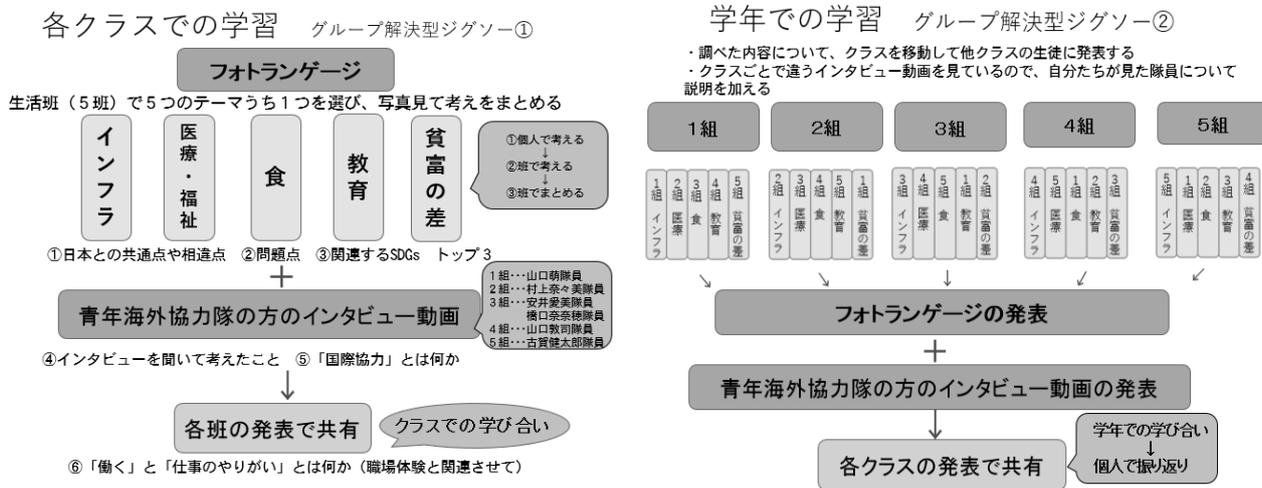
① グループ解決型学習…個人で考える→班(6～7人)で共有→個人でふりかえり→班で発表

② 知識構成型ジグソー法…各クラスの5つの班では、違うテーマ(インフラ・医療/福祉・食・教

育・貧富の差)を担当する。学年5クラスでは、違う動画(山口萌隊員・村上奈々美隊員・安井愛美隊員/橋口奈奈穂隊員・山口敦司隊員・古賀健太郎隊員)を見る。

③グループ解決型ジグソー…5班×5クラスの計25班が、班で作成した掲示物やパワーポイントを使い、クラス内とクラスを超えて学年内で互いに調べたことや考えたことを学び合う。

【授業構造図】



10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

学校内では3学年の総合的な学習の時間で「国際理解」をテーマにした調べ学習と JICA 出前講座を実施している。講師の方々の話を聞くだけでなく、児童労働、フェアトレード、SDGs をテーマにした調べ学習と発表など事前学習にも力を入れている。

学校外では、地域教材資料「新座」における地理的分野の一部を担当し、SDGs をテーマにして地域について考えさせる「持続可能な社会の実現—新座市の未来を考えよう—」のページを執筆した。また、埼玉県で行われた令和元年度人権教育集会では「社会科と人権教育」をテーマに国際理解教育の授業実践を発表した。

【自己評価】

11. 苦勞した点	最も苦勞したことは教材の選定である。パラグアイでの2週間で得た、写真、動画、協力隊や現地の方々の話、見たこと、感じたこと、どれも貴重な教材であり、それらを限られた時間の中でどのように生徒たちに伝えるかを悩んだ。当初扱う予定だった教材を削りながら、「国際協力」「働く」というポイントからテーマに合った教材を選定した。
12. 改善点	今回の授業は学年5クラス、1クラス5班だったため、クラスや学年でのジグソー学習や学び合いが可能になった。今後、他の学校で実施する場合はクラス数や班数に合わせて、調べ学習のテーマやインタビュー動画の編成を変える必要がある。また、グループ学習が中心であったため、発表後に生徒個人の変容を共有する機会を設けると理解がより深まると感じた。
13. 成果が出た点	①学年全体を巻き込み、クラスを超えて学年全体で学び合いを行えたこと。特に学年担当の他の教員も巻き込んで、授業を行えたことがよかった。

	<p>②職場体験学習と繋げ、国際理解だけでなくキャリア教育の視点からも授業を行えたこと。生徒は職場での実体験を踏まえ、「国際協力」や「働く」ことについて深く考えられていた。</p> <p>③全てを教えるのではなく、フォトランゲージやジグソー学習を用いたことで、さまざまな考えや意見が生徒から出たこと。他者の考えと比較したり、参考にしたりしながら、自分の考えを表現している生徒が多くいた。</p>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>①「なぜ日本は他の国のことを援助しているのかな、関係ないのに」と思っていたけれど、今回の話を聞いて、日本が大変だった頃に助けてもらっていたことや、日本が輸入などしているから、その恩返しとして援助を行なっているという大切なことに気付きました。私もいつか外国に行って、誰か1人でもいいから、大切な命を救いたいと思いました。(第1回ふりかえりより)</p> <p>②インフラについて考えたときに、道路が整備されないから雨が降ったら学校に行けない。そうすると教育が進まない。道を整備するとき発展しすぎると森の豊かさがなくなってしまう。1つのことでも、たくさん関連しているものがあり、複数のことを考え直していかなければならない。(第2回ふりかえりより)</p> <p>③今は学校のことしか考えてなかったけど、動画を見て、他の国に目を向けることも大切ということが分かりました。パラグアイの教育をもっと知りたいと思いました。私が職場体験したところも海外の方も来ていたので、世界は繋がっていると思いました。(第3回ふりかえりより)</p> <p>④私たちのこの生活はすごく贅沢で、学習をして備わっているこの知識もパラグアイの人々からしたら、当たり前ものではないと思った。私たちができることなんて、ないと思っていたけれど、今学校で学習している授業を全力で受け、精一杯考えたとき、その考える力が将来世界の役に立てるかもしれないと思った。(第6回ふりかえりより)</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>今回の研修に参加するに当たり、志望動機には「生徒に学ぶ意味を伝えるため、私自身が学び続け、視野の広い教師になる」、「国際理解教育を推進できる教師としてスキルアップする」と書いた。事前研修や2週間を共にした先生方やスタッフの方々から他教科からの視点、授業方法など多くのことを学ぶことができた。特に授業実践では研修や現地でも得た多くの資料をどう授業に落とし込むかをすごく悩んだが、研修の仲間からも多くの助言をもらい、なんとかかたちにすることができた。そして、研修や授業実践を通して、国際協力や働くこと、自分や地球の未来について考えられる、「国際的視座に立った生徒を育成したい」と改めて思うことができた。</p> <p>今回の研修ではさまざまな校種、教科の素晴らしい先生方と仲を深め、議論を交わした。このつながりは、自分にとって今後もかけがえのない財産になるだろう。この研修で学んだことを生かして、今後も学校内外問わず、さまざまなチャレンジをしていきたい。このような貴重な研修の機会を設けてくださり、企画運営してくださったJICAスタッフの皆様に感謝申し上げます。</p>

参考資料：

【フォトランゲージ写真資料】

①インフラ



②医療・福祉



③食



④教育



⑤貧富の差



【インタビュー動画】

山口萌隊員・村上奈々美隊員・安井愛美隊員/橋口奈奈穂隊員・山口敦司隊員・古賀健太郎隊員

【生徒作成の掲示物】



## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	玉腰 朱里	学校名	東京都立大泉高等学校附属中学校
担当教科等	国語科	対象学年（人数）	中学3学年（116名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年10月～11月（6時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：国語科		
2. 単元(活動)名：君待つと——万葉・古今・新古今		
3. 授業テーマ：「時空を超えて、人が繋がるために」		
<p>単元目標：和歌に現れる心情を読み取り、時空を超えた文化や価値観の変遷と普遍を考える。</p> <p>関連する学習指導要領上の目標：第三学年目標（1）社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</p>		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	(1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
	②思考力、判断力、表現力等	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	③学びに向かう力、人間性等	(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b> 二学期は「翻訳」をテーマに単元を設定している。人が言葉を通して自分の思いを表現し、互いの考えを理解することはできるのかを議論しながら、『論語』や魯迅『故郷』という中国の文章を中心に六つの教材を扱ってきた。今回は、同じ土地に暮らした過去の人々の感情を和歌から「翻訳」するために単元を設定した。</p> <p><b>【単元の意義】</b> 本単元「君待つと——万葉・古今・新古今」は、表題の三大歌集から取られた十五歌を併せ読む単元である。「古今和歌集 仮名序」にあるように、古くから「生きとし生ける」全てのものが詠んできた歌というものには、「天地」や「鬼神」の心をも動かす力があると考えられてきた。生徒の心を動かし、時空を超えて変遷してきた文化や価値観の歴史や、それでもなお変わらない人間の普遍性に思いを馳せる単元としたい。</p> <p><b>【生徒観】</b> 本校は東京都立の中高一貫校である。対象生徒は学習に積極的に取り組んでおり、古典学習への意欲は高い。一方で、中学校三年間で培われた内進生としてのアイデンティティは非常に強く、内向的な雰囲気も感じられる。来年度には高校受験を経て入学する高入生を新たに迎え、共に学ぶ仲間として集団を編み直すことになるにあたり、自分とは文化や価値観が違う人と心を繋げ、文化を融合することについて深く考えさせたい。</p> <p><b>【指導観】</b> 為政者から庶民までが平明な言葉で自らの感動を詠んだ日本最古の歌集「万葉集」、日本最古の勅撰和歌集として日本文化全体に影響を与えた「古今和歌集」、貴族支配が終わりつつあった鎌倉期にその華麗な文化を凝縮した「新古今和歌集」の三大歌集の特徴を生徒に捉えさせるとともに、歌に描かれる人間の普遍的感情を自分事に翻訳できるか考えることを主眼として指導したい。</p>	

6. 単元計画 (全6時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	文学史	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本では古くから歌が愛され続けてきたことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書「万葉古今新古今」を黙読し、初読の感想を書く。</li> <li>「古今和歌集」仮名序の「生きとし生けるものいずれか歌を詠まざりける」を復習し、現代短歌や「おくのほそ道」の俳句の既習事項を思い出す。</li> <li>歴史的仮名遣いを確認し、音読して味わう。</li> <li>「万葉集」の二首の感動の中心を学び、句切れ・係り結び・修辞技法などの文法事項や詠み手の情報を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語教科書</li> <li>国語便覧</li> </ul>
2	普遍と変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を越えた普遍と変遷について整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「新古今和歌集」三首の歌意の確認。</li> <li>和歌に描かれる普遍的な感動の中心を読み取るためには、科学技術や価値観や寿命などの当時と今との変遷を理解することが必要だと気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語教科書</li> <li>国語便覧</li> </ul>
3	和歌の感動を翻訳する	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を越えた普遍と変遷について考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「古今和歌集」と「万葉集」の八首を一人二首ずつ分担し、次時に行う発表の準備をする。</li> <li>発表の際には、当時と今との変遷を踏まえて普遍的な感動の中心を翻訳することに注意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語教科書</li> <li>国語便覧</li> </ul>
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>感動の中心を自分事として物語る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四人グループを作り、グループ内で発表する。</li> <li>質問をしあって和歌を理解し、各自の和歌の感想を共有しながら読解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語教科書</li> <li>国語便覧</li> </ul>
5 本時	時空を超えて人が繋がるために	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化や境遇に差異があっても、時空を超えて連帯することは可能だと気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防人歌の歌意の確認。</li> <li>「万葉集」には文字が書けない地方の庶民の歌も多く残っている理由を考え、同時代の文字を書ける役人や後世の人々が歌の詠み手に心を寄せたことに気付く。</li> <li>パラグアイの児童が日本の東日本大震災に心を寄せて詠んだ俳句や、大友家持「防人の情と為りて思を陳ぶる歌」を知り、人間の普遍性があるからこそ心を繋げることができるし、自分に何かできないか考えることができると気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語教科書</li> <li>国語便覧</li> <li>現地撮影写真</li> <li>ラ・パス日本語学校生徒作品</li> </ul>
6	和歌の変遷から見る文化の融合	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典文学にある変遷を踏まえ、多様な背景を持つ人々やその文化を現代でどう融合すべきか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大友家持「春の園紅にはふ桃の花下照る道に出で立つをとめ」の歌意の確認。紅白の桃李になぞらえた晴れやかな心情を読み取る。</li> <li>奈良中期に最も詠まれる花は梅、平安以降は桜だが、「万葉集」では萩だったという価値観の変遷を知る。また、「古今和歌集 仮名序」や令和の出典である「万葉集 梅花の宴」にも海外の文化の影響があることを知る。</li> <li>伝統的で不変のものだというイメージがある古典にすら変遷があり、多様な背景を持つ人々やその文化を排除しないだけでなく、文化を融合させて伝統を作ってきた。だからこそ和歌集の普遍性は古典として生き残ったのだと気付く。</li> <li>給食のメニューや若者文化など現代でも多様な文化の融合が起こり、それが新たな伝統となっていく事例を挙げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語教科書</li> <li>国語便覧</li> <li>現地撮影写真</li> </ul>

7. 本時の展開（5時間目）

本時のねらい：文化や境遇に差異があっても時空を超えて連帯することは可能だと気付く。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<b>導入</b> (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙テストの実施。相互採点と回収。瞑想。</li> <li>・生徒による読書紹介。</li> </ul>		
<b>展開1</b> (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の和歌を音読する。前時の復習。</li> <li>・防人歌「父母が頭かき撫で幸くあれて言ひし言葉ぜ忘れかねつる」の歌意の確認。</li> <li>・係助詞によって父母の言葉を今でも忘れかねているという心情が強調されていることや、万葉仮名によって方言までもがそのまま書き残されていることを読み取る。</li> <li>・防人制度に触れ、その道のりの過酷さや福祉等の状況が未整備なことにより、家族との別れの辛さが一層増していることを確認する。</li> <li>・この歌には「右の一首、丈部稲麻呂」と詠み手の名前まで残されているように、「万葉集」には東歌や防人歌など地方の庶民の歌が多く残っているのはなぜか考える。</li> </ul> <p>→文字を書ける役人が貴重な木簡を使って記録し、後世の人々が時空を超えてその心を繋げて書き写し続けたから。立場・居住空間・時空を超えて、人々の心が繋がっていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机をコの字型にする。</li> <li>・教科書の脚注を参考に、気付いた点を隣の席の生徒同士でバズセッションさせる。その様子を観察して何名かを指名し、クラスに意見を発表させる。以下同様に、各発問はバズセッションを中心に展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語教科書</li> <li>・国語便覧</li> <li>・現地撮影写真</li> <li>・ラ・パス日本語学校生徒作品</li> </ul>
<b>展開2</b> (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災の直後に宮城県女川町立女川中学校の生徒が詠んだ俳句に、世界中の人々が下の句を付け足した実話（中学校一年生の国語の授業で既習）を思い出す。</li> <li>・教師海外研修中に、ラ・パス日本語学校の小学六年生を対象に俳句の授業を実践したことを紹介する。内陸国で地震がないパラグアイの児童に東日本大震災の俳句の話を紹介すると、「父親がいなくなってもそばにいる」という俳句を詠んでくれた。その児童は時空を超えて女川の中学生に心を寄せていたことに気付かせる。</li> <li>・大伴家持が詠んだ「(防人の情と為りて思を陳ぶる歌) 今替る新防人が船出する海原の上に波な咲きそね」を知り、時空を超えて人は感情を翻訳し、自分事にすることができるのではないかと考える。</li> </ul>		

<b>まとめ</b> (5分)	・防人歌を中心とした本時の学習内容を踏まえ、人の感情の普遍性とそれを自分事にするについて、自分の考えを書く。		
<b>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</b> ①知識及び技能：ワークシート、授業中の観察、定期考査 ②思考力、判断力、表現力等：ワークシート、授業中の観察 ③学びに向かう力、人間性等：授業中の観察			
<b>9. 学習方法及び外部との連携</b> ・近隣の席の生徒と自由に意見を交換するバズセッションを中心として授業を展開した。このことにより、中学生にとっては多くの予備知識が必要な和歌の読解であっても、生徒同士の意見交換やそこから生まれる疑問を取り上げて活用する授業を展開できた。 ・黒板を中心としたコの字型に生徒の机を移動させて授業を行った。このことにより、生徒は学習中のお互いの表情や反応を見ながら、対話的な雰囲気の中で授業に参加できた。 ・勤務校の卒業生であり、国際的ジャーナリストとして活躍されている池上彰氏が本単元の授業を参観してくださった。このことにより、校内での国際理解教育の実践に注目が集まり、より多くの教員と研究協議を行うことができた。			
<b>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</b> ・教員対象の報告会の実施。(11月職員会議) ・道徳の授業「国際理解・国際協力」単元の企画と実施。(中3全クラス、計4時間) ・池上彰氏による講演会(中3全クラス、全6時間)と、本単元の授業参観(第六時)。 ・国語の授業における「社会課題を一人称で物語る」単元の実施。(全10時間) ・「社会課題を一人称で物語る」読書会への専門家招聘と講評。(佐藤真久先生)			

【自己評価】

11. 苦労した点	国語科にしかできない国際理解・協力教育とは何かを考え、海外研修で学んだことを古典の授業として昇華すること。
12. 改善点	他国の文化が日本に息づいている例を取り上げることで、国と国との文化の融合について理解を深めさせることができた一方で、その融合から生まれる個性や伝統を尊重する姿勢までは十分に考えさせることができなかった。 そのため、次単元では自己存在の同一性について論じた評論文を取り上げた。自己の人格は他者の模倣によって形作られるが、そこから生まれる個性は自分自身のものであるという複数の文章を生徒に比べ読ませ、日常生活における具体例を挙げながら自分の意見を書かせた。この活動により生徒は、「部活動では先輩の真似をして上達してきたが、先輩と全く同じフォームになることはない」、「積み木で遊んでいる時、同じパーツであっても組み合わせは無限であり、どの要素をどう組み合わせるかによって個性が出る」などと考えを深めることができた。
13. 成果が出た点	この単元の学習をきっかけに、国際協力やボランティアに参加したいという有志生徒が集まって活動を始めた。授業者が実際に海外に足を運び、目で見て耳で聞いたことを生徒に伝えられたことで、生徒の変容があったと感じる。

14. 学びの軌跡  
(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

第5時のワークシート

- ・「他人事にせず、自分だったら、どうしてあげたらと考えることは、大友家持が防人目線で歌を詠んだときからずっと普遍なんだなと思った。こういう感じの取り組みは最近やろう！って呼びかけられている感じがあったからびっくり。」
- 日本で最も古い和歌集である「万葉集」で授業を実践できたことで、国際理解・国際協力の必要の普遍性が、生徒にも実感をもって伝わった。
- ・「悲しかったことやつらかった苦勞を、それを経験した人ではなく聞いた人が色々な形で伝えていくというところに惹かれた。(中略) 声が大きい人が声が小さい人の声をかき消すのではなく、防人歌のように逆に代弁していく。これが当たり前になったらもっと色々な感情や見方が広がるのではないか。」
- 古典文学と国際理解を結び付けて考えている様子を見とることができた。

P136「道待こと」万葉・古事・新古事記の防人歌

防人歌を中心とした本時の学習内容を踏まえ、人の感情の普遍性として、それを自分事として翻訳かいていく。

悲しかったことやつらかった苦勞を、それを経験した人ではなく聞いた人が色々な形で伝えていくというところに惹かれた。(中略) 声が大きい人が声が小さい人の声をかき消すのではなく、防人歌のように逆に代弁していく。これが当たり前になったらもっと色々な感情や見方が広がるのではないか。

P136「道待こと」万葉・古事・新古事記の防人歌

防人歌を中心とした本時の学習内容を踏まえ、人の感情の普遍性として、それを自分事として翻訳かいていく。

今までは、パラグアイの話というよりも、前は、事件とか自然災害が来たときに、口にも他国の人が協力的だとは思っていた。人事にせず、自分だったら、どうしてあげたらと考えることは、大友家持が防人目線で歌を詠んだときからずっと普遍なんだなと思った。こういう感じの取り組みは最近やろう！って呼びかけられている感じがあったからびっくり。

第6時のワークシート

- ・「日本はいつから始まったのかというのもあやふやだと思っている。ひらがな、カタカナが生まれたときなのか、天皇が生まれたときか、邪馬台国ができたときなのか、考えればキリがない。常に『日本』というものは変わり続けていて、その変化している道の上にたまたま古典があって、さらにはJpopやアニメといった文化もあると思った。『日本』という道は終わりもなく始まりもない。人が勝手に考えた境界だ。」
- 日系社会を寛容に受容しているパラグアイの様子や、古典にも現れる文化の変遷・他国の影響を取り上げることで、国という境界や伝統文化という、一見恒久的にも思えるものの変遷について、生徒に深く考えさせることができた。
- ・「古典すら変遷するのは当たり前だと思った。古典っていうのは面白いと感じるから時代を超える。だけど、もし古典が「ザ・日本」ですって感じて日本観の押しつけのゴリ押しだったら、きっと独りよがりですつまらない。」

	<p>→文化の変遷・他国の影響を柔軟に受け入れることで、古典作品が時空を超える魅力を持ち、古典作品として生き残ってきたと、古典作品と多文化共生を繋げて考えさせることができた。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>教師海外研修を通じて他校種・他教科・そして様々な形で国際協力に携わる方々との素晴らしい出会いがありました。この出会いにより、国語科教員である私は日本でどのように国際協力に貢献していけるのか、という大きな課題に向き合うことができました。まだまだ答えは出ませんが、国語科が言葉を扱う教科であることにヒントがあるように思います。</p> <p>言葉を通して他人の思いをわかろうとし、言葉を通して自分の思いを伝えようとする。そのような授業を通じて、時空を超えて他人の思いを自分事として理解しようとする姿勢を育み続けていきたいと思えます。</p>

参考資料：

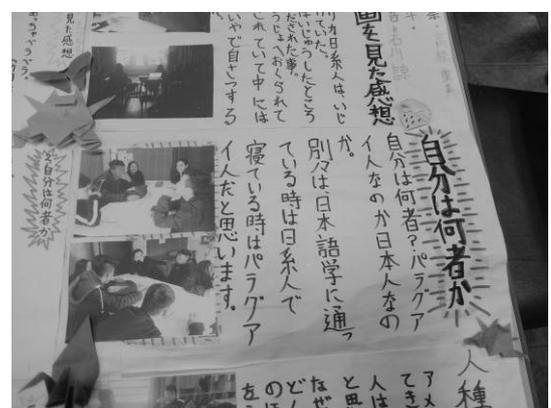
- ・黒澤弘光・竹内薫『心にグッとくる日本の古典』NTT出版
- ・松田修『カラー版古典の花 万葉花譜 春・夏』国際情報社
- ・松田修『カラー版古典の花 万葉花譜 秋・冬』国際情報社
- ・松田修『古今・新古今集の花』国際情報社
- ・山田卓三・中嶋信太郎『万葉植物辞典 万葉植物を読む』北隆社



ラ・パス日本語学校



がれきから やつと見つけた父の写真



## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	大塚 由貴	学校名	埼玉県立 杉戸高等学校
担当教科等	地理 B	対象学年 (人数)	2年3組 (40名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	令和元年12月5日 (木) (全4時間)		

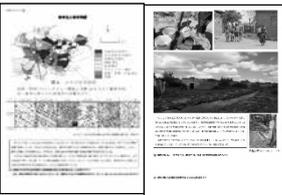
### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：地理B		
2. 単元(活動)名：発展途上国の都市・居住問題		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：「SDGsの視点から世界と日本の課題を捉え、自分にできることを考えよう」  単元目標：発展途上国と先進国が抱える問題の特徴を捉え、問題解決への取り組みを考えてみよう。  関連する学習指導要領上の目標：世界の人口、都市・村落などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界及び日本が抱えている課題を理解できる。</li> <li>・資料から適切な情報を読み取ることができる。</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得た情報をもとに自分の考えをまとめ、相手に伝えることができる。</li> <li>・自分の考えを自分の言葉で書くことができる。</li> </ul>
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を通じ、自分なりにさらに疑問をもつことができる。</li> <li>・協力して課題解決にあたらうとしている。</li> </ul>
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b>          この単元は、世界の人口、都市・村落などに関する諸事象を取り上げ、その分布や動向などについて考察させるとともに、世界の人口、都市・村落とかかわりの深い現代世界の人口、居住・都市問題を大観させることを主なねらいとしている。</p> <p><b>【単元の意義】</b>          人口が増加しつつ経済発展をしているザンビアについて学ぶことで、日本もかつて同じような状況を経験していることに気づかせる。その気づきから、世界が抱えている課題を自分ごととして捉え、課題解決のために今自分が何をすべきか考えることができるようになる。</p> <p><b>【生徒観】</b>          普通の授業から対話を取り入れた授業を展開しているため、積極的なグループワークが行われると予想される。アジアなど身近な地域への興味や知識はあるが、アフリカなど遠い地域への興味・関心は低く、知識も少ない。</p>	

		<p><b>【指導観】</b></p> <p>人口・経済規模の異なる二か国の抱える課題について理解し、「SDGs」の視点から解決策を考えられるようにしたい。また、生徒自身が「なぜそのように考えたのか」という理由・根拠を説明できるよう指導を行いたい。</p>		
6. 単元計画 (全4時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	SDGs について知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>2001～2015年の15年間で世界がどのように変化したのか理解する。</li> <li>SDGsが誕生した背景を理解する。</li> <li>SDGsについて理解する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ワークシートのA～Fが人口、5歳児未満の死亡率、成人識字率、女性の国会議員数の割合、1人あたりの二酸化炭素排出量、ジニ係数どれに対応しているか予想する。</li> <li>②グループ内で考えを共有した後、確認。その後、2001年から2016年までの15年間でA～Fの指標がどのように変化したか捉える。</li> <li>③2016年～2030年の15年間で世界がどのように変化するか予想する。</li> <li>④ワークショップからSDGsが誕生した背景を学び、SDGsについて理解する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標—SDGs—アクティビティ (Save the Children) より。</li> <li>「15年前の世界と未来(2030年)の世界を考えよう」</li> </ul>
2	ザンビアの基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本と異なる自然環境、文化について理解する。</li> <li>写真からザンビアの地方と都市の差を読み取ることができる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ザンビアの位置を地図帳で探し、白地図内に色をつける。</li> <li>②ザンビアの第一印象を書く。</li> <li>③クイズ形式でザンビアについて知る。 ・人口、面積、自然環境、食環境、文化など</li> <li>④地方と都市の差を写真から読み取る。</li> <li>⑤ザンビアの第二印象(学んだことをもとに)を書く。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プリント教材 ・地図入り ・クイズ形式</li> <li>●パワーポイント ・解説 ・現地で撮影した写真</li> </ul>
3 本時	発展途上国の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口増加による都市化とその影響について理解する。</li> <li>医療、産業と環境、教育の分野で抱えている課題を理解する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①知識構成型ジグソー法を利用してザンビアの抱えている課題を知り、課題解決のために取り組むべきSDGsの優先順位を考える。</li> <li>②SDGsの17の目標を優先順位の高いものから並べ、ダイヤモンドランキングを作成する。</li> <li>③作成したダイヤモンドランキングをもとに、なぜそう考えたかを踏まえて発表する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●共通資料</li> <li>●エキスパート資料 (A)教育 (B)医療 (C)産業と環境 (D)都市化</li> <li>●ダイヤモンドランキングのシート</li> <li>●SDGsシール</li> </ul>
4	先進国の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方の人口減少、都市への人口集中により日本が抱えている課題を理解する。</li> <li>日本とザンビアのダイヤモンドランキングを比べて、人口増減や経済状況に応じて異なる課題が生じることを理解する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①知識構成型ジグソー法を利用して日本の抱えている課題を知り、課題解決のために取り組むべきSDGsの優先順位を考える。</li> <li>②SDGsの17の目標を優先順位の高いものから並べ、ダイヤモンドランキングを作成する。</li> <li>③作成したダイヤモンドランキングをもとに、なぜそう考えたかを踏まえて発表する。</li> <li>④ザンビアと日本のダイヤモンドランキングを比べて気づいたことを発表・共有する。</li> <li>⑤授業内容を踏まえて、自分にできる取り組みを考える。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●共通資料</li> <li>●エキスパート資料 (A) (B) (C) (D)</li> <li>●ダイヤモンドランキングのシート</li> <li>●SDGsシール</li> </ul>

7. 本時の展開 (3 時間目)

本時のねらい：人口が増加し、経済規模も日本と異なるザンビアが現在抱えている課題を知り、その課題を解決するために優先して取り組むべき SDGs は何かを考えることができる。また、その理由を説明することができる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<b>導入</b> (5分)	○本時の課題把握(一斉授業形式) 「ザンビアの課題解決のために SDGs の優先順位を考えよう」 ○個人の考え・理由をワークシートに記入	・ダイヤモンドランキングの説明  ・2～3人に発表してもらう。	・パワーポイント ・共通ワークシート
<b>展開</b> 活動① (5分)	○エキスパート資料A～Dのうち配布された1種類を個人で読み、資料にある問いに答える。(知識構成型ジグソー法) ①ザンビアの抱える課題 ②その課題に関する SDGs	・机間指導 ・キーワードの抜き出しでもかわまないで、設問全てに答えるよう助言する。	●エキスパート資料 (A)教育 (B)保健医療 (C)産業と環境 (D)都市化
活動② (10分)	○エキスパート活動 ・同じ資料を持つ者どうして3～4人のグループを作り、話し合いながら問いの答えを確認していく。  (A)教育  (B)保健医療 	・新たな情報があればエキスパート資料に記入するよう指示する。 ・机間指導をし、話し合いが活発になるよう助言する。(特に SDGs の視点)	・グループ作成指示 → パワーポイント ・エキスパート資料
活動③ (25分)	(C)産業と環境  (D)都市化   ○ジグソー活動 ・エキスパート資料A～Dを持ち寄って新たに3～4人のグループを作り、各資料で学んだ内容をお互いに説明し合う。	・机間指導 ・必要があればその都度、全体で資料に関する補足説明	・グループ作成指示 → パワーポイント ・各エキスパート資料 ・ダイヤモンドラン

<p>活動④ (5分)</p> <p>まとめ (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題について考え、グループで話し合いながらダイヤモンドランキングを作成する。</li> </ul> <p>○発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したランキングをもとに、なぜそのような優先順位をつけたのか説明する。</li> </ul> <p>○もう一度最初の問いについて個人で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位 5 位までを、理由と共に答える。</li> </ul>	<p>をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの考えたランキングの説明ができるよう指示する。</li> <li>・2～3 グループに発表してもらう。</li> <li>・聞く姿勢など指導する。</li> <li>・机間指導</li> </ul>	<p>キング用シート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs シール</li> <li>・共通資料</li> <li>・ダイヤモンドランキングのシート</li> <li>・共通資料</li> </ul>
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度(学びに向かう力)</li> <li>・発言(思考力・判断力・表現力)</li> <li>・プリント(表現力・知識)</li> </ul>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>本時の学習目的が「ザンビアの課題を知り、課題解決をするための優先順位を考える」という内容のため、より多くの課題を知り、様々な意見を聞いたうえで考えてほしいと思い知識構成型ジグソー法を利用した。</p>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>校内では、同じ科目を担当している教員と話し合いをし、同じ授業を展開していただいた。また、研究授業では教科を超えて多数の教員に参観していただき、取組内容を知ってもらった。</p>			

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>各エキスパート資料の内容が濃く、資料の読み取りに時間がかかってしまった。そのため、授業時間内に発表まで辿り着くことができなかった。また、ダイヤモンドランキングを作成していくなかで、話し合いは活発に行われていたものの、その話し合いをもとに作成していくグループもあれば、エキスパート資料に出てきた SDGs を中心に多数決で優先順位を決めていたグループもあった。その結果、早くランキング作成が終わってしまい、時間を持て余してしまったグループがあったので改善が必要である。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>日本についてのエキスパート資料をなるべくザンビアと同じ分野(医療や都市化など)で作成した。そのため、生徒が考えたランキングでは貧困に関しては優先順位が低くなった。近年、日本でも「相対的貧困」が話題になっている。この話題をエキスパート資料に組み込むことで、また違ったランキング表になり新たな気づきが出るのではないかと思う。</p>

<p>13. 成果が出た点</p>	<p>生徒の感想文を読んでもみると、「現地に行って実際に見てみたい」、「他の国(または高緯度の先進国など)ではどのような課題を抱えているか知りたい」と書いている生徒が多く見受けられた。そこから今回の授業を通して、他国・世界が現在抱えている課題について興味・関心が出てきたのではないかなと思う。</p> <p>最大の成果は、研究授業に多数の先生方が来てくれたことである。研究授業後の授業も見学に来てくれた先生もおり、「SDGs」に興味を示す先生方が増えてきている。なかには、授業実践後に図書室で見つけたと SDGs のロゴが掲載されている講演会のチラシのコピーを持ってきて、クラスに配ろうと思っていると云ってくださる先生もいた。</p>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>【 授業を通しての感想・もっと知りたいこと 】</p> <p>①ザンビアにおける課題と日本における課題では大きな違いがあった。ザンビアで残っている課題の多くは、日本が過去に達成しているものだった。日本がザンビアに今できることは主に経済的な援助だと思う。そして、いつかザンビアがクリアしている課題に日本が直面したとき、ザンビアから何かしらの援助を受ける。そんな愛のある世界になれば良いと思う。</p> <p>②ザンビアの現状がよく分かった。日本では当たり前のことがザンビアでは当たり前ではないことに驚いた。しかし、貧困を無くすというというのはとても難しいということも考えさせられた。質の高い教育がないと生産性は上げられないが、質の高い教育にはお金が必要。とても難しい問題だと感じた。</p> <p>③ザンビアの生活がどれほど日本と違うのか、現地に行って直接触れてみたいと思いました。それに、ザンビアの授業がどんな感じで行われているのかももっと知りたいと思いました。</p> <p>④貧困で悩んでいる地域がほかにもたくさんあると思うので、そういった国同士でどのような点が共通して言えることなのか、またどのような違う悩みがあるのかについて比べてダイヤモンドランキングを作りたいと思った。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>今後飛躍的に発展していきだろアフリカの現状を見ることができたのは、私にとって大きな財産となった。また、滞在期間は短かったが、五感から得た情報を活用して考えることの重要性を改めて実感した。そして現地で交流した日本人・現地の方々、そして一緒にザンビアへ行った他県の教員との出会いを大切にしたい。</p> <p>これからの社会において、国際理解は大切である。だからこそ、国際理解教育・開発教育を今年で終わらせず、次年度以降も続けていきたい。それが今回の研修に参加した私の「今できること」であると思う。</p>

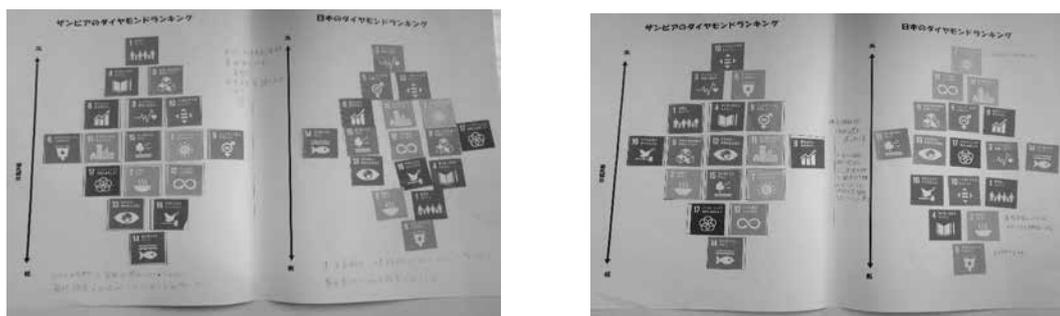
参考資料：

- ①先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標・SDGs-アクティビティ集  
[https://www.savechildren.or.jp/lp/sdgs\\_activity/](https://www.savechildren.or.jp/lp/sdgs_activity/)
- ②国や分野の垣根を越え ザンビアの鉛汚染に挑む  
[https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/backnumber/2019/201908/pdf/2019\\_08\\_p03-07.pdf](https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/backnumber/2019/201908/pdf/2019_08_p03-07.pdf)
- ③在ザンビア日本大使館ホームページ  
[https://www.zm.emb-japan.go.jp/itprtop\\_ja/index.html](https://www.zm.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)
- ④ザンビアにおける女子教育の阻害要因  
[https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/34118/2014101620100932126/JICE\\_2-2\\_55.pdf](https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/34118/2014101620100932126/JICE_2-2_55.pdf)
- ⑤JICA ザンビア事務所で頂いた資料

授業風景→



↓生徒が作成したダイヤモンドランキング（ザンビア／日本）



## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	竹村 ゆかり	学校名	長野県 長野高等学校
担当教科等	地理 B	対象学年 (人数)	2年文系講座 (74名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2019年9～10月 (3時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：地理B	
2. 単元(活動)名：現代世界と日本	
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：「SDGsで考えるザンビアと日本」 単元目標：現代世界が抱える諸課題をSDGsという観点からとらえ、その諸課題が日本や身近な社会にも存在することを理解し、解決策を模索する思考力を養う。 関連する学習指導要領上の目標：現代世界における日本の国土の特色について多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望させる。	
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能 産業構造と発展、広がる貧富の格差などザンビアの実情と日本が抱える課題について、関連づけながら理解することができる。
	②思考力、判断力、表現力等 教科書で学んだ知識や資料の読み取りを通して、解決すべき課題について考察し、自身の考えを明確に他者に伝えることができる。
	③学びに向かう力、人間性等 現代世界や日本が抱える課題を身近な社会や自分自身にも関わることとして捉え、意欲的に学ぶことができる。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b>          現行の学習指導要領において、地理Bの目標は「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」ことにあると示されている。「現代世界と日本」という単元において、ザンビアの諸課題について学び、そこから見えてくる日本の諸課題について考察することは、上記目標を達成するうえで有意義であると考えた。</p> <p><b>【単元の意義】</b>          学習指導要領では、「日本が抱える地理的な諸課題を生徒自ら見いださせることを通して、その解決と望ましい国土の在り方を実現するためにどのような取組が必要であるかを考えさせること」を「現代世界と日本」の主なねらいとしている。ジクソー法など協働学習を通して生徒自らが考察したザンビアの課題に対する解決策は、日本が抱える課題の解決策にも通じるものである。</p> <p><b>【生徒観】</b>          本校は2018年度まで文科省スーパーグローバル・ハイスクール (SGH) の指定を受け、2019年度からは新規事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローバル型)」の指定を受け、校内では探究活動が行われている。その一環で入学時よりSDGsに関わる課題研究を行っているため、SDGsへの理解も深い。2年次に予定されている台湾への研修旅行では英語での学校交流や課題研究の発表も組み込まれており、異文化に興味を持ち、将来は国際社会での活躍を望む生徒も少なくない。学習意欲が高く、協働学習では活発に発言できる生徒が多い。</p> <p><b>【指導観】</b></p>

SDGsは遠い世界のものではない。日本や身近な社会にも課題が存在する。ジグソー法など協働学習を活用することで、生徒自らがザンビアから見えてくる日本の課題や解決策について考察することをねらいとしたい。それは現行の学習指導要領が目標として示す「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」ことに通じるものであり、本単元における最終目標は、地球規模の視野で考え、地域視点で行動する(Think globally, act locally) グローカル人材の育成である。

6. 単元計画 (全3時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	<b>開発途上国への効果的な支援とはどうあるべきか?</b>	開発途上国を支援する方法は一つではなく、複数の方法が関連し合うことで効果的な支援となることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ジグソー法を利用</li> <li>① 3人グループを作り、一人ずつ担当の英文を読み取る</li> <li>A Donating food and water</li> <li>B Providing technology</li> <li>C Promoting school education</li> <li>② A～Cの内容がどのように関連しているかグループで話し合う。</li> <li>③ 発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JICA 教師海外研修 (2019/6/29～30) で行われた模擬授業教材を使用</li> </ul>
2 本時	<b>SDGsで考えるザンビアと日本①</b>	ザンビアが抱える課題について理解し、その解決策について協働学習を通して生徒自ら考察する。	<p><b>ザンビアの課題を知ることがなぜ日本の課題解決に役に立つのか?</b></p> <p><b>(1) ザンビアの課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ザンビアの概要</li> <li>② 4人グループを作り、一人ずつ担当の英文を読み取る (A: 銅 B: 産業 C: 教育 D: 水問題)</li> <li>③ 情報共有</li> <li>④ 補足説明</li> <li>⑤ ダイヤモンドランキング</li> <li>・ ザンビアが優先すべき SDGs</li> <li>⑥ 発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『新詳地理 B』 帝国書院</li> <li>・ 『新編地理資料 2019』 とうほう</li> <li>・ 『データブックオブザワールド 2019 年度版～世界各国要覧と最新統計』 二宮書店</li> <li>・ JICA ザンビア事務所提供資料</li> <li>・ secondary school 教科書 (ザンビア書店で購入)</li> <li>・ ユニセフ HP</li> <li>・ CMMB HP</li> </ul>
				
3	<b>SDGsで考えるザンビアと日本②</b>	ザンビアの課題から見えてくる日本の課題とその解決策について生徒自らが考察する。	<p><b>(2) ザンビアの課題から見えてくる日本の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 前回の振り返り</li> <li>② ザンビアの SDGs 達成状況</li> <li>③ 日本の SDGs 達成状況</li> <li>④ 日本が抱える課題</li> <li>⑤ ザンビアの課題を知ることがなぜ日本の課題解決に役に立つのか?</li> <li>⑥ 発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『未来の授業～私たちの SDGs 探求 BOOK』 佐藤真久 監修 宣伝会議</li> </ul>

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<b>導入</b> (15分)	○ What kind of country is Zambia? ① ザンビアの面積・人口・言語 ② 1964年東京オリンピック閉祭式の日に独立 ③ 銅の国際価格上昇と発展するザンビア ④ 広がる格差	・パワーポイントを 使用し、ザンビアの 概要について説明。 ・教科書等の記載に 触れながら説明。	・パワーポイント ・『新詳地理 B』 帝国書院 ・『新編地理資料 2019』 とうほう ・『データブックオブザ ワールド 2019 年度版 ～世界各国要覧と最新 統計』二宮書店
<b>展開①</b> (15分)	○ EXPERT ・4つの英文を担当者ごとに読み取り、概要を まとめる (A:銅 B:産業 C:教育 D:水問題)	・辞書を使用しても よいと伝える。 ・英文を読み、概要 をワークシートにま とめる。	・ワークシート <b>4つの英文</b> A: P42-45 『Atlas for Zambia』 B: P109-110
<b>展開②</b> (5分)	○ JIGSAW ・A～Dの英文を読んだ4人でグループを作 り、それぞれが持つ情報を共有する。	・グループごとに情 報を共有し、ワーク シートに記入する。	『Excel & Advance Geography Lerner's Book Grade 12』
<b>展開③</b> (5分)	○ 補足説明 A:「モノカルチャー」と問題点中国への依存 B:「産業革命」と工業化、社会の発展 「輸入代替型工業」 インフラの未整備と不安定な電力供給 C: 教師研修で訪れた学校 D: ザンビアのトイレと浅井戸	・パワーポイントを 使用、A～D の英文 に関する補足説明。 ・教科書等に記載さ れた地理用語を示 し、英文の補足説明。	C:ユニセフ HP <a href="https://www.unicef.org/zambia/education">https://www.unicef.org/zambia/education</a> D:CMMB HP <a href="https://cmmb.org/chole-ra-outbreak-in-lusaka-zambia/">https://cmmb.org/chole-ra-outbreak-in-lusaka-zambia/</a> ※ A B は ザンビアの secondary school 教科書
<b>展開④</b> (10分)	○ ダイヤモンドランキング ・ザンビアが優先すべき目標 (ゴール) のうち、 上位 1～6 位について理由を明確にしなが らグループごとに話し合う。 	・パワーポイント を使用、ダイヤモン ドランキングの説明。 ・理由を明確にす ること。 ・グループごとにワ ークシートにシール を貼る。	
<b>まとめ</b> (5分)	○ 発表 ・各グループのダイヤモンドランキングと その理由について発表する。 	・数人の生徒に発表 させる。 ・気づいたことを ワークシートに記入 させる。	

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・授業に意欲的に参加し、ザンビアの地誌について理解することができる。
- ・他者との協働学習を通してザンビアが抱える諸課題について理解することができる。
- ・ザンビアが解決すべき課題について論理的に考察し、自身の考えを他者に明確に伝えることができる。

9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

【校内】

- ① 2年生課題研究のためのおつかいFW
- ② 本校図書館にてザンビア展を開催（期間：2019年8月25日～10月31日）
- ③ 本校1年生英語プレゼン発表会閉会式にてザンビアに関する英語プレゼン（2019年9月28日）
- ④ ザンビアにおける鉛汚染について研究されている北海道大学・JICA 在外研究員である中田北斗氏を本校にお招きし、ワークショップを実施（2019年11月22日）。

【校外】

- ① 長水支部教研社会科分科会（長野市と周辺地域の小中高教員による教育研究会）にてザンビア教師海外研修について報告（2019年10月5日）
- ② 長野県飯山高校図書館にてザンビア展を開催（2019年12月1日～2020年1月31日）
- ③ 長野県飯山高校にて上述の中田北斗氏によるワークショップを実施。なお、飯山高校では、事前学習として教科横断型授業を3時間行い、ワークショップではロールプレイングによるディベートなど、先進的な取り組みが行われた。（2019年11月22日）
- ④ SBC ラジオ「武田徹のつれづれ散歩道」にて教師海外研修について報告。（2019年12月28日）

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>最も苦勞した点は、ジクソー法を取り入れた授業展開である。従来型のグループディスカッションでは、積極的に意見を述べる生徒がいる一方、他の生徒の話を聞くだけで終わってしまう生徒が出てしまうという問題がある。ジクソー法では、必ず一人に一つの役割が与えられているため、そうした問題を見事に解消することができる。4人がそれぞれに異なる英文を読み、それをもとにザンビアが優先すべきゴールをダイヤモンドランキングで示すという活動を取り入れたが、4つのパーツを組み合わせて一つの到達点に至るという本来のジクソー法の趣旨とはずれてしまっていたため、結局は発言力のある生徒を中心にダイヤモンドランキングがつくられるという流れになってしまった。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>① ザンビアの教科書を教材として使用するという構想から、4つの英文からザンビアが抱える課題を生徒自らが探るといった活動が、英文の読み取りに終始してしまった点。英文を扱うのであれば、英語科と教科横断型授業を展開し、もう少し丁寧に英文を読み解く必要があった。</p> <p>② シール台紙にSDGsのゴールを印刷したものをはさみで切って貼ることでダイヤモンドランキングをつくる計画であったが、台紙からシールがうまくはがせず、予想以上に時間がかかってしまった。上記の発言力のある生徒中心にグループディスカッションが行われたという点も含め、改善が必要である。</p> <p>③ グループごとのディスカッション内容の発表について。時間の都合上、すべてのグループの発表も難しく、グループの代表として発表した生徒にとっては貴重な学びの経験となるが、その他大勢にとっては聞くのみとなっている点。すべての生徒に発言の機会が取り入れられた授業展開を考える必要がある。</p> <p>④ 着地点は「日本の課題」であったが、その提示に終始してしまった点。日本が優先すべきゴールについてもダイヤモンドランキングをつくるなど、ザンビアと比較しながら解決策を深く考察することが、最も大切なことだったように思う。</p>

13. 成果が出た点

- ① すべての生徒が主体的に授業に参加する目的でジクソー法を活用した。ジクソー法を経験したことがない生徒が大半であり、不安はあったが、通常の授業では見られない、意外な生徒による意外な発言など、授業者の予想をはるかに超える展開も見られた。授業終了後の休み時間もザンビアが最も優先すべきゴールは何か、真剣に議論していた生徒たちの姿が印象に残っている。
- ② 授業のまとめとして、「ザンビアの課題を知ることがなぜ日本の課題解決につながるのか」という問いに対する答えを生徒それぞれに書かせた。生徒それぞれの個性を見ることができ、授業者の期待以上の意見を書く生徒も。少なからず一連の授業を通した生徒の変容を見ることができた。
- ③ 「ザンビア」という国に対する生徒のアンテナが高くなった。NHK 大河ドラマ「いだてん」の最終回でザンビアが出てきたことなどを話してくれる生徒（先生方も！）がいた。

14. 学びの軌跡  
(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

(1) 最優先で取り組むべき上位6つの目標（ゴール）を並べましょう。



(2) 理由

安全な水やトイレが整備されていないと生活が解決できないと、人々の暮らしや健康が保証できないと思っただけから。また、2番目の4,7は教育とエネルギーの両方環境が整備ないと子供たちの将来、ザンビアの将来が危ういから。

(1) 最優先で取り組むべき上位6つの目標（ゴール）を並べましょう。



(2) 理由

教育を基盤とすることで経済の基盤がたつていけると思っ、優先度を高くした。水、トイレを整備することで、安心・安全な農業を行えることができ、健康につながる。また、経済の基盤を確立することで、国が豊かになっていくのではなかった。

☆ザンビアの課題を知ることがなぜ日本の課題解決に役に立つのか？

2つの国を比べると互いにSDGsにおいて解決されている項目とされていない項目とがあり、共通点もあれば、相違点もいくつかある。そのことから、ザンビアでは解決されているが、日本では解決されていない課題に注目して、なぜ日本では解決に至っていないのかを考えやすくするからだと思う。両国の良い点・悪い点を考慮することもできると思う。



☆ザンビアの課題を知ることがなぜ日本の課題解決に役に立つのか？



「先進国だから」「発展途上国だから」という関係なく、国民が幸せな生活を送るために大事なのは何か考える機会にすぎない。ザンビアも日本のような色んな面で発展しているが、日本人が見習うべきザンビアの良い点(家族単位で学校休むで働かなくて) = (家族単位で働かなくて)とか、あんなにいいところがあると思う。

☆ザンビアの課題を知ることがなぜ日本の課題解決に役に立つのか？

・日本とザンビアを比較すると、日本に不足しているものを見つかることが出来るから。  
 ・私たちが見た時は十分に発展していて、改善するところはないように見えても比較すると不足点を見付けられるから。  
 ・世界全体が豊かになるためには、先進国が途上国を支援すること。世界経済、国内経済が発展すると思うから。



15. 授業者による自由記述

ザンビアでの教師海外研修によって、最も変化したものは自分自身である。東京、千葉、埼玉、新潟から参加された先生方のなかで、唯一長野出身だった。それは、ザンビアで日本人というより、長野県民ということ強く意識させた。ザンビアが内陸国であるように、海なし県長野。ザンビアの課題は長野の課題と共通していることも少なくないはずだ。(そこを授業でより深掘りしたかった) 私にとっては「グローバル」な旅となったように思う。数々の貴重な経験をさせていただいた。参加者の先生方をはじめ、多くの出会いがあった。

ザンビアの孤児院に届けるため、職員会議で古着を募ったところ、予想以上の古着が集まった。勤務校では、多くの方々にザンビア行きを支えていただいた。帰国後には、授業実践だけでなく、長水支部教研社会科分科会にて報告の機会をいただいた。ザンビアを拠点に活動されている北海道大学の研究者・中田北斗氏を長野高校にお招きし、意義深いワークショップを行っていただくことができ、前任校である飯山高校では3時間の教科横断型事前学習に加えて、ロールプレイなど先進的な取り組みをしていただいた。そして、まさかのラジオ出演…。教師海外研修は、まさに私自身の世界を広げ、変容へと導くものであったといえる。まずは、ザンビアと教師海外研修に関わるすべての方々に心からの感謝を込めて。

参考資料：

- ・『新詳地理B』 帝国書院 ・『新編地理資料2019』 とうほう
- ・『データブックオブザワールド2019年度版～世界各国要覧と最新統計』 二宮書店
- ・『未来の授業～私たちのSDGs探求BOOK』 佐藤真久監修 宣伝会議 ・JICA ザンビア提供資料
- ・ザンビア教科書『Atlas for Zambia』『Excel & Advance Geography Lerner's Book Grade 12』
- ・ユニセフ HP <https://www.unicef.org/zambia/education>
- ・CMMB HP <https://cmmb.org/cholera-outbreak-in-lusaka-zambia/>

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	仲田 莉果	学校名	埼玉県立大宮中央高等学校 (単位制による通信制)
担当教科等	現代社会	対象学年 (人数)	1～3年次 ※単位制(29名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	令和元年 10 月 31 日 (1 時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：「現代社会」 第1回目のスクーリング		
2. 単元(活動)名：「わたしたちの生きる社会」		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：「私たちの生きる社会」 ー地球環境問題、資源・エネルギー問題を通じて、限りある資源とどのように付き合っていくかー 単元目標： 地球環境問題や資源・エネルギー問題についての認識を深め、環境や資源が有限であることを理解し、将来世代のために我々がどのように行動していくべきかを考察する。 関連する学習指導要領上の目標： 1. 科目の目標：「人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。」 2. 内容とその取扱い：(1)私たちの生きる社会 「現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。」・・・中略・・・ 「『環境』を取り扱う場合は、環境問題が深刻化する現代社会において、これまでの環境にかかわる政治・経済体制や倫理観について検討を深めることの大切さに気付かせながら、地球温暖化、資源・エネルギー問題などの環境にかかわる諸課題を考察させることを通じて、幸福・正義・公正など社会の在り方を考察する基盤を理解させる。その際、『地球の有限性』『世代間倫理』などを手掛かりにすることなどが考えられる。例えば、熱帯林伐採に関して、経済活動を優先する立場と環境の保全を期待する立場との対立を取り上げ、なぜ地球規模の課題とされながらも国際的な合意が成立しにくいのか、有限な環境と資源という状況の中で、現在世代の利益と将来世代の利益とをどのようにして調和させるのかについて考察させることが考えられる。」		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	地球環境問題と資源・エネルギー問題について理解を深め、「持続可能性」を切り口に、それらに対する国際的な取組が行われていることを知り、その実現や合意形成の難しさについて考える。
	②思考力、判断力、表現力等	地球環境問題と資源・エネルギー問題を解決するために社会や自分自身ができることについて考え、判断し、適切に表現できる。
	③学びに向かう力、人間性等	「持続可能性」や「SDGs」について知り、国際社会が直面する地球環境問題と資源・エネルギー問題にどう取り組むべきかを考え、他者の意見を受け入れながら自らの行動を変容できる。

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童／生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>本課程は県内唯一の公立通信制高校に置かれた課程であり、様々な事情により他校から転学又は退学した生徒のみを受け入れている。グローバル化が進む中、こうした環境で学ぶ通信制の生徒に対しても、地球環境問題や資源・エネルギー問題等世界で起きていることについて理解を深めてもらいたいと考え、今回の単元設定に至った。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>「私たちの生きる社会」は「現代社会」の最初に学ぶ大単元で、この教科の要である現代社会の諸課題について幅広く扱っている。今回はその中でも地球環境問題と資源・エネルギー問題に焦点を当て、「SDGs」や「持続可能性」という考え方を紹介しながら、環境や資源が有限であることを理解し、自分達がどう行動していくべきかを考察させたい。</p> <p>具体的には「SDGs」を切り口に、学習の動機づけとなるような身近な教材として「スマートフォン」を取り上げ、授業づくりを行った。「スマートフォン」の部品となる「レアメタル」がどのようにして生産されているかを明らかにしながら、我々が限りある資源とどう付き合っていくべきかについて主体的に考えさせたい。</p> <p><b>【児童／生徒観】</b></p> <p>本校は通信制高校であり、生徒は週1回のスクーリング（面接指導）、レポート（提出課題）による自学自習を中心に学んでいる。単位制であるため学年の枠がなく、生徒は自分の未修得の科目を選んで受講し、半年毎に単位認定が行われる。今回対象とする講座は、新入生を含めた29名が受講している。生徒の実態として、いじめや不登校の経験など深刻な事情を抱えた生徒が多く、他人と関わることが極度に苦手な生徒も見られる。学力や学習意欲の差も大きいため、具体的でわかりやすい教材の提示、学習の動機づけが求められる。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>先述したように、本校には他人との関わりに不安を感じている生徒が多い。そのため、グループワークなどの主体的な活動を入れることが難しい。全日制に比べて授業時数が少ないので、1回で最低1つの大単元、一度で教科書数十ページを進めなければならない。従って授業内容の精選を念頭に置きつつも、生徒に主体的な学びを提供できるような授業づくりを心掛けた。今回は2年前から活用している「付箋」に意見を書かせて紹介する活動を入れ、生徒同士の意見交換ができるよう工夫した。</p>
--	--

6. 単元計画（全 1 時間）				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	「わたしたちの生きる社会」	地球環境問題や資源・エネルギー問題についての認識を深め、環境や資源が有限であることを理解し、将来世代のために我々がどのように行動していくべきかを考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“地球環境問題”にはどのようなものがあるか生徒に投げかけ、いくつか挙げてもらおう。</li> <li>・地球環境問題に対する国際的な取組について紹介し、「SDGs」や「持続可能性」という考えについて説明する。</li> <li>・DVD「スマホの真実－鉱物資源と環境破壊とのつながり」のCHAPTER1を視聴する。</li> <li>・『DVDを視聴しての感想』と『DVDを見て、これから私達は何をすべきか』をそれぞれ色の異なる付箋に書いてもらい、それを授業者が回収し、その一部を抜粋して紹介する。</li> <li>・ザンビアで撮影した写真を生徒に見せ、安全な水へのアクセスが難しいことなどを知る。</li> <li>・スクーリングを受けての感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発教育協会「スマホの真実－鉱物資源と環境破壊とのつながり」DVD</li> <li>・開発教育協会「スマホから考える世界・わたし・SDGs」</li> <li>・現地で入手したアフリカの大型地図</li> <li>・ザンビア各地で撮影した写真（鍵のついた水道等）</li> <li>・ザンビアと日本のレジ袋(実物)</li> </ul>

7. 本時の展開 ( 1 時間目)			
本時のねらい：地球環境問題や資源・エネルギー問題についての認識を深め、環境や資源が有限であることを理解し、将来世代のために我々がどのように行動していくべきかを考察する。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<b>出欠確認</b> (3分)	・OCR (出席表) をまわし、出欠確認をする。 ・レポートについての本校のルールを説明する。	・レポートの提出期限など、具体的な日付を板書し、確認させる。	<b>レポート p1-1</b> 「公民科を受講するにあたって」
<b>導入</b> (7分)	発問「地球環境問題にはどのようなものがあるか」 Ex) 砂漠化、酸性雨、地球温暖化、オゾン層の破壊、等 世界規模で環境問題が起こっていることを説明する。 <b>レポート p1-2</b> 【問1】を解説	・生徒数名を指名して答えさせる。「地球温暖化」を引き出させる) 教科書 p 6～を参照しながら問題を解いていく。(机間巡視で確認)	教科書 p 6～11 「破壊される地球 (1) (2)」 <b>レポート p1-2</b>
<b>展開①</b> (7分)	発問「地球環境問題への (国際的な) 取り組みにはどんなものがあるのでしょうか」 →Ex①) 1992年「持続可能な発展」“地球サミット”を紹介し、 <b>レポート p1-3</b> 【問1】の続きを解説。 プリントを使い、「持続可能性」について説明する。 Ex②) ザンビアのエコバック運動 日本でも 2020 年度からレジ袋の有料化・義務化が始まることを紹介する。 →ザンビアでもレジ袋が有料であったと紹介する。	あまり指名すると生徒が委縮するので、今回の発問では指名せず、教科書から探させる。 <b>授業プリントを配布</b> ・ザンビアの概要について、簡単に補足説明し、ザンビアの位置を地図で確認させる。	教科書 p 12～13 <b>レポート p1-3</b> <b>授業プリント【Q1】</b> →※解答は① ・アフリカの大型地図を黒板に掲示する。 ・ザンビアで入手した有料レジ袋、日本のコンビニのレジ袋を掲示する。
<b>展開②</b> (20分)	「限りある資源」とは何か具体的に説明する。 →Ex①) 枯渇性資源 (石油や金属 (鉱物)) <b>レポート p1-4</b> 【問2】を解説 アフリカ等で採れる「レアメタル」について解説  DVD「スマホの真実－鉱物紛争と環境破壊とのつながり」【CHAPTER 1】(5分)を視聴する。 生徒に「DVDを視聴しての感想」を赤色の付箋、「DVDを見て、これから私達は何をすべきか」を青色の付箋にそれぞれ書いてもらう (4分) →回収し黒板に貼り、同じ意見をグルーピングしながら紹介し、授業者がまとめの解説を加えていく。 <b>レポート p1-4</b> 【問2】の続きを再度、解説 プリント裏面の新聞記事を紹介し、こうした地域のレアメタルを使用しない企業もあると説明する。	・レジ袋が石油からできたプラスチック製品であることに触れる。 ・レアメタルは身の周りのほぼ全てのハイテク製品に使われており、スマホにも多く使われていることを説明して、動画を見せる。 ・2色の付箋を各1枚ずつ配布する。感想は、気づいたこと・わかったこと・印象的だったことをキーワードで短く書くことを説明。 ・教科書 p 17を見ながら、レアメタルの種類について説明する。	教科書 p 16～17 <b>レポート p1-4</b> ・実物のスマートフォンを見せる。 ・DVD「スマホの真実－鉱物紛争と環境破壊とのつながり」を視聴  <b>1枚ずつ付箋を配布</b> →4分後に回収する。 →すべて黒板に貼る。 →グルーピングする。 教科書 p 17 <b>レポート p1-4</b> <b>授業プリント《裏面》の新聞記事</b>

<p><b>展開③</b> (7分)</p>	<p>発問「改めて「持続可能性」とは何だろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリント【Q2】をやってもらい、世界には地球環境問題だけでなく、飢餓や貧困といった社会・経済の問題も数多く存在することを説明する。解決策を考える上で大事なのが「持続可能性」という考え方であり「SDGs」についても解説を加える。</li> <li>・ザンビア各地で撮影した写真を見せる。アフリカでは安全な水へのアクセスが難しいこと、人口問題や食料問題が起こっていることを解説する。</li> </ul> <p>レポート p1-5 【問2】の続きを再度、解説</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクーリング冒頭で話した「持続可能性」「持続可能な発展」についてもう一度解説する。</li> <li>・近年、紛争国や環境破壊が進む地域から産出される鉱物を自社製品に使わないようにする取り組みが広まっていることを紹介する。</li> </ul>	<p><b>授業プリント【Q2】</b></p> <p>ザンビア各地で撮影した写真を大型TVに映す 写真の情報について詳しく説明を加える。 教科書 p 24～25 レポート p1-5</p>
<p><b>まとめ</b> (6分)</p>	<p>本時の感想をプリント【まとめ】欄に記入させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回スクーリングの予定確認。</li> <li>・単位修得のための本校のルールを説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 p 25の内容に触れ、ザンビアのトイレ、住宅密集地域で撮影した水道の写真を見せる。</li> <li>・プリント【まとめ】に感想を記入。</li> </ul>	<p><b>授業プリント【まとめ】</b></p>
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法：ワークシート等の提出物とそこに書かれた論述から評価する。</p> <p>(1) 授業プリントを回収し、取組の様子を確認する。</p> <p>(2) 通信制高校で課されるレポートの提出状況・取組の様子から評価する。</p> <p>(3) ペーパーテスト（二回の定期考査）の点数及びその取組から判断する。</p>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携：外部機関との連携はできなかったが、地理A「世界の食料・人口問題」の単元でも、現地で撮影した写真や実物教材を使った授業を実践した。</p>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>令和元年度 埼玉県高等学校定時制通信制教育研究協議会において、「SDGsを活かした通信制高校における授業づくりーJICA教師海外研修を通じてー」という題目で今までの取組を発表した。</p>			

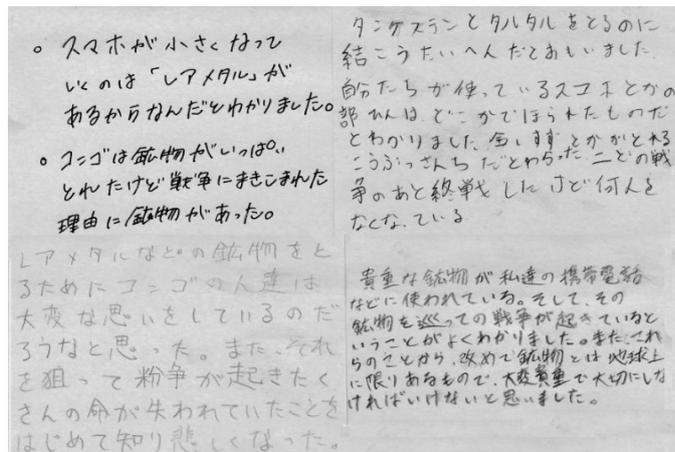
**【自己評価】**

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>本校は通信制高校であるため、1回の授業で教科書数十ページ進めなければならず、内容の精選に非常に苦勞しました。今回はテーマを「地球環境問題」と「資源・エネルギー問題」に絞り、生徒に身近な「スマートフォン」を切り口に授業を設計しました。指導案を作る際には、生徒が実物教材や視聴覚教材に触れる時間ができる限り長くなるよう、解説を1分1秒切り詰めることを心掛けました。</p> <p>また、時間の制約だけでなく教授方法にも配慮が必要でした。本校には、いじめや不登校の経験から対人関係に強い苦手意識を持つ生徒が多くいます。そのため、「他者と関わる活動」を取り入れることが難しい状況にありました。通信制では、授業当日にならないと何人出席するかわからず、出席する顔ぶれも毎回異なります。生徒は週1回しか登校しないため、講座内の人間関係が形成されていないこともあり、グループワーク等を取り入れることが困難でした。しかし、今回は出来る限り生徒が自ら考え、それを発信する時間を設けたいと考え、付箋に意見を書いてもらい、それを紹介する形で生徒間の意見交換ができるようにしました。</p> <p>こうした通信制高校ならではの課題を1つ1つ解決しながらの授業づくりは、予想以上に難しかったです。限られた授業時間でも、「SDGs」「持続可能性」といった言葉を身近に感じてもらい、より当事者意識を持って地球環境問題や資源・エネルギー問題について考えてもらえるかを何度も考え、指導案を作りあげました。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>本校には、対人関係に強い不安を感じている生徒が多いため、グループワークなど「他者と関わる活動」を取り入れることができませんでした。今回は付箋を介して生徒同士意見交換しましたが、できれば生徒同士が直接対話できるような活動を取り入れたかったです。全日制高校でやっているジグソー法等のように、生徒間で直接やりとりが生まれれば、もっと学びが深まったように思います。しかし、通信制高校の実態を鑑みれば、この指導案でやむをえなかったようにも感じました。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>今回の実践は新入生にとって初めての授業でしたが、その後の授業態度も良好でした。提出するレポートの通信欄に自主的に感想を書いた生徒もいました。</p>

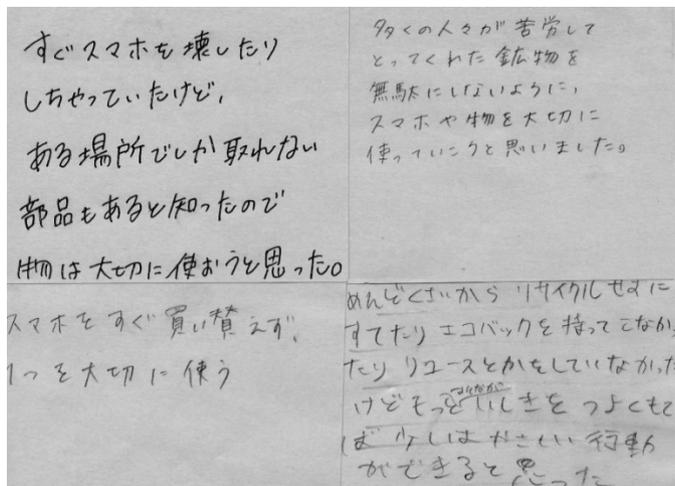
14. 学びの軌跡  
 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

① 生徒が『DVDを視聴しての感想』を書いた1枚目の付箋

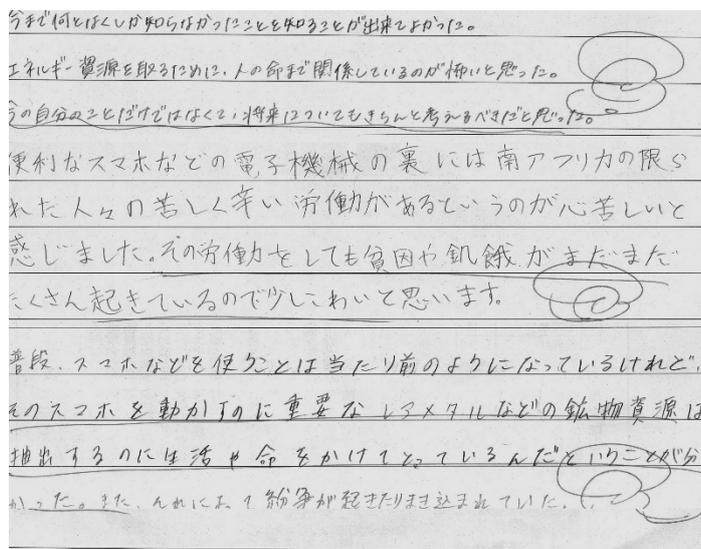
「資源をめぐって争いが起きていることを知った」「日本でもレアメタルは使われているけど、コンゴ等遠い所で発掘されていた」といった感想が多かったです。



① 生徒が『DVDを見て、これから私達は何をすべきか』を書いた2枚目の付箋  
 「物を大切に使う」などの意見が多く、エコバックを使うなど具体策も。



授業後に提出された生徒の感想を見ると、身近なスマートフォンがアフリカと関わりがあったことに驚き、“自分事”として受け止めている様子が見られました。



資源・エネルギー問題を学ぶことを通じて、自分のこれからの生活について言及している感想も多くありました。授業を通じて生徒の変容が見られました。

私は、スワ-リングを受け、枯渇性資源をこれからもっと大切にしてい  
くべきだと考えました。そのため、なるべく必要でない物などは買わな  
 い、リサイクルのできる商品を買う、などの対策もたてようと思いま  
 した。また、自分はいいや、ではなく、みんなが気づけるべきだと感じました。  
 今日学んだような社会問題は、ずっと長い間色々な人がかいつに向けてい  
てきたのだと思うのは、どうして人はまよって「ほんじょうたい」な自分  
 の幸せや利益をわらうせいで（う）からなにかかと思、た。そう考えるとみんな  
おぼろげにかゝりかゝり思えるけど、かは一人一人の意識があれば、かしいかゝり  
 できると思、た。  
 発展途上国では、まだまだたくさんの問題があるだろうし、先進国は  
 他の国と協力して計画的に資源を使ったり、できるだけ資源  
 を無駄にしないようにすべきだと思、ました。私も袋はエコ  
バッグを代用したり食べ残しをゼロにします。

15. 授業者による自由記述

JICA 教師海外研修に応募する前は、通信制高校で国際理解教育は難しいと思い、ずっと申込みをためらっていました。本課程は、他の高校を転学・退学した生徒のみを受け入れているので、様々な事情を抱えた生徒が通っており、彼らはそれぞれ高校卒業という目標のために必死の思いで学校に来ています。そうした生徒達に途上国の現状を伝えたり、世界の貧困や飢餓などの経済・社会問題を伝えたりすることにためらいがありました。私自身、開発途上国に行った経験が少なかったこともあり、自信を持って伝えることができていなかったからだと思、います。

しかし、実際に現地に足を運び、そこで学び得たものを授業で伝えると、予想よりもはるかに生徒達は興味を持ってくれました。授業後の感想には、「今までの生活で『持続可能な発展』を頭に入れて行動することが無かったので、生活を見直す良い機会になった。」「今の自分のことだけではなく、将来についてもきちんと考えるべきだと思、った。」といったものがあり、生徒が少なからず関心を示し、自身のこれからの行動についても考えてくれるようになったことに驚きました。

私の好きな言葉に、マザー=テレサの「愛の反対は無関心」というものがあります。すぐに他者に手を差し伸べることができなくとも、まずは関心を持って接するというのが大事なのだと思、います。我々が教員として、授業で途上国の現状を伝えることはその一歩だと思、っています。そして私達通信制の教員は、社会と生徒を繋ぐ存在であり、他者と関わることに不安を感じている通信制の生徒だからこそ、社会のありのままの姿を伝えていく必要があるのだと感じました。

これを読んでくださっている方で、もしまだ教海研に参加することを悩んでらっしゃいましたら、参加されることを強くお勧めします。私自身、教海研に行く前と後では、考え方も大きく変わりました。自分なりに世界の諸課題について考え、自信を持って発信できるようになったように思、います。私の実践は、通信制で実施したため様々な制約があり、他の参加者のものには到底及びませんが、少しでも参考になりましたら幸いです。同行した他県の先生方、現地で出会った協力隊の皆様をはじめ、教海研での貴重な出会いに感謝しながら、これからも精進していきたいと思、います。そして、微力ながら今後も国際理解教育に携わっていきたいです。



参考資料：開発教育協会（2016）DVD「スマホの真実—鉱物資源と環境破壊とのつながり」、開発教育協会（2018）「スマホから考える世界・わたし・SDGs」、細井 義孝（2014）「成長する資源大陸 アフリカを掘り起こせ—鉱業関係者が説く資源開発のポテンシャルとビジネスチャンス」（B&T ブックス）、日刊工業新聞社

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	中田 恵理子	学校名	東京都立向丘高等学校
担当教科等	国語総合（現代文）	対象学年（人数）	1年 3組（39名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年 12月（6時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：国語総合（現代文）・評論「経済の論理／環境の倫理」岩井克人 （「新探求国語総合 現代文・表現編」桐原書店）		
2. 単元(活動)：評論文を通して、現代社会の課題と自分の生活の関係を考えよう。		
2. 授業テーマ(タイトル)と単元目標		
<p>授業テーマ：</p> <p>評論文を的確に読み取りSDGsや地球的課題と実社会・実生活との関係性を考え、他者との協働を通して目標達成や課題解決のために行動しようとする態度を育成する。</p> <p>単元目標：</p> <p>① 文章の構成、表現、用いられている語句に注意しながら、筆者の考えを的確に読み取る。</p> <p>② 評論文に取り上げられている環境問題や社会問題と実社会・実生活との関係性を考え、地球的課題やSDGsを「自分ごと」化して捉える。</p> <p>③ 地球的課題やSDGsについて話し合うことを通して新たな気付きや視野の広がりを得、他者と協働する価値や面白さを知る。</p> <p>関連する学習指導要領上の目標：</p> <p>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。（高等学校学習指導要領、第2章第1節 国語総合、2. 目標）</p>		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	(1)文章に用いられている語句の意味や漢字の読み方を正しく理解し、筆者の主張と論拠の関係を理解する。 (2)地球的課題やSDGsについて理解する。
	②思考力、判断力、表現力等	(1)評論文の構成、表現、語句の意味に注意しながら、筆者の主張や論拠を的確に捉える。（読むこと） (2)SDGs や地球的課題と実社会・実生活との関係に対する自分の考えを明確にし、自分の考えを的確に伝え合い、質問したり整理したりしながら考えを広げ深め合う。（話し合うこと）
	③学びに向かう力、人間性等	(1) 文章の構成、表現、語句に注意して読み、内容を的確に理解しようとする。 (2) SDGs や地球的課題について理解し、目標達成や課題解決のために他者との協働を通じて行動しようとする。

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>SDGsのレンズを通したものの見方を知ること、SDGsや地球的課題と自分自身の生活とが密接にかかわっていることを生徒に気付かせ、より良い社会の実現を目指す態度を培いたい。また、SDGsや地球的課題について互いの考えを共有することを通して、新たな視点や気付きが生まれることを実感し、よりよい社会の実現に向けて協働していく姿勢を育てたい。評論文の学習を通して、国語という教科から様々な領域を知り学ぶ面白さを実感させたい。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>SDGsのレンズを通したものの見方を知ること、自らの生活や社会における諸課題に気付く批判的思考力を培うとともに、課題解決のためにアクションを起こし、持続可能な社会の実現を目指す態度を育てる。また、他者との意見交流を通して、新たな気付きと発見を得、協働の価値や面白さを知る。評論文の読解を通して筆者の主張や論拠を正確に捉え、国語の学習内容と実社会・実生活との関係に気付き、国語を学ぶ面白さを知り、学習意欲を高める。</p> <p><b>【生徒観】</b></p> <p>日頃から国語の授業に真剣に取り組む生徒が多く、明るく活発なクラスで、音読やグループワークに意欲的に取り組んでいる。一方、評論文に対する苦手意識を持っている生徒も少なからずいる。生徒が主体となる活動を取り入れたり、スモールステップの学習を行ったりすることで、関心と集中力を維持する工夫が必要である。「SDGs」という言葉を知っている者は、39人中2～3人のみ。中学校の社会科・総合的な学習の時間において学習した者がいたが、SDGsとは何かについては覚えていない。一方、環境問題・社会問題などの地球的課題については、地球温暖化、海洋プラスチック、人口減少、少子高齢化などについてクラスの大半が関心を持っており、SDGs・地球的課題に対する関心は決して低くはない。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>小単元ごとに「自分はどうか考えるか」と問う場面を設け、評論文やグループ活動のテーマと自らの関係とを自覚し、学習意欲の喚起と維持を図る。評論文の読解では、ペア音読・ペア(グループ)ワークを実施し、苦手意識のある生徒も学習意欲を維持できる工夫とした。勤務校は東京都BYOD(Bring Your Own Device)研究指定校であり、生徒・教員は校内Wi-Fiの接続と使用が可能となっている。授業中調べものをする際は生徒のスマートフォン等端末を使用することを許可しているが、コピー&amp;ペースト、授業に関係のないことへの使用がないよう注意喚起し、机間指導にあたる。各端末を活用し、情報共有手段としてMentimeterを用いて生徒の意見を即時共有し、学習活動の活性化を図る。ICT支援員と連携することで、授業内のトラブルに対処していく。フォトランゲージにおいては、授業者がパラグアイで撮影した写真、生徒が撮影した写真を用いる。生徒自身が意図的にSDGsのレンズによって生活をみつめることで、実生活・実社会を批判的に捉える視点を育成する。これらの活動を経て自らのアクションプランを提案することを通して、身近な課題や地球的課題を「自分ごと」として捉える態度を育む。</p>
--	---

6. 単元計画 (全6時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	環境問題について知っていることを確認しよう。	評論文で取り上げられている話題(環境問題・地球温暖化)について知っていることを確認し、関心を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題について知っていることを挙げる。</li> <li>環境問題を解決するために、どのような対処がなされているか知っていることを挙げる。</li> </ul>	
2～3	筆者の考えを読み取ろう。	本文の記述に即して、筆者の考えを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を音読する。</li> <li>ワークシートを用いて、語句の確認、本文の構成、筆者の考えの読解を行う。</li> </ul>	

4	SDGs について知り、地球温暖化と自分の生活について考えよう。	SDGs の 17 の目標について知る。地球温暖化が自分たちの生活に与える影響や、対処方法について自分の考えを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs とは何か、なぜ SDGs という考え方が必要なのかを知る。</li> <li>地球温暖化について、自分にできる対処法を考える。</li> </ul>	一般社団法人イマココラボの HP
5	フォトランゲージをしよう ①	SDGs と人々の生活の関わりについて、パラグアイの写真を通して考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師海外研修について知る。</li> <li>パラグアイの写真を用いたフォトランゲージを通して、SDGs を通したものの見方を知る。</li> </ul>	パラグアイの写真
5.5 (課題)	SDGs に関係する写真を撮影しよう。	自分の生活の中から、SDGs に関係がありそうなものの写真を撮る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs と関係がある写真を撮影し、スタディサプリ内「活動メモ」に投稿する。</li> </ul>	
6 本時	フォトランゲージをしよう ②	SDGs と自分たちの生活の関係について、自分の考えを持って話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの撮影した写真を用いてフォトランゲージを行い、自分の生活と SDGs との関係を話し合う。</li> <li>SDGs を達成するためのアクションプランを考える。</li> </ul>	生徒の撮影した写真、「Sustainable Development Report 2019」

#### 7. 本時の展開 (6 時間目)

本時のねらい：身近なものを撮影した写真から、自分の生活と SDGs の関係や自分なりのアクションプランを考える。

過程・時間	○学習活動 (指導形態)	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の活動と、本時の活動内容を確認する。(個人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スライドをプロジェクターに投影し、前時の内容と本時の活動について確認する。</li> </ul>	スライド
展開 (35 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3～4 人のグループ【第 1 グループ】を作った後、ワークシートの番号ごとに再度グループ【第 2 グループ】分けする。</li> <li>ワークシートの写真と SDGs の関係について話し合う。(グループ活動)</li> <li>第 1 グループに分かれ、第 2 グループで話し合ったことをグループ内で発表する。(グループ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 1 グループは自由に組むこととし、その後ワークシートを配布し、番号に即して第 2 グループに分かれるようにする。</li> <li>SDGs の 17 の目標を印刷したカードをグループ毎に配布し、話し合いで使うように指示する。</li> <li>グループの考えをまとめ、各自でワークシートに記入するようにする。</li> <li>各自のスマートフォンを用いて調べものをしてよいこととする。</li> <li>17 の目標のうち、日本で達成されているもの 2 つを予想し理由とともにワークシート記入し、QR コード</li> </ul>	<p>ワークシート (Mentimeter の投稿ページを QR コード化し、ワークシートに記載。生徒が提出した写真を掲載。)</p> <p>ワークシート 各自スマートフォン (スマートフォンを持っていない生徒に対しては、学級タブレットの貸出にて対応。)</p>

・日本の SDGs 達成状況を予測し、Mentimeter を用いて投票した後（個人）、日本の SDGs 達成状況をスクリーンにて確認する。（一斉）

を読み取り Mentimeter に入力するよう指示し、ICT 支援員と協力し、インターネット接続や QR コードの読み取りにおいて不具合がある生徒へ対応する。

・投票結果ページをプロジェクターに投影し全体共有した後、日本の SDGs 達成状況をプロジェクターに投影し、自分の予測との差を考えるよう促す。

スライド  
（「 Sustainable Development Report 2019」より作成）

まとめ  
（ 10 分）

・SDGs の中から、自分が関わりたいと思うものを挙げ、アクションプランを具体的に提案する。（個人）

・いつ、どこで、誰と等、具体的に考えるようにする。

ワークシート

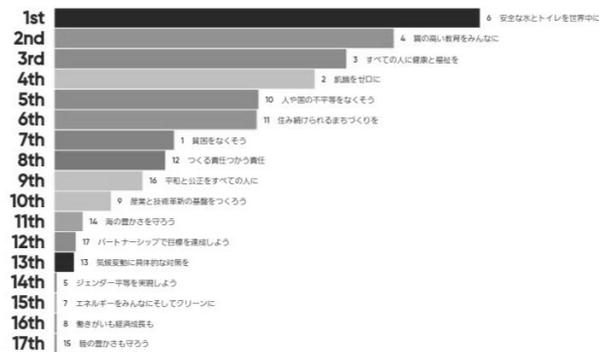


↑生徒に配布した SDGs カード



↑グループ活動の様子

**【予想】日本で達成されたいそうなSDGsを2つ選ぶ**



↑生徒の予想した日本の SDGs 達成状況。目標 6、4、3、2、10 の順に、達成されていると考えた者が多く、15、8、7、5 は達成できていると考えた者がいなかった。

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・ワークシート ①(2)、③(2)
- ・グループ活動や QR コードに入力をしているときの様子 ②(2)

9. 学習方法及び外部との連携

第 1・2 グループを作り、それぞれの場で意見共有を行うことで生徒の思考に広がりを持たす。  
→第 1 グループ内では、メンバーそれぞれが異なるワークシートを持ち、第 2 グループではメンバー全員が同じワークシートを持って話し合いをすることとした。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組  
校内における研究授業の実施、校内研修における実践紹介

【自己評価】

11. 苦労した点	<p>第一に「国語」という教科でどのように取り上げるか、授業実践の計画に悩まされた。教師海外研修を通じて体験したこと、SDGs が世界的な目標として設定された背景と現状など、生徒に伝えたい、考えてほしいことは山積していたが、教科との結び付きをどう見出すかに苦戦した。結果として評論文単元の発展的な活動として扱うこととしたが、次年度以降は本実践をブラッシュアップしつつ、他の単元でも扱う方法を模索してきたい。</p> <p>第二に、生徒の主体的活動が中心となる実践をどう構成するか、大いに迷った。そんな中、事前研修においてフォトランゲージという、生徒の想像力、思考力、表現力が大いに発揮される手法を知り、本実践に取り入れた。生徒は、写真に対して大いに議論し、SDGs との関連について学びを深めることができた。</p>
12. 改善点	<p>第一に、学習活動の精査と整理である。フォトランゲージと SDGs の達成度予想、アクションプラン提案という 3 つの活動は 50 分の中に組み込むには多過ぎ、駆け足で授業を進めてしまった。そのため、生徒の思考や理解が追い付かなかった部分があった(年明けに今回の授業について生徒に聞いた際、複数名が「覚えていない」と回答)。個々の活動において生徒同士の意見交流をするために、また、授業後に生徒が活動の振り返りを行う時間を確保するためにはフォトランゲージとアクションプランの提案を別個の時間に行う必要がある。今後は個々の活動内容を精査しつつ、一回一回の授業を生徒がじっくり理解できるようにする。</p> <p>第二に、学年内の足並みを揃えるための事前準備である。事前に同学年を担当する教員同士で打ち合わせることがなく、SDGs に関する授業は全 7 クラス中、私の担当する 3 クラスのみで実施することとなった。次年度以降は、学年の足並みを揃え全てのクラスで SDGs の学びを実施するために事前に教員間の準備と打ち合わせを計画的に実施する。</p> <p>第三に、全校体制による SDGs の学びの実施である。先述した教員のように、個々の授業実践において SDGs や地球的課題を取り上げることはあっても、それを教員間で共有する機会はない。既存の校内研修や勉強会を活用し、実践共有の場を設けていきたい。本報告書が提出されてからにはなるが、3 月に実施を予定している勉強会にて、共有の場を設けることを計画している。</p>
13. 成果が出た点	<p>第一に、地球的課題や SDGs に対する関心をもつ生徒、自らの生活を省みて具体的な行動変容を起こそうと考える生徒が増えた。環境問題への対処策について、当初聞いた時よりも自らの生活に寄り添った行動変容を起こそうという思いが生徒に現れた。また、日本の問題に加え、他国の問題について考えたいという生徒も現れた。</p> <p>第二に、教職員間の関心を呼んだ。公開授業の参観教員数は 1 人と少なかったものの、JICA 東京での報告会を訪れた同僚が 4 人おり、職場内で関心を持つ教員がいると分かった。中には、自らの授業の中で行っている実践を紹介してくれる教員もおり、SDGs の教科横断的な特性、他教科との連携のあり方について考えることができた。また、SDGs を授業で取り上げることに對する率直な意見をぶつけてくれた教員もおり、授業で取り上げることのそもそもの意義や授業内容・形式について議論を交わし、私自身今後どのように SDGs や地球的課題と向き合うべきか再考することができた。</p>

14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>生徒の感想 (スタディサプリ内アンケート機能より抜粋)</p> <p>「今まで SDGs の事を知らなかったけれどこの授業を通して環境に対しての意識が高まりました。もっとまわりに目を向けていこうと思いました。」「今まで見る事のなかった世界の現状を写真で見知り、世界の課題について深く考えるきっかけになった。世界の良くない現状を少しでもいい方向に変えていくために私たちができることをこれからも探して、少しでも実践出来ればいいなと思った。今までは買い物をした時、ビニール袋を要らないのに貰っていたので、必要ない時は「要らない」と言うようにしたい。」「日本だけじゃなく世界に目を向けて少しでも問題解決に近づけるようにしたいと思った」</p>
	<p>生徒の提案したアクションプラン</p> <p>関わりたい/関わる事ができる目標: つかう責任 つかう責任 (2)</p> <p>具体的なアクションプラン:</p> <p>文化祭で作る装飾物などを終わった後からすぐ捨てるのをやめ、今後再利用できたり倉庫にストックできるものにする事で</p> <p>すぐ捨てることをやめる。</p>
	<p>関わりたい/関わる事ができる目標: 13, 14, 15</p> <p>具体的なアクションプラン: 買い物に付いたゴミは自分でパックを付けて回収。ビニール袋を使わない。海や川にゴミを捨てる。見つけたゴミは回収。なるべくペットボトルを減らす。水を飲む。紙はなるべくリサイクル可能な物を買った後、分解してリサイクルできるようにする。燃えるゴミと燃えないゴミの分別をしっかりとやる。</p>
15. 授業者による自由記述	<p>授業実践の中で取り上げることはなかったが、研修期間を通じて考えていたのは、社会の発展と文化の関係だ。経済発展・インフラの整備・外資の流入が進む一方、人々の心の豊かさや既存の文化はどう変容していくのだろうか。研修中に取り組んだ「幸せプロジェクト」、日系社会の直面するアイデンティティの課題などから考えさせられたものの、授業に反映させることはできなかった。だが、生徒の人生観、アイデンティティに関わる事として深めていきたいし、次年度以降本研修でパラグアイに行く先生方にはぜひ向き合ってもらいたい。次年度以降も SDGs の取り組みは継続し、学内外の先生方、外部機関の方々と情報共有を重ね、持続可能な社会の実現に向けて一歩一歩進んでいきたい。本研修を通して出会ったすべての皆様に感謝します。有難うございました。</p>

参考資料:

- ・「Sustainable Development Report 2019」  
<https://www.sustainabledevelopment.report/>
- ・一般社団法人イマココラボ「SDGs (エスディー・ジーズ) とは? 17 の目標を事例とともに徹底解説」  
<https://imacocollabo.or.jp/about-sdgs/>
- ・Interactive presentation software – Mentimeter  
<https://www.mentimeter.com/>

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	中村 俊佑	学校名	東京都立五日市高等学校
担当教科等	英語科	対象学年 (人数)	2年B組(31名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2019年12月11日(水) 第1時限 (全3時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 外国語（英語）・国際理解教育		
2. 単元(活動)名：以下の項目の一部をカバーしている。 Lesson 4 Goal Setting 目標達成 Lesson 10 Ban Shigeru, Architect of Paper 世界で活躍する日本人 Lesson 11 Win for One Nation スポーツが世界を平和に Lesson 12 From Small Factories to the World 海外に進出する日本の技術		
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ： 「他人事」から「自分事」にする国際協力 ～None of my businessからMake it Yoursへ～ 単元目標： <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の身の回りにはどんな課題があるのかをSDGsの観点から、見直すことで課題を再発見し、個人の行動変容につなげ、積極的に社会と関わろうとする態度を養う。</li> <li>・グローバル化の進展により、一見自分たちとは無関係と思えることも関連付けて考えていくことが必要になってきていることに、ザンビアと日本のつながりなどを事例にして考える。</li> <li>・英語という言語が使用されているザンビアの社会背景を知り、英語が人々のコミュニケーションの手段であることを認識することで、英語を学ぶ意味を再確認する。</li> </ul> 関連する学習指導要領上の目標： 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばすこと。		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	A. 英語での簡単な指示を理解し、正しく応答できる。 B. 英語での素材を見て、概要を理解することができる。
	②思考力、判断力、表現力等	A. 写真などの視聴覚教材を見て、必要な情報を的確に理解し、相手に伝えることができる。 B. 問題を的確に把握し、自ら問いを設定し、分析することを通して、主体的に考え、表現することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	A. 他者と協力して、学習に取り組むことにより、自分にはなかった視点に気づき、学びをより深めることができる。 B. 学んだことを用いて、自分にできることを考え、行動に移すことができる。

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b> 2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、2030年の世界の姿をあらわした目標の集まりである。Lesson4の“Goal Setting”という単元では、目標達成のために必要なこととして、“Another important point is to plan “backward” from your future goal to the present.”という一節が書かれている。つまり、ここでの未来の目標は2030年であるが、そこから逆算して、今の世界を見ることが重要であるということである。「未来の目線で今を見る」というのがSDGsの手法であり、SDGsの視点で世界の諸問題から、我々の身の回りの課題にまで目を向け、今自分たちにできることを考え、行動に移していくことができるようにすることが大切であると考え、この単元を設定した。</p> <p><b>【単元の意義】</b> SDGsの認知度について、2学年生徒全員に調査したところ、その認知度は7%と低い結果となった。しかし、SDGsは、地球上にある豊かな自然や資源を未来に残し、誰一人取り残すことなく幸せに暮らせる世界を目指す国際プロジェクトであり、現在、企業、NPO、教育者、専門家、クリエイターなど幅広い分野で取り入れられている概念である。本校では現在、体系的に国際理解教育を十分にできていない現状であることを踏まえ、国際理解教育の授業実践として本単元を設定した。</p> <p><b>【生徒観】</b> 英語には入学当初から苦手意識を持つ生徒が多い。集中力が続かない生徒も多いが、明るく元気で、発言なども積極的に行ったり、面倒見の良い生徒も多く、お互い教えあい、高めあうことができるという点では授業を進行しやすいクラスである。</p> <p><b>【指導観】</b> 生徒にとって身近な話題を題材にしなが、視聴覚教材を多く取り入れ、ペアワークやグループワークなど、多様な学習形態を取り入れながら、英語に対する興味関心を持てるように工夫をする。</p>
--	--

6. 単元計画（全3時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	①国際理解とは？ ②日本の国際協力とは？ ③SDGs とは何か？ ④SDGs 英語版と日本語版の比較 ⑤SDGs 達成度と重要度について	①他人事から自分事にして考えることが国際理解の第一歩であることが翻字の目的であることを伝える。 ②JICA や ODA など、日本の国際協力に関する理解を深める。 ③・④ SDGs とは何かについて概略を知り、17の目標について知る。 ⑤SDGs を「自分事」にして考えるために、身近な課題について話し合う。	①None of my business. と Make it Yours の意味を考えさせる。 ② SDGs の頭文字は何を示すか英語で考えさせる。その後、Sustainable Development Goals について言及し、意味を理解させる。また、映像資料を活用し、SDGs についてのイメージを膨らませる。【一斉】 ③英語版 SDGs と日本語版をマッチングさせる活動を通して、17の目標について知る。【ペア】 ④SDGs の 17 の目標について、次の4項目について考える。「(1) 日本が達成できていない項目 (2) 五日市高校が達成できていないと思う項目 (3) (2)を達成するために自分にできること (4) SDGs17の目標のなかで最も大切だと思う3つの項目」について、個人で考えたことをグループでシェアし、1つの模造紙にまとめ、発表できるようにする。【グループ】	②映像資料 You-tube ( <a href="https://www.youtube.com/watch?v=H519RHeATl0">https://www.youtube.com/watch?v=H519RHeATl0</a> ) ③SDG のロゴカード(カラーコピーをそれぞれ切ったもの)・糊・模造紙・ペン

2 本時	①SDGs の復習 ②SDGs の達成度について ③ザンビアと日本との関係 ④ザンビアをSDGs の観点から見直してみる	①授業の目的の確認と日本の国際協力について復習する。 ②他のグループの発表を聞いて、新たな視点を得る。 ③ザンビアと日本のつながりやザンビアの課題などをSDGs の観点から見直す。	① SDGs, JICA など日本の国際協力を考える上で必要なキーワードを復習する。 ②1 時限で話し合ったことをもとに、4 項目についてまとめたことを発表する。 ③ザンビアの銅や日本車が多く輸出され利用されている例などを挙げながら、ザンビアを自分事として捉えられるようにする。 ④ザンビアの写真を 3 枚程度用意し、グループでシェアする。(1)何の写真である(WHAT&HOW)、(2)SDGs のどの項目に関連する写真であるか、(3)日本との相違点・共通点について各自で考えさせる。その後、グループに戻り、お互いの感想をシェアする。	②模造紙・ペン ④パウチした写真・ワークシート
3	①前時の復習 ②SDGs マイプロジェクト ③まとめと振り返り	①ザンビアの課題や日本とのつながりについて理解を深める。 ②日本の国際協力を知ったうえで、「自分にできること」をSDGs の観点から見直し、マイプロジェクトを計画する。 ③振り返り	① 前回の生徒発表をもとに、スライドなどで写真・動画等を提示しながら、ザンビアについての理解を深める。 ② SDGs マイプロジェクトを計画する。 ③ ワークシートへの記入を行いながら、これまでの授業の振り返りを行う。	③ワークシート

<p>7. 本時の展開 (2時間目)</p> <p>本時のねらい:</p> <p>①SDGs の理念を知り、その観点から身の回りの生活を見直すことで、身の回りの課題について「自分事」として捉え、自分にできることを主体的に考える。</p> <p>②ザンビアと日本のつながりについて知るとともに、写真などの素材から必要な情報を読み取り、国際的な視野で問題発見ができるようになる。</p>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (10分)	<p>① この3回の授業の目的(「他人事」ではなく、「自分事」として国際協力について考える)について再確認する。さらに、アンケート結果を提示し、「平和」「平等」などといったキーワードが上がっていることに言及する。【一斉】</p> <p>② 「あなたが幸せだと思うときは？」のアンケート結果を見せ、「友達」「ご飯」「生活」「好き」といったキーワードが入っていることに言及する。</p> <p>③ SDGs, JICA など日本の国際協力を考える上で必要なキーワードを復習する。【一斉】</p> <p>④ Lesson4 の Goal Settings のフレーズである Another important point is to plan “backward” from your future goal to the present. を思い出させる。目標達成には未来から現在に遡って考えることが重要であることを言及する。SDGs が 2030 年の世界の姿を示しており、未来に立って、今の世界を見ることが</p>	<p>①②PPT で頭文字を提示するなどの補助を行う。必要に応じてヒントを提示する。</p> <p>③ SDGs にはなぜ “s” がついているのかについても気づかせ、17 の目標があることを復習するような発問を行う。</p> <p>④教科書の復習をするとともに、SDGs との関連に言及する。</p>	<p>① PPT・ワークシート</p> <p>④教科書</p>

<p><b>展開</b> (35分)</p> <p><b>まとめ</b> (5分)</p>	<p>大事であることに言及する。</p> <p>⑤ SDGs の理念である “Leave no one behind” について【個人 (Think) → ペア (Pair) → 全体シェア (Share)】で考える。「誰も置き去りにしない社会」が SDGs の目指す世界であることを確認する。</p> <p>⑥ 1 時限で話し合ったことをもとに、4 項目についてまとめたことを発表する。この際、SDGs は世界のことだけでなく、身の回りの日本でも実現できていない項目があることを言及する。</p> <p>⑦ SDSN による SDGs 目標達成度を示し、生徒の想定と比較してみる。</p> <p>⑧ ザンビアの概要を説明する。</p> <p>⑨ ザンビアの写真を 3 枚 (A, B, C) 用意し、スライドで示す。以下の 3 つの項目についてまず個人で思いついたことをメモする。その後、グループになり、(1) 何の写真であるか (WHAT&amp;HOW)、(2) 日本との相違点・共通点は何か、(3) SDGs のどの項目に関連する写真であるかをシェアし、リーダーがまとめる。その後、グループごとに発表者が全体にシェアする。</p> <p>⑩ それぞれの写真について簡単なコメントを行う。ザンビアの銅や日本車が多く輸出され利用されている例などを挙げながら、ザンビアを自分事として捉えられるようにする。</p> <p>⑪ 本時の授業で学んだことを振り返る。</p>	<p>⑤ leave, behind など学んだ単語については単語ワークブックなどで確認させる。</p> <p>⑥ (1) 日本が達成できていない項目 (2) 五日市高校が達成できていない項目 (3) 最も重要だと思う 3 項目 (4) 達成するためにあなたができることについて、模造紙を用いて発表させる。</p> <p>⑦ 生徒の発表資料を掲示しておき、SDSN による達成度指標と比較するよう促す。</p> <p>⑨ タイムマネージメントをしっかりと行う。(個々人のシェア 1 分×4、その後のまとめ時間 3 分) リーダー (Chairperson) とノート係、発表者などをあらかじめグループ内で決めさせておく。</p> <p>⑩ 生徒が気づいた点や疑問点などに沿って、簡単な補足説明を行う。</p> <p>⑪ ワークシートへの記入を行わせ、提出させる。</p>	<p>⑤ MEW Core500(いいずな書店)</p> <p>⑥ 模造紙・磁石など</p> <p>⑦ 開発ソリューションネットワーク (SDSN) <a href="https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopmentreport/2018/2018_sdg_index_and_dashboards_country_profiles.pdf">https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopmentreport/2018/2018_sdg_index_and_dashboards_country_profiles.pdf</a></p> <p>⑧ PPT 資料</p> <p>⑨ パウチした写真 3 枚・SDGs のロゴの入ったシート 1 枚を各グループに配布</p>
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>① A. 教師の発問に対して、簡単な英語で応答できる。 B. 写真に記載されている英語を読み、その概要を要約することができる。</p> <p>② A. グループワークで、情報を読み取ろうと積極的に活動、発言している様子を評価する。 B. ワークシートの記入などから、問いの設定・分析・自己の内省などができているかを判断する。</p> <p>③ A. ペアワークやグループワークに積極的に取り組み、他者と協働して学びを深めているかを判断する。 B. ワークシートの記入などから、主体的に取り組む姿勢を評価する。</p>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>JICA 出前授業を実施し、ザンビア人との交流ワークショップを 3 月に企画している。英語が国際的な言語 (World Englishes) であることを認識させるとともに、異文化への関心・理解を深める機会とする。国際理解教育の一環として実施する。</p>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>学校の教育活動のなかに「国際理解教育」の視点を盛り込み、探究学習と併せて、SDGs の地域プロジェクトを実施していく予定である。11 月に設立された ESS 国際交流部では SDGs11 の「住み続けられる街づくり」の観点から五日市地域の活性化に努めている。地域活性化のために外国人観光客にターゲットを絞り、MAP、動画、メニュー作成などに地域の方々や商工会議所等と連携しながら取り組んでいる。また、東京都国際研究協議会において、本研究授業および取り組み実践例などを発表、生徒の研究発表への参加、研究紀要への掲載なども行っている。</p>			

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>当初、単元と関連させてどう授業を組み立てていけば良いのかということに悩んだ。そこで、思い切って、2学期期末考査後の特別時間割のなかで、普段は少人数に分けて実施している英語の授業をペアの教員と相談の上、合同で実施した。Picture Descriptionの活動のなかでは、当初、A～C 3つの写真が何の写真であるのかを考えさせる活動を行ったが、より生徒にその写真のメッセージを「自分ごと」として捉えてもらうためには、活動前に視点を伝える必要があると感じた。具体的には、What（何についての写真であるか）・Where（どこで撮られた写真なのか）・Compare（日本との関わり・違いは何か？）という視点を伝えることで、日本との相違点のみならず、共通点もあるという気づきにつなげた。また、英語の授業での実施ということで教科との関連が問題となるが、SDGsのロゴの英語版やコンセプトの理解、活動の指示などを英語で行った。教科書の英文から関連する部分を抜き出して、SDGsに当てはめて考えてみるという試みも行った。本来であれば、ここでのグループ活動も英語で行うことが望ましいだろうが、十分な英語力がない段階では英語によるディスカッションという制約が「深い学び」を阻害してしまう要因となることが考えられたため、今回、グループワークでの使用言語は日本語で実施した。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>開発途上国を「かわいそう」や「貧しい」などといった「支援」の対象である国という印象を、生徒が、「協力」や「自分ごと」という視点から考えていくには時間がかかることを感じた。「自分ごとにして考える国際協力」というテーマで授業を行い、SDGsの観点で身の回りのことを考えさせることはある程度はできたように感じる。しかし、そこから発展して、自分たちの外の世界の課題などに対して「自分ごと」にし、「行動」に移していく生徒を育てるには、どのような授業展開が可能かについて再検討が必要である。同世代の高校生が取り組んでいる事例など、「私にもできるかも」という感覚を持てるような実例を示していくことも必要である。と同時に、生徒が行ったことが開発途上国の人々などに届いて、その人達を笑顔にできた、などという実際に日本と開発途上国の人とをつなぐプロジェクトなどを考えていくことも一案だと考える。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>SDGsという切り口を生徒に提供することで、これまで以上に生徒が身の回りのことについて課題意識を持って、活動するようになった。特に、ESS国際交流部では、SDGsの視点から、地域貢献に取り組みたいという生徒が出てきており、昨年9月から「地域の外国人おもてなしプロジェクト」に取り組み、地域飲食店のインタビューなどを行い、「外国人おもてなし英語MAP」の作成や、地域英語PR動画を作成した。この活動が地域新聞でも紹介され、地域の方々から多くの協力を得られるプロジェクトに発展してきたことや、東京都の研究大会で奨励賞を頂くなどの成果を挙げつつある。高齢化が進行しており、シャッター街となりつつある街を元気にし、地域の観光産業を地元の高中生と地域住民がパートナーシップを結ぶ（SDGs17）ことにより、持続可能な街づくり（SDGs11）につなげていく。今後もSDGsと本校での国際理解教育及び学校教育活動とつなげて以下のような試みを行っていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 沖縄修学旅行 SDGs フォトコンテスト</li> <li>② SDGs マイプロジェクト&amp;プレゼンコンテスト</li> <li>③ 「まちづくり」外国人地域おもてなしプロジェクト</li> <li>④ JICA 出前授業で「問い」を作り、深い学びにつなげるワークショップ</li> <li>⑤ 国際理解教育委員会の運営、他教員との連携</li> <li>⑥ SDGs 探究学習×台湾修学旅行</li> <li>⑦ 探究×SDGs アワードへの応募</li> </ol>
<p>14. 学びの軌跡※ 「振り返り」として、SDGsに関して以下のことについて生徒に記述してもらった例を紹介する。</p>	<p><b>1. 身近にあるSDGsを見つけよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女子生徒用ズボン SDGs5</li> <li>・エンカレッジスクール SDGs4</li> </ul> <p>☞不登校を経験している人でも再チャレンジできる場がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食料廃棄 SDGs2</li> </ul> <p>☞バイト先で、作るのに失敗したもの・形がいびつなものは捨てていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所 SDGs5 ☞ 子供がいても働けるような環境に少しずつなっている</li> <li>・副業 SDGs8 ☞ 副業を認める企業が増えてきた</li> </ul> <p><b>2. SDGsについての「問い」を作ろう</b></p> <p>【17という目標設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ17しかないのか？もっと他のも出てくるのでは？</li> <li>・17個を全部守れている国はあるのか？</li> <li>・目標設定が高い気がする。叶わないことを目標にするのもどうかと思った。</li> </ul>

	<p>【SDGs の認知度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs を知っている人が少ない。知る場面を増やすことはできないのか？</li> <li>・海外での知名度と日本ではどちらの方が高いの？</li> </ul> <p>【SDGs が作られた背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ SDGs が作られたの？ ・SDGs と MDGs の違いは何か？</li> <li>・2030 年になったら、SDGs はなくなるのか？</li> </ul> <p>【達成のための対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口では言っているけど、実際行動に移せていない。</li> <li>・SDGs を達成するために、日本は何をしているのか。</li> <li>・達成することが難しい課題をたくさん作って、どうやって解決していくの？</li> <li>・1～17 まで全てできるようにしっかりと計画が立てられているのか？</li> <li>・何が足りないのかが明確になっていたとしても、それを直す改善する策や最終的な目標がはっきり見えないのはどうなのか？</li> </ul> <p>【達成の難しさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に平和は訪れるのか？</li> <li>・裕福な国は自分の国のことばかりで、貧しい国のことを考えているのか？</li> <li>・2030 年までにあと 10 年しかない。今の状態のままじゃ達成できないと思う。</li> </ul> <p>【自分たちにできること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たち学生が協力できることは何か。</li> <li>・SDGs を達成するためのボランティアがあるか？</li> </ul> <p>☞「問い」を作り、モヤモヤした状態で授業を終えた。あえて答えを言わずに生徒が「問い」を作ることから、調べ、考え、行動に移すことにつながっていくと考えたからだ。3 年次の SDGs マイプロジェクトへつなげていく。</p> <p><b>3. 生徒たちが考えた「自分たちにできること」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイ捨てをしない。ポイ捨てをしている人がいたら注意する。</li> <li>・積極的にゴミ拾いする。・募金をする。・命を大切にする。</li> <li>・都会だけでなく、田舎にも交流をとる</li> <li>・皿洗いするときにそのまま油を水道に流さない。</li> <li>・地域ボランティアに参加する。・買ったものは最後まで責任もって使う。</li> <li>・電気をつけたまま寝ない。・シャワーを出しっぱなしにしない。</li> <li>・性別を理由にバカにしたりしない。</li> <li>・教育を受けられるのが当たり前と思わず、時間を大切にする。</li> <li>・差別をしない。理解する。</li> <li>・自分や周りの人のためにも、他の人の勉強の邪魔をしないようにする。</li> <li>・使ったものはきちんともとに戻し、確認した時にできていないものがあれば代わりにやる。・相手と協力して何かをやり遂げる。</li> <li>・先生も気持ちよく授業ができて、生徒も気持ちよくできるために、黒板をきれいにする。・18 歳になったら、選挙に行き、自分で任せられる人を選ぶことが大切。</li> <li>・授業を真面目に受ける。</li> </ul> <p>☞授業前は、ポイ捨て・食べ残し・飲み残し、授業中の私語など、学校では多くの課題が見られた。この授業を通して、生徒が自分の身近な課題から見直し、ゴミを片づけたり、黒板をきれいにしたり、授業に集中できていない子に声をかけるなど、身近なところから課題を解決していこうという生徒が各クラス数名ずつ出てきて良い相乗効果を生んでいる。</p>
15. 授業者による自由記述	<p>教師海外派遣研修では、内容が濃く、自分の目の前の生徒に何を伝えていけば良いのかを授業直前まで悩んでしまった。結果として、実践授業では多くの内容を盛り込み過ぎてしまい、やや内容が消化不良の状態になってしまった感がある。数多くある研修での経験のなかから、育てたい生徒像を思い浮かべ、伝えたい内容を精選していくことが重要であると感じた。今後、日々の教科実践のなかに国際理解教育というスパイスを少しずつ加えていくことで、国際的な視野で物事を捉えられる生徒を育てていくことが目標である。3 学年を通した国際理解教育のグランドデザインを作成し、生徒の発達段階に応じた効果的な教科横断型のカリキュラム作成を、他教科の教員とも連携しつつ、学校全体で行っていきたい。</p>

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	駒谷 健介	学校名	埼玉県立大宮工業高等学校
担当教科等	英語	対象学年 (人数)	2年7組 (39名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2019年10月～12月 (8時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：コミュニケーション英語Ⅱ		
2. 単元(活動)名：Lesson 4 "Living with Robots" (All Aboard!Ⅱ)		
<p>3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標</p> <p>授業テーマ：「技術開発において大切なこと」</p> <p>単元目標：科学技術の発達と未来について、自分の言葉で述べるができる。</p> <p>関連する学習指導要領上の目標：コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>		
4. 単元の評価 規準	<p>①知識及び技能</p> <p>②思考力、判断力、表現力等</p> <p>③学びに向かう力、人間性等</p>	<p>既習事項 (分詞・進行形・助動詞・受動態、Lesson4 の新出語句) が定着しているか。</p> <p>情報を的確に捉え、整理しながら考えを形成し、根拠を伴って聞き手に伝えることができるか。</p> <p>問題解決のために必要に応じて調べたり、学び合ったりすることができるか。</p>
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>教科書本文では、人型ロボットは日常生活で助けとなり、「将来、我々に新しい経験をもたらすだろう」と述べられている。特に否定的なことは書かれていない。しかしながら、技術開発には恩恵を受ける人もいれば、そうでない人もおり、その両面を見る必要があるということを考えさせたい。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>昨今、Society5.0と言われる時代の中、スマホの普及やAIの台頭など技術革新が著しく、変化の激しい世の中である。その中で、果たして技術開発は何のためになされるのか、また、その際に大切なことは何か、卒業後は「工業人」となる者が多い本校の生徒に問いかけることは重要であると考えます。</p> <p><b>【児童/生徒観】</b></p> <p>2年生建築科、男子33名、女子6名。意欲的に授業を受ける生徒が多く、プリント学習などは黙々と取り組めるクラスである。英語に関しては英検準2級にチャレンジする生徒もいれば、基礎基本が身につけていない生徒もおり、学力差がある。ものごとを深く考えたり発表したりすることは、できるだろうに進んでやらない生徒もいる。機会ときっかけを与え、潜在能力を引き出す指導をしていきたい。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>2学期になってからの授業では、パラグアイで見てきたものや感じたことを、毎時間写真や動画とともにSDGsと関連付けて小出しにしてきた。</p> <p>本時はジグソー法による。まず、「技術開発は何のためか、その際に大切なことは何か？」を問う。エキスパート活動では、既習事項を極力取り入れた英文の読解に取り組</p>	

<p>む。内容は、①A Iのメリット ②A Iのデメリット ③人を救うものづくり（日本がパラグアイに無償で提供した浄水場・ゴミから作られた楽器）である。その後、ジグソー活動ではエキスパート内容を踏まえ、各情報や異なる視点、考えの共有を図る。そして、クロストークとしてクラス全体での発表をさせる。</p> <p>また、本時の前週にインターンシップで3日間、全員が各企業にお世話になり職業体験をしてきた。直に感じ、学んだ勤労観などを、本時の活動にも生かすことを期待する。</p>
---

6. 単元計画 (全8時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 ～ 6	Lesson 4 理解と定着	本文の内容理解。 分詞（後置修飾）の理解。 正しい発音を身につけ、すらすらと音読する。	①新出語句の意味調べ ②新出文法・表現の解説一板書 ③日本語訳を考える ④音読	
	スピーキング活動	英語で伝えようとする力を養う。	ピクチャートーク ①ペアの片方のみ画像を見る ②1分間でペアに何の画像か英語で伝える	パワーポイント
	パラグアイ・SDGs紹介	世界に目を向けさせる。	・世界には知らないことが多いこと、日本と共通の部分もあることなどを考える。 ・SDGsについてどんな趣旨のものか、内容とともに理解する。	・パワーポイント（パラグアイ・SDGs） ・パラグアイで撮った写真・動画
7	知識構成型 ジグソー法	メインの問いを深く考えるための情報収集・集約	「技術開発は何のためにするものか、その際に大切にすべきことは何か」という問いに答える。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">エキスパート活動</div> 3人一組のエキスパート班を作り、 <b>A</b> A Iのメリット、 <b>B</b> A Iのデメリット、 <b>C</b> 命や心を救うものづくり についての自作の英文を読解・要約し、タイトルを考える作業。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ジグソー活動①</div> 各パートの内容を伝え合い、メモを取る。	エキスパート資料A・B・C (Cにはパラグアイのカテウラ音楽団と浄水場の写真掲載)  ジグソー資料
インターンシップ (企業体験3日間)				
8 本時	知識構成型 ジグソー法	メインの問いに対する考えを深め、他者に自分の言葉で伝えられるようにする。	・本時の流れを確認  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ジグソー活動②</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">クロストーク</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">まとめ</div>	・パワーポイント ・SDGs リスト (英語版) ・パラグアイ人の幸せの価値観スライドショー

7. 本時の展開（8時間目）			
本時のねらい： 一連の活動を通して他者と意思疎通をし、最初の問いに対して自らの考えを深めること			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<b>導入</b> (3分)	流れ確認→席移動	前時欠席者のグループ配置	パワーポイント
<b>展開</b> (30分)	<p style="text-align: center;"><b>ジグソー②</b></p> <p>これまでの経験や学びに、ジグソー①で共有した内容を加え、「技術開発に必要なことは何か」を話し合う。 その後、SDGsに関連付けて考え、リストから3つ選ぶ。 なぜその3つが大切だと思うのか、理由を考える。</p> <p style="text-align: center;"><b>クロストーク</b></p> <p>SDGsから選んだ3つを一人一つずつ英語で言う。なぜそれらを選んだか、理由を日本語で伝える。半分くらいのグループに発表してもらい、異なる視点についてはメモを取る。</p>	伝わりやすい発表の型を示す。 「～が大切だ。というのは、・・・だからだ。例えば、一。よって～だ。」	<p>・ジグソー活動&amp;クロストーク用資料</p> <p>・SDGsリスト(英語版)</p> <p>パワーポイント</p>
<b>まとめ</b> (17分)	<p>①動画視聴を通して、世界にはさまざまな人がいて、考え方や求めていること、価値観の違いを知る。</p> <p>②教師によるまとめ(英語で伝える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものごとを開発・発展していく裏には、受け手に誰がいて、何が求められているか。</li> <li>・人間が人間らしく生きていける世の中に。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>技術開発やSDGsの達成は、本だけでの問題でも、あるいは途上国だけの問題でもない。世界で進めていかなければならず、そのとき英語でコミュニケーションを取る力が必要になってくる。</p>  </div> <p>③・最初の問いへの訂正・加筆 ・感想記入</p>	<p>簡単な英語を使用する。</p> <p>十分な時間を確保する。</p>	<p>・パラグアイ人の幸せの価値観スライドショー</p> <p>・教師の英語に合う日本語をパワーポイントで掲示</p>
8. 評価規準に基づく本時の評価方法			
ワークシートを回収し、①適切に内容を捉えられ、思考が深まっているか(エキスパート活動)、②他者の考えや異なる視点を加え、さらに思考が深まっているか(ジグソー活動)、③多角的な視点で課題を考えられたか(感想文)の観点で、メインの課題にたどり着くまでの課程を評価する。また、④他者に自分の考えを、根拠を持って伝えることができるか(クロストーク)も観点に加え、評価する。			

## 9. 学習方法及び外部との連携

本時では、埼玉県教育委員会が東京大学CoREFと連携し、「未来を拓く学びプロジェクト」として推進している協調学習「知識構成型ジグソー法」を用いた授業展開をする。一連の活動を通して他者と意思疎通をし、最初の問いに対して自らの考えを深めることがねらいである。

## 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

本校から15名の先生に加え、他校や外部民間企業の方も招き、本時を公開授業として行った。他教科の先生方にもご参観いただき、SDGsはどの教科でも取り入れられることを議論することができた。また、校内全教員対象の授業力向上研修にて、実践報告を行った。生徒たちの変容や、教科横断的な視点でより深い学びができることを伝えることができ、今後の教育活動に学校全体として取り組んでいければよいと思った。

### 【自己評価】

11. 苦労した点	<p>本研修を日常に落とし込むことを念頭に置き、英語の授業であることと、日々の学習内容に絡めることに苦労した。しかし、SDGsは多角的なものなので、どんな題材でもリンクさせることは可能だと感じた。</p>
12. 改善点	<p>SDGsについて知識だけでなく事前に何かと関連付けて学ばせ、深く考えさせておけば、より短時間で深い議論に至ったのではないかと思う。</p>
13. 成果が出た点	<p>生徒たちがこんなにも深く考え、表現できたことは（下記の通り）、期待以上であった。こちらが想定する以上に、生徒は地球問題について深く議論ができ、どうにかしたいと思っているのだと感じた。この経験に基づき、今後も今回のように深く考える機会を提供できる授業設計をしていきたい。</p>
14. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	<p>本授業前は、「技術開発において大切なこと」について、ただ「豊かになるため、楽するため」といった声が多かった。</p> <p>以下は授業後の記述である。</p> <p>「技術開発の発展は世界にとってすごく大事なことだと思います。でも、技術の発展よりも、人々の平等などをまずは大事にするべきだと思います。けど、それらをなくすためにも技術の発展は必要不可欠だから、大事なことは全部つながっていると思いました。SDGsの項目はどれも大事だし、そして1つ1つがつながっていると思いました。つまり、それぞれが大事だ！と思うことを1つでも実現できたら、世界中が幸せになれると思いました。私にとっては、海や森林の環境改善が1番大事だと思うので、それに経った少しでも貢献できるように気をつけてみようと思いました。」</p> <p>「技術の革新はこれから加速していくと思いますが、ただ技術を開発して工業化を進めていくのではなく、環境に配慮したものづくりや、人間とAIの共存など守っていかなければならないものはたくさんあると思いました。技術の革新は人々を豊かな生活にしてくれるのかもしれませんが、発展途上国などでは貧困が起きていることを忘れてはならないと思いました。また、技術の発達において世界が平和だということは大切なことだと思います。世界が平和であることによって技術の開発</p>

	<p>に必要な石油、天然ガスなどの化石燃料などの資源を安定的に低コストで手に入れることができると思います。今回の授業で学んだ技術開発は建築においても大切なので、今後に生かしていきたいと思いました。」</p> <p>「技術開発には、暮らしが便利になったりして国などにいい利益があるので、技術開発をするのだと思います。しかし、それをするためには、良い人材がいないと開発はできません。良い人材をつくるために、国の貧困をなくし正しい教育を受けなければならないと思いました。」</p> <p>「今の自分たちの生活をより良くしていくためにもさらなる技術の向上が必要ですが、ただ物を作るだけでなく、それを行ったら、地球の環境や人々の生活を変えてしまったりしてしまうので、目先のことだけを考えずに未来のことを考えていくことこそが、技術開発をするにあたって大切なのではないかと思います。」</p> <p>「技術開発をすることで自国だけでなく他国の貧困を助けられる。その際に必要なことは、自国の技術を上げること。何より大切なのは、環境や海を汚染しないことだと思います。自分だけが上になればいいではなく、平等に全ての人が上に上がるようにする、相手を思いやることが大切だと思います。」</p> <p>「技術開発は仕事やものごとを効率化し、人間の生活をよりよいものにするためにあると思います。そして技術開発は人類の進化そのものだと思います。その中で大切なのはその代償だと思います。AI などによって人間にできるような簡単な仕事が取られてしまい、人と人だからこそできるものの重要性が高まってくると思います。あと自然や環境を破壊することは仕方ないのかもしれないけど、それを無視するのは退化になってしまうと思います。」</p> <p>「この授業を受けてたくさんのことを学びました。一つ大きいのは人としての力ということです。どれだけ勉強しても、スーパーコンピュータなどにはかなわないと思うし、どれだけ運動ができて性能のいいロボットには勝てないと思います。そこで人にできるのは相手の感情を読み取るコミュニケーション力だと思います。技術開発が進むにつれて、貧困の差が広まってしまうと思います。でもその問題を解決することができるのはAI でもなく技術でもなく、私たちがずっと持っている人の「力」だと思います。」</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>事前研修、海外研修、授業実践、事後報告会と、濃い1年間を過ごすことができた。この過程で、教育は何のためにあるものか、深く考え続けることが大切であることを学んだ。また、研修を共にした先生方とは、今後もずっと切磋琢磨したり、励ましあったりできる関係になれた。これは、一生の大きな財産であると思う。</p> <p>授業では、生徒の持つ可能性だけでなく、自分自身がどんな授業ができ何を導くことができるのかという可能性も知ることができた。どちらも、自分が思う以上のものが出せるものだと実感できた。</p> <p>SDGs は教科横断的に学ぶ必要のあるものだった。本校においては、工業科や社会、家庭科で学んだこと論理的に考え（数学）、を言語化（国語）し、世界に発信するために英語で表現するということが、理想の形なのではないかという議論を、授業参観者とすることができた。ここまでできるよう、努めていきたい。</p>



## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	池亀 元喜	学校名	新潟県 新潟県立佐渡総合高等学校
担当教科等	農業「農業と環境」	対象学年（人数）	2年 農産・加工系列（24名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和元年11月（5時間）		

### 【実践概要】

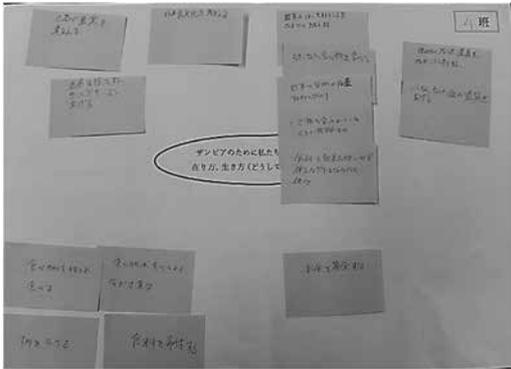
1. 実践する教科・領域 農業・「農業と環境」							
2. 単元(活動)名 発展途上国のために私たちができることや自己の在り方、生き方について考える							
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 (1) 授業テーマ 発展途上国の現状と課題を知り、私たちにできることや自己の在り方、生き方について考える  (2) 単元目標 ザンビア（発展途上国）の現状を知り、農業の見方・考え方を働かせ、私たちに何ができるか、自己の在り方、生き方を考える  (3) 関連する学習指導要領上の目標 教科「農業」の目標は、農業に関する課題を発見し、自分自身や社会のものとして解決することの重要性を主体的な態度で受けとめ、今まで身に付けてきた知識と技術を活用して合理的に思考・判断し、倫理観をもって解決を図る創造的な能力と実践的な態度を育成することである。農業の分野においても情報化やグローバル化が急速に進行しており、多岐にわたる課題が生じている。それらの課題を解決するためには、確かな知識と技術に裏付けされた思考力や判断力、創造力や実践力が必要であると同時に、職業人としての規範意識に基づく倫理観が必要となる。持続的かつ安定的に農業及び社会が発展することに寄与する人材を育成することは、農業教育に携わる私達の責務である。							
4. 単元の評価規 準	<table border="1"> <tr> <td>①知識及び技能</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの現状（ストリートキッズや環境の変化）を理解する。</li> <li>ネリカ米の播種ができる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>②思考力、判断力、表現力等</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアのストリートキッズや環境の変化を理解し、農業や環境について学ぶ高校生として、何ができるか、自己の在り方、生き方を考えることができる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>③学びに向かう力、人間性等</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会の一員であることを自覚し、よりよい社会の構築について考えることができる。</li> </ul> </td> </tr> </table>	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの現状（ストリートキッズや環境の変化）を理解する。</li> <li>ネリカ米の播種ができる。</li> </ul>	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアのストリートキッズや環境の変化を理解し、農業や環境について学ぶ高校生として、何ができるか、自己の在り方、生き方を考えることができる。</li> </ul>	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の一員であることを自覚し、よりよい社会の構築について考えることができる。</li> </ul>
①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアの現状（ストリートキッズや環境の変化）を理解する。</li> <li>ネリカ米の播種ができる。</li> </ul>						
②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ザンビアのストリートキッズや環境の変化を理解し、農業や環境について学ぶ高校生として、何ができるか、自己の在り方、生き方を考えることができる。</li> </ul>						
③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の一員であることを自覚し、よりよい社会の構築について考えることができる。</li> </ul>						
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>ザンビアの現状を理解し、日々、農業や環境について学習している高校生として、「日本（先進国）で生活している私たちに何ができるのか」を考えてほしい。また、将来にわたり、同様の視点で生活を送ってほしいと考える。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>農業や環境について学ぶ高校生として私たちにできることは何か、私たちの役割、自己の在り方、生き方とは何かを考えてほしい。</p>						



3	<p>授業者が国際社会に興味をもったきっかけを知る。</p> 	<p>授業者が国際協力に興味をもったきっかけとなったテレビ番組「世界がもし100人の村だったら」を視聴し、他国の現状を理解する。</p> 	<p>「世界がもし100人の村だったら」のDVDを視聴し、フィリピンの現状を理解する。DVD内の台詞や情景など、要点ごとに設定された設問に回答する。最後に感想を記入する。</p>	<p>テレビ番組「世界がもし100人の村だったら」のDVD</p>
<p>ゴミ山で働く12歳の少女、フィリピンの「マニカ」について</p>				
4	<p>ザンビアの食文化に触れる。</p> 	<p>ザンビアの主食であるシマを調理・試食を通して、コメ以外の主食文化を知る。</p>	<p>ザンビアの主食である「シマ」を製造・試食し、日本の主食であるコメとの違いを考える。</p>	<p>授業者が事前に準備したコーンフラワー</p>
<p>授業者が研修で撮影したザンビアの主食「シマ」の写真</p>				
5	<p>ザンビアの現状(ストリートキッズや環境)について理解し、私たちに何ができるか、自己の在り方、生き方を考える。そして、ネリカ米の栽培に挑戦する。</p>	<p>農業や環境について学ぶ高校生の視点から、自分たちにできることは何か、自己の在り方を考え、発表し合う。また、アフリカのために開発された「ネリカ米」を播種し、国際協力の意識を醸成する。</p>	<p>ザンビアの現状を理解し、私達にできること、在り方について付箋に書き、グループ内で発表し、まとめ、グループごとに発表し合う。また、国際協力の意識醸成のため、アフリカのために開発された「ネリカ米」を播種する。</p>	<p>JICA 筑波センターよりいただいたネリカ米の種子</p>
<p>7. 本時の展開 (5時間目)</p> <p>本時のねらい</p> <p>本単元で学んできたことを生かし、農業や環境を学ぶ高校生として何ができるか、自身の今後の在り方を考える。</p>				
<p>過程時間</p> <p>導入 (7分)</p>	<p>教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態</p> <p>授業者が教師海外研修においてザンビアで撮影した写真「ビクトリアの滝」や「ストリートキッズ」の写真を投影し、ザンビアの課題を理解する。</p>	<p>指導上の留意点 (支援)</p> <p>写真の数枚と限定して、課題を理解しやすいようにする。</p>	<p>資料 (教材)</p> <p>授業者が教師海外研修にて撮影した写真</p>	

<p><b>展開 1</b></p> <p>(15分)</p>	<p>ザンビアの課題から、農業や環境について学ぶ私達にとって、何が出来るか、私達の在り方について考えさせ、付箋に書かせる。そして、グループ内で発表させ、まとめさせる。</p>	<p>ザンビアの課題から「私達は どうしたらよいか」など、身近なところから考えさせる。</p> <p>また、「何が出来るか」は、実現が難しくてもよいということ を指導する。</p>	<p>付箋と模造紙 発表用補助資料</p>
<p><b>展開 2</b></p> <p>(15分)</p>	<p>グループで出た考えをまとめ、グループごとに発表しよう。</p>	<p>発表用原稿を配付し、発表し やすいようにする。</p>	<p>発表用補助資料</p>
<p><b>まとめ</b></p> <p>(13分)</p>	<p>アフリカのために開発されたネリカ米を播種する。</p> <p>私たちが「考えること」が重要であること、今後も継続して考えていかなければならない地球の課題であるということ を話し、本時の振り返りを個々で行わせる。</p>	<p>1人1鉢5粒ずつ播種する。 付箋に名前を書かせ、鉢に貼らせる。</p> <p>本授業を受けて、感じたこと、今後意識していきたいことを自由に書いてよいと促す。</p>	<p>ネリカ米の種子 付箋</p> <p>振り返り資料</p>
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>ザンビアの現状を理解し、私達にできること、在り方について考え、付箋に複数の意見を書くことができる。また、ネリカ米の播種を丁寧且つスムーズに行い、発芽させる。</p> <p>本単元の振り返りより、今後、「よりよい社会の構築について考えること」ができていないかを評価する。</p>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <p>授業実践参観者：佐渡市立新穂中学校教諭 小黒 淳一 様（にいがた NGO ネットワーク理事 国際教育研修会 RING 主宰）</p> <p>小黒教諭より、授業実践後の振り返りにも参加していただき、改善点、アドバイス をご指導いただいた。</p> <p>授業教材（ネリカ米の種子）の提供：JICA 筑波センター研修業務課 西岡 美紀 様</p>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>学校内での、私の授業実践を公開授業とし、10名程度の教職員から参観をいただいた。また、JICA 教師海外研修について興味をもってくれた同僚からは、「来年度、私も参加してみたい」という声をいただいている。令和元年11月23日（土）に「にいがた NGO ネットワーク・新潟研国際交流協会」主催の「今、そして未来をつくる地球市民へ 2019 年度 SDGs 持続可能な社会作りセミナー Let's コラボレーション教育×地域×SDGs」に参加し、県内教育公務員や地元農家、地元中学生など、多種多様な方々と「国際理解」についてディスカッションした。</p>			

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>どのような授業にすれば、生徒が興味・関心をもって授業に参加してくれるかを考え、悩んだ。私が海外研修で撮影した写真や動画を使用したり、実際に、ザンビアの主食を製造して、試食をしたりするなど、教科「農業」の中で、できることを実践した。また、普段は、日本の農業や環境について学ぶ高校生にとって、「いきなり、なぜ、国際社会？」とならないように、私自身が国際社会に興味をもったきっかけを1時間かけて生徒に伝えた。しかし、残念ながら、多くの生徒が、「遠い国の問題」として、身近にとらえてくれなかったように感じた。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>事後アンケート等により、ザンビアの課題や現状を生徒がどこまで正確に理解しているか、それをどのくらい自分ごととして考えているかを定量的に計りたい。そして、授業で取り上げるザンビアの課題を1つに絞って、私たちができること、私たちの今後の在り方について考えさせたい。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>ザンビアの課題や現状を理解して、「私たちができること、私たちの今後の在り方はどのようにあるべきか」という、考えなければならないことがたくさんある中で、多くの生徒が、自分の意見を出し、発表を行ってくれた。また、具体的に「リサイクルをしていきたい」や「食品ロスを減らしていきたい」、「国際理解教育を通して学んだことを多くの人に伝えていきたい」など、私の想定通りの回答をしてくれた生徒が多くいた。生徒が考えてくれた「私たちができること、今後の在り方」を来年度の授業に生かしていきたいと考えている。</p>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>○ できることの意味を班で出し合い、模造紙に貼り、まとめたもの(抜粋)      ○ 発表の様子</p>   <p>○ 本単元を終えての生徒の感想(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒1 「今後、私は自分が使わなくなった物や、着なくなった服を寄付することや、ボランティアに参加したり、青少年みたいな団体に参加するなどしたりしたいです。募金なども行えるようなら積極的に参加したいです。」</li> <li>・ 生徒2 「食べ物が口にできていること、家族がいること、学校に通えていること、当たり前のことに感謝して生活していきたい。」</li> <li>・ 生徒3 「おいしい食べ物を食べられていることに感謝していきたいと思いました。貧しい人のために、今自分ができることを考え、行動に生かしていきたいと思いました。」</li> </ul>

食べ物、水などをそまつにしないようにしたい。」

○ 本単元実施前と実施後のアンケート結果

	n = 24人 実施前		n = 23人 実施後	
	知りたい	知らなくてよい	知りたい	知らなくてよい
Q1 日本以外の国について・・・	15人	9人	16人	7人
Q2 日本は恵まれている国だと・・・	思う 23人	思わない 1人	思う 23	思わない 0人
Q3 国際社会や国際協力に興味がある・・・	ある 6人	ない 18人	ある 11人	ない 12人

○ 発芽したネリカ米



15. 授業者による  
自由記述

孤児院の子どもたちやコンパウンドで生活する子どもたち、ストリートキッズは、私達教師海外研修者一同に屈託のない笑顔を見せてくれた。そして、握手したときの手の感触、温度、ストリートキッズ達の体臭や口臭（シンナーの臭い）を忘れることができない。

ザンビアでの10日間の研修で、自らの知見を広げることができ、非常に充実した有意義な研修となった。私にとって、初めての外国で、日本との違いを多く感じた。ザンビアの食生活や経済、天候、人間性および格差など。見たこと感じたことがすべて新鮮で、私の人生にとって、大きな分岐点となる研修であった。

青年海外協力隊としてザンビアで活躍する日本人と会い、話を聞く中で、国際協力や国際支援、国際理解について深く考えることになった。「物をあげるだけが、支援ではない。場合によっては、自立を妨げることになる」という言葉に、自分自身、迷いが生じた。しかし、ザンビアにいる日本人の皆様から、「支援には段階（ステージ）がある」ということ、そして、「個人に行くべき支援と大多数の人に行くべき支援は違う」という、腑に落ちる答えをいただき、教師として私が発展途上国のためにすべきことが明確となった。それは、農業教育を通じて国際支援、開発教育を実践することである。青年海外協力隊員の皆様と同じように、自分の強みを生かして、国際支援・国際理解教育を実践していきたい。そして、日本の子ども達が、国際支援や国際協力に興味をもち、グローバルな視点で、今後の人生を送ってほしいと今、強く考えている。

帰国後に、授業実践の準備を始めたが、どうすれば生徒たちが国際社会に興味をもってくれるか、自分ごととして考えてくれるか、試行錯誤した。実際のところ、授業を受けた全生徒の興味関心を刺激することができなかつたと感じている。日本とは、佐渡とは関係の無い「遠い国の問題・課題」で終わってしまったところがあった。もっと、「自分たちの足下からできること、すべきことを考える」という視点で授業実践すべきだったと痛感している。しかし、情報量や考えなければならぬことが多い中で、生徒たちは良く考え、それをアウトプットしてくれた。2年生に授業を実践したので、来年度以降に生かしていきたいと感じている。

参考資料：DVD「フジテレビ 世界がもし100人の村だったらディレクターズエディション」2009年5月

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	藤井 宏之	学校名	東京都立千早高等学校
担当教科等	商業	対象学年（人数）	3年選択（19名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和元年10月～12月（10時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：商業		
2. 単元(活動)名：課題研究(ソーシャルビジネス)		
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ：SDGsの視点から「パラグアイの社会課題をビジネスの力で解決しよう」 単元目標：1. SDGsの視点からパラグアイの社会課題を発見し、ビジネスを通じて解決しようとする。 2. ポスターセッションを通して、効果的なプレゼンテーションを実践して理解する。 関連する学習指導要領上の目標：1. ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探求し、創造的に解決する力を養う。 2. 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的にかつ協働的に取り組む態度を養う。		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの視点からパラグアイの社会課題について理解している。また、ポスターとプレゼンテーションの基本的な作成方法を理解し、内容を相手にわかりやすく伝えることができる。</li> <li>「要約(和文・英文)、要旨(英文)、ポスター」の作成を、WordやExcelソフトを用いて実際におこなうことができる。また、ポスターを活用して、効果的にプレゼンテーションをおこなない、内容の要点を簡潔に相手に伝えることができる。</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの視点からパラグアイの社会課題についての思考を深め、課題解決の方法を各ソフトを用いて表現することができる。また、わかりやすいポスターの制作とプレゼンテーションをするためにはどのような工夫をすればよいか、自ら考え表現することができる。</li> </ul>
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの視点からパラグアイの社会課題を発見し解決するための情報の収集やビジネスの解決方法について関心をもち、SDGsの視点から知識を身に付けようと積極的に学習に取り組んでいる。また、要点を相手に伝えるために、わかりやすいポスターを作成し、効果的なプレゼンテーションをおこなおうとしている。</li> </ul>
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<b>【単元設定の理由】</b> 現行の学習指導要領の「課題研究」では、その内容を次のように定めている。上記の「3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 関連する学習指導要領上の目標」に示す、資質・能力を身に付けることができるよう、次の【指導項目】を指導することになっている。(1) 調査、研究、実験 (2) 作品制作 (3) 産業現場等における実習 (4) 職業資格の取得 また、内容の取扱いについては、次の2つの事項に配慮するものとし、ア. 課題については、(1) から (4) までの2項目以上にまたがるものを設定することができることイ. 課題研究の成果について発表する機会を設けるようにすることになっている。本時で扱う「SDGsの視点からパラグアイの社会課題をビジネスの力で解決しよう」では、アの(1)と(2)が該当している。	

**【単元の意義】**  
 近年、日本企業の間で、社会課題をビジネスの力で解決するソーシャルビジネスを経営に生かそうとする試みが広がってきている。国連が国際社会の持続可能な発展のために必要な目標Sustainable Development Goals (SDGs) を策定したのがきっかけである。自社の利益だけを優先する時代は終わり、社会課題に向き合った企業行動を考えないと、国際社会で生き残れないという危機感が背景にある。日本は課題先進国だからこそ、その課題をビジネスの力を使って解決するソーシャルビジネスのモデルを他国に先駆けて確立することで、日本の国際社会でのプレゼンスを高めるチャンスが到来している。2030年までの社会的課題解決を日本から情報発信し、世界に貢献する。  
 SDGs時代を迎え、そんな意気込みでソーシャルビジネスに取り組んでいく必要がある。

**【生徒観】**  
 本校は英語とビジネス（商業）教育を重視した進学型専門高校であり、教育課程の特色は、英語の必修単位数を23単位設定し、選択科目を含めると最大33単位まで履修可能である。一方、ビジネス（商業）は必修を20単位とし、5単位を英語で代替している。選択科目を含めると最大30単位履修可能となっているが、特に2年生以降はビジネス（商業）分野から興味・関心のある分野に特化して学ぶことができるように編成している。2年生ではベトナムでのビジネス英語研修旅行（修学旅行）を実施している。そのため、海外に興味がある生徒が多い。課題研究（3単位）は7講座開講されており、ソーシャルビジネスの講座では男子4名と女子15名が受講している。

**【指導観】**  
 プロジェクト学習の問題解決「IDEAL」5つのステップを用いて、Identify=問題を発見する・Define=目標を定める・Explore=解決方法を探求する・Act=実際に実行して確認する・Look=結果を振り返る、ことで主体的な課題発見・解決力や協働する力の向上を目指したい。また、パフォーマンス課題の設定として、1. 本質的な問いが活動に埋め込まれていることについて、SDGsの視点からパラグアイの社会課題を解決することが理解されていることについて、2. 共有可能な成果物が作成されることについて、「要約（和文・英文）、要旨（英文）、ポスター」の作成。3. 成果物が何らかのアクションにつながっていることについて、ポスターを活用したポスターセッションをおこなう。

6. 単元計画（全10時間）				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	パラグアイの社会課題を知る	1. SDGsの視点からパラグアイの社会課題を知り、SDGsのどの目標の解決を目指すか明確にする。	1. PCを使い、パラグアイの特徴について、「経済」「社会」「環境」「その他（ガバナンス）」に関する事実やデータを集めて、課題を発見して、4つを関連付ける。 2. グループで話し合い、発表して視点を広げる。 3. 広げた視点で、課題の背景や要因について調べ、どの目標の解決をめざすか明確にする。	・『SDGs探求ワークブック』
2	パラグアイの社会課題を解決できるか考える。	1. パラグアイの『今』を知り、もう一度、SDGsの視点から、どの目標の解決を目指すか明確にする。	1. パワーポイントでパラグアイの社会課題を JICA の取り組みや教師海外研修の訪問先等の説明を聞き、どの目標の解決をめざすか明確にする。 2. SDGsの17の目標で、各自が解決する目標を明確にして、目標別に5つのグループを作る。	・パラグアイ共和国における JICA 事業の概要（JICA パラグアイ事務所） ・教師海外研修の訪問先で撮った写真等（JICA 東京主催）

3～8	パラグアイの社会課題をビジネスで解決できるか考える。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他者の発表を聞き、他者との違いや考えを理解する。</li> <li>2. グループに分かれて、SDGsの視点からパラグアイの社会課題をビジネスで解決できるか考える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千葉日報の記事を読んで、SDGsの17の目標のどこに該当するか考え、マイクを使って発表をする。</li> <li>2. 5つのグループがそれぞれに、SDGsの視点からパラグアイの社会課題を発見し、どうやったらビジネスを通じて解決できるかをグループで考える。</li> <li>3. ポスターセッションの準備（テーマ・要約：和文・英文、要旨：英文のみ、ポスター）をする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉日報の記事「千葉から2万キロ赤土の国に生きるパラグアイ探訪記」1～6</li> <li>・『未来の授業ー私たちのSDGs探求BOOK』</li> <li>・BGMとして、カテウラ音楽団のDVD</li> </ul>
9	ポスターを使いプレゼンテーション	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ポスターを使い効果的なプレゼンテーションの方法を考えて理解する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループに分かれて、ポスターを使いプレゼンテーションおこない、効果的なプレゼンテーション（ポスターセッション）を考える。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BGMとして、カテウラ音楽団のDVD</li> </ul>
10	ポスターセッション（本時）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果的なプレゼンテーションを理解する。</li> <li>2. 他者が考える、SDGsの視点からパラグアイの社会課題をビジネスで解決できることを理解する。</li> <li>3. 見学者からの講評を理解する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2 グループに分かれてプレゼンテーション（ポスターセッション4分間・質疑応答2分間を2セット）をおこなう。</li> <li>2. 残りのグループは、Poster Session Evaluation Sheetで他のグループを評価する。</li> <li>3. 他のグループへ付せんに感想を書いて渡す。</li> <li>4. 各グループ・個人でポスターセッションを振り返る。</li> <li>5. 振り返りを発表する。</li> <li>6. 見学者から講評を聞く。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ・要約・要旨のプリント、ポスター、Poster Session Evaluation Sheet、付せん</li> </ul>

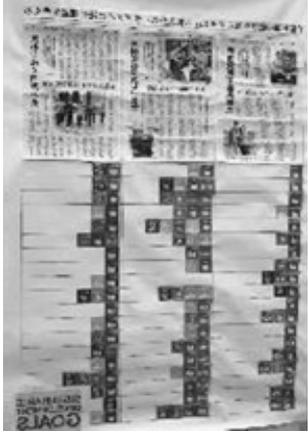
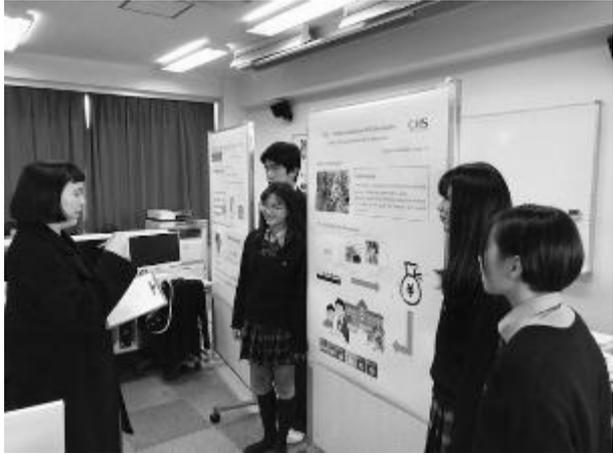
7. 本時の展開（10時間目）  
 本時のねらい：
 

1. SDGsの視点からパラグアイの社会課題をビジネスで解決できることを他者に伝えることができる。
2. ポスターセッションを通して、効果的なプレゼンテーションを実践することができる。（パフォーマンス課題）
3. 他者が考える、SDGsの視点からパラグアイの社会課題をビジネスで解決できることに気づくことができる。

過程・時間	教員の働きかけ	発問および学習活動	指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<b>導入</b> (5分)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時の流れを説明する。</li> <li>2. 見学者を紹介する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 説明を聞く。</li> <li>2. 見学者を理解する。</li> </ol>	一斉	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ポスターセッションの流れと見学者を確認させる。</li> </ol>	
<b>展開</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ポスターセッションをおこなわせる。</li> <li>2. 発表をしていない生徒に発表の評価をさせ、付せんに感想を書かせて渡すように指示する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2 グループに分かれて、ポスターセッション4分間・質疑応答2分間×2セットをおこなう。</li> <li>2. 発表をしていない生徒はPoster Session Evaluation Sheetに他のグループの評価をして、付せ</li> </ol>	<p>グループ</p> <p>個人</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時間をはかり、時間内に終わるようにさせる。（ポスターセッション4分間・質疑応答2分間を2セット）</li> <li>2. 見学者に英語または日本語で質疑をしてもらう。</li> <li>3. グループへ1枚書いて渡させる。</li> </ol>	テーマ・要約・要旨のプリント、ポスター、Poster Session Evaluation Sheet、付せん



【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<p>SDGs の 17 の目標で、各自が解決したい目標別に 5 つのグループ (3~4 人) を作った。男子生徒が 4 人なので一人ずつ別れさせ 1 グループだけ女子生徒だけになった。高校 3 年生 6 クラスから選択してきた生徒なので、話をしたこともなければ名前も知らない関係で、グループワークをさせるのは苦労した。そこで、JT の CM (スペシャルムービー「想うた同期を想う」篇 (180 秒) 性格も趣味も特技も異なる同期入社 of 二人が“凸凹コンビ”として、ぶつかり合いながらも、違いを認め合い、思い合うことで成長していく様子を描いたもの) を作業の始まりに何度か見せ、チームワークの大切さを動画で理解させた。年度当初にこれらのことを想定した授業を計画しておけばよかった。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>単元計画が授業内でできなかった。2 学期から SDGs の視点から「パラグアイの社会課題をビジネスの力で解決しよう」を授業で始め、ポスターセッションの日を決め、逆算して授業計画を立てたが授業内ではできず、放課後等を使って準備しなければならなかった。1、2 学期を使い計画できるよう改善していきたい。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>1. 千葉日報の記事を読んで、SDGs の 17 の目標のどこに該当するか考え、マイクを使って発表したことで、生徒は伝える側と聴く側の態度を理解することができ、一番の成果は人と考えや意見が違っていてもよいことを理解することができた。 2. パフォーマンス課題の設定と実践をすることができた。①本質的な問いが活動に埋め込まれていることについて、重要概念の SDGs の視点からパラグアイの社会課題を解決することが理解されていた。②共有可能な成果物が作成されることについて、「要約 (和文・英文)、要旨 (英文)、ポスター」の作成ができた。③成果物が何らかのアクションにつながっていることについて、伝えたい・変えたい対象・相手が具体的で、ポスターセッションで活用できた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>【男子生徒】 1 年間、私がソーシャルビジネスを学んでみて 1 番印象に残っているトピックスは、SDGs についてです。もともと SDGs について全く知らなかった私は、こんなに大きな規模での目標があることに、とても驚きました。そこから徐々に調べていくうちに、日本にも達成できていないことがあることを学びました。教育をしっかりと受けられていない子どもや女性の社会進出など、普段あまり気にしていないことがその多くで、いかに自分の興味や関心が狭かったのか思い知りました。その SDGs をパラグアイでさらにビジネスで解決するということでは、自分なりにどうしたら日本とパラグアイ両国にメリットがあるビジネスができるかを軸に制作を進めました。班の友達と協力しながら、ドライフルーツを使ったいいアイデアが出せてよかったです。最後に、授業を振り返ってみて、この授業をとっていなかったら知らなかったこと、わからなかったことがたくさんあったなと思いました。とても興味深い授業でした。</p>

	<p><b>【女子生徒】</b></p> <p>ソーシャルビジネスの授業の中では、なかなか行く機会のない JICA 地球ひろばに行くことができたり、ソーシャルビジネスで作成した自分たちのポスターを実際に JICA の方や千葉日報の記者の方に聞いていただいたり、とても貴重で特別な体験をさせて頂きました。また、私はもともと SDGs という言葉すら知りませんでしたが、ソーシャルビジネスで学んだ後から、インターネットやニュースなど様々な場所で SDGs を発見しました。そのたびに嬉しく感じ、ソーシャルビジネスで学んだことは無駄ではないのだと実感することができました。ソーシャルビジネスは、ためになるだけではなく、学んだ知識が将来役に立つ数少ない貴重な授業だとも感じました。実際に大学受験での面接でも SDGs の話題が出てきましたし、珍しい授業ということでソーシャルビジネスの授業内容を聞かれましたが、次から次へと言葉が出てきた自分にはとても驚きました。それほど充実した授業を1年間受けることができました。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>今回の研修を一言でいうと、「毎日感動」でした。サンタエレナ小学校交流プログラムをはじめ、普段は接することのできない小学生などの子供たちと交流できたことは、とても良い体験となりました。特に、カテウラ音楽団学校の子供たちの演奏を聴かせてもらい、心を揺さぶられました。また、異校種の参加者と JICA の方や通訳さんなどの異業種の方々と過ごした研修期間もよい体験となりました。異校種の方と研修をするのは初めてのことで不安がありましたが、それ以上に、年齢差から参加者とうまくやっていけるのかのほうは、不安が大きかったです。それは、私自身にとって大きなチャレンジでした。しかし、みなさんに助けられ、楽しく研修を終えることができました。海外研修を終えて、JICA 隊員の方々からたくさんの刺激とヒントをいただくことができ、今後の国際理解教育と開発教育に活かしていくこととともに、グローバル人材育成に取り組んでいきたいと思えます。</p>

参考資料：

1. 「教育改革から考える海外教育の効果的活用とは」  
 聖心女子大学現代教養学部教育学科 教授  
 東京大学高大接続研究開発センターCoREF 協力研究員 益川 弘如
2. 日経ソーシャルビジネスコンテスト関連特集  
 「SDGs 時代にこそソーシャルビジネスを」  
 慶応大学大学院特任教授/横田アソシエイツ代表取締役 横田 浩一
3. 自分ごとからはじめよう SDGs 探求ワークブック  
 ～旅して学ぶ、サステイナブルな考え方～  
**【共著】** 保本 正芳・中西 将之・池田 靖章 NOA 出版

## 9. 授業実践報告会

参加者の各都県で実施された国際理解教育セミナーやグローバルセミナーにおいて、地域の方々に教師海外研修の経験を生かした授業実践についての報告を行いました。

### ■東京都

イベント名：教育×SDGs～持続可能な社会づくりのための授業～（JICA 教師海外研修 東京都報告会）

日時：2020年1月19日（日）

場所：JICA 東京

主催：JICA 東京

参加者：98名

プログラム：

1. フォト・ストーリーによる海外研修紹介
2. ポスターセッションによる授業実践報告
3. 教育 NGO 活動・教材紹介
4. 国際教育ネットワーク団体活動紹介
5. 模擬授業・座談会



### ■群馬県

イベント名：ぐんまグローバルセミナー 2019

日時：2020年2月15日（土）

場所：群馬県庁 29階 291会議室

主催：JICA 東京、群馬県観光物産国際協会、NPO 法人 ESD ぐんま

参加者：35名

プログラム：

1. 国際理解ワークショップ体験&教材開発
2. JICA 開発教育支援事業の紹介
3. JICA 教師海外研修 授業実践報告



### ■埼玉県

イベント名：グローバルセミナー 2020

日時：2020年2月9日（日）

場所：コーププラザ浦和

主催：JICA 東京、(特活) 埼玉 NGO ネットワーク、(公財) 埼玉県国際交流協会

参加者：79名

プログラム：

第一部：2019年度 JICA 教師海外研修参加教員による SDGs 実践報告会「ザンビアとパラグアイの SDGs は、今どうなっているの？」

第二部：“SDGs”～誰一人取り残さない～

1. はじめに
2. パネルディスカッション
3. グループワーク



### ■新潟県

イベント名：JICA 教師海外研修報告会～学びや体験を子どもにどう出会わせる？～

日時：2020年1月25日（土）

場所：クロスパル新潟 講座室 401・402

主催：にいがた NGO ネットワーク

共催：JICA 東京

参加者：50名

プログラム：

1. 教師海外研修の概要説明
2. (教員コース) 授業実践報告&ワーク
3. (行政コース) 研修報告
4. プレゼンテーションコンテスト最優秀者の取り組みと発表



\* 千葉県及び長野県に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点より延期。

# 10. 全体報告会

日時：2020年3月15日（日）

場所：JICA 東京

目的：持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力を見直し、授業改善のサイクルにつなげる

## 3月15日（日）全体報告会@ JICA 東京 セミナールーム 411 他

所要時間		プログラム		目的／説明	講師・進行
9:30		受付開始	411 前		全体進行：JICA 東京 岡田
10:00	5	開会あいさつ プログラム説明	411	今日の目的の確認「持続可能な社会づくりの創り手となることのできる児童・生徒の育成」育てたい資質能力とは何か、どう育てていくのか、来年度以降に続く指針を得ていただきたい。	JICA 東京 高田
10:05	65	<校種別>【グループワーク】 授業実践の振り返り	411, 410, 409	授業実践を発表・総括する（実践報告書手元に）  授業実践について発表 55分（7分×人数） ・ 授業実践の概要 ・ イチオシ（またはメイン）の授業 ・ 良かった点、反省点、課題 ・ 来年度考えていること・やりたいこと  グッドプラクティス、課題、来年度への計画など次の時間で共有する内容・発表者を決める（10分）	小学校 JICA 東京 深林 埼玉、千葉デスク  中学校 JICA 東京 古賀 長野、群馬デスク  高校 JICA 東京 岡田 新潟デスク
11:10	50	振り返りの共有・講評	411	・ 校種グループ代表より発表（15分 5分×3） ・ 意見交換（5分）  佐藤先生より講評（30分）	東京都市大学教授 佐藤真久
12:00	60	昼食	食堂		
13:00	30	写真課題・ワークシート記述共有	411	自分たちの選んだ写真の変化 (身近なものにも SDGs；いろんなものがつながりあっている)	東京大学教授 白水始
13:30	30	【講義】 持続可能な社会づくりの学びを支える授業研究		1. 【講義】授業研究は目指す資質・能力と子どもの実態のサンドイッチで考える 2. 授業で扱った「育成したい資質・能力と SDG s」の共有 15分（教科別・X班）	東京大学教授 白水始
14:00	10	休憩			
14:10	80	【演習】持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力とは…	411	3. グループの1 授業例について「見とりの観点」設定 45分（班別） 4. クロストーク 15分（2分×6班） 5. 【講義】「授業改善のサイクルにどうつなげるか。」 10分 6. 質疑応答 10分	東京大学教授 白水始
15:30	5	休憩			
15:35	10	修了証授与	411		JICA 東京次長 長谷川
15:45	5	閉講のあいさつ		JICA 東京次長 長谷川	
15:50		記念撮影・解散			



【講義】持続可能な社会づくりの学びを支える授業研究



修了証授与



---

## 11. 教師海外研修を終えて

---

所属 JICA東京 学校教育アドバイザー

名前 岡田 直人（埼玉県教育委員会より派遣）

約1年に及ぶ2019年度JICA教師海外研修（以下、教海研）が、今終わろうとしています。ザンビア、パラグアイでの経験を存分に活かし本研修をやり遂げた22名の先生方には、心から敬意を表します。また、バイタリティーと使命感溢れるこれらの先生方を教海研に快く送り出し、公開授業にも多大なるご協力をいただいた各所属校の校長先生はじめご関係の先生方に、改めて御礼申し上げます。

遙かアフリカや南米の地に渡っての海外研修を軸として、JICAが行う国際協力の「現場力」がふんだんに盛り込まれた教海研ですが、研修テーマはあくまで「持続可能な社会の創り手を育てる授業実践」。派遣前後の国内研修や帰国後の授業実践を通して、参加者のみなさんには、開発途上で直接見て感じたことを教室で伝えるだけでなく、そこから子供たちに何を考えさせ、どんな力を身に付けてほしいのかをとことん追究していただきました。それこそが、授業のプロたる現職教員が参加する教海研最大の意義であると考えます。

さらに、研修中に私から先生方をお願いしたことは、もう一つありました。教海研で身に付けた「持続可能な社会の創り手」を育てる授業実践を、個人に留めることなく、所属校の管理職や同僚の先生方をも巻き込んで全校的な取組に拡げて欲しいということです。非常にハードルの高い要望であることは重々承知のうえで、そのようなお願いをさせていただきました。しかし、この点においても今年度の教海研は非常に大きな成果をあげることができたと確信しています。

教海研により、22名の先生方は劇的な変容、成長を遂げられました。個々の授業実践を拝見すると、ザンビア、パラグアイで得た感動と問題意識をSDGs（持続可能な開発目標）の視点から授業に効果的に落とし込み、伝えることのみで終始しない、またアクティブ・ラーニング的手法にのみ拘泥することもない、ごく自然な形で深い学びが展開されていました。まさに「スーパーティーチャー」として、個の力量を飛躍的に高められた姿がそこにはありました。

しかし、今回の教海研で特筆すべきは、こうした授業がクラス単位に留まらず、学年や学校全体としての取組に昇華されていることです。他教科や同学年担当の先生方との協働による教科横断的な教材・指導案の作成、SDGsや探究的な学びに関する校内教員研修会の実施、SDGsを共通言語として地域と連携した多文化共生・地域創生の取組等々・・・教海研に参加された先生方を結節点として、各学校や地域において様々な形の「協働」が展開されています。スーパーティーチャーひとりの活躍だけでは、どんなに優れた実践も学校全体にとって持続可能なものとはなり得ません。教海研参加者自身が、多様な他者との共生と協力、すなわちSDGs最後の17番目に位置付けられた「パートナーシップ」を体現したといえるでしょう。

いよいよ2020年度から新学習指導要領の小学校・特別支援学校での実施を迎え、中学校、高等学校へと続きます。前文に記された「持続可能な社会の創り手の育成」はもとより、主体的・対話的で深い学び、探究的な学び、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメントなど、新しい指導要領が打ち出す方向性に教育現場はやや戸惑い気味かもしれません。しかし、今回教海研に参加された先生方を核とした各校での取組こそ、これらを取り出した先進モデルです。換言すれば、新指導要領に基づく教育課程は、教海研参加者にとって、自身の経験とネットワークを最大限に活かして子供たちを新たな学びのフェーズに引き上げる絶好のチャンスです。この1年で蒔いた種を大事に育て、さらに大きく花開かせていただきたいと思います。

ザンビアやパラグアイで出会った人々の笑顔と、教海研を通じて互いに熱く語り合った仲間との絆は、参加されたみなさん一人ひとりにとって、かけがえのない財産です。この1年を通じて、私自身もそうした財産をみなさんと分かち合えたことに、心から感謝申し上げます。

## 12. 学校・教員のための開発教育・国際理解教育支援プログラム

### 学校・教員のための開発教育・ 国際理解教育支援プログラム

JICAは、これまでの開発途上国での国際協力の経験を通じて培ってきた知見を、持続可能な社会づくりを担う子供たちを育成する教育に役立てていただくため、国際理解教育/開発教育支援事業を行っています。

JICAは、開発教育/国際理解教育を支援することにより、「世界の様々な開発課題と我が国との関係を知り」「それらを自らの問題として捉え主体的に考え」「根本的解決に向けた取り組みに参加する」人を増やすことを目指します。

#### 教員向けプログラム

##### ●教師海外研修

国際理解・開発教育に関心を持つ教員を対象に、夏休み期間中10日間程度の開発途上国視察を含む1年間のプログラムです。世界が直面する開発課題および日本との関係、国際協力の必要性に対する理解を促進し、学校現場等での授業実践を通じて国際理解・開発教育の推進を担っていただきます。

JICA東京では、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)を切り口に研修を構成しており、世界の課題を自分事としてとらえ、地域の課題にも目を向け、主体的に行動できる児童・生徒の育成を目指しています。



##### ●海外協力隊（現職教員特別参加制度）

公立学校、国立大学付属学校及び私立学校の教員が「教員」としての身分を保持したまま海外協力隊へ参加する制度です。教員が開発途上国において国際教育協力を従事することによって、コミュニケーション・異文化理解の能力を身につけ、国際化のための素養を児童・生徒に波及的に広めることが期待されています。



#### 児童・生徒向けプログラム

##### ●国際協力出前講座

開発途上国の実情や日本との関係、国際協力の必要性について考える機会として、JICA海外協力隊経験者を講師として紹介するプログラムです。ご希望に応じて、開発途上国からの研修員をご紹介することも可能です。学校を中心に、毎年全国で2,000件以上、約20万人が受講しています。



##### ●国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

開発途上国の現状や国際協力の必要性について理解を深め、自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的に、中学生・高校生を対象としたエッセイコンテストを毎年実施しています。上位入賞者には、副賞として開発途上国へのスタディーツアーへ参加することができます。毎年、7万点を超える作品が寄せられています。夏休みの宿題や作文指導としてもご活用ください。

##### ●「世界の笑顔のために」プログラム

開発途上国で必要とされている、教育、福祉、スポーツ、文化などの関連物品を提供していただき、JICAが派遣中の海外協力隊員を通じて世界各地へ届けます。国内の指定倉庫までの送料はご負担いただく必要がありますが、現地までの送料をJICAが負担いたします。個人での参加はもちろん、学校やクラス単位でもご応募いただけます。



## 開発教育・国際理解教育のための教材

### ●先生のお役立ちサイト

JICAでは、国際理解教育や総合的な学習の時間に役立つ教材を作成し、無料で提供しています。国際協力や地球規模の課題をテーマにした冊子・動画・ウェブ等の教材をダウンロードすることができます。授業に合わせてぜひご活用ください。



### ●授業で使える10分映像集

授業でそのまま活用できる、中高生を対象にしたアクティブラーニング用の映像教材です。四つのテーマ「難民」「イスラム」「国際協力・ODA」「教育」をそれぞれ10分程の映像にまとめています。



### ●国際理解教育実践資料集

世界に存在している課題について、その問題のポイントや子どもたちに知ってほしい内容を分かりやすく解説しています。また、それぞれの学習内容ごとに学習指導要領やESDの分野との関連を示しています。



### ●どうなってるの？世界と日本

私たちの日常生活と開発途上国とのつながりについて、クイズに答えながらわかりやすく学べる小中学生向け資料です。食べ物やエネルギーなど私たちの生活に欠かせないものはどこからきているのでしょうか。かわいいイラストで楽しく学ぶことができます。



## 「JICA地球ひろば」のご案内

### ●JICA地球ひろば

JICA地球ひろばでは、開発途上国の暮らしの現状や、地球が抱える問題、国際協力の実情などを、見て・聞いて・さわって体験できる展示と、開発途上国での活動体験談や参加型学習を組み合わせたプログラムを実施しています。修学旅行、社会科見学等の団体訪問も受け入れており、年間約1万人に見学いただいています。



開館時間：10時～20時（平日）／10時～18時（土・日・祝）

休館日：第1・第3日曜日、年末年始 ○入館無料

連絡先：〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

TEL：03-3269-2911／0120-767278

詳しくはコチラ

JICA地球ひろば

検索

## あなたの近くのJICA相談窓口

### ●JICAデスク

開発途上国で活動した経験を持つ国際協力推進員が、皆さんのお越しをお待ちしています。

- |     |  |
|-----|--|
| 埼玉県 | (公財)埼玉県国際交流協会内 Tel: 090-4024-0253<br>✉ jicadpd-desk-saitamaken@jica.go.jp      |
| 千葉県 | (公財)ちば国際コンベンションビューロー内 Tel: 090-4024-0441<br>✉ jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp |
| 群馬県 | (公財)群馬県観光物産国際協会内 Tel: 090-4024-0097<br>✉ jicadpd-desk-gunmaken@jica.go.jp      |
| 新潟県 | (公財)新潟県国際交流協会内 Tel: 090-4024-1323<br>✉ jicadpd-desk-niigataken@jica.go.jp      |
| 長野県 | (公財)長野県国際化協会内 Tel: 080-1043-2268<br>✉ jicadpd_desk_naganoken@jica.go.jp        |

※東京都については、JICA東京(Tel: 03-3485-7461)までお問合せください。



---

## おわりに

---

教師海外研修プログラムは、教員自身が国際理解教育／開発教育／ESDに取り組むに当たり、他都県の現職教員とともに実際に途上国を訪れ、そこで行われている日本の国際協力や支援の現場を視察するとともに、人口増加や貧困問題、近視眼的開発がもたらす様々な環境・開発問題を現場において見て感じ、日本との関係性から「相互依存」と「多文化共生」への理解を深めることを通して、その成果を授業に生かすことを目的としています。2019年度の教師海外研修プログラムは、2015年9月に発表された持続可能な開発目標（SDGs）の発表をうけて、JICA 東京による事務局運営のもと、各地域のJICA デスクと派遣国のJICA 事務所との連携のなかで、新体制で本プログラムを再編成し、運営、実施してきました。教員の所属する都県も、東京都、長野県、埼玉県、新潟県、千葉県、群馬県にわたり、第一線の現職教員の参画による有意義な海外研修プログラムでした。

今年度は、校種横断的な派遣編成を行い、ザンビア国とパラグアイ国において海外研修を行いました。参画した教員は、派遣国や同一校種、出身都県の教員同士でチームとなり、派遣前研修から、派遣中、派遣後研修にわたり、参加準備と現地研修、授業づくりに取り組みました。

先生方は、事前研修で学んだことを実際の海外研修の現場で見て感じることで、「相互依存」と「多文化共生」の理解を深めたことと思います。また、途上国で活躍する日本人に会うことで、多くの感動と日本人としての誇りを胸に刻んだことと思います。帰国後は、それぞれの学校において、「総合的な学習の時間」における国際理解教育／開発教育／ESD や、教科における学習指導、道徳教育や学級活動などの学校教育活動に位置付けて実践が行われました。本海外研修プログラムに参画した先生方が現地で受けた感動と学びは、その先生方の言葉に乗って確実に子どもたちに届き、子どもたちも目を輝かせて授業を受けていました。

今回の海外研修プログラムは、持続可能な開発のための教育（ESD）で指摘されている4つのレンズ（統合的レンズ、文脈的レンズ、批判的レンズ、変容的レンズ、UNESCO（2012）に基づく）を基礎にしたものとして特徴あるものとなりました。さまざまな課題・資源・時間・空間・人をつなげる統合的レンズ（つながり・かかわり）、身近な文脈（歴史や地域）で深め、世界の文脈に拡げる文脈的レンズ（拡がり・ふかまり）、課題の再設定や捉え直し、意味づけ、問いを重視する批判的レンズ（捉え直し、意味づけ）、社会が変わる・変える、個人が変わることを連関させた変容的レンズ（個人の変容、社会の変容）を活かすことにより、今日までの教育実践を新たな次元で捉え直すものでした。

新学習指導要領では、「持続可能な社会」という用語が多々明記されているだけでなく、「何ができるか」や「知っていること・できることをどう使うか」といった資質・能力の重視、主体的・対話的で深い学びやカリキュラム・マネジメント、社会に開かれた教育課程について強調がなされています。近年のグローバル化の時代、これからの地球市民性と混成文化の時代、VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代において、本教師海外研修プログラムに参画された教員自身がこの経験を活かし、同僚の教員らや地域の方々とともに、新たな次元で、学校教育活動の充実に役立てていただけることを切に願う次第です。

2019年度教師海外研修アドバイザー

東京都市大学大学院 環境情報学研究科  
教授 佐藤 真久



## 2019年度 教師海外研修報告書

～「持続可能な社会の創り手」を育てる授業実践集～

※過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、  
ワークシートなどを JICA ホームページに掲載しています。  
是非ご覧ください！



<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>



独立行政法人 国際協力機構 東京センター 市民参加協力第一課

〒151-0066

東京都渋谷区西原 2-49-5

Tel:03-3485-7461

<http://www.jica.go.jp/tokyo/>

